

上田市文化財調査報告書第88集

# 国分寺周辺遺跡群

しなの鉄道国分新駅駅前整備事業に伴う発掘調査報告書

2002.3

上田市土地開発公社  
上 田 市  
上田市教育委員会

# 国分寺周辺遺跡群

しなの鉄道国分新駅駅前整備事業に伴う発掘調査報告書

2002.3

上田市土地開発公社  
上 田 市  
上田市教育委員会

## 序

公共交通機関は、通勤、通学など地域生活にとって欠かせないものであり、その拡充がのぞまれています。「しなの鉄道国分新駅駅前整備事業」は、しなの鉄道の利用者の拡大とその利便性を高めることを期待して計画されました。

上田市・上田市教育委員会では、工事に先立ち平成12年度に事業地に存在する国分寺周辺遺跡群の発掘調査を行いました。工事によって失われてしまう貴重な資料を記録保存することを目的としたものであります。調査の成果は、上田市の歴史研究の上で新たな手掛かりとなる資料を提供できるものと確信しております。

今回工事が実施される地点の隣には、皆様も御存知の県下最大の文化遺産である史跡信濃国分寺跡があります。いまは公園として保存され、歴史を学ぶ場であると同時に憩いの場となっておりますが、ここまでに至るには、地域住民の皆様と歴史研究者をはじめとする多くの方々の文化財保護に対する熱い思いと御尽力がありました。

今回の調査の成果としてここに本書を刊行し、先輩方から教えられた文化財を大切にする心を引き継いでいくことをあらためて誓い、後世に伝えてまいりたいと思います。

最後となりましたが、現地調査から整理作業・報告書刊行に至るまで御理解と御協力並びに御指導をいただきました地域の皆様、調査に参加された皆様、先生方、関係諸機関に心から敬意と感謝を表する次第であります。

平成14年3月

上田市教育委員会教育長 我妻忠夫

## 例　言

- 1 本書は、「国分ふれあい・（仮称）国分寺跡前広場整備事業」に伴う長野県上田市国分寺周辺遺跡群の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、上田市（上田市教育委員会生涯学習課）が実施した。
- 3 現地での調査は、平成 12 年 10 月 27 日から平成 13 年 3 月 16 日に現地調査を実施した。整理作業・報告書作成作業は、平成 14 年 3 月まで実施した。
- 4 遺構の実測は、須齋千恵子、池田育子、塩沢むつきが行った他、空中写真測量、図化を株式会社写真測図研究所に委託して行った。また、遺構実測の基準となる国家座標によるグリッドの杭打ち、基準点等の設置も同社に委託して実施した。
- 5 遺物の整理及び報告書の作成作業は、久保田敦子の指示のもとに市村みつ子、井沢光子、大井敬子、田村雄二、山本万里、丸田由紀子が行った。
- 6 遺構の写真は、久保田、須齋が撮影した。航空写真は、（株）写真測図研究所に委託して撮影した。
- 7 遺物の写真は、久保田が撮影した。
- 8 石器石材の鑑定は、甲田三男先生にお願いした。
- 9 本調査にかかわる資料は上田市教育委員会が保管している。
- 11 本調査の体制は次のとおりである。

教育長　　我妻忠夫

教育次長　内藤政則

生涯学習課長　塙野崎利英

文化財係長　細川修

文化財係　　平林裕蔵（平成 13 年 3 月退任）、中澤徳士、尾見智志（平成 13 年 4 月再任）、塙崎幸夫、久保田敦子、小笠原正（平成 13 年 3 月退任）

- 12 調査に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）  
須齋千恵子、名川真由美、村田宜子、横沢生枝、横沢昇、細尾好子、美斎津京子、義義一、吉池敦子、高桑豊治、中島昭吾、佐野和男、中村清春、小林哲三、石巻賢忠、木本昭征、饗湯奈那江、石合好江、田村まり子、市村みつ子、井沢光子、大井敬子、田村雄二、山本万里、丸田由紀子
- 13 調査にあたり多くの方々や諸機関の御指導と御協力をいただいた。ご芳名を記して感謝の意を表したい。  
地元自治会の皆様、山岸猪久馬先生、児玉卓文先生、寺内隆夫様、堀田雄二様、田中浩江様、  
(財)長野県埋蔵文化財センター様、上田染谷丘高等学校同窓会様

## 凡 例

### 遺 構

- 1 遺構は、次のように略号で表した。番号は任意である。  
堅穴住居跡（S B） 溝（S D） ピット（P） 土壙（S K） 掘立柱建物跡（S T）
- 2 遺構の実測図については、次のとおりである。
  - (1) 国家座標の北を頁の上とした。例外の場合は、方位を示した。
  - (2) 原図1/20、縮小1/3としたが、ピット、溝については縮尺1/6、2/15、1/9にした。ただし、調査地区全体図、遺構配置図等は任意である。縮尺は、図版に表している。
  - (3) 海抜高の単位はmである。
- 3 遺構の記述については次のとおりである。
  - (1) 長さの単位は、mである。
  - (2) 方位は国家座標によった。主に頁の上を北とし、そうでない場合は図中に示した。
  - (3) 溝、土壙、ピットの深さは、検出面からの深さを示した。
- 4 土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修 1997）を用いた。
- 5 遺構の写真の縮尺は任意である。

### 遺 物

- 1 遺物実測図については、次のとおりである。
  - (1) 原図1/1、縮小は以下の通りである。  
土器・石器1/3  
(2) 網点は黒色処理或いは赤色塗彩部分、または陶器断面を示し、黒塗りは須恵器断面を示す。
- 2 遺物観察表については、次のとおりである。
  - (1) 法量の単位はcm、gである。
  - (2) 「胎」を胎土、「焼」を焼成、「色」を色調とした。
  - (3) ( )内の数値は、土器については推定値、石器・瓦については残存値を示す。
  - (4) 土器の色調は上記の『新版標準土色帖』を用いた。
- 3 遺物の写真の縮尺は任意である。

# 目 次

序

例言

凡例

## 第一章 調査の経緯

第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の方法	1
1.	遺跡名と略記号	1
2.	調査地区的設定	2
3.	グリッドの設定	2
4.	遺構測量	2
5.	その他	2
第3節	調査日誌	2

## 第二章 遺跡の環境

第1節	自然的環境	5
第2節	遺跡とその周辺のこれまでの調査	7
1.	信濃国分寺跡	7
2.	国分遺跡群	8
3.	国分寺周辺遺跡群	12
4.	常入遺跡群	15
第3節	基本層序	16

## 第三章 調査の結果

第1節	調査の概要	18
第2節	遺構と遺物	18
1.	竪穴住居跡	18
2.	掘立柱建物跡	24
3.	土壙	25
4.	配石	27
5.	集石	28
6.	溝跡	28
7.	ピット	31
8.	遺構外	32
9.	まとめ	36

写真図版

報告書抄録

## 挿図目次

第1図 グリッド設定図	4	第29図 第2号竪穴住居跡出土土器実測図	71
第2図 調査位置図	4	第30図 第3号竪穴住居跡出土土器実測図	71
第3図 調査地区及び周辺地形図	6	第31図 第4号竪穴住居跡出土土器実測図	73
第4図 国分寺周辺遺跡群とその周辺遺跡	9	第32図 第5号竪穴住居跡出土土器実測図	74
第5図 基本層序	17	第33図 第6号竪穴住居跡出土土器実測図	74
第6図 遺構配置図	19	第34図 第7号竪穴住居跡出土土器実測図	74
第7図 遺構外出土繩文土器グリッド別 総重量及び土偶出土地点分布図	34	第35図 第9号竪穴住居跡出土土器実測図	76
第8図 遺構外出土石器・剥片等出土分布図	35	第36図 第10号竪穴住居跡出土土器実測図	77
第9図 第1号竪穴住居跡実測図	38	第37図 第1号掘立柱建物跡出土土器実測図	78
第10図 第2号竪穴住居跡実測図	38	第38図 第2号掘立柱建物跡出土土器実測図	78
第11図 第3号竪穴住居跡実測図	39	第39図 第4号掘立柱建物跡出土土器実測図	78
第12図 第4号竪穴住居跡実測図	40	第40図 土壌出土土器実測図	78
第13図 第5号竪穴住居跡実測図	41	第41図 第1号配石出土土器実測図	81
第14図 第6号竪穴住居跡実測図	42	第42図 集石出土土器実測図	81
第15図 第7号竪穴住居跡実測図	42	第43図 第1号溝跡出土土器実測図	82
第16図 第8号竪穴住居跡実測図	43	第44図 第2号溝跡出土土器実測図	82
第17図 第9号竪穴住居跡実測図	44	第45図 第3号溝跡出土土器実測図	82
第18図 第10号竪穴住居跡実測図	45	第46図 第4号溝跡出土土器実測図	83
第19図 第1号掘立柱建物跡実測図	46	第47図 第5号溝跡出土土器実測図	83
第20図 第2号掘立柱建物跡実測図	47	第48図 第6号溝跡出土土器実測図	84
第21図 第3号掘立柱建物跡実測図	48	第49図 第7号溝跡出土土器実測図	84
第22図 第4号掘立柱建物跡実測図	49	第50図 第8号溝跡出土土器実測図	84
第23図 土壌実測図	50	第51図 第9号溝跡出土土器実測図	86
第24図 配石・集石実測図	52	第52図 ピット出土土器実測図	87
第25図 第1・2・5～9号溝跡実測図	53	第53図 遺構外出土土器実測図	89
第26図 第3・4号溝跡実測図	54	第54図 石器実測図	93
第27図 ピット実測図	55	第55図 土偶・土製円盤・紡錘車・硯実測図	102
第28図 第1号竪穴住居跡出土土器実測図	70	第56図 瓦実測図	103
		第57図 寛永通宝拓影図	103

## 挿表目次

第1表 周辺遺跡群	10	第33表 土器観察表(18)	121
第2表 堅穴住居跡観察表(1)	58	第34表 石器観察表(1)	121
第3表 堅穴住居跡観察表(2)	58	第35表 石器観察表(2)	121
第4表 堅穴住居跡観察表(3)	58	第36表 石器観察表(3)	121
第5表 挖立柱建物跡観察表	61	第37表 その他土製品観察表	124
第6表 土壙観察表	62	第38表 瓦観察表	124
第7表 配石観察表	62		
第8表 集石観察表	62		
第9表 ピット観察表(1)	62		
第10表 ピット観察表(2)	62	写真図版 1	調査地区周辺・調査地区全景
第11表 ピット観察表(3)	62	写真図版 2	遺構 SB-01 ~ SB-04
第12表 ピット観察表(4)	62	写真図版 3	遺構 SB-04 ~ SB-09
第13表 ピット観察表(5)	62	写真図版 4	遺構 SB-09 ~ SK-02
第14表 ピット観察表(6)	62	写真図版 5	遺構 SK-03 ~ SK-11
第15表 ピット観察表(7)	69	写真図版 6	遺構 SX-03 ~ SD-04
第16表 土器観察表(1)	104	写真図版 7	遺構 SD-05 ~ SD-09
第17表 土器観察表(2)	104	写真図版 8	土器 SB-01 ~ SB-03
第18表 土器観察表(3)	104	写真図版 9	土器 SB-04 ~ SB-07
第19表 土器観察表(4)	104	写真図版 10	土器 SB-07 ~ SB-09
第20表 土器観察表(5)	104	写真図版 11	土器 SB-10 ~ SK-05
第21表 土器観察表(6)	104	写真図版 12	土器 SK-05 ~ SD-01
第22表 土器観察表(7)	104	写真図版 13	土器 SD-02 ~ SD-06
第23表 土器観察表(8)	104	写真図版 14	土器 SD-07 ~ SD-08
第24表 土器観察表(9)	104	写真図版 15	土器 SB-08 ~ SD-07-P
第25表 土器観察表(10)	104	写真図版 16	土器 P・遺構外
第26表 土器観察表(11)	104	写真図版 17	土器 遺構外
第27表 土器観察表(12)	104	写真図版 18	土器 遺構外・石器
第28表 土器観察表(13)	104	写真図版 19	石器
第29表 土器観察表(14)	104	写真図版 20	石器
第30表 土器観察表(15)	104	写真図版 21	石器
第31表 土器観察表(16)	104	写真図版 22	土偶・紡錘車・硯・金属・铁滓
第32表 土器観察表(17)	104	写真図版 23	瓦・骨・錢

# 第一章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

本調査の原因となった「しなの鉄道国分新駅前整備事業」（「国分ふれあい・（仮称）国分新駅前広場整備事業」）は、公共交通機関の拡充を目的として、しなの鉄道の利用者の拡大とその利便性を高めるために上田市等によって計画された。

その事業予定地が上田市大字国分に所在することから、上田市建設部管理課より埋蔵文化財の有無について上田市教育委員会事務局文化課（以下、事務局という。なお、平成12年度に生涯学習課に改組した。）に問い合わせがあった。予定地は、国分寺仁王堂及び浦沖に所在する。事務局で確認したところ、この場所は文化財保護法における周知の埋蔵文化財包蔵地である「国分寺周辺遺跡群」の範囲内であったため平成10年9月29日に事務局と管理課で埋蔵文化財の保護との調整を図るために協議を行った。

さらに、平成11年5月17日付11教文第141号で長野県教育委員会教育長から上田市教育委員会教育長あてに平成12・13年度公共事業等に係る埋蔵文化財の保護について、市内実施予定の公事業一覧表の提出をするとともに府内各関係課の事業計画を把握して事業と埋蔵文化財の保護との調整を図るよう依頼があった。これを受けて事務局は、同年10月7日に管理課との二者による本事業に係る埋蔵文化財の保護協議を実施し、その結果を長野県教育委員会教育長に提出した。内容は、用地買収が完了した後の平成12年度中に試掘調査を実施し、その結果をみて保護措置を検討するというものである。

事務局は、買収が終了した一部において平成12年5月11、12日、6月19日の2回にわたって試掘調査を実施し、事業地全域に遺跡が存在する可能性が高いことを確認した（上田市教育委員会2000『市内遺跡』）。この結果により、事務局と管理課は工事着手前に発掘調査を実施して埋蔵文化財の記録保存を図ることとした。

平成12年5月17日、「しなの鉄道・国分新駅（仮称）建設に関する府内会議」が行われ、発掘調査の必要性について各関係課において確認された。上田市管理課及び事務局は、しなの鉄道株式会社と9月25、26日に「発掘調査に係る協議」を実施し、さらに9月27日に「線路近接区域の発掘調査の実施について」の協議を申請し、10月12日に承諾された。また、平成12年10月10日付で上田市建設部管理課長より上田市教育委員会教育長あてに「国分新駅用地の発掘調査に関する確約書」が提出され、発掘調査の早期着手を実施することとなった。

これをうけて、平成12年10月27日から平成13年3月16において現地調査を実施した。調査は、上田市が上田市土地開発公社から委託契約を受託して事務局が実施した。

その後、整理作業を行い、平成14年3月までに報告書を刊行し、調査を終了した。

なお、駅の名称は平成13年度に「（仮称）国分新駅」から「信濃国分寺駅」に決まった。

## 第2節 調査の方法

### 1. 遺跡名と略記号

周知の埋蔵文化財包蔵地である「国分寺周辺遺跡群」は、複数の遺跡より構成される。『上田市の原始・古代文化』（1977年、上田市教育委員会）で浦沖遺跡、前田遺跡、仁王堂遺跡、明神前遺跡、堀遺跡、西沖

遺跡と表されたこれらの遺跡は、『上田市文化財分布地図』(1979年、上田市教育委員会)を作成するにあたり、一括して「国分寺周辺遺跡群」と称することとした。

この名称により、国分寺周辺遺跡群(K o k u - B u n j i - S y u h e n)の頭文字「KBS」を本遺跡の略記号として調査に用いた。各種の記録や遺物の注記等にこの記号を使用してある。

## 2. 調査地区の設定

調査区域は、第2図のとおりである。試掘調査によって判明した遺跡の範囲で、埋蔵文化財が失われる可能性のある部分とした。

なお、本書では南東側の調査地区を南東区、北西側の調査地区を北西区と便宜上呼ぶこととする。

## 3. グリッドの設定

便宜上、調査地区にグリッドを設定した。これは、1単位の大きさが3m×3mで、国際座標に拠った。交点にはそれぞれ記号名を与えた。記号は、任意の点を0として、そこから方向を示すために東・西・南・北にE・W・S・Nを、距離を示すために数字を与え、両者の組合せによって表した。例えば、点0から南に3m、東に6mの地点は、S 3 E 6と表される。なお、任意の点0の座標値は、第Ⅶ系のY=-20100.0、X=41730.0である(第1図)。このグリッドは、遺構の平面実測及び遺物取上げに使った。

## 4. 遺構測量

遺構の平面実測は、前述のグリッドを基準に1/20の作図を基本として行った。さらに、ラジコンヘリコプターによる測量用空中写真の撮影と図化作業を(株)写真測図に委託して実施した。

## 5. その他

調査における表土の除去は、主に重機を用いて行い、必要に応じて人力で行った。遺構の掘り上げはすべて人力で行った。遺物は、表土出土はグリッドごとに、遺構出土は層位と地点を留意して取上げた。

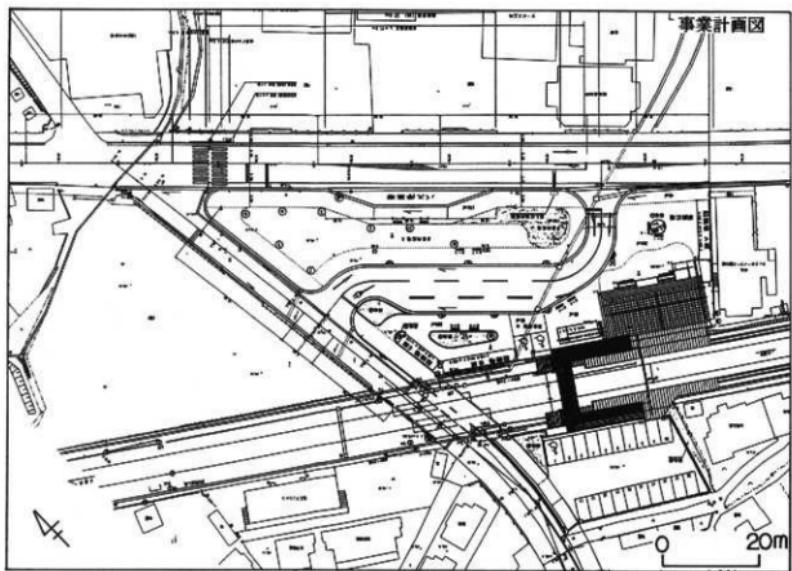
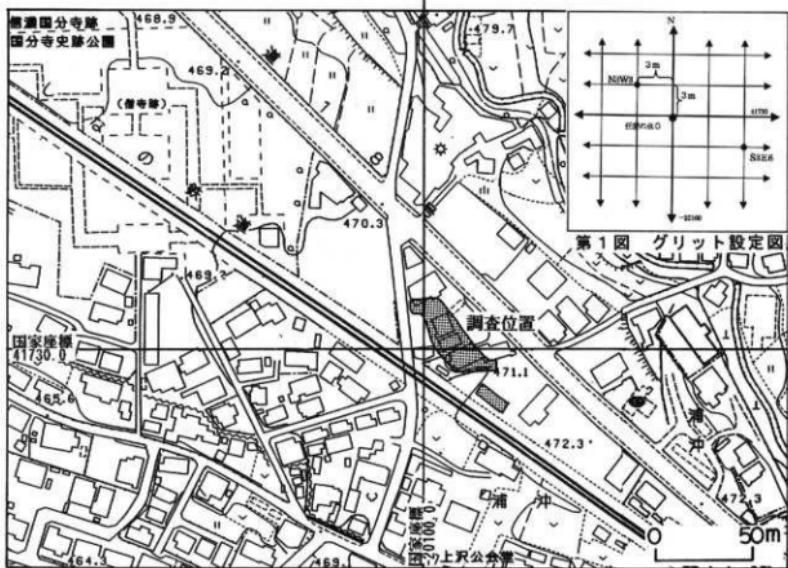
現地での調査担当及び本書の執筆は、久保田敦子が行った。第二章第1節は、山岸猪久馬先生に御指導をいただいた。第二章第2節は、五十嵐幹雄先生、市誌編纂室長川上元に御指導をいただいた。

## 第3節 調査日誌(抄)

- 10月27日 重機による表土剥作業を開始する。
- 11月8日 ガードフェンスを調査地区周辺に設置。
- 11月24日 遺構掘り上げ作業を開始する。
- 11月28日 駅舎建設部分(II区)の表土剥作業を開始する。児玉卓文先生來訪する。
- 1月15日 水道管移設のための掘削作業を行う。
- 1月18日 仮設水道管の埋設。

- 1月26日 雪かき作業を行う。
- 1月29日 また雪かき作業を行う。
- 2月1日 II区の検出作業及び第4号溝跡と第7号竪穴住居址の掘り上げ作業。
- 2月16日 第7号竪穴住居址のセクション図作成。
- 2月26日 作業現場がぬかるんで、調査困難な日が続く。
- 3月9日 現地説明会を実施する。
- 3月14日 調査地区内を清掃する。
- 3月15日 航空測量を行う。
- 3月16日 機材撤収作業。

以後、埋蔵文化財整理室において整理作業を実施し、平成13年度に本書である調査報告書の刊行を行い、調査事業を終了した。



第2図 調査位置図及び事業計画図

## 第二章 遺跡の環境

### 第1節 自然的環境

上田市は、上田盆地とその西方に接する塙田盆地を中心に展開している。これらの盆地は、ともに三角形で、周辺はそれぞれ第三系の基盤に囲まれている。また、両盆地の境界を千曲川が北西に流下している。

今回の調査地である圓分寺周辺遺跡群が所在する上田盆地は、北方を底辺とする逆三角形で、一辺はほぼ10kmである。北方の基盤は太郎山山地で、南面は急峻な斜面で上田盆地に接している。南西方の基盤は小牧山山地である。東方の高まりは基盤ではなく、第四系の鳥帽子岳火山となっている。また、盆地の東縁には神川が南西に流下している。

上田盆地の平坦面および段丘面は、高位から虚空藏山面、染屋面、上田城面が主なるもので、さらに低位に千曲川及び神川に沿った段丘面がある。虚空藏山面から上田城面までは東方に高く、千曲川に向かって傾斜し、また、北方の太郎山山地からは南方に傾斜している。従って、現在の上田盆地は上田城を中心とする盆状の地形となっている。また、虚空藏山面、染屋面は西方に傾斜し、上田城面はほとんど水平である。すなわち、古い面ほど勾配が大きい。これは古い面ほど上部が上昇したことと示している。

この内、遺跡が位置するのは、千曲川及び神川に沿った段丘面である。千曲川及び神川によって形成され、堆積物は砂層を挟む円礫層である。これらは大きく3面に区分され、調査地はその中で最も上位の面にある。この面は神川沿いをも平行に分布し、虚空藏山面と染屋面を切っている。このことは神川の形成は染屋面の形成後の比較的新しい時期であることを示している。また、神川は上田城面も切っているが、このことが、即、神川が上田泥流の堆積後に形成されたことを意味していない。神川が流れている時期に上田泥流が発生し、神川を越えて上田盆地に達し、盆地を埋積したが、その後神川が更に上田泥流堆積物を切って流れて現在に至っていると考えられる。

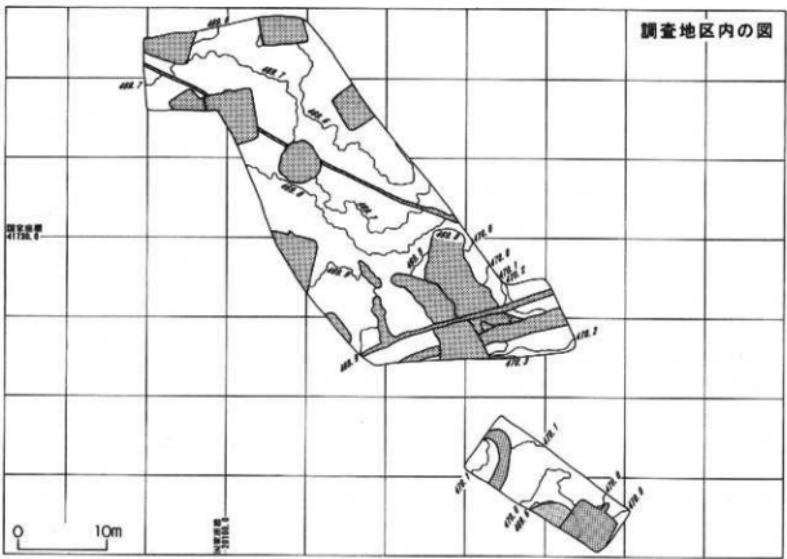
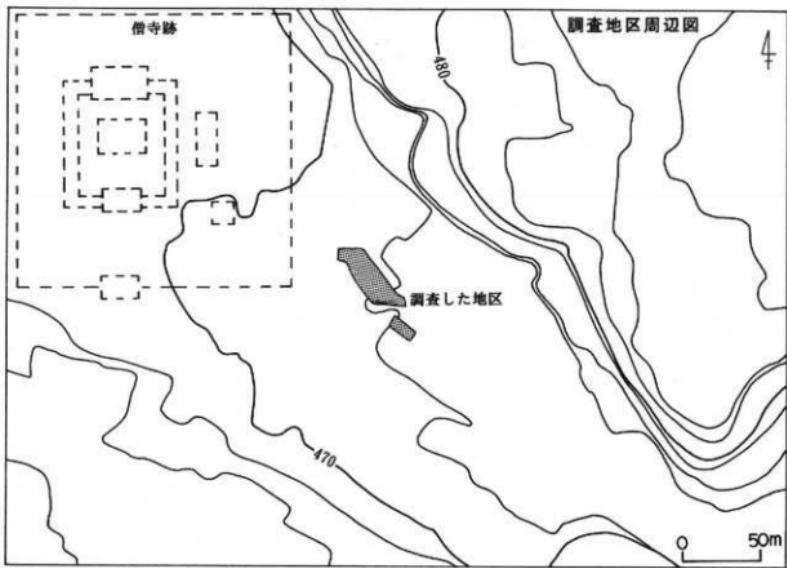
上田盆地付近の地質は、基盤の第三系が落ち込み、これを埋めて第四系が堆積したものである。また、第四紀の鳥帽子岳火山の高まりがある（第3図）。

この付近の第三系は中新世の内村層・別所層・青木層及び鮮新世の小川層である。

北方の太郎山山地のものは、大部分は内村層で東部の伊勢山付近には別所層が分布する。黄金沢でよく観察される。沢の入口付近では緑色凝灰岩と黒色頁岩の互層で、上流では緑色凝灰岩及び綠色化した火山岩を主とした岩層である。小牧山山地の基盤は青木層及び小川層で、北西部に青木層が、また南東部に小川層が分布している。青木層は主に礁岩層・砂岩層で泥岩層を挟んでいる。小川層は礁岩層・砂岩層・泥岩層の互層で、白色凝灰岩と亜炭薄層を挟んでいる。泉田山塊を形成する基盤は、主に別所層の黒色頁岩であるが、このなかにヒン岩の岩脈が貫入している。

上田盆地の地下には別所層及び青木層が分布するものと推定される。

第四系は、虚空藏山層、染屋層、上田泥流堆積物である。虚空藏山層は、岩清水、虚空藏山、太郎山の麓の尾根を構成して分布する。基盤の礫を含む礁層、鳥帽子火山噴出物及びその礫を主とする礁岩層である。染屋層は、上田市の染屋台の平坦面下を構成する粘土層及び砂礫層の湖成層で、下部層と上部層に区分される。下部層は成層した粘土層及び砂礫層の湖成層で、上田盆地一帯に分布する。上部層は、虚空藏山層と上田泥流堆積物の分布地域の間に分布し、礁層を主体とし、砂層を挟んでいる。また、最上部を砂状浮石層が覆っている。この層は千曲川、鳥帽子火山山系から河川によって運ばれたものと考えられる。上田泥流堆積物は、上田城面を覆う火山性泥流堆積物（火山学名：岩屑なだれ）である。千曲川に沿って上流に分布する



第3図 調査地区及び周辺地形図

が、広い面を構成するのは上田盆地の中央部に限られている。安山岩の角礫がまばらに火山灰のマトリックス中に存在する。安山岩にはいろいろな種類がある。火山岩体の大崩壊によって大規模な泥流が発生し、途中の諸種の火山岩を取り込んだと思われる。

## 第2節 遺跡とその周辺のこれまでの調査

「国分寺周辺遺跡群」は、現在の上田市神川地区に展開している。その周辺を含めたこの地域の地形は、平坦面である上田城面のほか、千曲川及び神川によって形成された複数の段丘面によって構成され、複雑な様相を呈している。そのような環境の中で、この地域には「国分寺周辺遺跡群」の他にも上田・小県地方屈指の大遺跡と呼ばれる幾つかの遺跡が存在する。当地が奈良時代から平安時代にかけて信濃の中心的な役割を果たす地域に発展した基盤は、これらの遺跡が大きく関わっていたものと考えられる。

「国分寺周辺遺跡群」は千曲川の形成した河岸段丘面に立地し、上田城面より一つ及び二つ下位の平坦面に所在している。この「国分寺周辺遺跡群」の北に隣接して、「国分寺遺跡群」がある。「国分寺遺跡群」は、遺跡群を構成する遺跡のうち信濃國分寺瓦窯址を除けば、上田城面に立地している。「国分寺遺跡群」と「国分寺周辺遺跡群」の範囲にまたがって、国指定史跡の「信濃國分寺跡」がある。僧寺と尼寺は、上田城面より下位の千曲川形成の河岸段丘面上に立地しているが、史跡範囲は、南西側は同じ面の河岸段丘崖上まで、北側は上位上田城面の現国分寺の所在地まで、東は上田城面にある国分八幡神社までとされている。また、「国分寺遺跡群」と同じ上田城面には、北西に隣接して「常入遺跡群」がある。その他、「国分寺遺跡群」の北方、一つ高位の染屋面には、「染屋台条里水田跡遺跡」がある（第4図、第1表）。

### 1. 信濃國分寺跡

奈良時代に建立された信濃國分寺跡推定地の研究は、明治から大正時代になると小山真夫、重田定一、藤沢直枝らの研究によって現国分寺の位置ではなく、その南側段丘下の水田地帯に所在するという説が一般的になる。仁王堂地籍には、古くから一段高い部分が残っており、大きな礎石群が存在していた。この一帯に創建信濃國分寺が埋没していると想定され、昭和5年にはその部分が文部省指定史跡となる。

戦後、付近の開発が急速に進み、遺跡の破壊が懸念されるようになった。昭和36年発掘調査を国庫補助事業で申請したが、補助金が得られず実施に至らなかった。同年、上田小県誌刊行会、信州社会科研究会小小支部、八日堂復興会等の団体が県議会、県教育委員会、県知事に対し陳情を行った。「重要な遺跡が住宅、商店、工場等の建設により調査の機会を失い、わが国史学上の損失はもとより本県文化の歴史的あるいは考古学的究明に大損失であり、悔いを百年後にのこす結果となることを恐るので、その遺跡の性格上から県事業として、貴重な埋蔵文化財である信濃國分寺跡の発掘調査を実施して欲しい」といった内容のものであった。

昭和38年に国庫補助と県費補助を得て第1次緊急発掘調査が行われた。一方、土地所有者等は信濃國分寺跡緊急発掘調査及び史跡指定反対同盟会を発足し、調査にあたっての要望事項11項目を提出した。しかし、昭和41年に第2次緊急発掘調査、昭和42年に第3次緊急発掘調査が行われるなかで地域住民の関心は高まり、積極的な協力を得て史跡公園計画の構想が生まれた。さらに昭和43年には史跡の追加指定が行われた。

その後、昭和43年から46年まで史跡保存環境整備の事前調査としての発掘調査を4回実施した。全部で7回にわたる調査の結果、伽藍の全貌と多くの出土資料を提供した。更にその所在がいくつか推定されていた尼寺跡についても、候補地の一つとなっていた僧寺跡の西側約200mにあたる明神前地籍からその遺構を

発見した（第4図⑧）。

第1次緊急発掘調査では、金堂と推定されていた「仁王門跡」という場所を調査し、僧寺講堂跡であることが解明された。さらにその南側に金堂跡が発見され、軒丸瓦、軒平瓦、素文の鬼瓦、鉄釘、須恵器、土師器が出土した。一方、塔跡、中門跡、南大門跡、廻廊跡、僧坊跡の推定地を試掘したが、結論を出すには至らなかった⑥。

第2次緊急発掘調査では、尼寺の推定地となっていた道場から明神前地籍を調査し尼寺金堂跡の雨落溝が三方で検出された。多量の瓦類、鉄釘、古錢や円面碗等が発見された⑦。

第3次緊急発掘調査では、中門と講堂を結ぶ廻廊跡が発見された。尼寺では、金堂跡の再確認と講堂、東門跡や四至の調査が行われた。瓦窯跡の調査も行われた⑧。

第1次整備発掘調査（通称第4次調査）では、僧寺講堂の内部と北側雨落溝の確認などが行われ、特徴ある講堂跡の解明がなされた⑨。

第2次整備発掘調査（通称第5次調査）では、尼寺金堂跡を中心にこれまで確認できなかった個所を究明するための調査が行われた。金堂跡内部、講堂跡、中門跡、廻廊跡、尼寺跡、北門跡等の調査が行われた⑩。

第3次整備発掘調査（通称第6次調査）では、僧寺金堂跡内部の規模が明らかになり、塔跡、僧坊跡が確認された⑪。

第4次整備発掘調査（通称第7次調査）では、僧寺中門跡と廻廊、金堂南隅の雨落溝、尼寺跡の尼坊、經蔵等の遺構が確認された⑫。

これらの調査は、信濃の古代史解明に大きな役割を果たしたことは言うまでもなく、調査後の今日でも瓦や土器等の出土遺物、伽藍配置、寺の存続時期、さらには伽藍地周辺の遺跡、国府または条里的遺構との関係などについてあらゆる角度から活発な論議がなされている。

なお、その後も、史跡指定地内において現状変更申請や史跡整備による事前調査が実施されたが、これについては国分寺周辺遺跡群の仁王堂跡及び明神前遺跡の部分でまとめて述べたいと思う。

## 2. 国分遺跡群

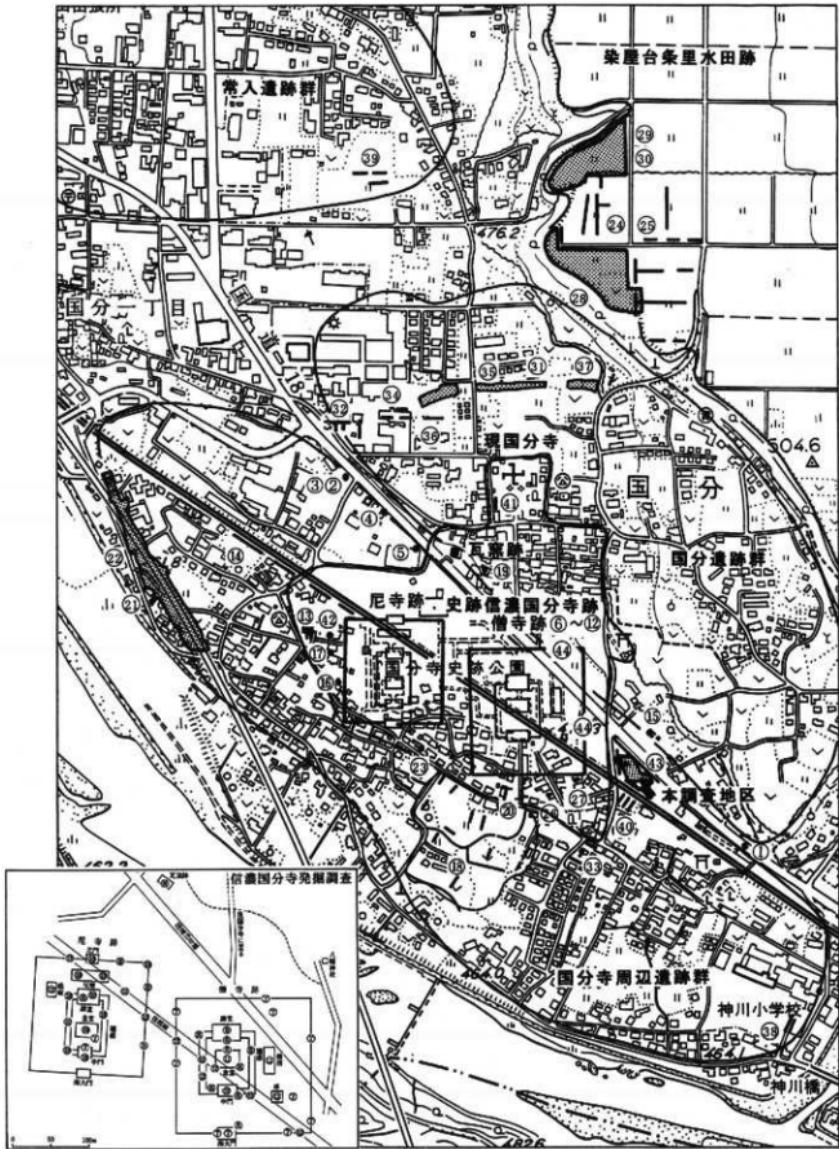
「国分遺跡群」は、上沢沖遺跡、古城遺跡、堂浦遺跡、屋敷遺跡、堂西遺跡、信濃国分寺瓦窯址からなる遺跡群である。今回の調査地は国分遺跡群中の堂浦遺跡に所在する。

国分八幡神社東方に広がる上沢沖遺跡は、弥生時代後期の箱清水土器、古墳時代後期以降の土師器及び須恵器が豊富に採集されている。

屋敷遺跡は現国分寺の西方にあたる国分集落内に広がり古墳時代後期以降の土師器や須恵器が採集され、堂浦遺跡同様に重要な遺跡と考えられる。平成12年に国分寺境内において参詣社休憩施設を建設するとして、史跡指定地内の現状変更申請により事前調査が実施された。遺構は、掘立柱建物を構成すると思われるピット群が検出され、遺物は、古瓦、土師器、須恵器とともに土師質土器や陶器、磁器が出土し、現国分寺が創建されてから現代に至るまで断続的に建物が存在したことが分った⑪。

堂浦遺跡は現国分寺の北方に位置し、昭和52年に刊行された年上田市教育委員会『上田市の原始・古代文化』によると、再建国分寺跡の伽藍の一部と推定される礎石群が水田地帯から確認されている。その東方の微高地からは土師器、須恵器及び施釉陶器が濃密に分布していることが確認されている。

平成9年度、市道川辺町国分線建設用地の遺構の有無を確認するために、現国分寺北西の堂西地籍から堂浦地籍においてトレーンチ調査を行った⑫。統一して平成11年度、現国分寺北西から北東においてトレーンチ調査を3回にわたりて行った。ピット、溝跡及び道路状遺構と土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦等が検出された。また、道路状遺構は南側にまで伸びていることが確認された⑬⑭⑮。この結果により、平成9年度と平成



第4図 国分寺周辺遺跡群とその周辺遺跡

No.	調査名	調査日	場所(小字名)	備考	参考文献
1	神川浦沖遭跡発掘調査	S24.1	浦沖	開文時代の堅穴住居址と中期・後期の土器、石斧、石皿、石棒ほか	五十嵐幹雄 1985「浦沖遭跡と遭跡発掘」『上小考古』19、八幡一郎 1949「信濃小県郡沖浦遭跡の発見」『人文学報』1
2	尼寺推定地現地調査	S26	道場(名所「二寺のどう」)	僧寺と同じ字瓦	宮下真澄 1963「國分尼寺跡考」『信濃』15-11
3	尼寺推定地現地調査	S26	道場から明神前周辺	八葉複弁蓮華文鏡瓦	東信史学会編集部 1982「大堀堤をもたらした古瓦」『千曲』33、黒板周平 1980「國分寺創建」『上田小県誌』第一巻歴史編上(二)古代中世、ほか
4	発掘調査(店舗改装工事立会い)	S36	道場 989(名所「正明寺」又は比丘尼井戸前)	十二葉複弁蓮華文鏡瓦、青磁碗、天目茶碗など(瓦、土師器、須恵器、青磁、白磁)	宮下真澄 1963「國分尼寺跡考」『信濃』15-11
5	道場寺跡発掘調査	S38.8	道場 1003(名所「比丘尼井戸」)	トレンチ調査 石積み、河原石の配列瓦、土師、須恵、陶器、青磁、古鏡、ほか	宮下真澄 1963「國分尼寺跡考」『信濃』15-11、染谷丘高等学校歴史教室 1965「上田市国分道場寺跡の調査」『あづまや』2
6	第1次緊急発掘調査	S38.3	仁王堂	僧寺講堂基壇、金堂跡雨落溝 鏡瓦、牛瓦、鬼瓦、鉄釘、須恵、土師	上田市教育委員会 1974「信濃國分寺一本編」、ほか
7	第2次緊急発掘調査	S41.3	仁王堂 道場 明神前	僧寺伽藍、尼寺金堂跡の雨落溝瓦、鉄釘、古鏡、円鏡	上田市教育委員会 1974「信濃國分寺一本編」、上田市教育委員会 1966「信濃國分寺跡第二次緊急発掘調査報告」ほか
8	第3次緊急発掘調査	S42.3	仁王堂、明神前	僧寺中門と講堂を結ぶ廊跡、瓦窯跡、尼寺金堂及び講堂、尼寺東門及び西門	上田市教育委員会 1974「信濃國分寺一本編」、上田市教育委員会 1967「信濃國分寺跡第三次緊急発掘調査報告」ほか
9	第1次整備発掘調査 (通称4次調査)	S43.11	仁王堂	僧寺講堂内部及び北側雨落溝	上田市教育委員会 1974「信濃國分寺一本編」、ほか
10	第2次整備発掘調査 (通称5次調査)	S44.8.9.11~12	明神前	尼寺金堂内部及び講堂、中門、廊跡、尼坊、北門	上田市教育委員会 1974「信濃國分寺一本編」、ほか
11	第3次整備発掘調査 (通称6次調査)	S45.11~12	仁王堂	僧寺金堂内部及び塔跡、僧坊	上田市教育委員会 1974「信濃國分寺一本編」、ほか
12	第4次整備発掘調査 (通称7次調査)	S46.7~8	仁王堂、明神前	僧寺中門及び廊跡、金堂南西隅の雨落溝、尼寺の尼坊及び瓦窯	上田市教育委員会 1974「信濃國分寺一本編」、ほか
13	明神前遭跡発掘調査	S46	明神前	八葉複弁蓮華文・ほか鏡瓦、堅穴式埴跡9軒、カマド7基、タグラ筋、須恵器、土器器、瓦、瓦器土器、灰釉、羽口、鉄滓、钉、鐵、鐵、ほか	上田市教育委員会 1974「信濃國分寺一本編」、上田市教育委員会 1971「史跡信濃國分寺跡及び堂西遭跡調査報告書」
14	西沖遭跡A・B・C・D地区 S46 発掘調査		西沖	堅穴式埴跡5軒、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉物、人骨	上田市教育委員会 1974「信濃國分寺一本編」、上田市教育委員会 1971「史跡信濃國分寺跡及び堂西遭跡調査報告書」
15	水野遭跡発掘調査	S41.8.18~20	仁王堂 1182~1188	トレンチ調査 墓地物の遭跡と思われる紀石群 土師器、瓦	五十嵐幹雄 1971「長野県上田市国分水野遭跡」『考古学年報』19、ほか
16	明神前遭跡発掘調査 (史跡変更による 事前調査)	S51.12.20~ S52.1.18	明神前	住居址(カマド跡) 瓦、釘、土師器、須恵器	川上元・林和男 1981「明神前遭跡と信濃國分寺跡」『千曲』31
17	史跡信濃國分寺跡(史 跡現状変更申請による 緊急発掘調査)	S63.4.4~5.19	明神前	住居址 2軒、ピット、溝(平安時代後半~中世) 土器、瓦、石製壺	上田市教育委員会 1989「史跡信濃國分寺跡」
18	北陸新幹線代替地造成 に係る国分寺周辺遭跡 群の事前調査	H3.12.5,6	頬東沖 1509-1 1508-1 1508-2 1491 1482-1 1485 1456 1483	トレンチ調査 10本 Tr-23A 2条の溝、Tr-23B 1条の溝、Tr-30 土師器出土	上田市教育委員会 1992「市内遭跡」
19	史跡現状変更による信 濃國分寺跡の事前調査	H4.9.9	仁王堂 1115-6	トレンチ調査 遺構無し	上田市教育委員会 1993「市内遭跡II」
20	史跡現状変更による信 濃國分寺跡の事前調査	H4.9.11 H5.2.11	頬東沖 1203 1512-6 1512-7	トレンチ調査 遺構無し	上田市教育委員会 1993「市内遭跡II」
21	新幹線及び仮称下橋ペ ンタバス建設に係る国分 寺周辺遭跡群の事前調査	H5.12.20~21	西沖	トレンチ8本、高い密度で遺構、遭物 が確認	上田市教育委員会 1994「市内遭跡III」
22	北陸新幹線埋蔵文化財 発掘調査(国分寺周辺 遭跡群)	H5.12.20, 21 H6.9.~H7.1.31 8.1~9.29	西沖	弥生~平安等 206軒 建物、土坑、溝 ほか	(財)長野県埋蔵文化財センター 1998 「北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書」2
23	史跡現状変更による信 濃國分寺跡の事前調査	H6.9.16	頬東沖 1515-2	トレンチ2本 遺構は存在しなかった	上田市教育委員会 1995「市内遭跡IV」

上田市立第一中学校建設に係る染屋台条里水田跡遺跡の事前調査	H6. 11. 7, 8, 10, 古城・上沖・大沢 11	トレンチ調査 15 本 Tr01, 04, 07, 11 15 遺構（住居址、権、土坑等）遺物（土器類）	上田市教育委員会 1995『市内遺跡IV』
上田市立第一中学校建設に係る染屋台条里水田跡遺跡の事前調査	H8. 2. 15, 16 古城・上沖・大沢	トレンチ調査 10 本 住居址、ピット	上田市教育委員会 1996『市内遺跡V』
史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H7. 10. 9 仁王堂 1198-2	トレンチ調査 4 本 Tr-1~3 から奈良、平安、古墳時代の遺構、遺物	上田市教育委員会 1996『市内遺跡V』
史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H7. 12. 4 仁王堂 1200-8	トレンチ 2 本 奈良、平安の遺物・遺構	上田市教育委員会 1996『市内遺跡V』
古城遺跡発掘調査（上田市立第一中学校建設に係る）	H8. 4. 3~5. 31 上沖	遺構（住居址 7 畳、ピット、土坑） 遺物（九葉草瓦・唐草文瓦丸瓦、土師器、灰釉陶器、瓦など）	上田市教育委員会 1997『古城遺跡』
国分産業団地造成工事に係る上沖遺跡の事前調査	H9. 2. 24~27 上沖	トレンチ調査 24 本 Tr-18~24 から土壌、ピット、構造遺構、堅穴住居址	上田市教育委員会 1997『市内遺跡VI』
上沖（大沢）遺跡発掘調査（国分産業団地造成工事に伴う）	H9. 4. 21~7. 8 上沖	古墳中期、平安前期、平安終末期の集落跡及び墓跡、堅穴住居址 3、獨立柱建物 12、ピット、土坑、塚ほか、遺物は土師器、灰釉陶器、青磁など	上田市教育委員会 1998『上沖（大沢）遺跡』
国分遺跡群発掘調査（市道川辺町国分園建設に伴う）	H9-H11 堂浦	獨立柱建物跡、土坑、溝など 土師器、須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器、青磁、瓦、神型など	本書で報告
市道川辺町国分園建設に係る国分遺跡群の事前調査	H10. 1. 26, 27 堂西 堂浦	トレンチ 4 本のうち Tr-01 から土師器 Tr-04 より遺構、土師器、須恵器、灰釉陶器	上田市教育委員会 1998『市内遺跡』
共同住宅建設に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H10. 3. 20 堀東戸 1474-2 か	トレンチ調査 3 本 遺構無し 遺物 Tr-01, 2 より土師、須恵少量	上田市教育委員会 1999『市内遺跡』
市道川辺町国分園建設に係る国分遺跡群の事前調査	H10. 6. 4 堂西 堂浦	トレンチ調査 3 本 Tr-05 より須恵器・遺構無し	上田市教育委員会 1999『市内遺跡』
市道川辺町国分園建設に係る国分遺跡群の事前調査	H11. 4. 21 堂浦	トレンチ調査 4 本 Tr-8, 9, 11 より獨立柱建物、溝及び奈良、平安の土師器、須恵器	上田市教育委員会 2000『市内遺跡』
市道川辺町国分園建設に係る国分遺跡群の事前調査Ⅱ	H11. 7. 17 堂浦	トレンチ調査 2 本 漆出土	上田市教育委員会 2000『市内遺跡』
市道川辺町国分園建設に係る国分遺跡群の事前調査Ⅲ	H11. 7. 6 堂浦 古城	トレンチ調査 4 本 Tr-13, 14 より溝、奈良・平安時代の土師器、須恵器、瓦、Tr-15 より土師器、須恵器、灰釉陶器	上田市教育委員会 2000『市内遺跡』
上田市立神川小学校墨内運動場改築工事に係る園谷寺周辺遺跡群の事前調査	H11. 11. 8 加賀川原	トレンチ調査 4 本 遺構、遺物無し	上田市教育委員会 2000『市内遺跡』
共同住宅建設に係る常入遺跡の事前調査	H12. 4. 3 久保田	トレンチ調査 3 本 Tr-03 から構造遺構	上田市教育委員会 2001『市内遺跡』
国分寺・あいの（仮称）国分新駅前広場整備事業に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H12. 5. 11, 12 仁王堂 浦津 1245-1 ほか	トレンチ調査 6 本 遺構、遺物出土（墨文・奈良・平安）	上田市教育委員会 2001『市内遺跡』
史跡現状変更による史跡信濃国分寺（国分寺跡）事前調査	H12. 7. 31 8. 7 仁王堂・屋敷 1027（現国分寺跡内）	遺構（ピット群） 遺物（土師器、須恵器、陶磁器、瓦など）	上田市教育委員会 2001『市内遺跡』
史跡現状変更による史跡信濃国分寺（国分寺周辺遺跡群）の事前調査	H12. 10. 2, 11 明神前 1845-1 1846-2 1847-2	遺構（住居址、ピット、土坑、権） 遺物（墨文土器、須恵、土師、灰釉、青磁、瓦など）	上田市教育委員会 2001『市内遺跡』
国分寺周辺遺跡発掘調査（国分寺跡に伴う）	H12. 10. 27~ H13. 3. 15 仁王堂 浦津	遺構（住居址、ピット、土坑、権） 遺物（土師、須恵、灰釉、青磁、瓦など）	平成 13 年度報告
史跡保存整備による信濃国分寺跡の事前調査	H12. 12~H13. 2 仁王堂	遺物遺構の可能性がある扁平な石を数いた遺構	

第 1 表 国分遺跡群とその周辺遺跡一覧表

11年度に発掘調査を行った。

**古城遺跡**は現国分寺東北方にあり、染屋面段丘崖下から古墳時代後期以降の土師器が採集されている。1997年には上田市立第一中学校建設工事に伴ってその段丘上が発掘調査された。これについては染屋台条里水田跡遺跡の部分で後述する。

**堂西遺跡**は、現国分寺の北西の方に存在する。ここからは縄文時代の石棒、弥生時代後期の箱清水土器、古墳時代後期以降の土師器、須恵器などが採集されているが、すべてが、連続した遺跡とされるか今のところ明確ではない。平成9年度、市道川辺町国分線建設用地の遺構の有無を確認するために、現国分寺北西の堂西地籍から堂浦地籍においてトレンチ調査を行った。4本のトレンチの内、1本から、土師器片が1点と別のトレンチ1本から遺構と土師器、須恵器、灰釉陶器が出土した。つづいて翌10年度、その西側について遺跡の有無を確認するためにトレンチが入れられたが、他所からの流れ込みと思われる少量の遺物が検出された⑩。

**信濃國分寺瓦窯跡**は昭和42年、尼寺金堂跡北東200mの地点の国道18号線北側で上田城面の崖下から2基並列して検出された。整地作業中に偶然発見されたものであるが、工事が中止され国分寺調査の一環として学術的な調査を行うことになった。瓦などを使って構築したロストル式平窯で、平安時代初期の国分寺の補修用瓦を焼いた窯跡と考えられる。

### 3. 国分寺周辺遺跡群

「国分寺周辺遺跡群」は、浦沖遺跡、前田遺跡、堀東沖遺跡、仁王堂遺跡、明神前遺跡、堀遺跡、西沖遺跡、道場庵寺遺跡等からなる。

**浦沖遺跡**は、史跡信濃国分寺跡東方に隣接し、縄文時代中期から後期の土器や石器、弥生時代後期の箱清水式土器及び、古墳時代後期以降の土師器と須恵器の破片が豊富に採集されている。昭和24年に八幡一郎の指導のもとに上小地方における戦後最初の考古学的調査が行われている。「浦沖遺跡と遺物観書」(五十嵐幹雄1985『上小考古』19及び八幡一郎1949『信濃小県郡浦沖遺跡の発見』『人文学倉報』1)によると、国道18号線の神川橋のすぐ西側で国道を開通させるために崖の傾斜面を切り取る工事をしている際に遺物等が発見されたものである。縄文時代の堅穴住居址と中期から後期の土器、石斧、石皿、石棒等が検出された⑪。

平成12年、しなの鉄道の大屋・上田間に新駅が建設されることが計画され、試掘調査を実施した⑫。その結果、遺構と縄文土器、弥生土器、土師器、灰釉陶器等が検出されたため、同年発掘調査が行われた⑬。

**前田遺跡**からは、縄文時代中期の土器片が採集されている。平成10年、堀東沖地籍と前田地籍の境界付近の旧道沿いにおいて共同住宅建設が予定され、事前に試掘調査を実施した。少量の遺物が出土したが、他所からの流れ込みと判断された⑭。平成11年、この遺跡に隣接する加賀川原地籍において、神川小学校屋内運動場改築工事予定され、事前に試掘調査を実施したが、この地点には遺跡が広がっていないことが確認された⑮。

**堀東沖遺跡**は、平成3年に北陸新幹線代替地造成が予定され、遺跡確認のため試掘調査が行われた。10本のトレンチのうち、旧道沿いの2本から1条もしくは2条の溝跡が確認され、その他の1本から僅かな土師器が出土した⑯。平成4年、僧寺南大門推定地の南側の段丘傾斜地付近を個人住宅建設のため、史跡現状変更により事前にトレンチによる試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった⑰。平成6年、尼寺南大門推定地の東側の段丘斜面付近を個人住宅建設のため史跡現状変更により、事前にトレンチによる試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかつた⑱。

**仁王堂遺跡**は創建信濃国分寺跡内とその東南方に続き、国分寺跡の年代考証に欠くことができない重要な

遺跡と考えられている。この遺跡からは、弥生時代後期から古墳時代前期の土器、古墳時代、奈良時代、平安時代の土器等も豊富に出土している。ここを中心に昭和38年から46年にわたる調査が行われ、伽藍の全貌と多くの出土資料を提供した。

昭和41年、国分寺の東南の段丘下で国道18号線に沿った地点が上田小県誌刊行会によって発掘調査が行われ、建物の基盤に關係のあると思われる長方形の配石群が2基と少量の布目瓦と土師器等が検出された。この調査は「水野遺跡」と称されて五十嵐幹雄によって報告されている⑯。

平成4年、現国分寺参道の西側段丘下の地点を個人住宅建設のため、史跡現状変更により、事前に4本のトレチ調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった⑰。

平成7年、僧寺南大門推定地の南東の段丘付近を個人住宅建設のため、史跡現状変更により、事前に試掘調査が実施された。3本のトレチから、遺構と古墳時代、奈良・平安時代の遺物が検出された。これらは保護協議の結果、現状保存された⑱。

さらに同年、その場所から43mほど北東の地点も個人住宅建設のための史跡現状変更により試掘調査を行い、遺構と奈良・平安時代の遺物が多数出土した。これらは保護協議の結果、現状保存された⑲。

平成12年、しなの鉄道の大屋・上田間に新駅が建設されることが計画され、事前の調査を実施した。その結果、遺構と土師器、須恵器等が検出されたため、同年発掘調査が行われた⑳⑳。

同年、史跡保存環境整備の事前調査として国道18号線の北側と南側の用地買収地を調査した。この場所は、前述した国分寺発掘調査の結果によって僧寺跡の北築地塀と東築地塀が想定されている地域である。その想定ライン上に3×3mのグリッド列を直行するように設定して築地遺構の確認を行ったが、いずれのグリッドにおいても築地塀の存在を思わせる版築や土塁の崩れた痕跡は検出されず、板塀や塀の跡についても確認できなかった。北側地区の南端のグリッドにおいて、扁平な石を敷いた遺構が確認された。この遺構の所属時代は今のところ判然としていない。その形態から国分寺に伴う建物遺構の可能性があるが、この遺構の主軸方向は僧寺主軸方向よりやや西に振れており、時期的な差異が想起されている⑳。

明神前遺跡は、信濃国分尼寺とその西方に隣接する遺跡であり、大正14年の旧上田・丸子電鉄の施設工事によって大規模に破壊された。

昭和46年の信越線の複線化に伴う発掘調査が行われ、「史跡信濃国分寺跡及び堂西遺跡調査報告書」として刊行された後、「信濃国分寺一本編」においては、堂西遺跡D地区は「明神前遺跡」として紹介されている。遺構は重複する9基の方形の堅穴遺構や創建国分寺の平瓦等をカマドに用いた遺構が発見されて、国分寺との関わりが論じられた。遺物は、国分寺創建期の八葉複弁蓮華文などの軒丸瓦、平瓦、土師器、灰釉陶器のほか多数の墨書き土器が出土した。これらの遺構は土器の様相より平安時代のものとされた。また、鍛冶工房跡や羽口、鉄鋤などの出土から国分寺営繕施設の修理院の可能性もあるとされている（上田市立信濃国分寺資料館1995「II信濃国分寺の関連遺跡」『東国の大分寺』）。墨書き土器の解釈として、「講院」について平成12年刊行の『上田市誌』歴史編（3）では講院の略称と考えられ講師の居場所を示す墨書きとみている⑳。

更に昭和51年、尼寺金堂跡の西方約70mの地点で個人住宅新築工事が予定され、史跡現状変更が申請された。事前に発掘調査が実施され、「明神前遺跡と信濃国分寺」（川上元・林和男 1981『千曲』31）に報告された。国分寺創建期の平瓦をカマドに用いた堅穴住居址が検出された。遺物の様相から8世紀中頃のものと考えられ、国分寺造営に携わった人々の住居址であろうと推定された⑳。

昭和63年、史跡公園の南西隅に隣接する地点が、個人住宅新築による史跡指定地内における現状変更に伴って発掘調査された。平安時代後期の堅穴住居址2軒と土師器、須恵器、綠釉陶器、灰釉陶器、鉄釘、鉄鋤などが確認された。この場所は尼寺の西限と推定される地点にあたっていたが、築地塀跡の痕跡は確認できなかった⑳。

平成 12 年、堀川神社と尼寺の西側築地堀推定地の中間にあたる地点において、個人住宅建設により史跡指定地内の現状変更申請による事前の発掘調査を実施した。調査は遺跡保護のため現状保存を目的としたため、詳細は不明であるが古墳時代から平安時代にかけてのものと思われる竪穴住居址 5 軒と土坑及びピットが検出された。遺物は墨書き器が 7 点出土したほか、古瓦や土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄滓が出土した②。

明神前遺跡の南方にあたる堀遺跡からは、弥生時代後期の箱清水式土器の破片等が出土している。

その西側の西沖遺跡は、昭和 46 年に信越線（現しなの鉄道）の複線化に伴う発掘調査が行われ、「史跡信濃国分寺跡及び堂西遺跡調査報告書」として刊行された後、『本編』においては、堂西遺跡 A・B・C・E 地区を「西沖遺跡 A・B・C・D」として紹介している。平安時代の住居址とその内部から、ほぼ完全な人骨が出土している。その他、少量の弥生時代後期の箱清水式土器と土師器、須恵器及び施釉陶器等の豊富な遺物を出土している③。更に、平成 5 年に北陸新幹線及び市道踏入大屋線建設工事のため、僧寺と尼寺の西方で一段低い段丘面において試掘調査が行われた④。翌、平成 6 年度と 7 年度に（財）長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われ『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 2』に報告された。その結果、206 軒にも及ぶ弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良時代、平安時代等の竪穴住居址をはじめとする遺構、遺物を検出し、この地域における各時代に関する膨大な量の資料を提供した。特に、古墳時代中期・後期に属する遺構密度は最も高く、安定した生活域として占地していたことがわかった。また、奈良時代から平安時代については、国分寺の建立や運営される時期と集落の変容を合わせてみると、国分寺が建立される段階とされる 8 世紀後半は住居が極端に増加して、新たな集落が構成されていること、さらに国分寺が完成し管理運営され始める 9 世紀代にはその数が激減していることが明らかとなった。このような集落の変容ぶりは、とくに信濃国分寺の建立という大工事に携わる人々の動向に関わる可能性が考えられ、そしてまた 9 世紀以降の遺構の希薄さは、当地が国分寺の運営施設のある「付属院地」にはあたらず、「伽藍地」と「付属院地」の周辺で栄えた集落「寺地」とする範囲からからも外れているか、「寺地」としてもその中心から離れてるものと考えられることが明らかになった⑤。

現国分寺の西側に広がる道場廃寺跡遺跡は、昭和 30 年代後半の調査等により中世寺院址であることが明らかとなつた。それ以前までは、この遺跡が所在する道場地城は丸子町大狹説と並んで信濃国分尼寺跡の推定地の一つとして考えられていた。しかし、地名や伝承を振りどころとしているのみであり、地城のどこ位置づけされる段階ではなかった。文献では、承応 4 年（1655）の「国分寺村田畠貫高帳」に「正明寺」「勝妙寺」などの記載がある。また、明治 14 年編集の「国分村誌」には、古跡の項に「村の西の方にあり。里俗伝は往古國分尼寺の跡と云う。今地名を正明寺と云う。古井あり之を尼井と云う。」とある。

昭和 19 年、山浦政を中心とした調査により、山越家文書の享保年間のものと推定されている文書に、「二寺之堂」という地名がありその畑から輪のある石が出たという内容の記載があることが発見された（黒坂周平 1980「国分寺創建」『上田小県誌』第一巻歴史編上（ニ）古代中世）。先に述べた貫高帳にも「二寺のどう」などの地名が記載されている。こうした文献にある二寺のどうや二寺之堂は「尼寺の堂」を意味していると推定され、輪のある石は礎石であろうと考えた。

昭和 26 年に上田・小県誌編纂会が現地調査を行い、この地籍から「信濃国分寺僧寺跡と同じ八葉複弁蓮華文の鏡瓦」、「僧寺と同じ字瓦」を採集し、道場説に有力な手がかりを得たと考えられた（東信史学会編集部 1982「大発掘をもたらした古瓦」『千曲』33）、（宮下真澄 1963「国分尼寺跡考」『信濃』15-11）②③。さらに、明治時代の「本貫畠方番付帳」や土地台帳等と照合することにより「二寺のどう」と呼ばれる範囲の一部が道場地籍の畠に当たることが明らかとなった（宮下 1963）。

昭和 30 年代に入り、急速な開発により新たな資料が加わり、昭和 38 年、宮下はこれまでの研究の成果を整理し、道場地籍から明神前地籍あたりに注目した。その中で尼寺の創建当初の寺地として最も有力である

のは、明神前の濃厚な古瓦の出土地としている。道場地籍は文献記載の地名をもとに名所「二寺のどう」、名所「正明寺」、「比丘尼井戸」地域の3ヶ所に細かく分けて以下のように考察している。

昭和 36 年に「正明寺」推定地付近の畠地を店舗建築のため基礎掘りした際、十二葉素弁蓮華文の軒丸瓦が単独出土し、ついで青磁の碗、黒釉の天目茶碗等が出土し中世寺院址の一部であることがほぼ明らかとなつた④。

この東隣の「比丘尼井戸」地域は、昭和 38 年に新潟運輸（株）の上田営業所建設によって上田小県誌刊行会が緊急発掘調査を行つた。「上田市国分道場廃寺跡の調査」（染谷丘高等学校歴史班 1965『あづまや』2）によるとその結果、2 基の基壇状の配石遺構とその間に礎石遺構と考えられる配石址が検出された。かつて国道 18 号線工事等の際に五輪塔や宝鏡院塔等がこの付近から発見されたことなども総合して、遺構は中世寺院址の一部であるとしている。また、比丘尼井戸と呼ばれる井戸も調査され、廃寺跡に属することが明かとなつた。遺物は総計 223 点で、そのうち 60% は平安時代の土師器、20% は須恵器が占めており、平瓦は 11 個、丸瓦は 1 個、そのほか灰釉陶器、青磁、天目茶碗、及び「天祐通宝」、「皇宋通宝」、「熙寧元宝」、「元祐通宝」、「慶元通宝」等の宋銭 9 枚などが出土したとされている⑤。

宮下はこれらの調査より、「二寺のどう」、「正明寺」、「比丘尼井戸」地域は一連の寺地として考え、貢高帳が記された近世初期には消失して地名のみを残した正明寺の廃寺跡であろうとした。『本編』では、このことにより信濃國分尼寺跡の可能性は消滅したとしており、昭和 41 年の国分寺第 2 次調査においてこの地域より南隣の明神前地籍に尼寺の金堂跡が発見された。

また、西沖地籍には西沖 1・2 号墳、道場地籍には道場 1・2・3 号墳が存在した。西沖 1・2 号墳は、信越線（現しなの鉄道）付近に 2 基並列していた。1 号墳は信越線施設時に破壊された。2 号墳は円墳と思われるが、破壊され天井石と側壁が露出し直刀を出土している。道場 1・2・3 号墳は信濃國分寺跡の西方 300m の段丘崖下に 20m~30m の間隔で並列していた。ほとんどが破壊され、1 号墳からは直刀が出土し、2 号墳からは金環、勾玉などが出土した。

#### 4. 常入遺跡群

この遺跡群は、堀之内、上町田、西町田、下町田、中村、手筒山、東町田、藤ノ森遺跡に構成される。信州大学敷地内遺跡の名で知る人のほうが多いが、昭和 54 年発行の上田市教育委員会『上田市文化財分布図』では常入遺跡群としている。この遺跡は古くから豊富な土器を出土することが知られていた。大正時代から昭和初期には小山真夫氏や上小教育会の史料調査の委員によって弥生土器が採集、記録され、『上田市史』、『信濃史料』及び五十嵐幹雄の論考にも発見された土器の一部が掲載されるなど、上田・小県地方の弥生研究に重要な役割を果たしてきた。弥生時代後期以外にも、古墳、奈良、平安の各時代に属する遺物を多く出土している。採集された遺物の分布範囲と出土量から、当地方では屈指の大遺跡であると推測され、とくに堀之内遺跡は、創置の信濃國府、中世居館址の推定地として注目されてきた。昭和 41 年に上田小県誌刊行事業推進のため、信州大学織維学部の桑園の一部が発掘調査された。昭和 45 年の『信大織維学部敷地内遺跡調査概報』（小林幹男・川上元『長野県考古学会誌』第 9 号）によると、古墳時代中期・後期に属する竪穴住居址 2 軒と未確認遺構が検出され、遺物は、18 点もの完形品が出土するなど保存状態は良好であった。この地方の標識的土器として今日に至っている。

下町田遺跡において、平成 8 年に信州大学織維学部構内における大学院棟建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代後期に属する竪穴住居址 10 軒が検出された。

さらに平成 11 年には信州大学遺伝子実験施設の建設に伴つて発掘調査が行われ、弥生時代後期と古墳時代前期の竪穴住居址 25 軒が検出された。

平成 12 年度に信州大学織維学部構内において産学官連携支援施設の建設に伴ない発掘調査が実施され、軒近くの弥生時代後期の堅穴住居址等が検出された。これらの調査により、上田盆地における千曲川流域最大規模の弥生時代後期から古墳時代前期の集落がここに存在していることが裏付けられた。

また、平成 12 年、本遺跡群の南端に当たり、国分遺跡群に接近している久保田地籍において共同住宅建設が予定され、試掘調査を実施した。調査地の北西部のトレンチから溝状構造が検出されたが、工事による影響はないことを確認した⑩。

## 5. 染屋台条里水田跡遺跡

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部千曲川と神川に囲まれた段丘上に位置する。この条里水田跡がどの時代まで遡れるのか現在のところ結論が出ていない。また、条里水田跡として一括に括られた範囲の中にいくつかの集落址が存在していることがこれまでの発掘調査で確認されているが、範囲等については未だ明確ではない。昭和 57 年度から 61 年度まで、創置の信濃國府跡准定地確認調査が上田市教育委員会によって古里地区の西之手・東之手地籍を中心とした各所において発掘調査を行ったが、明確な手がかりは得られなかった。

最近では、平成 7 年、バチンコ・バゴバゴ店舗建設に伴ない大畠遺跡が調査され、堅穴住居址 1 軒、掘立柱建物 1 棟、溝址 7 条と青磁蓮弁文碗の破片と宋銭「嘉祐通宝」等が検出された。

平成 8 年、上田市立第一中学校建設に伴ない古城遺跡が発掘調査され、平安時代の堅穴住居址 7 軒と土坑及びピット群が確認され、黒色土器の壺や長胴甕が検出された。包含層からは、九葉单弁蓮華文軒丸瓦の一部が出土している。これは、『本編』に所収されている現国分寺本堂東南隅から出土したものと同范と考えられている ⑪ ⑫。

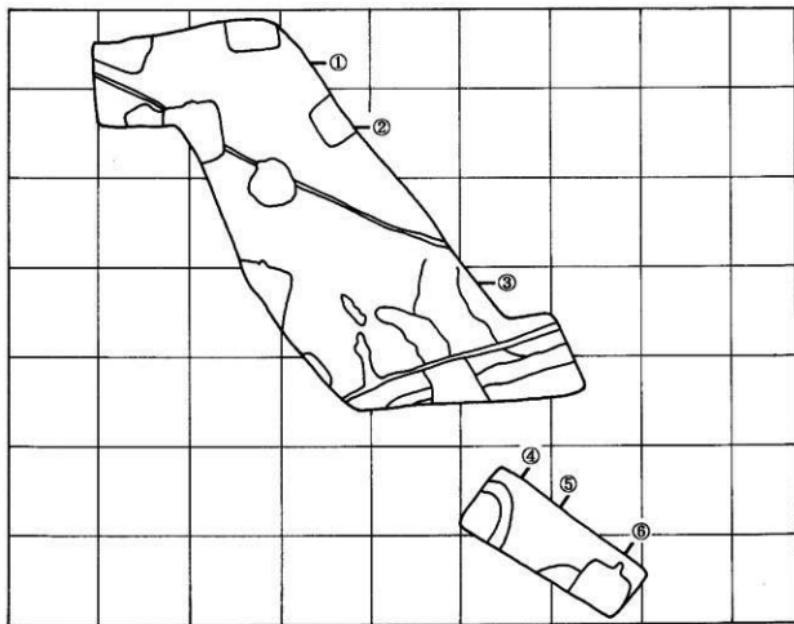
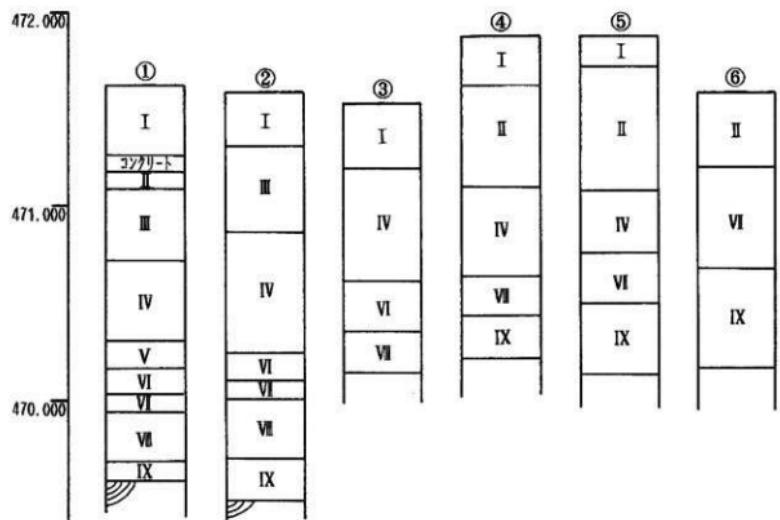
平成 8 年・9 年にやおふく新店舗建設に伴ない西之手遺跡が発掘調査され、古墳時代中期と後期の掘立柱建物 38 棟と溝址 9 条等が確認された。同年、この東側に隣接した地域において、市道西野竹 14 号線代替地取得事業に伴い発掘調査を実施した。掘立柱建物群と溝址等が確認され、遺跡の東側縁辺部が確認された。

平成 9 年、上沖遺跡が国分産業団地造成工事に伴って発掘調査され、古墳時代中期と平安時代前期・終末期の堅穴住居址 3 軒、掘立柱建物 12 棟、土坑等が確認された⑬。

## 第 3 節 基本層序

調査地の基本層序は、I 層から IV 層は、盛土層で宅地及び店舗等の建設の際に耕作地の上に客土されたものである。V 層から VII 層は、耕作土であると思われる。IV 層は遺物を含む。その下の遺構検出面は黒褐色 (7.5YR2/2~2/3) ~暗褐色 (10YR3/4) の色の砂質土である。基本層序模式図と採集地点は第 5 図に示した。

- I 7.5YR2/1 黒 3~10 cm の砂利を多量に含む。しまりがない。砂質。
- II 7.5YR6/8 暗褐色 10 cm 大の礫を多く含む砂利層。鉄分を多く含む。
- III 7.5YR5/4 にぶい褐色~4/6 褐 10 cm 大の礫、鉄分ブロックを多く含む。ややしまりのある砂質。
- IV 7.5YR5/6 明赤褐色~5/4 にぶい褐色 3~5 cm の砂利、10 cm の礫を含む。ややしまりあり、やや粘性。
- V 7.5YR5/3 にぶい褐色 4/6 褐~4/1 褐灰色土含む。
- VI 7.5YR4/1 暗褐色 しまりある。やや粘性。
- VII 7.5YR5/2 灰褐色 しまりある。やや粘性。
- VIII 7.5YR3/4 暗褐色 しまりある。やや粘性。
- IX 7.5YR2/2~3/2 黒褐色 しまりある。やや粘性。



第5図 基本層序

## 第三章 調査の結果

### 第1節 調査の概要

本調査は、北西区と南東区の2つの調査地区を設けて実施された。検出された遺構は、第6図の遺構配置図のとおり、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡4軒、土壙11基、溝跡9条、配石遺構1基、集石2基である。出土した遺物は、土師器、須恵器、弥生土器、縄文土器等の土器、紡錘車、硯、瓦、土偶、石製円盤、土偶、石器等である。

以下第2節にこれらの検出された個々の遺構と遺物について報告を行う。また、実測図は、遺構については第9図から27図に、観察表は第2表から15表に各遺構ごとに示した。遺物については、実測図は第28図から57図に、観察表は第16表から38表に土器、石器、土偶、土製円盤、紡錘車、硯、瓦、に分類して順に示した。

### 第2節 遺構と遺物

#### 1. 竪穴住居跡

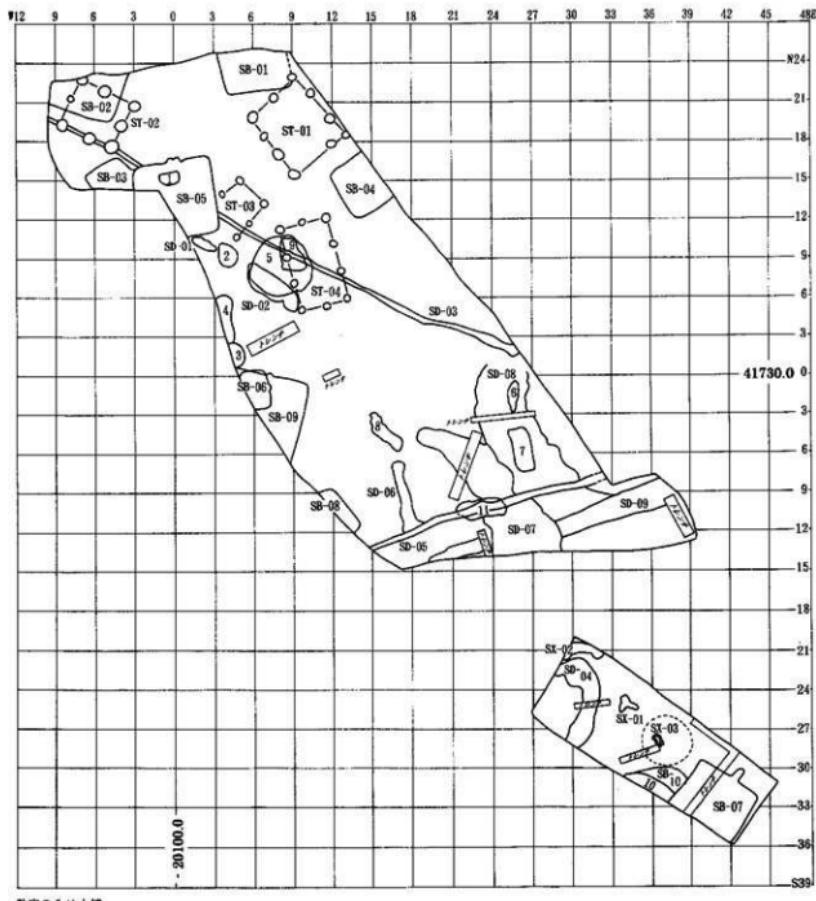
##### 第1号竪穴住居跡（SB01）遺構（第9図）、遺物（第28図）

本遺構は、北西区の北東隅、N27E6、N27E9、N24E6、N24E9、N24E12グリッドから検出された。遺構の北側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形か或いは隅丸方形を呈していると思われる。第145号ピットに切られている。また、第1号掘立柱建物跡に切られていると思われるが、確かではない。主軸方向は不明であるが、南壁はほぼ東西を指す。南壁の長さは5.25mである。壁は、西壁が50cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。壁下の床面には周溝が巡っている。床は地山をたたき締めたものであるが、全体的にあまり締まっていない。床面は凹凸が少なく平坦である。南西の隅の床面に蓮状の敷物が押しつけられた跡が残っていた。図の網点で示した部分がそれで、約75cm×70cmの広がりで確認された（写真図版2）。ピットは西側1基だけある。

遺物は、主に擾土中から出土した。1と2が土師器の坏である。1は体部に丸みをもち口縁部が素直に開く形態の内黒で、2は平底を呈する。両方とも外面には体部から底部にかけて手持ちヘラ削りを施し、内面はミガキが施されている。10は須恵器の坏で、丸底で蓋受け部分をもち受け部から口縁部にかけて立ちあがりをもつものである。3から9は須恵器の坏蓋である。3から5は内面にかえりがつくもので、6から8は口縁の端部で折れるものである。11・12は無高台の須恵器の坏である。底部はヘラ切りの後ヘラ削りが施されていると思われる。13から15は高台を付す須恵器の坏である。15は底部が高台底面より飛び出している。13と15の底部は回転ヘラ削りがなされている。16の須恵器は、浅く皿状の形態を呈し、体部下位から底部にかけて回転ヘラ削りが施されている。17は須恵器の平瓶である。肩の部分で緩く屈曲している。18は横瓶である。胸部外面にタタキ目文が施されている。このほか、土師器及び須恵器の壺や須恵器の壺の破片等が出土している。また、このほか鉄製品が2点出土した（写真図版22）。

##### 第2号竪穴住居跡（SB02）遺構（第10図）、遺物（第29図）

本遺構は、北西区の北西隅、N24W6、N24W9、N24W12、N21W6、N21W9、N21W12グリッドか



数字のみは土壤



第6図 造構配置図

ら検出された。遺構の北側と西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形か或いは隅丸方形を呈していると思われる。第3号ピットを切り、第148号ピットに切られている。第2号掘立柱建物跡と重複して切るとみられるが、確かではない。主軸方向は不明である。東壁はN-73°-Wを指す。壁は、東壁が36cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。南壁と東壁の下の床面には周溝が巡っている。床は地山をたたき締めたものであるが、全体的にあまり締まっていない。床面は凹凸が少なく平坦である。ピットは4基確認されたが、そのうち、P2とP3は主柱穴の可能性がある。

遺物は主に覆土から出土した。1から4は土師器の壺である。丸底で、1・2及び4は口縁部が素直に開き、3はやや直立気味である。体部外面にヘラ削りが施され、内面に黒色処理が施されている。5から7は土師器の高壺である。5の壺部は緩く折れて開いている。8は須恵器の壺で、蓋受部分を有し受け部から口縁部にかけて立ちあがりをもつものである。9から12は土師器の甕である。9の胴部外面にはヘラ削りが施されている。12の胴部外面にはヘラミガキが施されている。このほか箱清水系の甕等が出土したが、これらは他から混入した遺物と考えられる。

### 第3号竪穴住居跡（SB03） 遺構（第11図）、遺物（第30図）

本遺構は、北西区の北東隅、N15W3、N15W6、N15W9、N18W6、N18W9グリッドから検出された。遺構の南東側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形か或いは隅丸方形を呈していると思われる。第59・197・198号ピットと第5号竪穴住居跡に切られている。主軸方向はN-32°-Wを指す。北西壁の長さは30mである。壁の深さは40cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床は地山をたたき締めたものである。全体的にあまり締まっていないが、中央部は硬化している。床面は凹凸が少なく平坦である。ピットは5基ある。

カマドは北東の壁に確認された。住居壁から半円形に張り出した形態を呈する。袖石の抜き跡痕がみられ、右袖には河原石が据えられて残っている。火床面は床面より高く、壁側にいくにしたがって緩やかに高まっている。カマドの上部の覆土からは、遺物が多量に集中して出土した。

遺物は覆土中及び床面上から出土した。1は土師器の壺である。丸底で口縁部が素直に開くもので、体部外面にヘラ削りが施され、内面に黒色処理が施されている。2と3は土師器の高壺で、壺部は丸みをもつ。4と5は須恵器の杯蓋で、4は内面にかえりをもつもので、5は口縁端部で折れ曲がるものである。6・8は土師器の甕で、胴部が強く張り、外面にはヘラ削りの後にヘラミガキが施されている。9から16は土師器の長胴甕で、胴部外面にヘラ削りが施されている。10は器壁が薄く、14は最大径を胴部にもつ形態である。7は土師器の小型の甕である。胴部外面と口縁部内面にヘラミガキが施されている。これらのうち、8・9・13はカマドの北東の床面から、5はP2から、4は覆土中から出土し、それ以外はカマドの直上の覆土から出土した。

### 第4号竪穴住居跡（SB04） 遺構（第12図）、遺物（第31図）

本遺構は、北西区の北東、N15E12、N15E15、N15E18、N18E12、N18E15、N18E18グリッドから検出された。遺構の北東側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形か或いは隅丸方形を呈していると思われる。主軸方向は不明であるが、南西壁はほぼN-32°-Wを指す。南西壁の長さは43mである。壁は、西壁が28cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床は疊を多く含む層に掘りこまれ、凹凸が著しい。ピットは2基あり、主柱穴の可能性がある。本遺構の覆土には人の頭よりやや大きめの礫が多く含まれていた。

遺物は覆土中から僅かに出土した。1は須恵器の壺蓋である。口縁部端部が小さく折れる。2は小型の甕で、口縁部は横ナデ、胴部外面はヘラ削りが施される。このほか、非ロクロ調整で体部に手持ちヘラ削りを施し、内面が黒色処理された壺の破片が出土した。また、弥生時代の赤色塗彩の土器や波状文の甕も出土したが、後から覆土に混入したものと思われる。

#### 第5号竪穴住居跡（SB05）遺構（第13図）、遺物（第32図）

本遺構は、北西区の北部、N12E3、N12E6、N15E3、N15E6、N18E3、N18W3、N15W3グリッドから検出された。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形を呈していると思われる。第1号土壙、第33・34・35・36・63・68・144号ピットに切られ、第3号溝跡、第3号掘立柱建物跡、第3号竪穴住居跡を切っている。主軸方向はN-5°-Wを指す。規模は、東壁と北壁の長さで5.95m×5.80mである。壁の深さは32cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床は地山をたたき締めたものであるが、全体的にあまり締まっていない。床面は凹凸が少なく平坦である。ピットは3基あり、主柱穴であると思われる。周溝が北と東及び南壁の下の床に巡っている。

カマドは北壁に確認された。住居壁から半円形に張り出した形態を呈する。左袖は第36号ピットの擾乱を受けて失われている。右袖には河原石が据えられて残っている。カマドの覆土からは、遺物が集中して出土した。

遺物は、1が須恵器の壺で口径は10.2cm程と推測される。体部は丸みを持ち、口縁部は内彎する。底部外面はヘラによる調整がなされている。2も須恵器の壺で、体部は直線的に開く。4は土師器の甕で、カマドから出土した。長胴で、外面は縱方向のヘラ削りが行われている。3も土師器の甕で、胴部外面にナデが施されており、小型である。5は須恵器の甕で、胴部外面にタタキ調整を持つ。この他、内面を黒色処理した非ロクロ調整の壺の破片、須恵器の瓶及び、縄文時代中期の深鉢の破片等が出土した。また、覆土中より鉄製品が出土した。このほか、磨石が覆土から出土した。（写真図版21）

#### 第6号竪穴住居跡（SB06）遺構（第14図）、遺物（第33図）

本遺構は、北西区の西、N3E6、N3E9、S3E6、S3E9グリッドから検出された。遺構の西側は調査地区の外にあり、未調査である。第9号竪穴住居跡を切っている。隅丸長方形を呈していると思われる。主軸方向は不明であるが、東壁はN-9°-Wを指す。東壁の長さは3.08mである。壁は、東壁が10cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床面は地山をたたき締めたものである。覆土に炭化物が多く含まれていた。

遺物は覆土中から僅かに出土した。1は土師器の壺である。浅い体部で、口縁部は立ち上がりっている。調整は磨耗が著しく不明である。この他、須恵器の壺蓋、土師器甕で外面にヘラ削りがなされているもの、焼きのあまい布目瓦等の破片等が出土した。また、縄文土器中期の深鉢の破片も出土した。また、覆土中より鉄製品が出土した（写真図版22）。

#### 第7号竪穴住居跡（SB07）遺構（第15図）、遺物（土器—第34図、石器—第54図、輪轍車・円面鏡—第55図）

本遺構は、南東区の南東部、S30E42、S33E39、S33E42、S33E45、S36E39、S36E42、S36E45グリッドから検出された。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形を呈していると思われる。主軸方向はN-35°-Wを指す。北東壁の長さは、5.10mである。壁の深さは58cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床は地山をたたき締めたものである。全体的に硬化しているが、北西壁の付近の

一部に縮まりが無い。床面は細かい凹凸が多くみられるが、全体的に平坦である。拳ほどの大きさの礫が床面上に多く散在していた。南東の床面に蓮状の敷物が押し付けられた跡が残っていた。図の網点で示した部分がそれで、約2.7m×2.4mの広がりで確認された。ピットは、P1からP3は柱を構成するものと思われる。P1の断面形は袋状を呈する。P4は浅く、覆土に炭化物が多くみられた。周溝が北西と南東の壁下の床に巡っている。

カマドは北東壁に確認された。右袖の芯石は、2つの扁平の河原石がやや内側に傾斜して並列して据えられている。河原石から壁に向かって若干粘性のある砂質土で構築されている。同質の土は左袖部分にも僅かにみられる。左袖は、壁と床の2ヶ所に抜け穴痕がみられ、芯石が抜かれたものと思われる。袖の内側から壁まで広く良く焼け、堅く締まる。燃焼部の覆土には、拳よりやや小さめの礫と土器片が焼土ブロックと共に多く含まれている。また、2つの扁平の河原石が重なって奥壁に寄りかかるように出土した。これらは、元位置を保つおらず、芯石に使用されていた礫が抜かれたものと思われる。底面は煙道に向かって傾斜している。煙道は、住居壁から外へ向かって、幅0.5m×長さ1.0mに掘りこまれ、内部の両側に扁平の河原石が並列に埋置されている。その上部に2つの扁平の河原石が並列して架けられ、天井部を構成している。拳ほどの大きさの礫がその隙間を埋めて構築されている。煙道口は床面から38cm程の高さにあり、そこから煙出口まで緩やかに傾斜している。

遺物は、覆土、床面及びカマドの内の等から出土した。第34図1・2は土師器の坏で、丸底で、口縁部は素直に開き、体部外側から底部にかけて手持ちヘラ削りが施されている。内面は黒色処理されている。1はカマドから出土した。3から6は土師器の高坏で、4・6はカマドから出土した。3・4の坏部は丸みをもち、5の脚部は長脚である。3・4・5の内面は黒色処理されている。7・8は須恵器の坏蓋で、内面に返りが付き、7のつまみは宝珠形である。8はカマドから出土した。9は須恵器の坏で、P1から出土した。底部外側にヘラによる調整が行われている。10・11は須恵器の坏で、10はカマドから出土した。箱形の体部に高台を付すものである。底部外側に回転ヘラ削りが施される。10の高台は比較的に中寄りに入る。12から21は土師器の壺である。12から16は長胴壺で、体部外側にヘラ削りが施されている。14・15の口縁部は「く」の字状に折れて外反し、13の器壁は薄い。12・13・19はカマドから出土し、17は床着である。17・18の内外面の調整は、ヘラ削りとナデが施されている。17は胴部下半が欠損した状態で住居跡床面より正位に出土した。19・20はカマドから出土した。19は頸部が寧まつて口縁部が強く外反する形態で、胴部外側にヘラ削りが施されている。22から24は須恵器の壺か瓶で、22・24はカマドから出土した。22は緩い口縁帶をもち、胴部下位にタキ目がみられる。23は肩の部分で屈曲している。24の口縁部はラッパ状に開いている。このほか数個体分の長胴のケズリ壺が破片で出土している。

そのほか、覆土からは紡錘車（第55図6）、円面鏡の破片（同図7）が出土した。紡錘車は土製で重量は195gである。円面鏡は鏡面の外縁に沿って墨だめの凹みをつけ脚を付すもので、外縁の径はおよそ21.2cmと推定される。カマド内の覆土からは小動物のものと思われる骨片が僅かに出土した。なお、覆土中から出土した遺物の大部分は縄文時代中期と弥生時代後期の土器であり、混入したものと考えられる。その総量は点箱約4ケース分に及ぶ。そのうちの一部である25と26は焼土器で、中期中葉末に属するものと思われる。

石器も多く出土した。本遺構の覆土からは打製石鎌6点、打製石斧20点、磨製石斧1点、凹石3点、磨石1点、石匙1点、砥石1点等が出土した。このうち、完形及び残存の大きいものを図化して第54図（打製石鎌1～6、打製石斧29～37、凹石78～80、石匙87、砥石84～85）に掲載した。このほか、使用痕がみられる平石の破片や、水晶の原石も出土した。また、鉄製品が出土した（写真図版22）

### 第8号堅穴住居跡〈S B 0 8〉遺構(第16図)

本遺構は、北西区の南西、S 9 E 12、S 9 E 15、S 12 E 12、S 12 E 15 グリッドから検出された。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形かあるいは隅丸方形を呈していると思われる。主軸方向は不明であるが、北東壁はN-73°-Wを指す。北東壁の長さは4.0mである。壁は14cmと浅く、垂直に掘りこまれている。床は凹凸がなく、締まりがない。ピットは1基確認された。

遺物は僅かに出土した。土師器の甕、弥生土器の後期の甕及び壺、縄文時代中期の浅鉢等の破片が出土したが、本書には掲載しない。

### 第9号堅穴住居跡〈S B 0 9〉遺構(第17図)、遺物(土器-第35図、瓦-第56図)

本遺構は、北西区の西、N 3 E 6、N 3 E 9、S 3 E 6、S 3 E 9、S 3 E 12、S 6 E 9、S 6 E 12、S 9 E 9 グリッドから検出された。第6号堅穴住居跡に切られている。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸方形を呈していると思われる。主軸方向は不明であるが、東壁はN-12°-Eを指す。壁は、東壁が40cmと深く残る。床面は地山をたたき縮めたもので、堅く、締まりがあり、凹凸がある。特にカマドとピットの周辺は、緩やかに傾斜して低くなっている。壁近くの床面には周溝が巡っている。東側の一部は壁の直下に設けられている。壁の立ち上がりは、床からおよそ20cm直立しているが、その先は緩やかに開いている。覆土より炭化物が多く出土した。

カマドは、北壁に確認された。平面形は、壁を張り出してつくられている。袖部は確認されなかった。周辺の覆土からは、床から浮いた状態で芯石に使われたと推定される礫の破片と焼土ブロックが集中して出土した。住居廃絶時以降に破壊されたと思われる。ピットは2基確認され、北東コーナーのピットは貯蔵穴かと思われる。

遺物は、第35図の1から3は土師器の坏で、形態は丸底で口縁部は小さく外反する。1と3は土師器の内面に黒色処理を施す。体部外面から底部にかけて手持ちヘラ削り、内面にヘラミガキが施されている。2の内外両面は黒色を呈しているようにみえるが、内外面に付着物が広くみられることから漆等が塗られていた可能性がある。底部外面はヘラ削り、口縁部はミガキが施されている。2は床面から、3はカマドから出土した。4から6は高坏である。4の坏部内面には黒色処理が施されている。6はP 2から出土した。7・8は鉢である。体部外面にヘラ削り、内面にヘラミガキが施される。7の体部は直線的に開き、8は丸みを持った体部に口縁部が外反している。9は須恵器の坏蓋で、内面に返りをもつものである。10から13は土師器の長胴甕である。成形の後外面をヘラ削りしている。10・11は器體が厚く口縁部は緩やかに外反するが、12・13は薄く、12の口縁部は「く」の字状に折れて外反する。14は須恵器の瓶か長頸壺の頸部と思われる。第56図2は平瓦で、凹面に布目が凸面に押し型文が施されている。このほか、土師器の甕や須恵器の甕等が出土した。また、床面とカマド周辺の覆土から骨片が検出された。

### 第10号堅穴住居跡〈S B 1 0〉遺構(第18図)、遺物(土器-第36図、石器-第54図)

本遺構は、南東区の南西、S 33 E 36、S 33 E 39、S 33 E 42、S 36 E 39、S 36 E 42 グリッドから検出された。第7号堅穴住居跡と第10号土壤に切られている。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。平面形態は不明であるが、円形を呈していると思われる。壁は、西壁が38cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床面は、場所によってまちまちであるが全体的に堅く締まりがある。壁近くには、粘性のある砂質土を貼ったと思われる痕跡がみられる。表面が赤く焼けた部分が広く分布し、炭化した木材や細かい焼土ブロック

クが覆土から多く出土していることから、何らかの燃焼があったと想定される。凹凸は少なく平坦であるが、ピットの周辺は緩やかに傾斜して窪んでいる。壁近くの床面には部分的に周溝が巡っている。ピットは1基確認された。

遺物は、縄文中期中葉の土器が僅かに出土した。第36図の1は深鉢の口縁部で、文様構成は隆帯とそれに沿う半裁竹管による沈線文からなる。2は深鉢の突起部で、刻みが施された隆帯と沈線の文様構成である。3は深鉢の口縁部で無文である。4から6は深鉢の胴部で、沈線文が施されている。また、打製石斧が2点覆土中から出土した（第54図38・39）。

## 2. 堀立柱建物跡

### 第1号堀立柱建物跡（S T O 1）遺構（第19図）、遺物（第37図）

本遺構は、北西区の北東、N18E 9、N18E 12、N18E 15、N21E 6、N21E 9、N21E 12、N21E 15、N24E 9、N24E 12 グリッドから出土した。第1号竪穴住居跡を切る。平面形は2間×3間の側柱式で、規模は桁行5.60m、梁行4.70mを測る。主軸はN-39°-Wを指す。柱間は桁行1.70～2.40m、梁行1.20～3.70mを測り、柱穴の平面形は円形で、直径は0.45～0.90mである。深さは、0.20～0.38mである。

遺物は、1はP-172から出土した土師器の高坏の坏部で、体部外面にヘラ削り、内面にヘラミガキが施されている。2はP-164から出土した土師器の高坏の脚である。また、P-80から縄文土器が、P-76・21・164・174から土師器壺の破片等が出土した。

### 第2号堀立柱建物跡（S T O 2）遺構（第20図）、遺物（第38図）

本遺構は、調査地区的北西、N18W 6、N18W 9、N21W 3、N21W 6、N21W 9、N24W 3、N24W 6、N24W 9 グリッドから出土した。第2号竪穴住居跡と重複する。平面形は2間×2間の側柱式で、規模は桁行4.40m、梁行3.80mを測る。主軸はN-63°-Wを指す。柱間は桁行2.00～2.50m、梁行1.70～2.10mを測り、柱穴の平面形は円形か偶丸方形を基本とすると思われる。直径は0.40～1.00mである。深さは、0.48～0.80mである。

遺物は、1はP-149から出土した土師器の坏か高坏で、体部は丸みをもつて口縁部は緩く外反する。外面にヘラ削り、内面にヘラミガキが施されている。2は内面に黒色処理を施した土師器の坏で、P-116から出土した。丸みをもった形態で、体部外面にヘラ削りがあり、内面にヘラミガキが施されている。3は須恵器の壺蓋で、P-116から出土した。口縁部先端が折れる形態のものと思われる。5は須恵器の壺で、P-149から出土した。4はP-116から出土した土師器の壺で、内面にヘラミガキが施されている。6は箱清水系の壺で、外面に波状文が施されている。このほか、P-84・201・115・203から外面にヘラ削りがなされている土師器の壺や、非ロクロで内面に黒色処理を施した坏、外面にヘラミガキが施されている土師器の壺、箱清水の壺及び壺等の破片が出土した。

### 第3号堀立柱建物跡（S T O 3）遺構（第21図）

本遺構は、北西区の北西、N12E 6、N15E 6、N15E 9、N18E 6 グリッドから出土した。第5号竪穴住居跡に切られる。平面形は2間×1間の側柱式で、規模は桁行3.30m、梁行3.00mを測る。主軸はN-47°-Wを指す。柱間は桁行1.40～1.90m、梁行3.30mを測り、柱穴の平面形は円形を呈する。直径は0.34～0.47mである。深さは、0.16～0.48mである。

遺物は、P-43から土師器の甕、波状文を施した箱清水系の甕、黒曜石のフレイクが出土したが、本書では掲載しなかった（写真図版11）。

#### 第4号掘立柱建物跡（S TO 4）遺構（第22図）、遺物（第39図）

本遺構は、北西区の中央、N 6 E 12、N 6 E 15、N 9 E 9、N 9 E 12、N 9 E 15、N 12 E 9、N 12 E 12、N 12 E 15、N 15 E 12 グリッドから出土した。第5号土壙を切る。平面形は2間×3間の側柱式で、規模は桁行6.50m、梁行3.80mを測る。主軸はN-13°-Wを指す。柱間は桁行2.00～2.20m、梁行1.70～2.10mを測り、柱穴の平面形は円形を呈する。直径は0.40～0.68mである。深さは、0.16～0.38mである。

遺物は、1はP-154から出土した土師器の坏である。体部は浅く、口縁は先端で折れて立ちあがる形態のものである。体部外面にヘラ削りが施されている。このほか、P-45・48・109・114から外面にヘラ削りがなされている土師器の甕や、外面にヘラミガキが施されている土師器の甕、箱清水の甕及び甕等の破片が出土した。

### 3. 土壙

#### 第1号土壙（SKO 1）遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の中央、N 15 E 3、N 15 W 3、N 18 E 3、N 18 W 3 グリッドから出土した。第5号壁穴住居跡を切る。平面形は梢円形で、規模は長径1.60m、短径1.00m、深さ0.30mを測る。断面形は、底面は平坦でたらい状を呈する

遺物は、1は須恵器の碗の蓋で、環状つまみを付す。2は須恵器の坏で箱形の体部に高台を付すものである。高台は底部の端に付き、外側で接地する。底部は回転ヘラ削りが施される。このほか、土師器の坏や甕、須恵器の坏、甕及び甕の破片が出土した。

#### 第2号土壙（SKO 2）遺構（第23図）、遺物（土器—第40図、瓦—第56図）

本遺構は、北西区の中央、N 9 E 6、N 12 E 6 グリッドから出土した。平面形は変形梢円形で、規模は長径1.92m、短径1.45m、深さ0.66mを測る。断面形は、すり鉢状を呈している。底面は堅く締まっている。

遺物は、第40図の1は須恵器の甕である。第56図の3は平瓦で、凹面には布目、凸面には押型文が施されている。このほか、土師器の甕及び灰釉陶器の鉢或いは何か別なもの破片等が出土している。

#### 第3号土壙（SKO 3）遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の中央、N 3 E 6 グリッドから出土した。第4号土壙を切る。平面形は梢円形を呈すると思われ、規模は長径1.93m、深さ0.92mを測る。断面形は、すり鉢状を呈している。底面は堅く締まっている。覆土に人の頭ほどの大きさの礫が多量に含まれる。また、炭化物も多く含まれている。

遺物は、僅かに出土した。1は須恵器の坏である。このほか、土師器の甕の破片が出土した。

#### 第4号土壙（SKO 4）遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の中央、N 3 E 6、N 6 E 6、N 9 E 6 グリッドから出土した。第3号土壙に切られる。深さ0.33mを測る。平面形は不明である。断面形は、底面は平坦で壁は緩やかに傾斜して立ちあがる。

遺物は僅かに出土した。1は須恵器の甕である。このほか、土師器の坏及び甕等の破片が出土した。また、

覆土中より金属製品が出土した（写真図版 22）。

#### 第5号土壙（SKO5）遺構（第23図）、遺物（土器—第40図、石器—第54図）

本遺構は、北西区の中央、N9E9、N9E12、N12E9、N12E12 グリッドから出土した。第3号掘立柱建物跡に切られる。規模は長径 4.64m、短径 4.62m、深さ 0.46m を測る。平面形は円形を呈し、断面形は底面に凹凸があり壁は緩やかに傾斜して立ちあがる。遺構の中央の覆土から遺物が集中して出土した。その直下の底面は、一部に熱を受けて橙褐色を呈し焼き縮まっていた。底面は締まりが無く、軟らかい。

遺物は縄文時代中期中葉から後葉の初めころの土器が出土した。1 の深鉢は無文で口縁部に装飾文がつき、猪沢から新道式期のものと考えられる。2 から 4 は焼町系の深鉢の口縁部で、沈線文又は沈線と隆帯による文様構成がみられる。5 は勝坂系の深鉢の胴部で、連続した刻みが施された隆帯と沈線による文様がみられる。7 は口縁部に縦位の繩文が施されるもので、井戸尻Ⅲから後葉の初めころのものと考えられる。8 の外面には R L 繩文が回転施文されている。9 と 10 は深鉢の底部から胴部である。表面の剥落が著しいが、無文であると思われる。また、打製石鏃が 1 点（第54図7）、打製石斧が 2 点（40・41）、凹石が 1 点（81）。砥石（86）及び黒曜石の剥片等が出土した。

#### 第6号土壙（SKO6）遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の南東 S3E27 グリッドから検出された。第8号溝跡を切っている。平面形は梢円形を呈する。規模は長径 2.38m、短径 0.88m、深さ 0.30m を測る。断面形は、底面が平坦で、たらい状を呈している。

遺物は、1 は内面に黒色処理された土師器の皿で、遺構の底から出土した。底部はナデで調整されている。2 は両面に黒色処理が施されている椀であると思われる。このほか、須恵器の壺の破片及び縄文土器片が出土している。

#### 第7号土壙（SKO7）遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の南東 S6E27、S9E27 グリッドから検出された。第8号溝跡を切っている。平面形は不定形を呈する。規模は長径 3.42m、短径 1.48m、深さ 0.38m を測る。断面形は、底面が平坦で、たらい状を呈している。

遺物は、1 は内面に黒色処理を施した土師器の壺か椀である。2 と 3 は土師器の壺で底部に回転糸切りがみられる。このほか、須恵器の破片、箱清水の高壺、縄文土器が出土した。4 と 5 は縄文土器の深鉢の破片である。4 の文様は沈線文と連鎖状に押圧した隆帯と沈線文からなり、5 は沈線文からなる。

#### 第8号土壙（SKO8）遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の南部、S3E15、S3E18、S6E15、S6E18 グリッドから検出された。平面形は溝状の不定形を呈する。規模は長径 3.52m、短径 0.92m、深さ 0.20m を測る。断面形は、底面が平坦で、たらい状を呈している。覆土に僅かな焼土がブロック状に含まれている。

遺物は、1 は須恵器の壺蓋である。このほか、土師器の甌、箱清水系の甌及び高壺の破片が出土した。

#### 第9号土壙（SKO9）遺構（第23図）、遺物（土器—第40図、石器—第54図）

本遺構は、北西区の中央、N12E9、N12E12、N9E9、N9E12 グリッドから検出された。第5号土

境と重複する。検出段階において不明瞭であったが、こちらが切っていると思われる。平面形は不定形を呈する。規模は長径 2.88m、短径 1.42m、深さ 0.37m を測る。断面形は凹凸のあるすり鉢状を呈している。

遺物は覆土から縄文土器の破片が多く出土した。第 40 図の 1 は深鉢のミニチュアで胴部の文様は隆帯によって区画された中に縄文が施されている。2 は深鉢の突起部である。また、打製石器 1 点が出土した（第 54 図 8）。

#### 第 10 号土壙（SK10）遺構（第 23 図）、遺物（土器—第 40 図、土偶—第 55 図、石器—第 54 図）

本遺構は、南東区の南西、S33E36、S33E39 グリッドから検出された。第 7 号竪穴住居跡に切られ、第 10 号住居跡を切っている。遺構の南西部は調査地区外にあたり、未調査である。平面形は、楕円形を呈すると思われる。底面は平坦である。覆土に小礫を多量に含む。また、土器片及び黒曜石の破片が多量に出土した。底面は軟らかく縮まりがない。床上に礫が集中して出土した。ピットは P 1～3 で、底部から壁は軟らかく縮まりがない。

遺物は、覆土より縄文時代中期中葉末から後葉の土器が多く出土した。第 40 図の 1 と 2 は焼町系の土器で、胎土は他の土器と比べて白っぽく、軽い。1 は口縁部が刻まれ、胴部に平行沈線が施されている。2 は濃密な沈線文が施されている。これらは、北信・上越地方から搬入された土器の可能性がある。3 は地文に縄文が施されて半裁竹管文と隆帯による構成である。4 と 5 は浅鉢と思われ、朱が塗られていた痕跡がある。4 の文様は隆帯を沈線で割って隆線を作り出している。6 は勝坂系の土器の口縁部である。7 は台付き鉢の脚部で、これは円形の透かしが入り、外面に縄文が施されている。また、土偶の腕と思われる部分の破片が出土した。2 条の沈線による文様が施されている（第 55 図 1）。また、打製石斧 3 点が出土し、そのうちの 1 点を掲載した（第 54 図 42）。

#### 第 11 号土壙（SK11）遺構（第 23 図）、遺物（第 40 図）

本遺構は、北西区の南、S12E24、S12E27 グリッドから検出された。第 5 号構跡に切られる。平面形は溝状の不定形を呈する。規模は長径 3.72m、短径 1.42m、深さ 0.22m を測る。断面形は、底面が平坦で、たらい状を呈している。

遺物は、土師器の壺、須恵器の甕（1）、箱清水系の壺、縄文土器（2～4）の破片等が出土した。また、水晶の原石 1 点が覆土から採集された。

## 4. 配石

#### 第 1 号配石（SX03）遺構（第 24 図）、遺物（土器—第 41 図、石器—第 54 図）

本遺構は南東区の中央、S30E39 グリッドより検出された。規模は長さ 0.93m × 幅 0.51m、深さ 0.25m である。検出状態が不良だったため不明瞭な点が多く現場では配石遺構として扱ったが、住居の石窯炉であろう。平面形は長方形である。垂直に掘りこまれ、底部は平坦である。縁辺に扁平の河原石を並べて立てている。これらの礫は熱を受けて、変色している。覆土には僅かに焼土が含まれていた。また、小動物のものと思われる骨片が出土した。これらの重量はあわせて約 50g で、熱を受けたあとがみられるものもある。

遺物は覆土からは縄文土器の破片が僅かに出土した。第 41 図 1 から 4 は深鉢の胴部の破片である。1 は隆帯と隆帯に連続した刻目が施されている文様から成る。2 は隆帯及び沈線文が施されている。3 は縄文及び隆帯がみられ、4 は小型の深鉢の底部である。これらは資料が少ないため明確ではないが、中期後葉の初め

頃のものと考えられる。また、打製石斧の破片が1点出土した（第54図43）。

## 5. 集石

### 第1号集石〈SXO1〉遺構（第24図）、遺物（第42図）

本遺構は南東区の中央、S27E36 グリッドより検出された。規模は長さ 1.50m × 幅 0.88m、深さ 0.06m である。堅く締まる黄褐色の土と 10~20 cm 程の円礫の集まりからなる。平面形は不定形で、浅く掘り込まれている。

遺物は須恵器の壺と縄文中期の土器片が出土した（1~4）。これらは、後に本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。

### 第2号集石〈SXO2〉遺構（第24図）、遺物（第42図）

本遺構は南東区の北西、S24E30、S24E33、S21E30、S21E33 グリッドより検出された。規模は幅 0.82 m、深さ 0.18m である。検出段階で 1~3 cm 程の礫が集中しているのが確認された。平面形は長く伸びた梢円形で、断面形は U 字形に掘りこまれる。一部に深い落ち込みがある。

遺物は覆土より縄文時代中期の土器片等が出土した。これらは、後に本遺構の覆土に流れ込んだ可能性がある。土器の表面は摩滅が著しい。1 の文様は隆帶と縄文によって成り、2 と 3 は縄文が施文されている。

## 6. 溝跡

### 第1号溝跡〈SDO1〉遺構（第25図）、遺物（第43図）

本遺構は、北西区の南西、N12E3 グリッドから検出された。平面形は細長い不定形を呈する。浅く、底は平坦である。規模は長さ 2.00m、幅 0.72m、深さ 0.08m を測る。第2号溝跡に連なっていた可能性がある。流水の状況は不明である。

遺物は覆土より僅かに出土した。これらは、後に本遺構の覆土に流れ込んだ可能性がある。1 から 5 は縄文時代中期の深鉢の口縁部及び胴部である。6 と 7 は箱清水系の壺及び甕である。いずれも表面が著しく磨耗していること等から、本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。また、覆土から、欠損した打製石斧が1点出土した。

### 第2号溝跡〈SDO2〉遺構（第25図）、遺物（土器一第44図、石器一第54図）

本遺構は、第1号溝跡の南東に検出された。第5号土壙を切る。平面形は細長の不定形を呈している。北西~南東の方向にのびる。浅く、底面は平坦である。規模は長さ 5.30m、幅 1.90m、深さ 0.24m を測る。流水の状況は不明である。

遺物は、縄文時代中期と箱清水系の土器の破片が覆土より出土した。そのうち、第44図1から3は縄文時代中期中葉の深鉢である。1は胴部の文様は、隆帶による梢円系区画文が横位に配され、区画内部に縦位の沈線が施されている。2は口縁部で、内弯し、無文である。3は深鉢の口縁部で連鎖状に押圧が加えられた隆帶が横位に配され、口縁部の文様には隆帶区画文の内部を縦位沈線が施されている。胴部は沈線が沿う隆帶が垂下していると思われる。4と5は弥生時代のもので、4は壺で、5は甕が壺の底部である。これらは、本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。また、石錐1点（第54図9）、磨製石斧1点（72）、磨石2

点、石製円盤 1 点（91）及び黒曜石剥片等が出土した。

### 第3号溝跡〈SDO3〉 連構（第26図）、遺物（第45図）

本遺構は、北西区を北西から南東に横切るように検出された。第5号及び9号土壙を切り、第2号及び第4号掘立柱建物跡及び第5号竪穴住居跡に切られる。長さは39.00mで、調査区を越えて更に続くと思われる。幅0.30m、深さ0.20mを測る。幅、深さは小さいが、ほぼ均一である。また、直線的である。底も多少凹凸はあるが、一定した様相がみられる。人工的な掘り込みといえる。

遺物は覆土より僅かに出土した。1と2は縄文時代中期中葉の深鉢の口縁部で、1は焼町系の土器と考えられる。このほか、箱清水系の高坏と壺の破片が出土した。これらは、本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。いずれも表面が著しく磨耗している。

### 第4号溝跡〈SDO4〉 連構（第26図）、遺物（土器—第46図、石器—第54図）

本遺構は南東区の北西に検出された。北西部と南西部は調査地区の外で、未調査である。平面形は緩やかに弧を描いて掘り込まれている。断面形はV字状を呈している。人為的に掘られた可能性が高い。流水はなかったものと思われる。規模は、長さ6.80m、幅1.50m、深さ0.50mを測る。

遺物は、覆土より弥生時代後期の遺物が多く出土した。第46図の1は高坏で、口縁部に山形突起を有し、脚部に透かしが入る。2は壺などの蓋である。4は壺の胴部で、外面に赤色塗彩されている。3も壺の底部と思われる。このほか、縄文時代中期中葉と後葉の土器片が出土した。また、打製石鎌2点（第54図10・11）、打製石斧2点（44）が出土した。

### 第5号溝跡〈SDO5〉 連構（第25図）、遺物（土器—第47図、瓦—第56図）

本遺構は北西区の南部に検出された。現在使用されている排水路よりおよそ1メートル下で、数十センチ南に平行して存在する。この一帯が宅地化の際に盛土されるまで使用されていた水路と思われる。長さは18.60mを測るが、調査区の境を越えて続くものと思われる。幅0.60m、深さ0.60mを測る。

遺物は覆土より僅かに出土した。第47図1はロクロ整形の土師器の坏で、底部には回転糸切り痕がみられる。2は須恵器の壺と思われる。3から6は縄文時代中期中葉の土器である。3と4はの文様は沈線からなり、5の口縁部は内面と外面の両面に文様がある。6はミニチュアで手捏ねでできている。第56図4は厚さ約2.3cmの平瓦である。凹面には布目とケズリがみられ、凸面には押型文施されている。これらは、後に本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。

### 第6号溝跡〈SDO6〉 連構（第25図）、遺物（第48図）

本遺構は、北西区の南部に検出された。第5号溝跡に切られる。南北に長く歪んだ形状を呈する。深く掘りこまれており、先端はほぼ垂直に立ちあがっている。長さは検出された分で5.30mで、調査区の境を越えて更に続くと思われる。幅1.00m、深さ0.28mを測る。覆土には僅かに炭化物が含まれていた。不明な点が多いが、人為的な掘り込みの可能性があり、流水はなかったものと思われる。

遺物は覆土より僅かに出土した。1と2は土師器の坏で、内面が黒色処理されている。2の底部は回転糸切り痕がみられる。3は土師器の皿で、内面に黒色処理されている。4は両面が黒色処理された椀である。5は両面が黒色処理された皿である。このほか、土師器の壺、須恵器の壺、箱清水系の壺及び壺、縄文時代中期及び後期の土器の破片が出土した。これらは、本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。また、打製石

斧が1点出土した(45)。

#### 第7号溝跡（SDO7）遺構（第25図）、遺物（土器—第49図、石器—第54図）

本遺構は、北西区の南部に検出された。第5号溝跡に切られる。長く歪んだ形状を呈する。緩やかに西に曲がり、先端は細くなって途絶えている。比較的浅く、底部は平坦である。人の頭ほどの大きさの河原石を覆土に多く含む。長さは13.20mで、調査区の境を越えてさらに続くと思われる。幅5.10m、深さ0.08mを測る。不明な点が多いが、検出面の層までを削って一時的に流れたものと思われる。

遺物は、覆土から縄文土器中期及び後期、弥生時代後期、平安時代の土師器等が出土したが、本址伴出遺物といえるものではない。第49図1は沈線文、刺突文及び交互刺突文が施され、中期初頭のものと考えられる。2から5は中期中葉に属すると思われる土器で、2には沈線文が施され、3の口唇部には鋸歯状に刻まれている。4は梢円形区画文の中に沈線文が施されている。5は隆帯とそれに沿う沈線による曲線的な文様が施されている。6から12は中期後葉に属すると思われる土器で、6は文様に太い隆帯が貼付されている。8は隆帯と沈線文が、9は縄文と隆帯が施されている。10は地文縄文に蛇行沈線が垂下している。11と12は中期後葉に属すると思われる土器で、11は雨だれ状の沈線文が施され、12の口縁下に狭い無文の部分をもち、胸部に縦位に刷毛目状の条線文が施されている。13から15は縄文時代後期に属するもので13と15には「8」字状貼付文が施されている。14は薄手の浅鉢である。15は刺突文が施されている。16は土師器で、体部は浅く大きく開く皿状の形態を呈する。底部外面は切り離しの後、粗く削って調整されている。また、打製石鎌1点（第54図12）、打製石斧1点（46）が出土した。このほか、黒曜石の剥片、水晶及び蛋白石の原石が覆土から採集された。

#### 第8号溝跡（SDO8）遺構（第25図）、遺物（第50図）

本遺構は、北西区の南部に検出された。第5及び7号溝跡に切られる。南北に長く歪んだ形状を呈する。緩やかに東に曲がり、先端は細くなっている。部分的に深く、底部は平坦である。人の頭ほどの大きさの河原石を覆土に少し含む。長さは15.60mを測るが調査区の境を越えて続くものと思われる。幅は3.60mを測る。不明な点が多いが、検出面の層を削って一時的に流れたものと思われる。

遺物は、覆土より縄文縄文時代中期中葉、中期後葉、後期の土器及び土師器を出土したが、本址伴出遺物といえるものではない。1の文様は、連鎖状に押圧を加えられた隆帯とそれに平行する細い沈線が文様帯を口縁部と胸部に分ける。口縁部の文様帯は3本の平行沈線によって4つに区画され、その内を縦位の沈線文が施されている。この区画する沈線の左端は、隆帯を伴って満巻き状の緩い曲線を描く。口縁に4単位の波状を呈し、波頂部から垂下した隆帯が口縁部から胸部を4分割する。隆帯の先端は巻かれ、波状に胸部を巡る別の隆帯と接する。これらの胸部に施された隆帯は両脇に2本または3本の沈線が平行に沿う。2は浅鉢で、口縁部は4単位の波状を呈すると思われる。文様は隆帯と細い沈線文によって成り、胸部は縄文が施される。1と同じく連鎖状に押圧された隆帯が文様帯を分け、口縁部は波頂部から垂下した隆帯によって4分割される。口縁部の文様帯には隆帯による区画文が設けられ、内部には3本1組の平行沈線が上と下に施され、その中間に玉抱三叉文等が彫られている。胸部は、口縁部から垂下した隆帯とその両脇に沿う3本の平行沈線が緩やかに弧を描いて先端を丸め、直線や曲線を描く別の平行沈線文と連結している。3は浅鉢で、口縁部が内湾する。口縁部にラッパ状の突起が付く。その突起の左右から出た幅の広い隆帯の端は渦を巻き、それが連続して口縁部付近を巡る。幅の広い隆帯は沈線によって2条の半隆起線がつくられ、その隆線上に連続した細い沈線による刻み目や交互刺突文が施される。井戸尻式期に併行するものと考えられる。4は浅

鉢で底部は台付き状になっており、中期中葉末から後葉の初め頃のものと考えられる。文様は、口縁部に3本の太い沈線と隆帯が組みになって曲線的に施されている。5・6は深鉢の胴部で、井戸尻式期に併行するものと思われる。5は沈線文が施され、沈線が沿った2本の隆帯が垂下している。6は胎土の色調が灰白色ぎみで、他のものと異なる趣がある。沈線が脇に沿う隆帯が頸部近くの胴部に横位に巡り、その先端は満巻き状を呈する。胴部には密で深い沈線が縦横に刻まれる。胴部は横位の沈線によって上と下に分割される。図に示した部分の裏側には隆帯によるP字状の区画文が施されている。上山田・天神山式の影響を受けた土器で、北信から上越地方より搬入されたものの可能性がある。7は曾利系の深鉢の口縁部である。沈線が沿った隆帯によって区画がなされ、その中を横位の沈線が施されている。8は加曾利E或いは大木系の深鉢の口縁部付近で、沈線による区画の中に繩文が埋められている。9の口縁部は波状を呈し、文様は沈線で成り、藤内式期に併行するものと考えられる。10から12は井戸尻式期に併行すると考えられる。10の口縁部は波状を呈し、口縁部文様帶に横円形区画文が施され、その内部に縦位の沈線が施されている。11は焼町土器で、区画文の内部に刺突文が施されている。12は勝坂系の浅鉢で、口縁部は屈曲内弯した形態である。口縁部には隆帯による区画文がなされ、その内部に縦位の沈線文が施されている。13は唐草文系の土器で、口縁部文様帶に区画文がみられ中に沈線と交互刺突文が施されている。14はミニチュアである。また、15は土師器の壺で内面に黒色処理が施され、底部には回転糸切り痕がみられる。このほか、須恵器の壺蓋で、内面に返りが付くものの破片等が出土した。また、磨石が2点及び黒曜石の剥片等が出土した。

#### 第9号溝跡（S D O 9）遺構（第25図）、遺物（土器—第51図、瓦—第56図、石器—第54図）

本遺構は、北西区の南部に検出された。第7号溝跡に切られる。長さは19.20mを測るが調査地区を越えて更に続くと思われる。幅2.00m、深さ0.40mを測る。平面形はほぼ直線であるが、断面形は凹凸が著しい。人の頭ほど大きな河原石が覆土に含まれる。コビが底に溜まっている。何度も大きな流れにより底が削られたり、土砂が堆積したりしたと思われる跡がみられる。人為的な構と思われる。

遺物は覆土から縄文時代中期、弥生時代後期、奈良時代の土器が出土したが、本址伴出遺物といえるものではない。第51図1と2は縄文時代中期の土器である。1は浅鉢で内面に交互刺突文及び連続刺突文が施されている。2は深鉢の胴部で、縄文に縦位沈線で胴部を区画し蛇行沈線が垂下している。3と4は弥生時代後期の壺で、3の外面には櫛描文が格子状に施され、4の底部外面には木葉痕がみられる。5と6は須恵器の壺で、箱形の体部に高台を付すものである。5の底部外側は高台周辺に回転ヘラ削りが施され、中央部はナデされている。6の底部は回転ヘラ削りが施されている。7は土師器の壺で胴部外面にヘラ削りがなされている。8は須恵器の壺の口縁部で、ラッパ状に開き、内面に稜を有する形態を呈し、内外両面に自然釉が掛かる。9は須恵器の壺で、胴部の内面と外面にはタタキと押さえの痕がみられる。また、第56図5は平瓦で、凹面に布目、凸面に押型文が施されている。また、打製石斧が1点出土した（第54図47）。

#### 7. ピット（P-01～315）遺構（第27図）、遺物（土器—第52図、土製円盤—第55図、石器—第54図）

本調査では、北西区で231基、南東区で45基のピットが検出された。これらは掘立柱建物跡等を構成していない。これらの覆土からは、土器等の遺物を出土しているものがあるが、明らかに遺構に伴うとみられるような出土状況のものは無かった。その中から形態が推測できるもの及び文様が明瞭に残存しているもの等を選んで第27図に掲載した。

第52図の3と6は須恵器の壺で、3はP-71から、6はP-175から出土した。蓋受け部分をもち、受け

部から口縁部にかけて立ちあがりをもつものである。P-71 からはこのほか底部にヘラ削りが施されている須恵器の坏や土師器甕が出土した。4はP-150 から出土し、須恵器の坏蓋で口縁部の内面に返りをもつ。1と2はP-14 から出土した須恵器の坏蓋と坏である。1は内面に返りが付くもので、2の底部は回転ヘラ切りが施されている。9はP-234 出土の須恵器の坏で、浅く皿状の形態を呈している。底部外面は回転ヘラ切りが施され、内面に付着物がみられる。7と10は土師器の高坏で、7はP-198 から、10はP-248 から出土した。5はP-156 から出土した縄文土器の深鉢の口縁部で、文様は沈線文と交互刺突文から成る。8は縄文土器の深鉢の口縁部で、P-222 から出土した。文様は縄文と隆帯からなり、断面形は内湾する。11から13はP-281 から出土し、11と12の文様は沈線文が施される。13は台付き鉢の脚と思われる。14から19はP-300、301 及び304 から出土した縄文土器である。15と16はP-301 から出土し、文様は半截竹管による平行沈線が施され、16には縄文がみられる。17は口縁部で断面形は屈曲し、文様は連続して沈線が加えられた隆帯による区画文が施されている。18は曾利系の深鉢で、無文帯の口縁部に胴部は筒状を呈する。文様は胴部に沈線文と押引き文が継位に施される。19は曾利系の深鉢の頸部から口縁部にかかる部分の破片で、沈線文と紐状の隆帯を貼付して波状文を施している。

また、P-272 から打製石鏃が出土し(第54図13)、P-218・271・278・289 から打製石斧が1点づつ出土した(48~51)。P-173 の覆土中より鉄製品が出土した(写真図版22)。

## 8. 遺構外

### 土器 出土分布図(第7・8図)、遺物(第53図)

包含層等からも縄文土器、土偶、弥生土器、土師器、須恵器、瓦等の遺物が出土した。特に縄文土器の総重量は114.78kg、てん箱22箱に及ぶ。第7図はグリッドごとに出土した縄文土器の重量を示したものである。本調査で採集された縄文土器の多くが南東区から出土した。これらの中から、比較的残存状況が良く形態が復元できるもの、または文様が特徴的で明瞭なものの等を選んで第53図に掲載した。

#### (1) 縄文土器

1は台付きの深鉢で、脚部には2ヶ所の切り込みがある。口縁部は屈曲外反して開き、内面に受け状に断面三角形の隆帯を付す。口縁部は4単位の波状を呈し、波頂部には突起が付き、この波頂部の下には橋状把手が付いていたと推測される。文様は、細い平行沈線、隆帯及び縄文からなる。口縁部には沈線が連続して刻まれた隆帯が口縁の波に沿って巡らされる。また、太いしっかりとした隆帯が胴部を横位に巡り、これによって文様帶は分けられている。口縁部の文様帶は平行沈線による区画文が施され、沈線文によって渦巻き状の文様が施される。胴部の隆帯には沈線によって刻み目が加えられ、装飾文が付けられている。2条の平行沈線が脇に沿った隆帯が垂下して胴部を4つに分けている。胴部から口縁部にかけて縄文が施されている。2は深鉢で、口縁部は外反し、胴部は緩く括れている。口縁部は4単位の橋状把手を有し、その上に4単位の突起が付くと推定される。太い隆帯が横位に胴部を巡り、これにより文様帶が分けられている。口縁部の文様帶は、刻み目が連続して加えられた隆帯が口縁下に巡り、細い平行沈線文と縄文が施されている。文様帶を分ける横位の隆帯に4単位の装飾文が付され、そこから出た2条の隆帯が胴部に垂下する。この隆帯の区画内のほかに、胴部は縄文が施されている。中期中葉から後葉の初め頃のものと考えられる。3は台付きの深鉢で、脚部には切り込みが入れられている。文様は沈線文と隆帯から成る構成で、隆帯の脇に沈線が沿って曲線的に施されている。また添付文から出た隆帯が胴部を垂下している。井戸尻式期に併行するものと考えられる。4は胴部から口縁部にかけて短く外反する形態の深鉢で、底部には台が付されていたと

推測される。口縁部は鋸歯状に刻みが入れられ、胴部に縄文が施されている。頸部には隆帯が巡る。5は深鉢の胴部から底部で、縦位の沈線が施されている。6と7は台付き鉢の脚部で円形の透かしが入っている。6には全体的に縄文が施されている。8は無文の浅鉢で、口縁部の先端が内側に折れた形態を呈している。9から13は焼町土器で、井戸尻式期に併行するものと考えられる。14から16は他の土器と異なる様相がみられ、胎土が軽くて白っぽい。沈線文と隆帯による文様がなされ、井戸尻式期に併行するものと考えられる。14は隆帯に区画された中に刺突文が施され、15・16は濃密に沈線が施されている。14は焼町土器、15・16は文様に北信或いは上越地方の特色がみられる。

17は唐草文系の土器で、胴部から口縁部にかけて緩やかに外反して開く形態である。口縁部は欠落しているため詳細は明らかではないが、4単位の波状を呈すると推測され、波頂部には2種類の突起が交互に付すと思われる。文様は口縁部と胴部を横位隆帯が分割しており、そこから垂下する4単位の腕骨文が胴部を縦に分割する。胴部はさらに腕骨文によってそれぞれが縦に2分割されると推測され、文様間に「ハ」の字状の沈線文を施している。口縁部の文様には、「ハ」の字状の沈線文が横位に施されている。18・19は深鉢の口縁部及び頸部で、キャリバー形を呈する形態のものと推測される。18は曾利系の口縁部で褶曲文が施され、19は細い帯状の粘土を波状に貼りついている。20は加曾利E系の深鉢の口縁部で、形態は胴部から口縁部にかけて緩やかに移行して括れが無い。文様は僅かに隆起する隆帯によって口縁部と胴部を分割し、胴部の区画内に縄文を施している。

21は口縁部で、波状を呈する。内面と外面は丁寧に磨かれ、文様は平行に刻まれた沈線による区画の中を縄文が充填される。22は把手の部分で、内外両面は丁寧に磨かれている。文様は沈線で区画された中に縄文と刺突文が施されている。23の底部外面には網代文がみられる。

### (2) 弥生土器

24は弥生土器の甕で、頸部に簾状文が、口縁部と胴部上位に櫛描き波状文が粗く施されている。胴部下半の外面と内面にはヘラ削りが施される。25は弥生土器の台付き甕の脚部で、外面には斜位方向に刷毛調整が施され、内面にケズリとナデが施されている。

### (3) 土師器・須恵器等

26は土師器の坏で内面に黒色処理を施している。底部外面は回輪糸切りの痕がみられる。27から29は黒色土器の皿か椀の底部で、27は内面を黒処理し、28と29は内外両面を黒色処理している。底部外面は、26と27は回輪糸切り、28は切り離しの後に高台に沿ってナデ消されている。

30と31は須恵器の坏蓋で、30には扁平のつまみが付され、31の口縁部の先端は小さく折れる形態を呈している。32は須恵器の坏で、箱形の体部に高台を付するものである。33は近世の陶器の椀とみられる。34は須恵器の甕の口縁部で、外反して大きく開く形態である。

## 石器 遺物(第54図)

また、石器類も包含層及び遺構の覆土中から多く出土した。これらの多くは遺構外から出土しているが、第7号竪穴住居跡等の遺構の覆土からも多く出土している。第8図の上はグリッドごとに出土した石器を器種ごとに数を示したものである。打製石鏃、磨石、打製石斧、磨製石斧、石錐、凹石、石匙、刃器、石製円盤、石棒が採集された。とくに打製石斧は总数72点出土し、調査面積が小さい割に出土数が多い。これらのうち、完形及び残存部の大きいものを実測して第54図に掲載した。第8図の下はグリッドごとに出土した黒曜石の剥片及び石屑の数を示したものである。この中には縁の一部に調整痕が見られるものが十数点含まれ、削器や石鏃等の未製品または使用時に壊れたものの破片である可能性のあるものもある。これら剥片等につ

いては本書に実測して掲載しなかった。なお、石器の石材の产地については甲田先生のご教示によると、多くは遺跡の近辺（例えば千曲川河川敷及びその周辺）でごく一般的にみられるものである。例外としては、緑泥変岩、絢雲母変岩及び大きめのチャートは南佐久地方、水晶は真田町勝陽地区、玄武岩は真田町角間渓谷が最も近い産出地であり、これらは遺跡の周辺で容易に得られるものではなく他地域から搬入された可能性があるものである。

#### 土偶 遺物 (第55図の2~4)

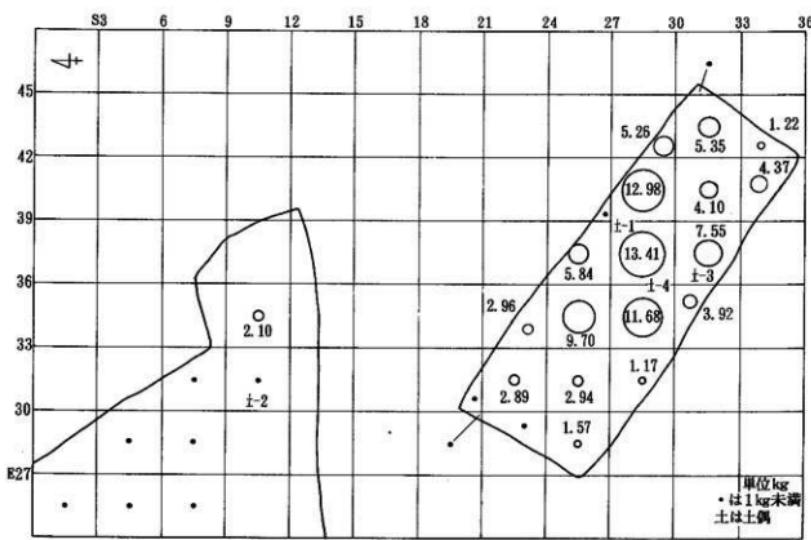
土偶は4点出土したうち3点が包含層から出土しており、出土地点は第7図に示した。2は胸部から左腕が残存しており、両乳房の間から腹にかけての部分と背中から脇にかけての部分に沈線文が施されている。頭部及び胸部下半の欠損部に心棒の痕が認められる。また、喉の付近に凹みをもつ。3は胸部の一部とみられ、乳房及び背中に沈線文が施されている。欠損部には心棒の痕がみられる。4は足にあたる部分と思われ、沈線文によって文様が施されている。足の裏にあたる部分の中心に心棒の痕と思われる孔がみられる。

#### 瓦 遺物 (第56図)

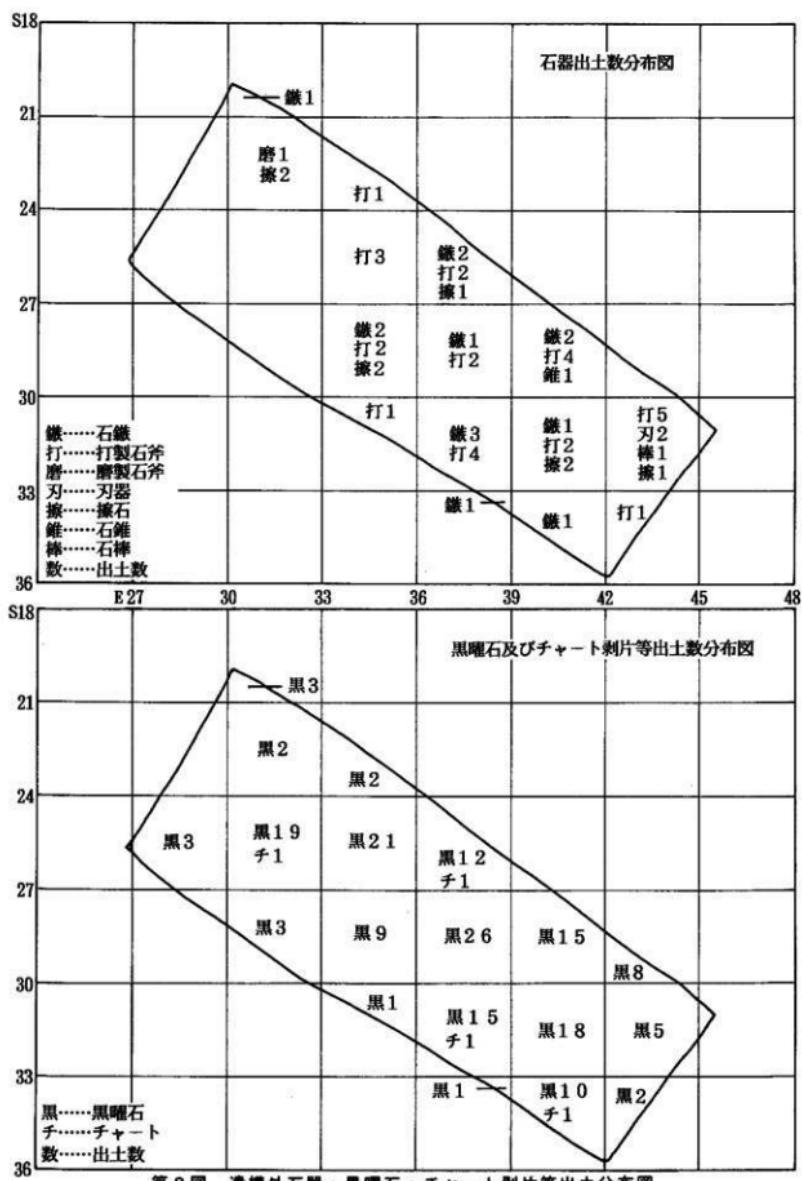
また、丸瓦が出土した（第56図の1）。丸瓦は小破片で、大きさや形態は明らかでない。凸面は無文で側縁は削られて面が取られ、凹面には布目の痕がみられる。

#### 錢 遺物 (第57図)

そのほか、寛永通宝銭2点が出土した（第57図）。また、鉄製品及び鍛錠が僅かに出土した（写真図版23）。



第7図 遺構外出土縄文土器グリット別総重量及び土偶出土地点分布図



第8図 遺構外石器・黒曜石・チャート剥片等出土分布図

## 9.まとめ

本報告をまとめるにあたって、検出された遺構について出土遺物の様相等をもとに考えてみようと思う。また、遺構に伴わない縄文土器が多く出土したが、それについてもあわせて簡単に考えてみたい。縄文土器の多くは破片であり今後の詳細な検討を必要とするものであるが、この期の既存の資料にみられないものが含まれている。ある程度形態が復元できる遺物が存在するので、それらについてとりあげてみたいと思う。

### 各遺構と出土遺物について

堅穴住居跡のうち第8及び第10号堅穴住居跡を除けば、これらは主に古墳時代後期から奈良時代頃の7世紀から8世紀前半のものであることがわかる。第10号堅穴住居跡は、縄文時代中期中葉に属すると考えられる。また、住居跡の可能性のある第1号配石は、遺物により縄文時代中期中葉末から後葉のものと推定される。生懐、堅穴住居跡はすべて調査地区的端に位置し、未調査の部分を残している。このため、カマド内部及び床着出土遺物等の資料が極めて少なく、かつ未調査の遺構等の遺物が混入している可能性が充分考えられる。このような状態においての調査結果を基にしているため、大概に述べることでとどめたい。

掘立柱建物跡については、堅穴住居跡との切り合い関係から、第1号掘立柱建物跡は第1号堅穴住居跡より新しく、第3号掘立柱建物跡は第5号堅穴住居跡より古いということになる。これら柱穴の覆土からは、僅かな破片資料であるが堅穴住居跡群と同時期間に属する土器と弥生時代後期の遺物が出土し、第1号掘立柱建物跡からはこれらに加えて縄文土器が出土している。しかし、柱穴の覆土から出土した遺物を決定資料として捉えることはやや短絡的過ぎると言えよう。また、遺構付近のグリッドから出土した遺物は、調査以前に既に動いている可能性があると言え、当然ながら資料に加えることは適切ではない。不充分ではあるが、堅穴住居跡群と同じ7世紀から8世紀前半かあるいはその前のものと仮に考えておくこととする。

土壙も遺構に伴う遺物を明確に捉えられたものは無いが、第5号土壙の出土土器は、第40図の1を除くと縄文時代中期中葉末から後葉の初め頃に属する土器を出土している。第10号土壙も縄文時代中期中葉末から後葉の初め頃の遺物が出土している。また、第1号土壙、第3、4、8号土壙は7世紀から8世紀代、第2号土壙、第6号土壙、第7号土壙は9世紀代の遺物を出土している。

第1号及び第2号集石は、出土量が少なく不明である。

溝跡のうち、第3号から6号及び9号溝跡は人工的な掘り込みと推定されたものである。第4号溝跡は出土遺物の様相から弥生時代後期の箱清水式期に属すると思われる。その他は遺構に伴うと考えられる遺物を捉えられず、時期不明である。第6号溝跡は9世紀代と思われる遺物を出土している。

第1号・2号・7号・8号溝跡は自然流の跡で、覆土層の様相から何回かにわたって短期的に流れたものと推定される。第1号・2号溝跡は、7号・8号溝跡と覆土や形態及び方向において共通性がみられ、一連のものであった可能性がある。本調査地区的地形は、南東の調査地区から北西の調査地区へ向かって低く傾斜しており、南東地区的縄文土器を多量に含んだ土砂を巻き込んで流れたものと推定される。これらから出土した遺物はいずれも遺構に伴うものと考え難く、どの時期において流れたかは不明であるが、第8号溝跡は、少なくとも第6号・7号土壙より古い時期に流れたものである。遺物は縄文時代中期中葉、後葉、古墳時代後期及び奈良・平安時代等の土器が出土し、特に縄文土器を多く出土した。

各々のピットについても明確に時期が分かるものは無い。覆土から出土した遺物で本書に掲載したものでは、P-14とP-150からは7世紀後半から8世紀初めにみられる須恵器の杯蓋が出土し、P-71とP-175は古墳時代からの伝統的な系譜をひいた壺が出土した。P-198とP-248からは土師器の高壺が出土し、これらは古墳時代後期のものと思われる。その他、縄文時代中期中葉から後葉に属する土器が出土した。

以上のことから本調査で検出された遺構群のうち堅穴住居跡の主なものは、7世紀から8世紀前半に属し、掘立柱建物跡等も含めて集落を構成していた可能性が考えられる。調査地区は信濃国分寺僧寺跡に隣接しているが、これらの遺構はその建立以前に営まれていたものと考えられる。続く9世紀代の遺物は、明確に遺構に伴う形ではない状態で土壤や溝跡及び包含層等から僅かに出土している。この集落が継続して平安時代まで存在していたかどうかはこの範囲の中では捉えられていないが、少なくとも調査地区的周辺にこの期の何らかの遺構が存在している可能性は考えられる。特に第7号堅穴住居跡の覆土からは円面鏡が出土しており、この場所が信濃国分寺跡との関係を観わせる地域である可能性を示している。縄文時代の遺構については、第10号堅穴住居跡及び住居跡の可能性のある第1号配石は、縄文時代中期中葉末から後葉の初めのものと推定される。また、明確には捉えられなかつたが、第5号土壤及び第10号土壤も縄文時代中期中葉末から後葉の初め頃に属する可能性がある。その他、弥生時代後期の箱清水式期に属すると思われる第4号溝跡があり、本調査区の周辺にこの期の遺構が存在している可能性は考えられる。

#### 遺構外及び第8号溝跡出土の縄文土器について

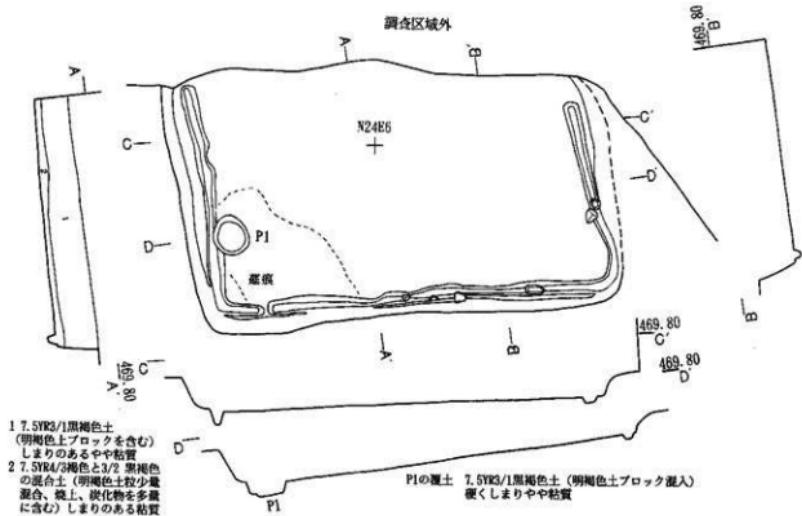
出土した遺物は中期初頭、中期中葉、中期後葉、後期前葉に属するものがみられ、調査地区及びその周辺にこれら各時期において生活等の行為があったことが推測される。採集された縄文土器のほとんどが第10号堅穴住居跡及び住居跡の可能性のある第1号配石が存在する南東区から出土している。北西・南東両地区を隔てる距離は僅か6mほどで、縄文土器の出土量の違いはこの近辺を境としている。調査面積が非常に狭いため断定的なことは言えないが、縄文時代の集落の主体部は地形的に若干低い北西地区には及んでいなかつた可能性があり、この場所より昭和24年の調査地点が存在する南東方向に展開するものと推測される。

遺物は中期中葉から後葉にあたる土器が多く出土し、これらには勝坂系、焼町系、曾利系、加曾利E系、唐草文系土器及び北信・越後地方から搬入されたと考えられる土器等がみられる。特に戸戸尻I式、III式から曾利I式併行期に属すると考えられる土器が多く出土している。その中で、口縁部から胴部までの形態がある程度分かるものとして、第8号溝跡出土の1から4及び遺構外出土の1・2が上げられる。

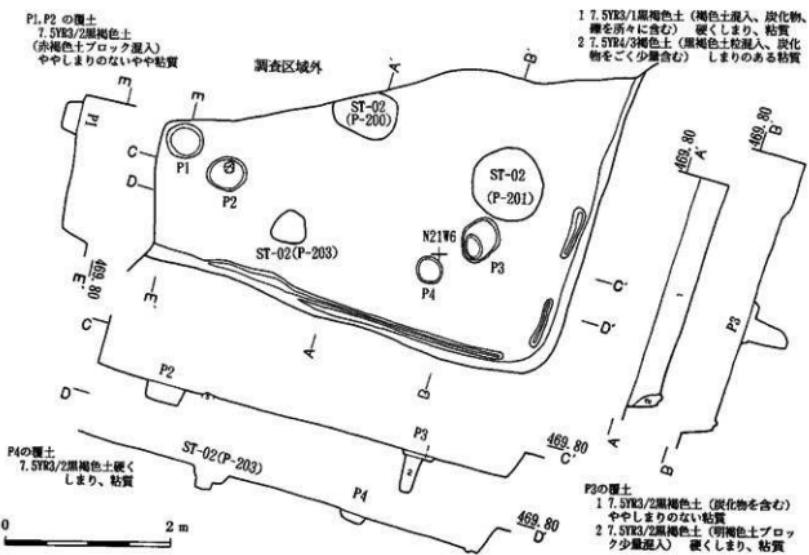
このうち第8号溝跡の第50図1と2は、4単位の波状口縁を呈するもので、口縁部は胴部へ移行する手前の部分で強く張り出し、胴部の中位は若干鈍らんでいる。文様は口縁部の波頂部を起点に分割され、その中に区画が施される。連鎖状隆線によって文様帯が口縁部と胴部に分けられ、胴部には半裁竹管による沈線が脇に沿う隆筋が垂下してその先端が巻かれている。2の胴部には縄文が施されているが、1にはみられない。これらは、隆線間に平行沈線が沿う焼町土器に共通する特徴を持った土器である。これらは、戸戸尻式に併行すると考えられる。1は器形の特徴等から櫛形文土器の影響を受けていると考えられる。また、遺構外出土の第53図1は4単位の波状口縁を呈した台付で、同図2は大型の深鉢である。これらは口縁部が4単位に分けられ、桶状把手が付される。口縁部の文様帶には刻みが加えられた隆筋と半裁竹管による平行沈線からなる文様が施され、口縁部から胴部に縄文が施されている。2の器形には、強いて言えば三原田式土器の影響が若干みられる。この二点は、戸戸尻IIIから曾利I式に併行すると考えられる。但し、これらの資料は重複関係及び層位等の裏付けに欠けることから、資料の増加を待って実証的な検討を行う必要がある。

本稿を執筆するにあたり以下の報告等を参考にした。また、縄文土器については(財)長野県埋蔵文化財センターの寺内隆夫氏の御指導を頂いた。

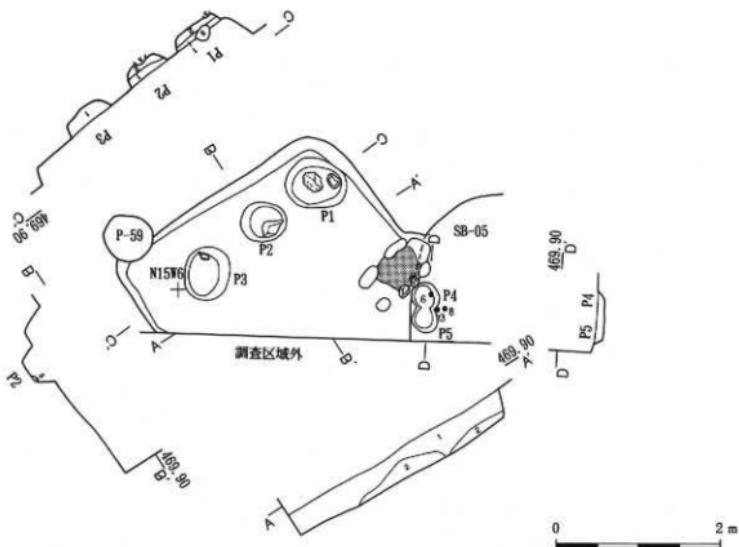
長野県埋蔵文化財センター2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 28-更埴市内その7-更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・蘿河原遺跡)一総論編一』、小諸市教育委員会1994『東下原・大下原・竹花・舟塚・大塚原』、小林真寿1987『上小地方における様相』『長野県考古学会誌』55・56号、東部町教育委員会1982『真行寺』、御代田町教育委員会1997『川原田遺跡-縄文編一』、岡谷市教育委員会1996『花上寺遺跡』等



第9図 第1号堅穴住居跡実測図



### 第10圖 第2号竪穴住居跡実測図

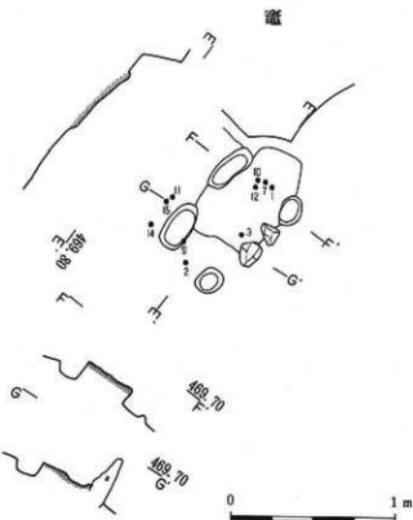


P1,P2の覆土  
1. 7.SYR3/1黒褐色土 やや砂質  
2. 7.SYR4/4褐色土 やや砂質

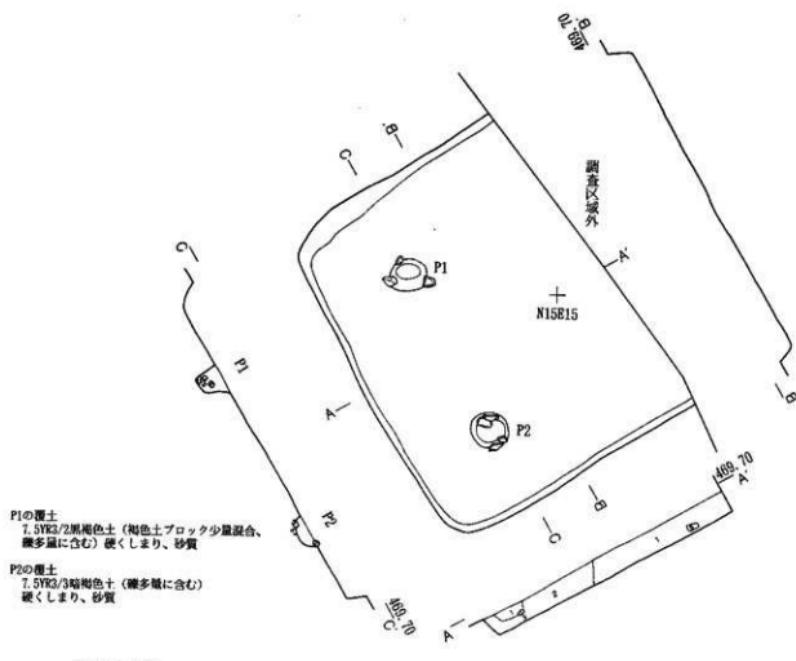
P3の覆土  
7.SYR3/1黒褐色土

P4,P5の覆土  
7.SYR3/2暗褐色土(褐色土混じり、焼土、炭化物を少量含む)  
しまりなく砂質

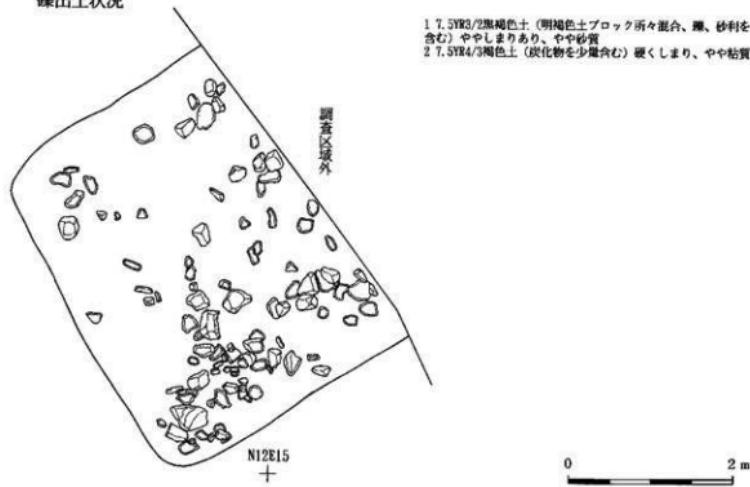
\*印番号は第30回実測図番号



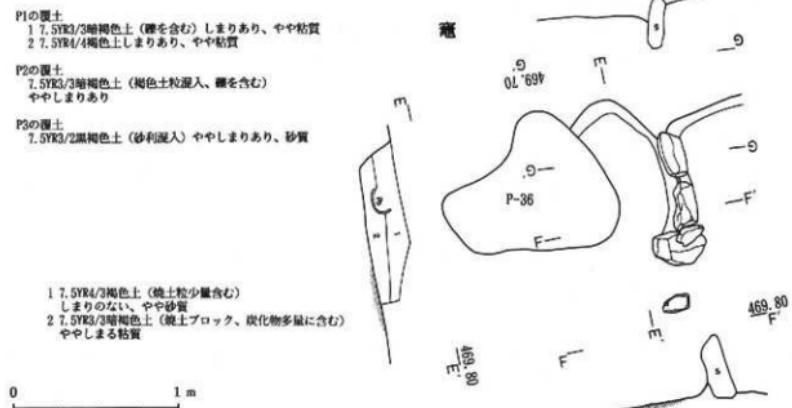
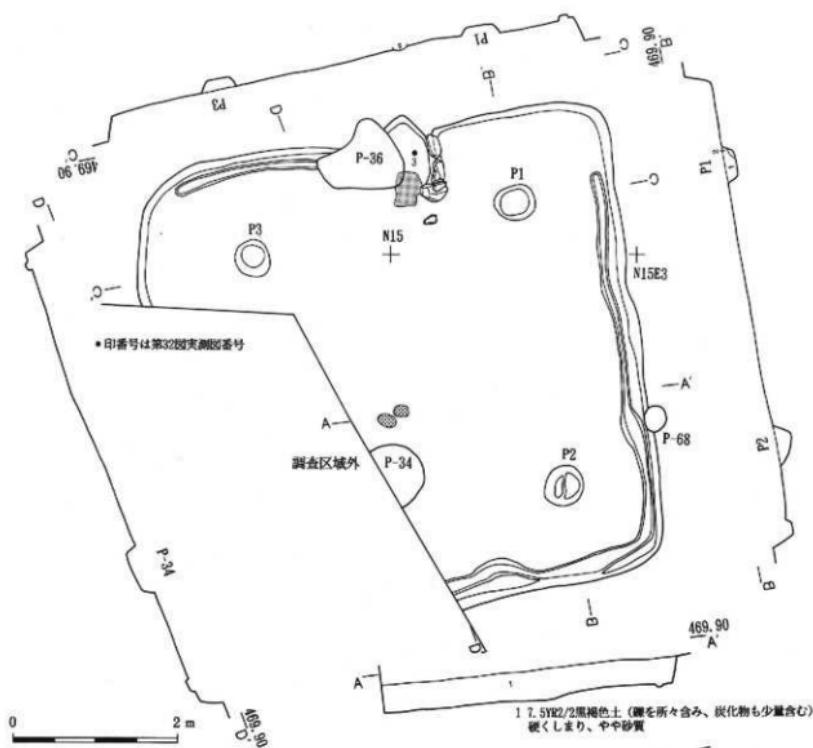
第11図 第3号堅穴住居跡実測図



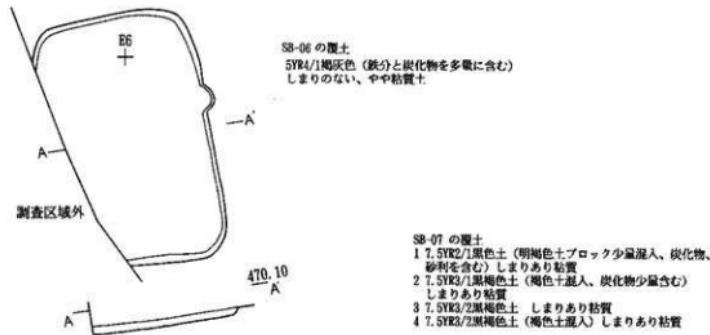
### 露出状況



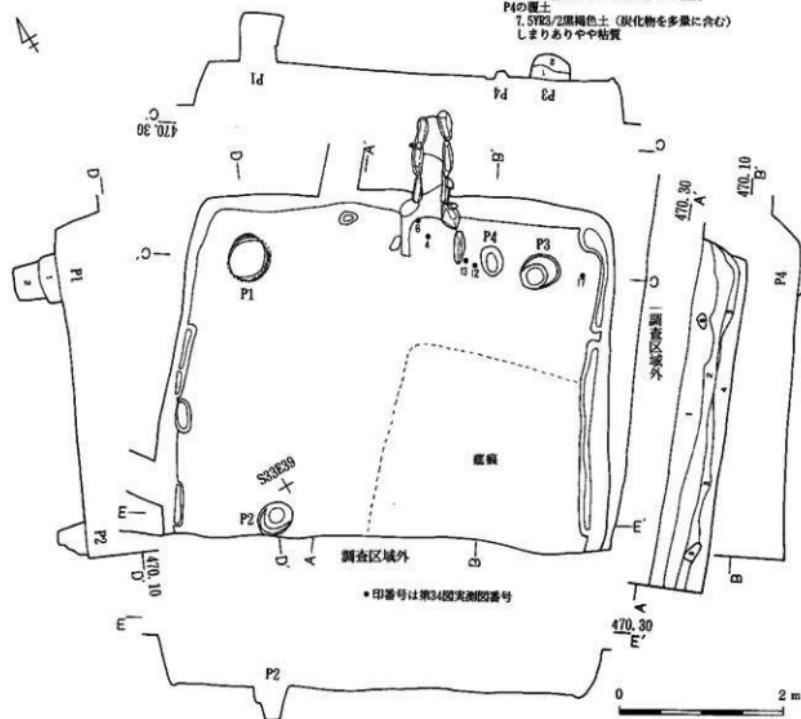
第12図 第4号竪穴住居跡実測図



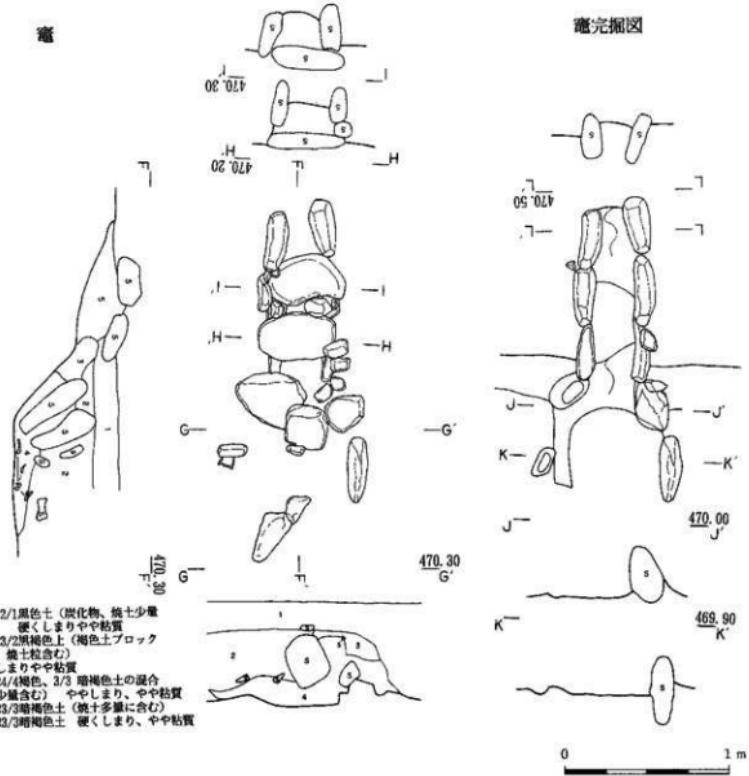
第13図 第5号堅穴住居跡実測図



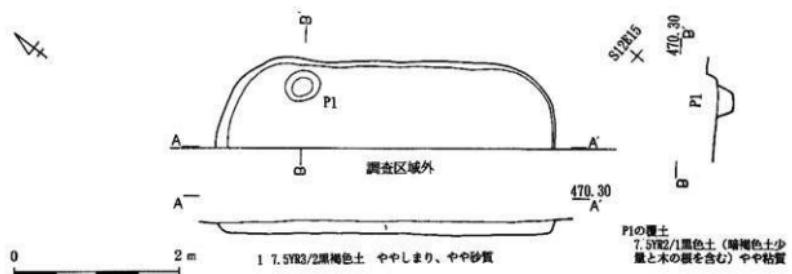
第14図 第6号竪穴住居跡実測図



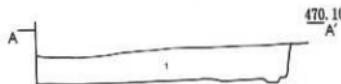
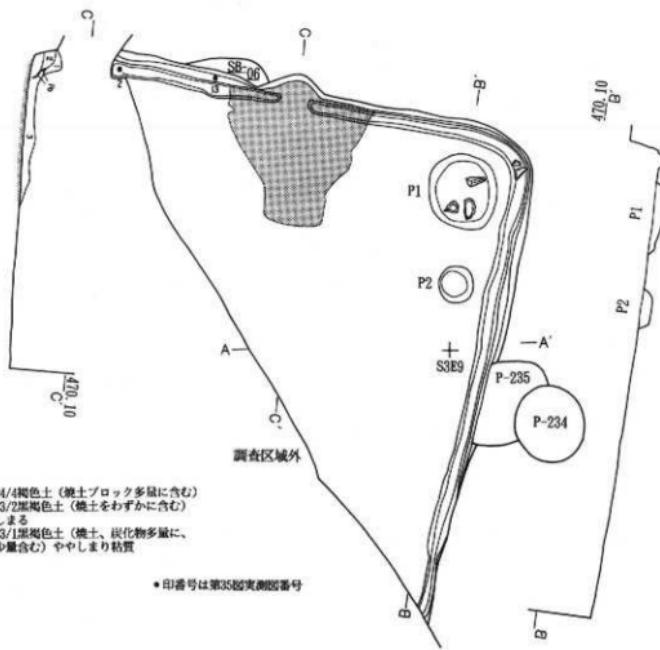
第15図 第7号竪穴住居跡実測図 (1)



第15図 第7号竪穴住居跡実測図(2)



第16図 第8号竪穴住居跡実測図



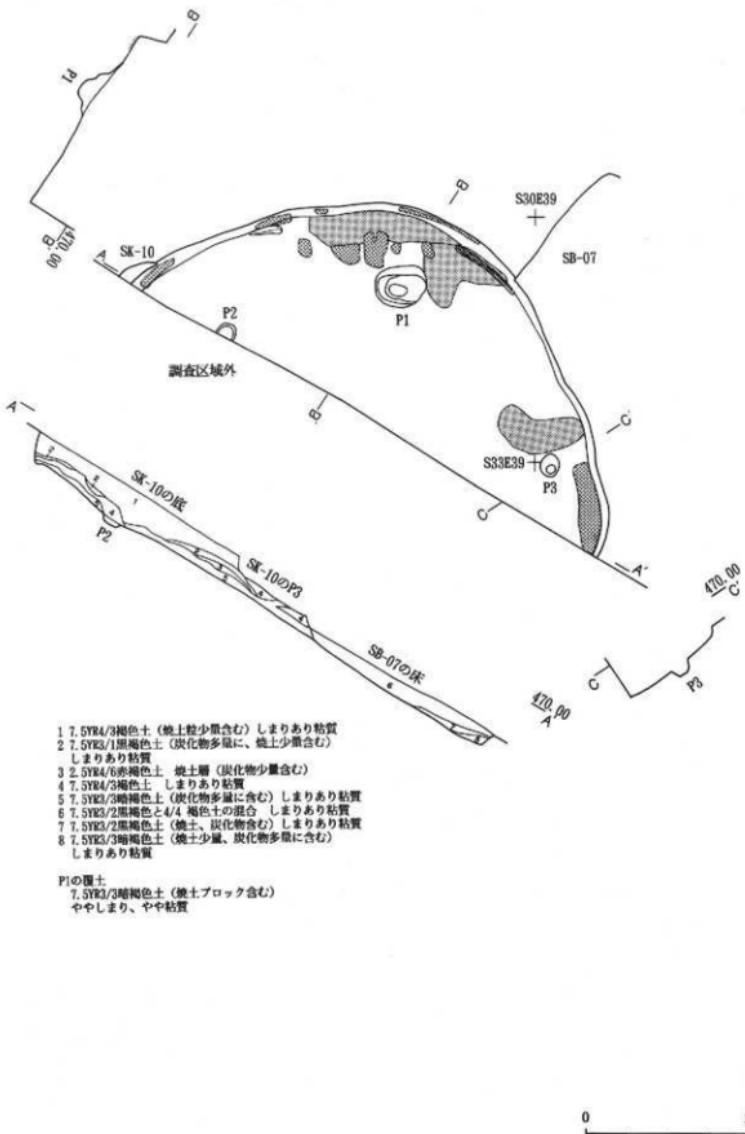
1 7.SYR3/3暗褐色土。（褐色土上ブロック少量混入、炭化物、  
 砂利少量含む）ややしまり、やや粘質

P1の覆土  
 7.SYR3/2黒褐色土（焼土ブロック少量含む）  
 ややしまり粘質

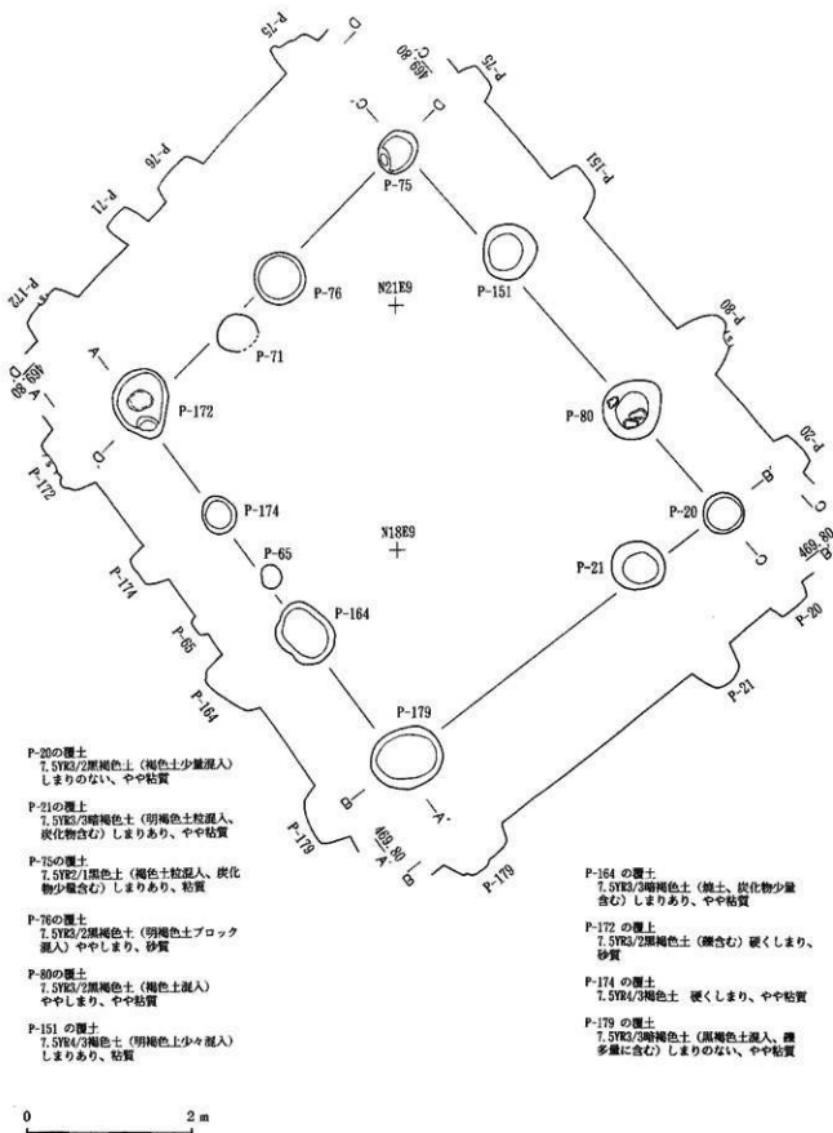
P2の覆土  
 7.SYR3/2黒褐色土（焼土少量含む）



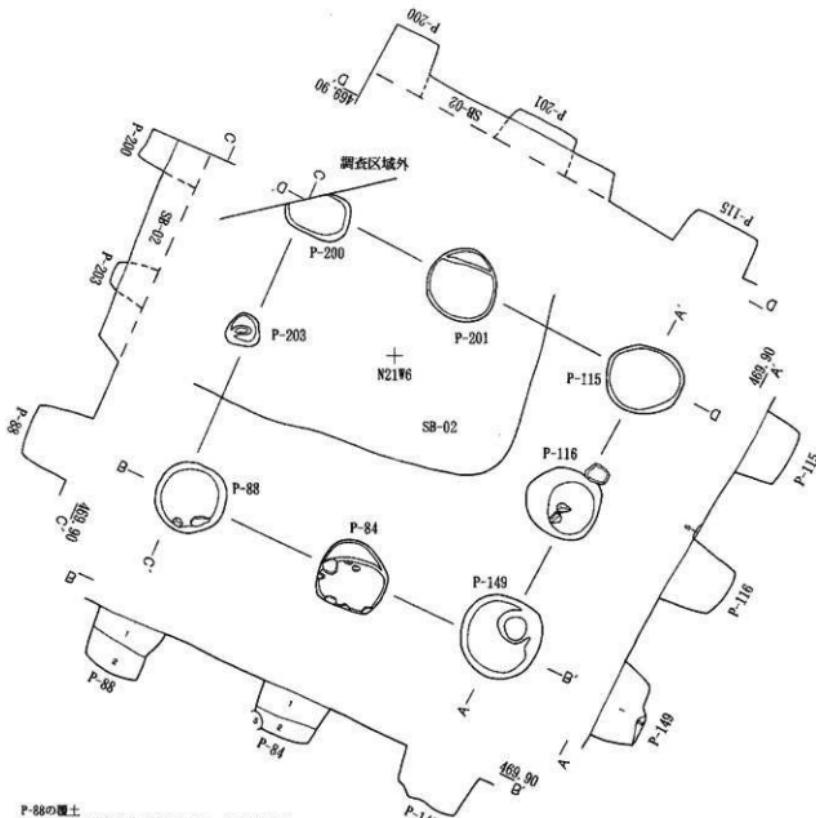
第17図 第9号竪穴住居跡実測図



第18図 第10号豎穴住跡実測図



第19図 第1号掘立柱建物跡実測図



P-88の覆土

- 1 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土ブロック所々に混入、炭化物をやや多量に含む）しまりあり、やや粘質
- 2 7.5YR3/3暗褐色土（明褐色土粒少々混入）ややしまりのない、やや砂質

P-84の覆土

- 1 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土ブロック混入、砂利多量に含む）硬くしまり、やや粘質
- 2 7.5YR3/3暗褐色土（明褐色土粒少々混入）ややしまりのない、やや砂質

P-200の覆土

- 1 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土ブロック混入、焼上、炭化物多量に含む）しまりあり、やや粘質

P-115の覆土

- 1 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土粒混入、砂利、炭化物少量含む）しまりあり、やや砂質

P-116の覆土

- 1 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土混入、炭化物、砂利含む）しまりあり、やや砂質

P-149の覆土

- 1 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土粒混入、炭化物、砂利少量含む）しまりあり、やや砂質
- 2 7.5YR4/3褐色土（炭化物少々含む）しまりのない、粘質

P-201の覆土

- 1 7.5YR3/2黒褐色土（明褐色土粒混入、炭化物、砂利多量に含む）硬くしまり、やや粘質

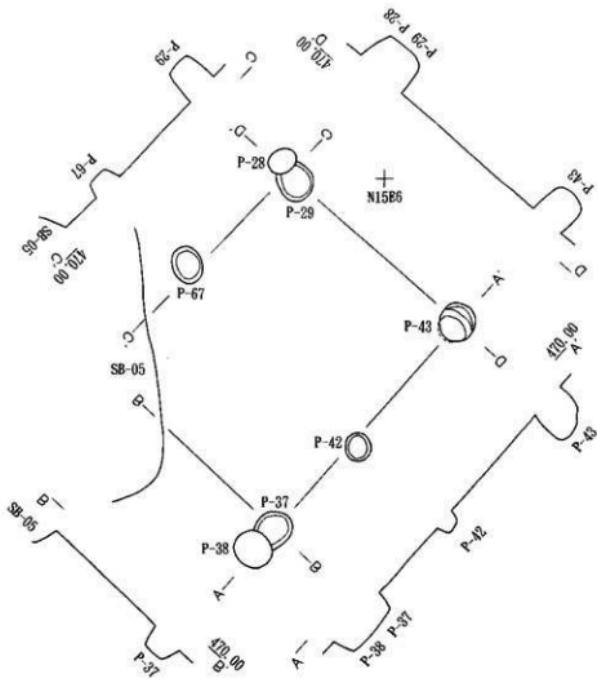
P-203の覆土

- 1 7.5YR3/3褐色土（にぼい褐色土粒混入、炭化物少量含む）

0

2 m

第20図 第2号掘立柱建物跡実測図



P-29の覆土  
7.5m/3/2黒褐色土（上層に褐色土混入）  
硬くしまり、やや粘質

P-37の覆土  
7.5m/3/2黒褐色土（明褐色土混入）やや粘質

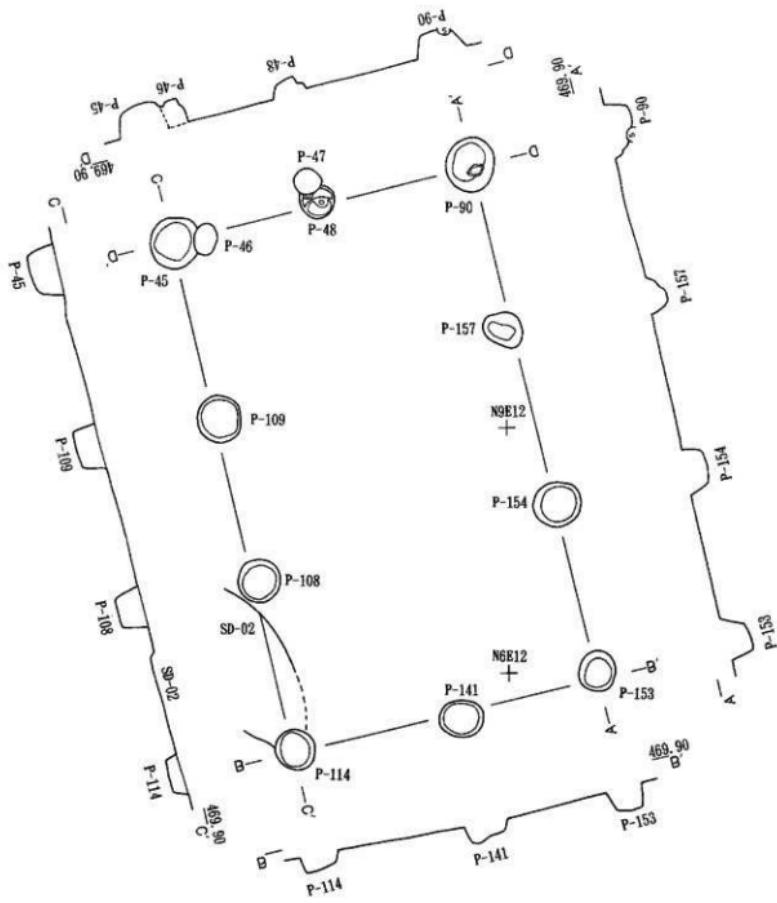
P-42の覆土  
7.5m/3/2黒褐色土（疊合む）粘質

P-43の覆土  
7.5m/3/2暗褐色土（疊合む）硬くしまり、やや粘質

P-67の覆土  
7.5m/3/2黒褐色土（褐色土少量混入）  
しまりなく、やや砂質



第21図 第3号掘立柱建物跡実測図



P-45の覆土  
7.5YR3/2黒褐色粘土と7.5YR4/3褐色  
砂質土の混合

P-48の覆土  
7.5YR4/4褐色土（跡含む）やや粘質

P-90の覆土  
7.5YR3/2黒褐色土（砂利混入）  
ややしまり、砂質

P-108の覆土  
7.5YR4/3褐色土（暗褐色土、雜混入）  
やや粘質

P-109の覆土  
7.5YR3/3暗褐色土（砂利少量含む）  
しまりない

P-114の覆土  
7.5YR4/3褐色土（にい、褐色土少量混入）

P-141の覆土  
7.5YR2/2褐褐色土（明褐色土粒混入）  
やや粘性

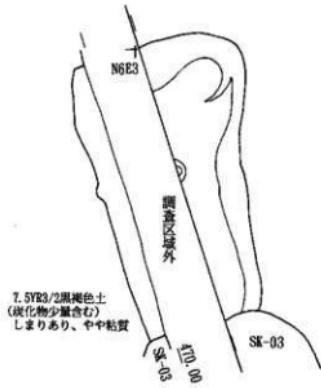
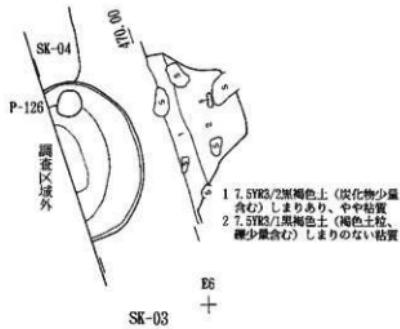
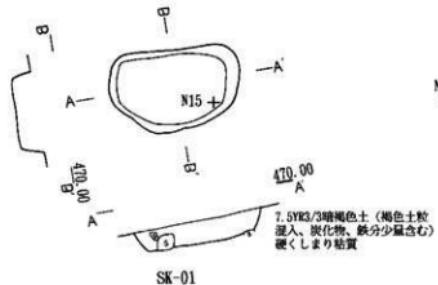
P-153の覆土  
7.5YR3/2褐褐色土（褐色土混入）  
ややしまりあり

P-154の覆土  
7.5YR3/1黒褐色土（褐色土混入、褐色  
細砂粒含む）しまりあり

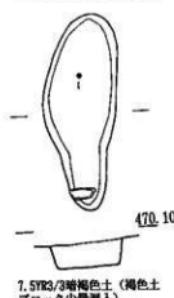
P-157の覆土  
7.5YR3/2褐褐色土（明褐色土ブロック、  
炭化物混入）やや粘質

0 2 m

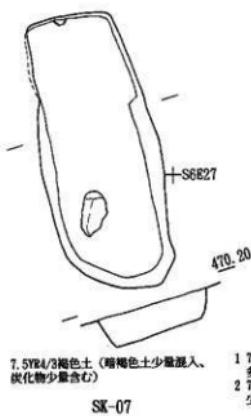
第22図 第4号掘立柱建物跡実測図



\*印番号は第40回実測番号



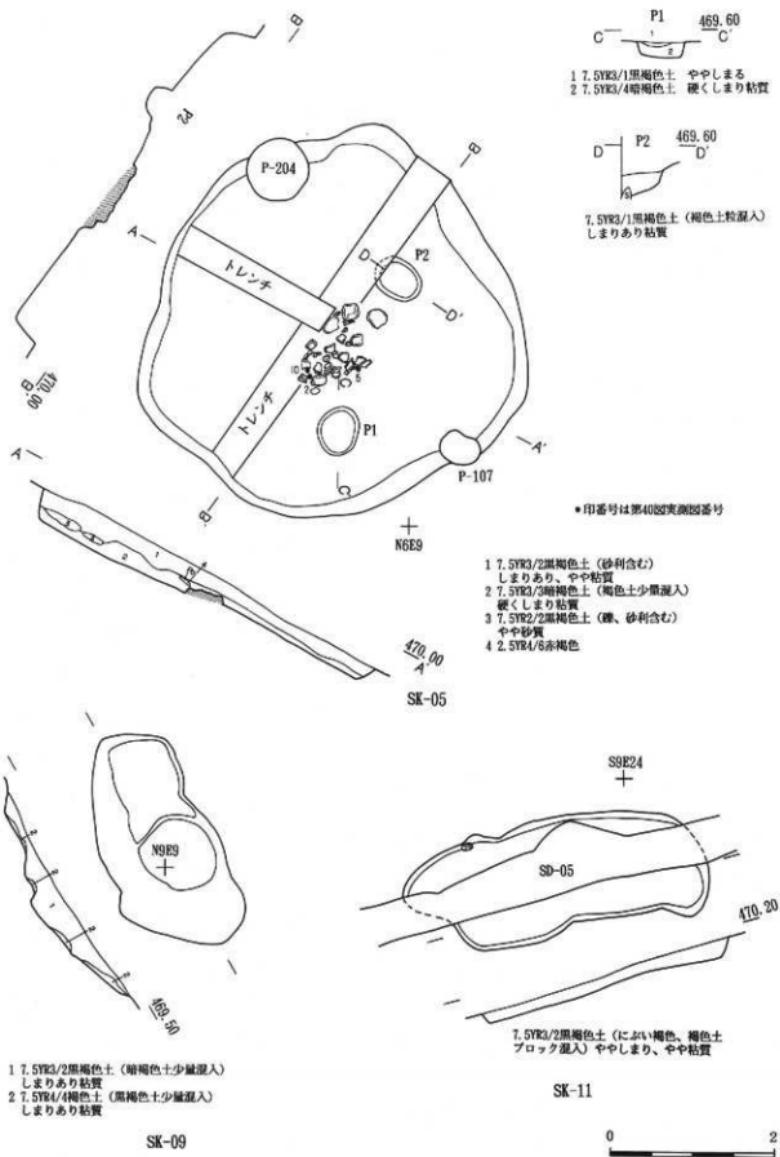
0 2 m



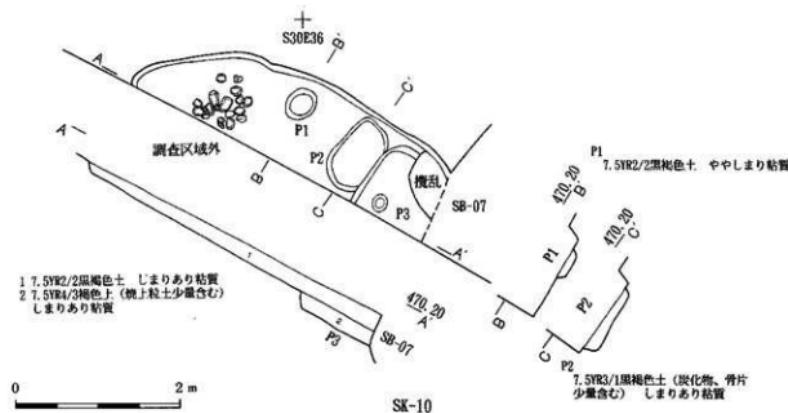
1 7.5YR3/1黒褐色土（燒土、砂利  
多量に含む）砂利  
2 7.5YR4/4褐色土（褐色土、燒土粒  
少混合）やや砂質



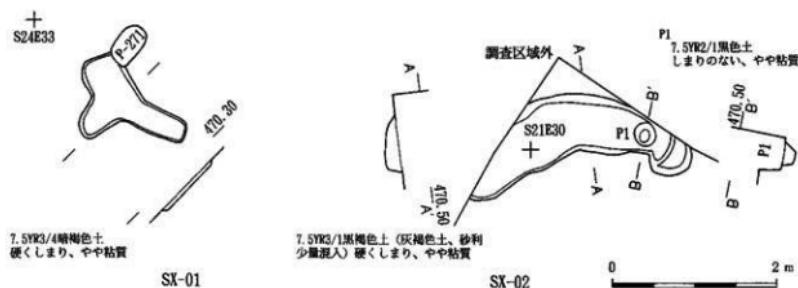
第23図 土壌実測図(1)



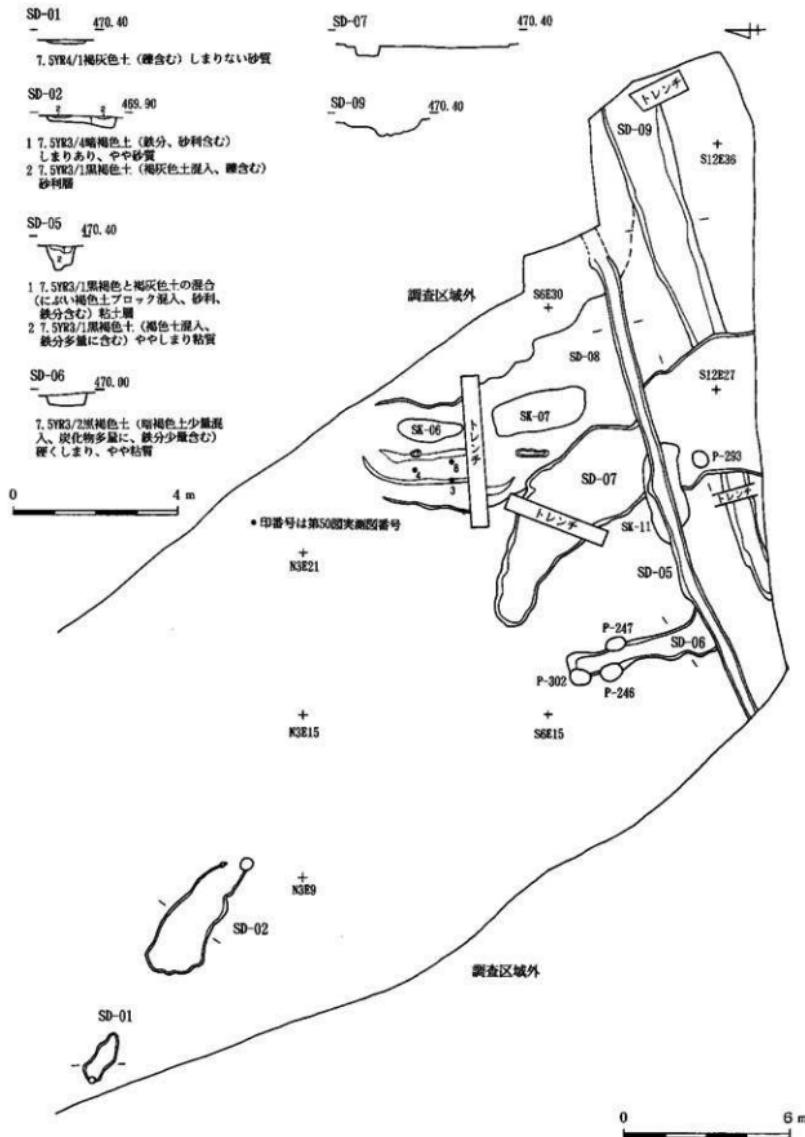
第23図 土壤実測図(2)



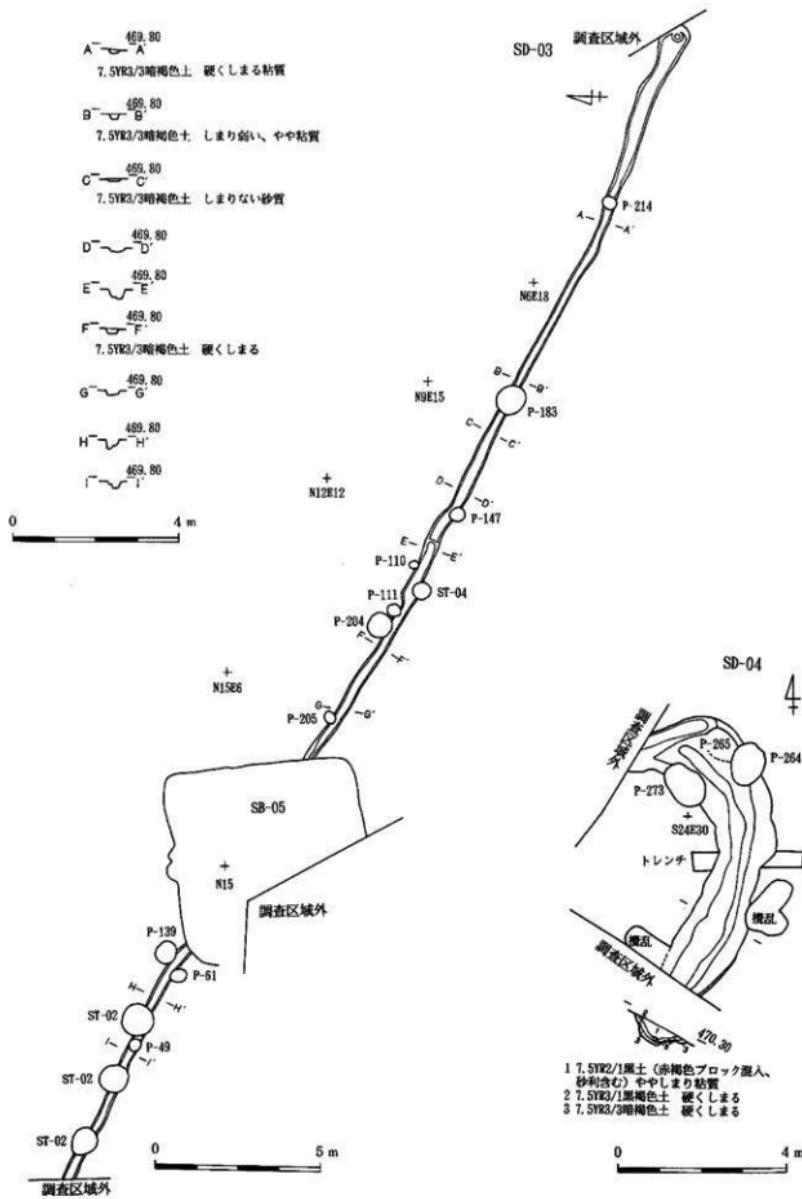
第23図 土壤実測図(3)



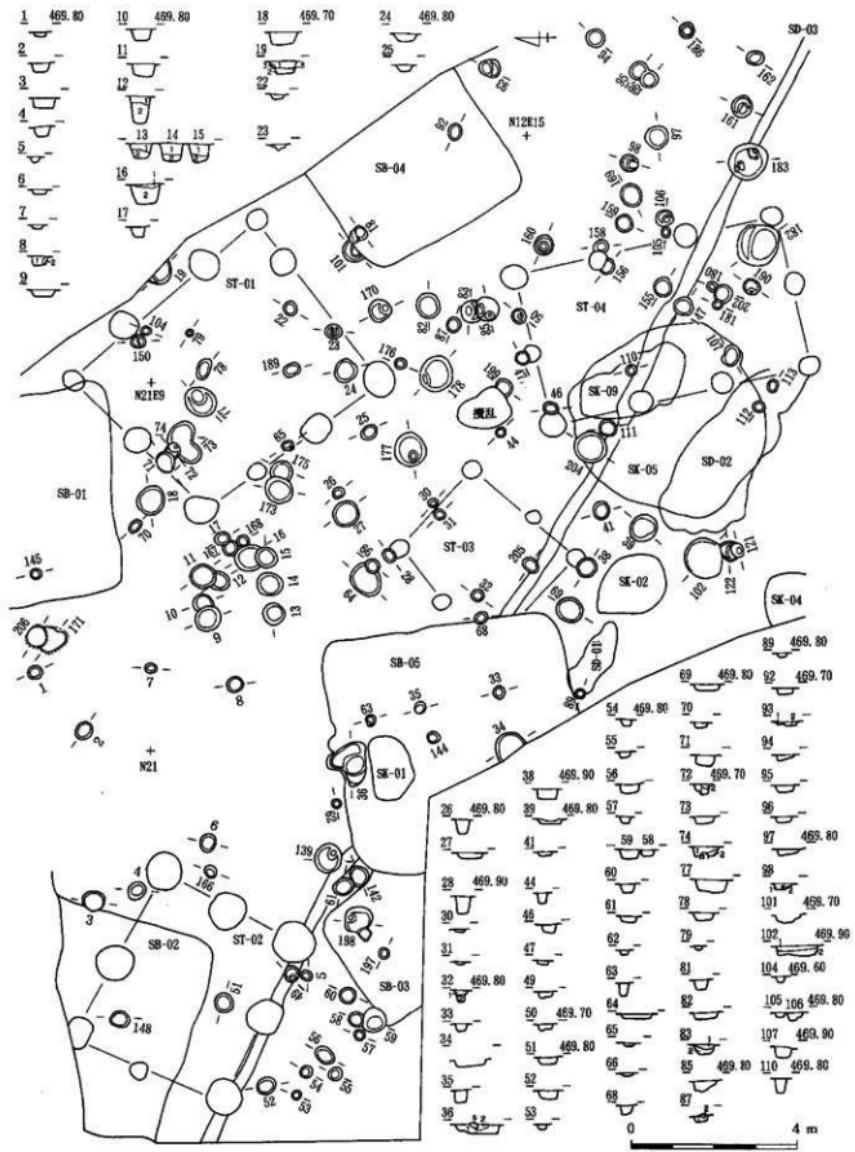
第24図 配石・集石実測図



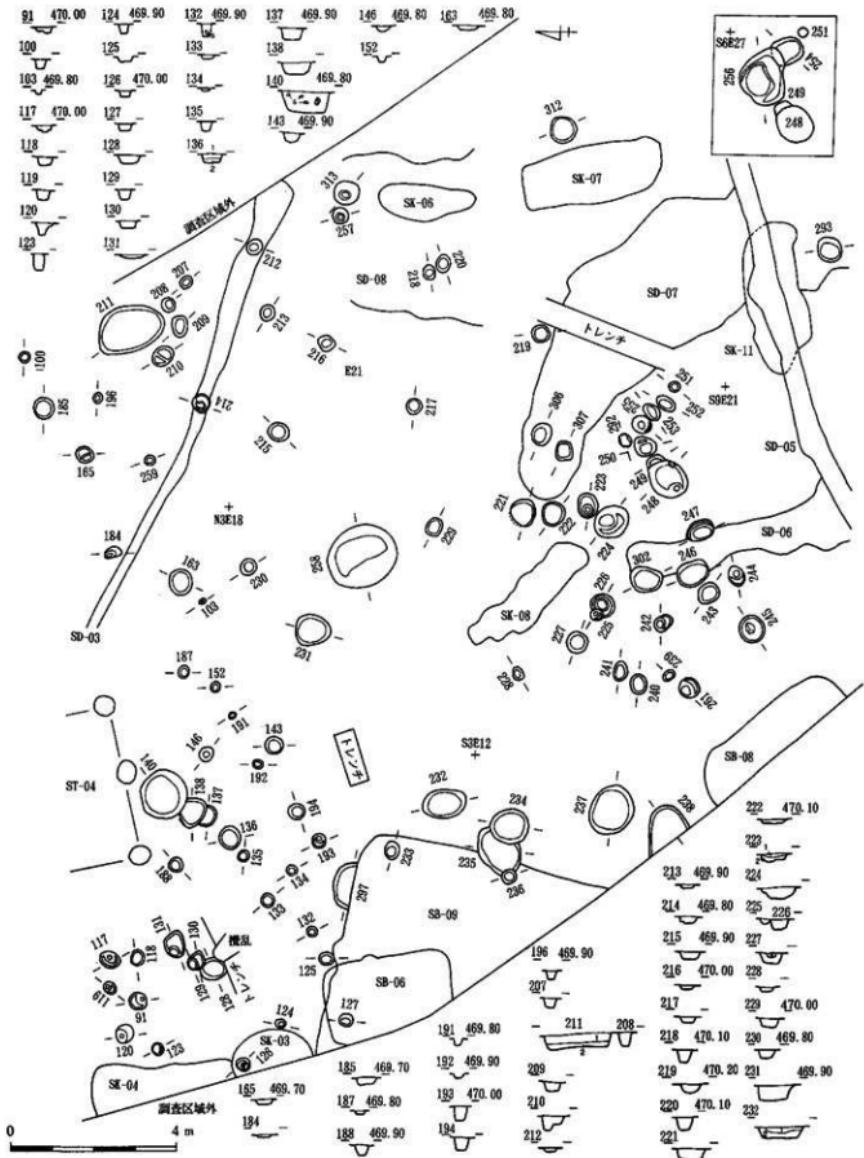
第25図 第1・2・5・6・7・8・9号溝跡実測図



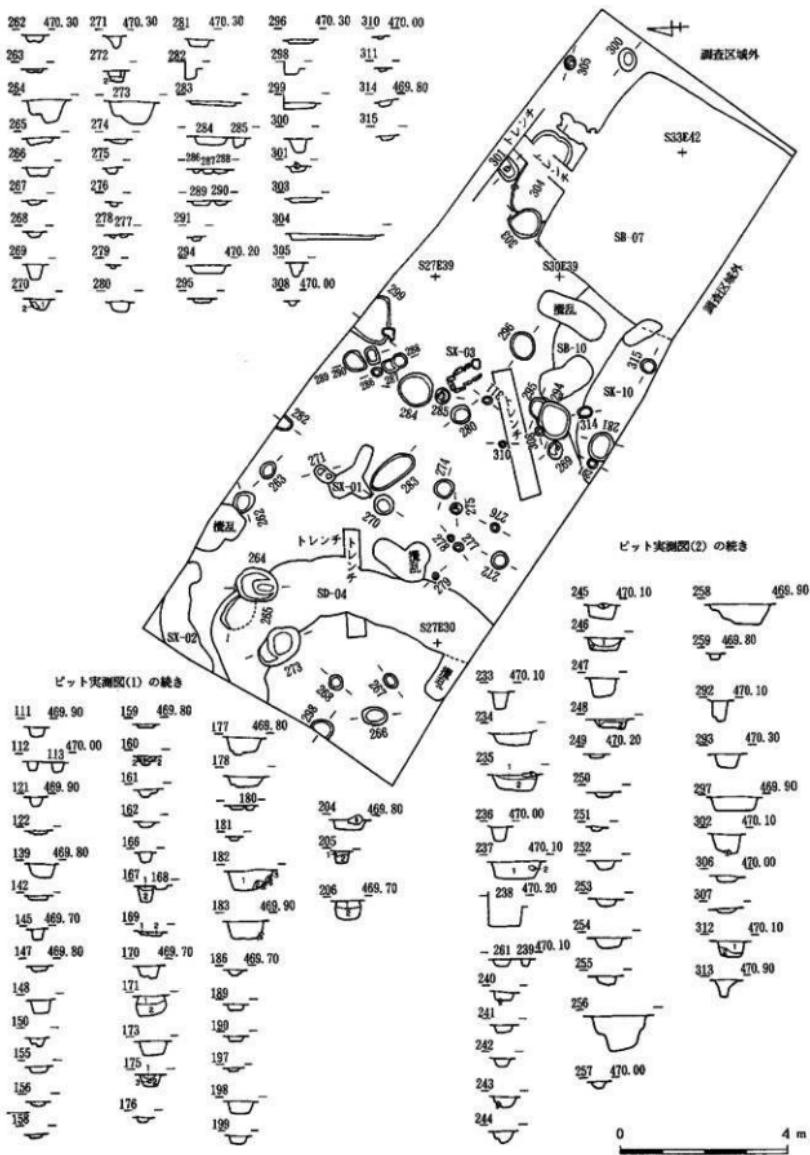
第26図 第3・4号溝跡実測図



第27図 ピット実測図(1)



第27図 ピット実測図(2)



第27図 ピット実測図(3)

第1号住居跡 造構実測図(第9図) 造物実測図(第28図)

(規模の単位はm)

位	グリッド	N24E8, N24E9, N24E12, N27E6, N27E9			柱 穴 の 他	P1(0.46x0.42x0.20)	
置	標 高	469.06~469.16				位置	
規	規模	5.25x?				規模	
模	壁高	床面標 不明				覆土	
覆	土	西壁0.50 南壁0.40				形態	
1.7.5M2/1黒褐色(明褐色土+ブロックを含む) しまりのあるやや粘土土	2.7.5M4/3褐色と3/2 黒褐色の混合(明褐色土少々混じる) 粘土、炭化物が多くしまりのある粘土土	北半分は調査区域外 壁下の床面に剥落が進っている 南北壁の床に遺物の跡					
平面形態	隅丸(長) 方形	主軸方位	N-5°-W?				
その他							

第2号住居跡 造構実測図(第10図) 造物実測図(第29図)

位	グリッド	N21W6, N21W9, N21W12, N24W6, N24W9, N24W12			柱 穴 の 他	P1(0.45x0.42x0.18) P2(0.47x0.41x0.21) P3(0.58x0.44x0.51) P4(0.33x0.32x0.10)	
置	標 高	469.24~469.36				位置	
規	規模	不明 床面標 不明				規模	
模	壁高	東壁0.36 南壁0.33				覆土	
覆	土	1.7.5M2/1黒褐色(褐色土混) 炭化物、礫を含む、かたくしまる粘土土 2.7.5M4/3褐色土(黒褐色土混) 炭化物をごくすかに含み、しまりのある粘土土				形態	
平面形態	隅丸(長) 方形	主軸方位	N-73°-W?				
その他							

第3号住居跡 造構実測図(第11図) 造物実測図(第30図)

位	グリッド	N15W3, N15W6, N15W9, N18W3, N18W6, N18W9			柱 穴 の 他	P1(0.76x0.60x0.17) P2(0.56x0.56x0.20) P3(0.66x0.54x0.18)	
置	標 高	469.34~469.48				位置	
規	規模	不明 床面標 不明				規模	
模	壁高	北東壁0.40 南西壁0.20				覆土	
覆	土	1.7.5M2/3褐色(褐色土混) 小砂利多く含み、やわしまりのあるやや砂質土 2.7.5M4/3褐色(黒褐色土をブロック状に含む) しまりのあるやや粘土土				形態	
平面形態	隅丸(長) 方形	主軸方位	N-32°-W?				
その他							

第4号住居跡 造構実測図(第12図) 造物実測図(第31図)

位	グリッド	N15E15, N15E18, N18E12, N18E15, N18E18			柱 穴 の 他	P1(0.42x0.38x0.29) P2(0.45x0.42x0.15)	
置	標 高	469.28~469.32				位置	
規	規模	4.30x?				規模	
模	壁高	西壁0.28 南壁0.20				覆土	
覆	土	1.7.5M2/2黒褐色(明褐色土ブロック混り) 砂、小砂利を含む やわしまりのある砂質土 2.7.5M4/3褐色 炭化物少々含む かたくしまるやや粘土土				形態	
平面形態	隅丸(長) 方形	主軸方位	N-32°-W?				
その他							

第2表 壁穴住居跡観察表(1)

第5号住居跡 遺構実測図(第13図) 遺物実測図(第32図)

(規模の単位はm)

位 置	グリッド 標 高	N12E3, N12E6, N15W3, N15E3, N15E6, N18W3, N18E3 469.36~469.46	そ の れ の 他	柱 穴 位置 覆土 形態	P1(0.48×0.40×0.14) P2(0.50×0.48×0.18) P3(0.45×0.42×0.13) 北壁中央 1.7.5YR4/3褐色 燃土粒をわずかに含み しまりのないやや粘質土 2.7.5YR3/3暗褐色 燃土ブロックと炭化 物を多量に含み、やや締まりのある粘 質土 石組
規 模	規模	5.95×5.80	床面積	33.7m <sup>2</sup> (推定)	
模 様	壁高	東壁0.32	北壁0.24		
覆 土	1.7.5YR2/2暗褐色土(縛を所々含み、炭化物少量含む) かたくしまりや砂質				
形 態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-5°-W	南西部分は調査区域外 北、東、南壁下の床に周溝を巡らす
	そ の 他				

第6号住居跡 遺構実測図(第14図) 遺物実測図(第33図)

位 置	グリッド 標 高	N3E6, N3E9, S3E6, S3E9 469.77~469.82	そ の れ の 他	柱 穴 位置 覆土 形態	
規 模	規模	3.08×2.00?	床面積	不明	
模 様	壁高	東壁0.10			
覆 土	1.7.5YR4/1褐色灰色 にぼい赤褐色(鉄分)と炭化物を多量 に含み、しまりのないやや粘質土				
形 態	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-9°-W?	西部分は調査区域外
	そ の 他				

第7号住居跡 遺構実測図(第15図) 遺物実測図(第34図、第4図)

位 置	グリッド 標 高	S30E42, S33E39, S33E42, S33E45, S36E39 469.46~469.52	そ の れ の 他	柱 穴 位置 規模	P1(0.56×0.48×0.58) P2(0.49×0.37×0.48) P3(0.48×0.40×0.27) P4(0.36×0.26×0.10) 北東壁中央 1.85×0.78(縦道1.00×0.50)
規 模	規模	5.10×?	床面積	不明	
模 様	壁高	南東壁0.58	北東壁0.42		
覆 土	1.7.5YR2/1風(明褐色土ブロックを含む)炭化物砂利 を含む しまりあり、粘質土 2.7.5YR3/1風褐色(褐色泥じり)炭化物を少量含む しまりあり、粘質土 3.7.5YR3/2風褐色 しまりあり、粘質土 4.7.5YR3/2風褐色(褐色泥)粘質土				1.7.5YR2/1風 炭化物、燃土を少々含み、 かたくしまるやや粘質土 2.7.5YR3/2風褐色 細土を塊状に含み かたくしまる やや粘質土、燃土を含む 3.7.5YR4/4褐色と3/3暗褐色の混合、燃土 わずかに含み、ややしまる やや粘質土 4.7.5YR3/2風褐色 燃土を多量に含む 5.7.5YR3/3暗褐色 かたくしまりやや粘質
形 態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-35°-E	形態
	そ の 他				南西部分は調査区域外、南東、北西壁下の床面に周溝 南東の床面に重状の敷物の跡

第8号住居跡 遺構実測図(第16図)

位 置	グリッド 標 高	S9E12, S9E15, S12E12, S12E15 469.84~469.88	そ の れ の 他	柱 穴 位置 規模	P1(0.42×0.38×0.20)
規 模	規模	4.00×?	床面積	不明	
模 様	壁高	南東壁0.14	北東壁0.12		
覆 土	1.7.5YR3/2風褐色 やしもあり やや砂質				
形 態	平面形態	隅丸(長)方形	主軸方位	N-73°-W?	南西側は調査区域外
	そ の 他				

第3表 竪穴住居跡観察表(2)

第9号住居跡 遺構実測図(第17図) 遺物実測図(第35図) (横の単位はm)

位 置	グリッド	N3E6, N3E9, S3E6, S3E9, S3E12, S6E9, S6E12, S9E9		柱 穴	P1(0.92x0.86x0.12) P2(0.44x0.42x0.10)	
		標 高	469.35~469.43		位置	北壁
規 模	規模	不明	床面積	の 他	規模	1.80x1.70(粘土範囲)
	壁高	東壁0.40	北壁0.30		覆土	1 7.5YR4/3暗褐色 (褐色土ブロックを少量含む) 炭化物 小砂利を少量含む ややしまりあり、 やや粘質土
覆 土	1 7.5YR3/3暗褐色 (褐色土ブロックを少量含む) 炭化物 小砂利を少量含む ややしまりあり、 やや粘質土		形態	形態	2 7.5YR3/2深褐色土 焼土をわずかに含む かたくしまる	
	2 7.5YR3/2深褐色土 焼土をわずかに含む かたくしまる				3 7.5YR2/1黒褐色土 焼土、炭化物を多量に 含む、ややしまりある粘質土	
形 態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-12°-E?	備 考	南西部分は調査区域外 周溝が走っている
	その 他					

第10号住居跡 遺構実測図(第18図) 遺物実測図(第36図)

位 置	グリッド	S33E36, S33E39, S33E42, S36E39, S36E42		形 態	平面形態	円形?	主軸方位	不明
		標 高	469.40~469.50		その 他			
規 模	規模	不明	床面積	そ の 他	柱 穴	P1(0.60x0.50x0.28) P2(0.20x?x0.06) P3(0.29x0.25x0.12)	規模	位置
	壁高	北西壁0.38	北壁0.30					
覆 土	1 7.5YR4/3褐色 焼土をわずかに含む しまりのある 粘質土		の 他	覆土	位置	規模	位置	規模
	2 7.5YR3/1黒褐色 炭化物を多量に、焼土を少量含む しまりのある粘質土							
土	3 2.5YR4/6赤褐色 焼土層 炭化物をわずかに含む しまりのある粘質土		形態	形態	形態	形態	形態	形態
	4 7.5YR4/3褐色 しまりのある粘質土							
土	5 7.5YR3/3暗褐色 炭化物を多量に含む しまりのある 粘質土		備 考	南西部分は調査区域外 SB-07 に切られる 部分的に周溝が走っている	備 考	南西部分は調査区域外 SB-07 に切られる 部分的に周溝が走っている	備 考	備 考
	6 7.5YR3/2深褐色 (褐色土) しまりのある粘質土							
土	7 7.5YR3/2深褐色 焼土、炭化物混じり しまりのある 粘質土		備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考
	8 7.5YR3/3暗褐色 焼土わずかに、炭化物多量に含 み、しまりのある粘質土							

第4表 堅穴住居跡銀表(3)

## 第1号掘立柱建物跡(遺構実測図 第19図 遺物実測図 第37図)

(規模の単位はm)

位置	グリッド	N18E9, S18E12, N18E15, N21E6, N21E9, N21E12, N21E15, N24E9, N24E12									
規模	桁行3間×梁行2間 (5.60×4.70)		柱間寸法	桁行1.87 梁行2.35	主軸方向	N-39°-W					
柱 穴											
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物 等	No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物 等
20	0.51	0.48	0.20	円形		151	0.70	0.64	0.35	円形	
21	0.68	0.59	0.38	楕円形	土師壺	164	0.76	0.61	0.36	楕円形	土師壺・高环(2)
75	0.54	0.46	0.38	楕円形		172	0.85	0.64	0.38	楕円形	土師高环(1) 等
76	0.64	0.62	0.23	円形	土師壺・环・等	174	0.45	0.42	0.28	楕円形	土師壺
80	0.80	0.72	0.52	円形	繩文深鉢	179	0.90	0.70	0.38	楕円形	

## 第2号掘立柱建物跡(遺構実測図 第20図 遺物実測図 第38図)

位置	グリッド	N18W6, N18W9, N21W3, N21W6, N21W9, N24W3, N24W6, N24W9									
規模	桁行2間×梁行2間 (4.20×3.80)		柱間寸法	桁行2.10 梁行1.90	主軸方位	N-63°-W					
柱 穴											
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物 等	No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物 等
84	0.82	0.82	0.56	不定形	土師壺	149	1.00	1.00	0.56	楕円形	土師环(1)・壺 須恵壺(5) 等
88	0.88	0.86	0.66	円形	弥生壺(6)・壺 土師壺・环	200	(0.75)	0.58	0.38	楕円形	
115	0.92	0.82	0.50	楕円形	内黒环 土師壺 弥生壺	201	0.88	0.86	(0.48)	円形	土師壺 弥生壺
116	0.90	0.82	0.64	円形	内黒环(2) 须恵环(3) 土师壺(4)	203	0.40	0.40	(0.53)	円形	弥生壺 土師壺

## 第3号掘立柱建物跡(遺構実測図 第21図)

位置	グリッド	N12E6, N15E3, N15E6, N15E9, N18E6									
規模	桁行2間×梁行1間 (3.30×3.00)		柱間寸法	桁行1.65 梁行3.00	主軸方位	N-47°-S					
柱 穴											
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物 等	No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物 等
29 (0.46)	0.40	0.42	0.42	楕円形		43	0.46	0.44	0.48	円形	土師壺 弥生壺 黒曜石フレーク
37 (0.50)	0.43	0.26	0.26	楕円形		67	0.47	0.38	0.20	楕円形	
42	0.34	0.28	0.16	楕円形							

## 第4号掘立柱建物跡(遺構実測図 第22図 遺物実測図 第39図)

位置	グリッド	N6E9, N6E12, N6E15, N9E9, N9E12, N9E15, N12E9, N12E12, N12E15, N15E12									
規模	桁行3間×梁行2間 (6.24×3.80)		柱間寸法	桁行2.08 梁行1.90	主軸方位	N-13°-W					
柱 穴											
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物 等	No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物 等
45	0.62	0.60	0.38	円形	土師壺	114	0.52	0.46	0.14	楕円形	土師壺
48	0.42	0.40	0.20	円形	土師不明	141	0.56	0.45	0.24	楕円形	
90	0.65	0.60	0.28	円形	須恵壺 土師壺・环	153	0.48	0.42	0.29	楕円形	
108	0.52	0.50	0.32	円形		154	0.58	0.54	0.30	円形	土師环(1)・壺
109	0.56	0.56	0.28	円形	繩文深鉢 弥生壺・壺 土師壺 軽石	157	0.48	0.40	0.22	楕円形	

第5表 掘立柱建物跡観察表

造構実測図 第23図 造物実測図 土器-第40図 石器-第54図 土偶-第55図 瓦-第56図

造構No	位 置	長径	短径	深さ	平面形態	断面形態	遺 物	備 考
SX-01	N15W3, N15E3 N18W3, N18E3	1.43	1.00	0.30	椭円形	たらい状	須恵壺蓋(1)・环(2) 須恵壺・壺 土師环・壺 弥生壺	
SX-02	N9E6, N12E6	1.92	1.45	0.66	変形椭円形	すり鉢状	須恵壺(1) 土師壺 灰陶陶器 瓦(3)	
SX-03	N3E6	1.93	?	0.92	椭円形	すり鉢状	須恵环(1) 土師壺 須恵	南半分は調査区域外
SX-04	N3E6, N6E6 N9E6	?	?	0.33	不明	底面平坦	須恵壺(1) 内黒環 土師壺	SX-03 に切られる 南半分は調査区域外
SX-05	N9E6, N9E9 N9E12, N12E9 N12E12	4.64	4.62	0.46	円形	底面凹凸 あり	縄文深鉢(1~6, 8~10)・浅 鉢(?) 石器(1, 40, 41, 81)	SX-03 に切られる
SX-06	S3E27	2.38	0.88	0.30	椭円形	たらい状	内黒皿(1)・柳(2) 須恵环 縄文	
SX-07	S6E27, S9E27 S6E30	3.42	1.48	0.38	不定形	たらい状	内黒环(1) 土師环(2, 3) 縄文 深鉢(4, 5) 須恵 弥生	
SX-08	S3E15, S3E18 S6E15, S6E18	3.52	0.92	0.20	溝状の不 定形	たらい状	須恵壺蓋(1) 弥生高环・壺 土師壺	
SX-09	N9E9, N9E12 N12E9, N12E12	2.88	1.42	0.37	不定形	すり鉢状	縄文深鉢(1, 2) 石器(8)	
SX-10	S3E36 S3E39	?	?	0.20	椭円形?	底面平坦	縄文深鉢(1~3)・浅鉢(4.5) 土偶(1) 石器(42)	SX-07 に切られる
SX-11	S12E24 S12E27	3.72	1.42	0.22	溝状の不 定形	たらい状	須恵壺(1) 縄文深鉢(2, 3) ・ 浅鉢(4) 内黒环 弥生壺 土師壺	SX-05 に切られる

第6表 土壌観察表

造構実測図 第24図 造物実測図 土器-第41図 石器-第54図

造構 No	位 置	長径	短径	深さ	平面形態	断面形態	遺 物	備 考
SX-03	S30E39	0.93	0.51	0.25	長方形	底面平坦 垂直に掘る	縄文深鉢(1~4) 石器(43) 骨片	配石造構 1

第7表 配石観察表

造構実測図 第24図 造物実測図 土器-第42図

造構 No	位 置	長 径	短 径	深 さ	平 面 形 態	断 面 形 態	遺 物	備 考
SX-01	S27E36	1.50	0.88	0.06	不定形	たらい状	縄文深鉢(1~3) 須恵 カ メ(4)	
SX-02	S21E30, S21E33 S24E30, S24E33	?	0.82	0.18	椭円形	U字形	縄文深鉢(1~3)	

第8表 集石観察表

No	標高	長軸	短軸	深さ	土 (色相はすべて7.5YR)	遺物等
1	27-1	0.35	0.32	0.12	3/4 暗褐色土 (礫、鉄分少量含) 硬くしまり、砂質	箱清水高环
2	27-1	0.45	0.38	0.20	3/3 暗褐色土 (褐色土粒、礫、鉄分少量含) しまりあり、やや砂質	
3	27-1	0.54	0.46	0.27	3/2 黒褐色土 (明褐色土粒混) しまりあり、やや粘質	
4	27-1	0.44	0.36	0.22	3/4 暗褐色土 (礫、鉄分少量含) 硬くしまり、やや砂質	内里环 (クロコつくり)
5	27-1	0.28	0.23	0.12	3/3 暗褐色土 (炭化物少量含) しまり弱く、やや砂質	土師环
6	27-1	0.43	0.38	0.12	3/3 暗褐色土 (褐色土粒、礫、少量含) ややしまり、砂質	
7	27-1	0.30	0.24	0.10	3/3 暗褐色土 しまりあり、砂質	
8	27-1	0.40	0.38	0.23	1 3/3 暗褐色土 2 3/1 黑褐色土、しまりあり、やや砂質	
9	27-1	0.62	0.54	0.16	3/2 黑褐色土 硬くしまり、やや砂質	土師环 (糸切) 須恵环茎
10	27-1	0.50	?	0.27	3/2 黑褐色土 (炭化物、砂利含) 硬くしまり、やや粘質	内里环
11	27-1	0.62	0.58	0.30	3/2 黑褐色土 (礫含)	内里环 土師カメ
12	27-1	?	0.44	0.63	1 3/2 黑褐色土、しまりあり粘質 2 4/3 褐色土 (礫含) しまりあり、粘質	
13	27-1	0.52	0.49	0.35	1 2/2 黑褐色土 (明褐色土粒混) 2 4/4 褐色土 硬くしまりやや粘質	
14	27-1	0.60	0.52	0.45	1 2/2 黑褐色土 (明褐色土粒混) 2 4/4 褐色土 硬くしまりやや粘質	須恵环茎 (52回1.2) 須恵环 土師カメ
15	27-1	0.52	0.50	0.47	1 2/2 黑褐色土 (明褐色土粒混) 2 4/4 褐色土 硬くしまりやや粘質	
16	27-1	?	0.60	0.46	1 3/2 黑褐色土、しまりあり、やや粘質 2 3/3 暗褐色土 しまりあり、やや粘質	土師カメ 箱清水カメ・ツボ
17	27-1	0.36	0.32	0.24	3/3 暗褐色土 (褐色土少量含) やや粘質	
18	27-1	0.70	0.62	0.29	3/2 黑褐色土、硬くしまり、やや砂質	土師カメ
19	27-1	0.72	?	0.30	1 7.5YR3/2黑褐色土 (礫合) ややしまりやや粘質 2 7.5YR3/3暗褐色土 (褐色土混) ややしまり粘質 3 7.5YR3/2黑褐色土 しまりあり、やや粘質	
22	27-1	0.35	0.35	0.13	3/1 黑褐色土 (褐色土、炭化物混) 硬くしまりやや粘質	
23	27-1	0.39	0.32	0.14	3/3 暗褐色土、しまりのないやや粘質	
24	27-1	0.56	0.54	0.20	3/2 黑褐色土 (褐色ブロック混) ややしまり粘質	
25	27-1	0.40	0.32	0.17	4/3 褐色土 (にぶい塊ブロック混) しまりあり、粘質	
26	27-1	0.29	0.26	0.37	3/2 黑褐色土 硬くしまり粘質	土師カメ
27	27-1	0.54	0.61	0.16	4/3 褐色土 (明褐色土粒混) 硬くしまりやや粘質	土師カメ
28	27-1	0.34	0.28	0.43	2/2 黑褐色土 (明褐色ブロック混) 硬くしまりやや粘質	土師カメ
30	27-1	0.25	0.20	0.07	3/3 暗褐色土 (明褐色土粒混) やや砂質	
31	27-1	0.26	0.24	0.07	3/3 暗褐色土 しまりのないやや砂質	
32	27-1	0.30	0.28	0.28	1 7.5YR3/2黑褐色土 (炭化物、鉄分少量含) 硬くしまり粘質 2 7.5YR3/3暗褐色土 (鉄分少量含) しまる	
33	27-1	0.30	0.30	0.18	3/2 黑褐色土 (礫含) しまりあり、砂質	
34	27-1	?	0.78	0.17		
35	27-1	0.30	0.29	0.30	3/3 暗褐色土 (礫、鉄分少量含) ややしまり砂質	
36	27-1	1.08	0.97	0.22	1 7.5YR3/4暗褐色土 (焼土、砂利、鉄分多量含) 中しまる 2 7.5YR3/1黑褐色土 (鉄分少量含) しまり弱くやや砂質	土師カメ
38	27-1	0.51	0.44	0.26	2/2 黑褐色土 (明褐色土粒混) やや粘質	
39	27-1	0.70	0.60	0.12	3/4 暗褐色土 (鉄分多量含) ややしまり砂質	
41	27-1	0.42	0.38	0.10	4/4 褐色土 (黑褐色土混) やや砂質	
44	27-1	0.23	0.21	0.26	3/2 黑褐色土 硬くしまりやや粘質	

第9表 ピット観察表 (1)

No	順No	長径	短径	深さ	覆 土	(色相はすべて7.5YR)	造 物 等
46	27-1	0.38	0.29	0.20	3/2 黒褐色土	硬くしまり、粘質	
47	27-1	0.32	0.31	0.10	4/4 棕褐色土	(黒褐色土少量混) 硬くしまりやや粘質	
49	27-1	0.38	0.36	0.15	3/4 暗褐色土	(褐色土、鉄分、砂粒少量混) しおれ、やや粘質	
50	27-1	0.36	0.33	0.15	3/2 黒褐色土	(褐色土混) しまりのない砂質	
51	27-1	0.50	0.45	0.17	3/2 黒褐色土	(砂利、鉄分含) しまりあり、砂質	
52	27-1	0.46	0.40	0.22	3/2 黒褐色土	(褐色土、砂利少量混) 硬くしまり砂質	
53	27-1	0.22	0.21	0.12	3/3 暗褐色土	しまり弱く砂質	
54	27-1	0.30	0.29	0.16	3/2 黒褐色土	(砂利混) しまりなく砂質	
55	27-1	0.32	0.32	0.16	3/2 黒褐色土	しまり弱く砂質	
56	27-1	0.52	0.40	0.21	3/3 暗褐色土	(鉄分少量含) しまりあり、やや砂質	
57	27-1	0.26	0.24	0.17	3/4 暗褐色土	ややしまり、やや砂質	
58	27-1	0.35	0.35	0.13	3/3 暗褐色土	(褐色土混) しまりあり、やや砂質	
59	27-1	0.60	0.60	0.23	3/4 暗褐色土	(鉄分少量含) しまりあり、やや砂質	内黒坏 須恵坏 鋼文
60	27-1	0.41	0.40	0.22	3/1 黑褐色土	(砂利少量含) しまりあり、砂質	
61	27-1	0.52	0.40	0.13	3/1 黑褐色土	(礫少量含) しまりやや弱く、砂質	土製円盤 (55285) 土師カメ
62	27-1	0.22	0.21	0.12	3/2 黑褐色土	ややしまり、やや砂質	
63	27-1	0.26	0.23	0.32	4/2 灰褐色土	(炭化物含) 硬くしまり粘質	
64	27-1	0.82	0.68	0.13	3/3 暗褐色土	(礫、鉄分含) しまりあり、砂質	
65	27-1	0.28	0.25	0.10	4/4 棕褐色土	しまりのない、やや砂質	
66	27-1	0.34	0.32	0.06	3/2 黑褐色土	しまりのない砂質	
68	27-1	0.30	0.30	0.22	3/3 暗褐色土	(明褐色土粒含) しまりあり、やや砂質	
69	27-1	0.62	0.60	0.15	3/4 暗褐色土	(礫少量含) ややしまり、砂質	
70	27-1	0.35	0.22	0.14	4/2 灰褐色土	やや砂質	
71	27-1	0.52	0.44	0.36	3/2 黑褐色土	(褐色土、炭化物混) 硬くしまり砂質	須恵坏 (5243) 土師カメ
72	27-1	?	0.34	0.27	1 3/3 暗褐色土	2 3/2 黑褐色土 (鉄分少量含) しおれ、軟	土師カメ 内黒坏
73	27-1	?	0.50	0.18	3/3 暗褐色土	(褐色土粒混) しまりあり、やや砂質	内黒坏 土師カメ
74	27-1	?	0.58	0.26	1 7.5W2/3暗褐色土 (炭化物少量含)	やや砂質	
					2 7.5W2/4暗褐色土 (褐色土粒含)	しまりあり、やや砂質	
77	27-1	0.70	0.67	0.32	4/2 灰褐色土	(明褐色土粒混) 硬くしまり、粘質	土師カメ 黒坏 須恵坏
78	27-1	0.58	0.32	0.20	3/2 黑褐色土	(炭化物少量混) ややしまりのない粘質	須恵カメ 土師カメ
79	27-1	0.18	0.16	0.10	3/2 黑褐色土	しまりのないやや砂質	土師坏 (付着物)
81	27-1	0.35	?	0.25	3/2 黑褐色土	(明褐色土粒混) やや粘質	
82	27-1	0.62	0.55	0.16	3/3 暗褐色土	(明褐色土混) しまりあり、砂質	
83	27-1	?	0.52	0.23	1 3/3 暗褐色土	2 4/4 棕褐色土 (木根混) 硬くしまり、やや粘質	
85	27-1	0.60	0.58	0.26	1 3/3 暗褐色土 (炭化物少量含)	やや粘質	
					2 5/2 灰褐色土	やや硬くブロック状	
87	27-1	0.34	0.32	0.16	1 3/3 暗褐色土	やや粘質	
					2 5/2 灰褐色土	やや硬くブロック状	
89	27-1	0.25	0.22	0.10	4/1 棕褐色土	しまりのない砂質	土師カメ
91	27-2	0.42	0.43	0.15	3/3 暗褐色土	ややしまり、やや粘質	土師カメ
92	27-1	0.41	0.30	0.17	3/3 暗褐色土	(炭化物、礫少量含) やや粘質	
93	27-1	0.52	0.42	0.09	1 3/3 暗褐色土 (褐色土混)	しまりなし	
					2 3/2 黑褐色土 (炭化物、灰含)	しまり弱い	
94	27-1	0.44	0.44	0.13	3/3 暗褐色土	しまりのない砂質	

第 10 表 ピット観察表 (2)

No.	No.	長軸	短軸	深さ	覆 土 (色相はすべて7.5YR)	造 物 等
95	27-1	0.45	0.43	0.18	3/2 黒褐色土 (明褐色土混) 硬くしまり粘質	
96	27-1	0.46	0.42	0.16	3/3 暗褐色土 ややしまり、粘質	
97	27-1	0.58	0.54	0.16	3/3 暗褐色土 (焼土、炭化物合) しまりあり、粘質	
98	27-1	0.43	0.41	0.14	1 3/2 黒褐色土 ややしまる 2 5/4 によい褐色のブロック	
100	27-1	0.25	0.24	0.20	3/2 黒褐色土 しまりのない砂質	内黒环等
101	27-1	0.58	?	0.20		
102	27-1	1.18	0.92	0.25	1 4/2 灰褐色土 (聯合) 粘質 2 3/3 暗褐色 土は粘質	箱清水カメ 土師カメ
103	27-2	0.14	0.10	0.10		
104	27-1	0.24	0.21	0.13	4/3 梅色土 しまりあり、やや粘質	
105	27-1	0.22	0.20	0.12	3/3 暗褐色土 しまり弱い砂質	
106	27-1	0.46	0.38	0.20	4/3 梅色土 しまりのない、やや砂質	
107	27-1	0.50	0.38	0.28	4/3 梅色土 (暗褐色土混) 硬くしまりやや粘質	縄文中期
110	27-1	0.28	0.26	0.37	3/2 黑褐色土 (磧混) やや粘質	
111	27-1	0.40	0.39	0.23	3/3 暗褐色土 (梅色土少量混) 硬くしまる	
112	27-1	0.35	0.34	0.22	3/3 暗褐色土 (磧合) 砂質	
113	27-1	0.28	0.25	0.24	4/3 梅色砂質土	
117	27-2	0.50	0.39	0.14	3/2 黑褐色土 (梅色土ブロック少量混) やや弱い、やや砂質	
118	27-2	0.38	0.32	0.20	4/3 梅色土 ややしまり、やや砂質	
119	27-2	0.32	0.26	0.24	3/3 暗褐色土 (明褐色土少々、砂利混) 1 1/2 にやや粘質	
120	27-2	0.43	0.43	0.31	3/2 黑褐色土 (炭化物少量混) ややしまり、粘質	
121	27-1	0.38	0.30	0.22	3/4 暗褐色土 (炭化物少量混) ややしまり、粘質	
122	27-1	?	0.43	0.08	3/4 暗褐色土 しまりのない、やや粘質	
123	27-2	0.29	0.27	0.40	3/2 黑褐色土 (明褐色土粒混) しまりあり、粘質	
124	27-2	0.24	0.22	0.24	3/2 黑褐色土 硬くしまり、やや粘質	土師カメ
125	27-2	0.35	0.31	0.11		
126	27-2	0.32	0.28	0.13	3/1 黑褐色土 (炭化物、磧混) しまり弱い粘質	箱清水カメ 内黒环
127	27-2	0.32	0.30	0.17	3/2 黑褐色土 しまりのある、やや粘質	土師环等
128	27-2	0.63	0.53	0.20	3/2 黑褐色土 (梅色土粒混) ややしまり、やや粘質	
129	27-2	0.28	0.23	0.24	3/2 黑褐色土 (炭化物少量混) しまりあり、粘質	
130	27-2	0.47	0.42	0.16	3/2 黑褐色土 (炭化物少量混) ややしまり、やや粘質	
131	27-2	0.64	0.40	0.07	4/3 梅色土 しまりのない、やや砂質	
132	27-2	0.25	0.23	0.32	3/2 黑褐色土 硬くしまり粘質	
133	27-2	0.34	0.33	0.10	4/3 梅色土 しまりある、粘質	
134	27-2	0.24	0.22	0.06	3/2 黑褐色土 しまりのない砂質	
135	27-2	0.30	0.28	0.22	3/2 黑褐色土 (炭化物少量混) しまりのない粘質	
136	27-2	0.53	0.50	0.22	1 3/2 黑褐色土 (磧混) しまれし 2 4/3 梅色土 硬く(14)	土師カメ
137	27-2	?	0.52	0.30	3/2 黑褐色土 (古木混) 硬くしまる粘質	
138	27-2	0.71	?	0.30	3/2 黑褐色土 (磧混) しまりあり、やや粘質	土師カメ
139	27-1	0.72	0.65	0.35	3/3 暗褐色土 (砂利混) しまりあり、やや砂質	箱清水カメ 須恵环 細網屏 縄文晩
140	27-2	1.20	1.14	0.48	3/2 黑褐色土 (磧、砂利混) ややしまり、やや粘質	須恵环 内黒环 縄文中期
142	27-1	0.55	0.46	0.12	3/3 暗褐色土 (砂利多量混) しまりのない砂質	箱清水カメ・薪 土師カメ 縄文中期
143	27-2	0.42	0.40	0.23	3/2 黑褐色土 (燒土少量混) しまりのない砂質	須恵カメ・薪 箱清水カメ 土師カメ

第 1 表 ピット観察表 (3)

No.	標号	長軸	短軸	深さ	覆 土	(色相はすべて7.5YR)	達 物 等
144	27-1	0.32	0.26	?			
145	27-1	0.27	0.24	0.28	3/3 暗褐色土 硬くしまる粘質	土師カメ	
146	27-2	0.36	0.32	0.13	3/2 黒褐色土 しまりのない砂質		
147	27-1	0.48	0.43	0.12	3/4 暗褐色土 ややしまり、やや粘質		
148	27-1	0.47	0.41	0.32	2/1 黑褐色土 (燒土粒、炭化物、釋混) しまりあり、やや粘質	土師カメ(ヨウカ) 開削 堆積 繩文層	
150	27-1	0.36	0.32	0.21	4/3 暗褐色土 (炭化物少量混) しまりある粘質	須恵坏塙 (52834)	
152	27-2	0.26	0.25	0.14			
155	27-1	0.46	0.44	0.13	3/1 黑褐色土 (炭化物少量混) ややしまり、やや粘質		
156	27-1	0.39	?	0.10	3/2 黑褐色土 (明褐色土混) やや砂質	内墨坏 繩文 (5285)	
158	27-1	?	0.32	0.10	3/2 黑褐色土 (炭化物、燒土少量混) 砂質		
159	27-1	0.44	0.43	0.07	4/4 暗褐色土 (暗褐色土混) しまり弱い、やや粘質		
160	27-1	0.46	0.43	0.21	1 3/2 黑褐色土、やわらか、粘質 2 4/4 暗褐色土、やわらか、粘質		
161	27-1	0.54	0.50	0.18	3/2 黑褐色土 (砂利混) ややしまる砂質	内墨坏 (付着物)	
162	27-1	0.40	0.32	0.12	3/2 黑褐色土 ややしまる砂質		
163	27-2	0.64	0.56	0.12	3/3 暗褐色土 (燒土少量混) しまりのない砂質	土師カメ	
165	27-2	0.42	0.40	0.11	3/2 黑褐色土 (梅色土混) しまりのない砂質		
166	27-1	0.32	0.26	0.24	3/3 暗褐色土 (砂利少量混) しまりあり、砂質		
167	27-1	0.38	0.36	0.40	1 3/3 暗褐色土 (褐色土粒混) 硬くしまり、やや粘質 2 2/2 黑褐色土 (褐色土、炭化物少量混) ややしまり、粘質	土師カメ	
168	27-1	0.30	0.29	0.09	3/2 黑褐色土 (梅色土混) しまりあり、やや砂質		
169	27-1	0.58	0.52	0.07	1 3/3 暗褐色土 (褐色土混) しまり弱く、やや粘質 2 4/4 暗褐色土 (黑褐色土混) しまり弱く、やや粘質		
170	27-1	0.52	0.52	0.31	3/3 暗褐色土 (明褐色土粒少量混) しまりのない、やや粘質		
171	27-1	0.68	0.66	0.50	1 3/3 暗褐色土 (砂利少量混) しまりあり、やや粘質 2 2/2 黑褐色土 (褐色土、炭化物少量混) ややしまり、粘質	内墨坏 土師カメ	
173	27-1	0.68	0.63	0.34	3/1 黑褐色土 (褐色土粒、釋混) しまりあり、やや砂質	須恵坏 (高台付)	
175	27-1	?	0.52	0.28	1 3/2 暗褐色土 (砂利少量混) しまりあり 2 3/3 暗褐色土 (砂利少部分混) 硬くしまり粘質 3 4/2 暗褐色土 ブロック 硬くしまり砂質	須恵坏 (5286)	
176	27-1	0.28	0.26	0.10	3/3 暗褐色土 しまりのない砂質	土師カメ 繩文中期	
177	27-1	0.83	0.79	0.42	3/2 黑褐色土 (褐色土粒少量混) 硬くしまり粘性	土師カメ。坏 繩文中期	
178	27-1	0.86	0.80	0.23	3/2 黑褐色土 (明褐色土ブロック、燒土少量混) やわらか、粘性	土師カメ	
180	27-1	?	0.20	0.12	3/3 暗褐色土 ややしまり、やや粘質	繩文	
181	27-1	0.23	0.22	0.09	3/2 黑褐色土 ややしまる		
182	27-1	1.10	1.00	0.48	1 3/2 黑褐色土 (砂利、炭化物混) しまりあり、やや粘質 2 3/1 黑褐色土 (砂利混) しまりある砂質 3 4/4 暗褐色土 ブロック、ややしまり粘質	土師カメ 内墨坏 菊清水カメ	
183	27-1	0.91	0.88	0.43	3/1 黑褐色土 (膠、砂利、炭化物混) しまりあり、やや粘質	土師カメ 菊清水ツボ等	
184	27-2	0.42	0.26	0.06	3/2 黑褐色土 しまりのない砂質		
185	27-2	0.48	0.48	0.18	3/2 黑褐色土 しまりのない砂質		
186	27-1	0.39	0.36	0.12	3/2 黑褐色土 しまりのない砂質		
187	27-2	0.28	0.25	0.07	4/2 灰褐色土 ややしまり、砂質		
188	27-2	0.36	0.35	0.24	3/3 暗褐色土 (黑褐色土少量混) しまりあり、やや粘質		
189	27-1	0.43	0.30	0.13	3/2 黑褐色土 (炭化物少量混) しまりのない粘質		
190	27-1	0.38	0.37	0.12	3/2 黑褐色土 ややしまる	土師カメ	

第12表 ピット観察表 (4)

No	地図No	長軸	短軸	深さ	種	土 (色相はすべて7.5W)	達物等
191	27-2	0.17	0.16	0.14			
192	27-2	0.25	0.20	0.10			
193	27-2	0.34	0.31	0.36	3/3 暗褐色土 ややしまり、やや粘質		
194	27-2	0.39	0.39	0.33	4/3 褐色土 ややしまり、やや粘質		
196	27-2	0.25	0.21	0.22	3/2 黒褐色土 しまりのない砂質		
197	27-1	0.28	0.26	0.08	3/3 暗褐色土 硬くしまり、やや粘質		
198	27-1	0.66	0.60	0.31	3/2 褐色土 (砂利、鉄分少量混) 硬くしまり、砂質	排水沟・溝・溝(5287) 開拓地 取付	
199	27-1	?	0.41	0.18	3/3 暗褐色土 (褐色土混) しまり弱く、砂質		
202	27-1	?	0.42	0.06	3/3 暗褐色土 ややしまり、やや粘質		
204	27-1	0.77	0.76	0.22	3/3 暗褐色土 (砂利少量混) 硬くしまり、砂質		
205	27-1	0.40	0.32	0.27	1 3/3 暗褐色土、硬くしまる 2 3/1 黑褐色土 (炭化物少量合) しまりあり、やや粘質	箱清水高坏	
206	27-1	0.60	0.50	0.45	1 3/3 暗褐色土 (褐色土粒混) しまりあり、やや粘質 2 2/2 黑褐色土 (砂利少量合) しまりあり、粘質		
207	27-2	0.29	0.24	0.22	3/1 黑褐色土	土師カメ等	
208	27-2	0.34	0.31	0.32	3/3 暗褐色土	範文	
209	27-2	0.50	0.37	0.22	3/3 暗褐色土 (褐色土)		
210	27-2	0.53	0.44	0.35	3/2 褐色土 (褐色ブロック混)		
211	27-2	1.65	1.14	0.34	1 3/2 黑褐色土 (鉄分少量合) 2 4/3 褐色土 (暗褐色土少量混)		
212	27-2	0.39	0.36	0.08	3/2 黑褐色土		
213	27-2	0.36	0.35	0.08	3/3 暗褐色土	範文	
214	27-2	0.45	0.41	0.15	3/2 黑褐色土 (褐色土混)		
215	27-2	0.46	0.45	0.17	3/3 暗褐色土 (筑土少量混)		
216	27-2	0.40	0.36	0.09	3/2 黑褐色土 (褐色土混)		
217	27-2	0.38	0.36	0.14	3/3 暗褐色土	土師カメ 範文	
218	27-2	0.36	0.32	0.30	3/2 黑褐色土	土師カメ 範文	
219	27-2	0.45	0.44	0.22	2/2 黑褐色土 (黒褐色土混)	土師カメ	
220	27-2	0.39	0.37	0.32	3/3 暗褐色土 やや砂質	範文中期	
221	27-2	0.66	0.63	0.28	3/1 黑褐色土 (褐色土粒、炭化物、砂利混) しまりあり、やや粘質	範文中期 箱清水ツボ 土師等	
222	27-2	0.58	0.56	0.06	3/3 暗褐色土 (褐色土混) ややしまり、やや粘質	箱清水水口・74 範文幅(5288)等	
223	27-2	0.60	0.49	0.19	1 2/1 暗褐色土 (暗褐色土少量混) ややしまり、粘質 2 4/4 褐色土 (黑色土少量混)		
224	27-2	0.86	0.74	0.30	1 3/1 明褐色土 (褐色土粒混) しまりあり、やや粘質 2 5/6 明褐色土 (砂利混) ブロック状少量	範文 箱清水カメ等	
225	27-2	0.27	0.26	0.09	3/3 暗褐色土 (褐色土混) しまりあり、粘質	土師	
226	27-2	0.62	0.56	0.24	2/2 黑褐色土 しまりあり、粘質	内黑坏 土師カメ 範文中期	
227	27-2	0.53	0.48	0.27	3/4 暗褐色土 (褐色土粒混) ややしまり、やや粘質	須恵坏蓋 土師	
228	27-2	0.34	0.25	0.10	3/3 暗褐色土 しまりあり、やや粘質		
229	27-2	0.42	0.34	0.20	3/4 暗褐色土 やや粘質		
230	27-2	0.40	0.38	0.20	3/2 黑褐色土 (褐色土少量混)		
231	27-2	0.84	0.75	0.37	3/3 暗褐色土 (褐色土ブロック、堆土、炭化物少量混)	土師カメ等	
232	27-2	1.06	0.71	0.26	1 4/2 灰褐色土 (堆土、炭化物多量混) 2 4/4 褐色土		
233	27-2	0.46	0.36	0.42	3/4 暗褐色土 (鉄分少量合) しまりあり、やや粘性		

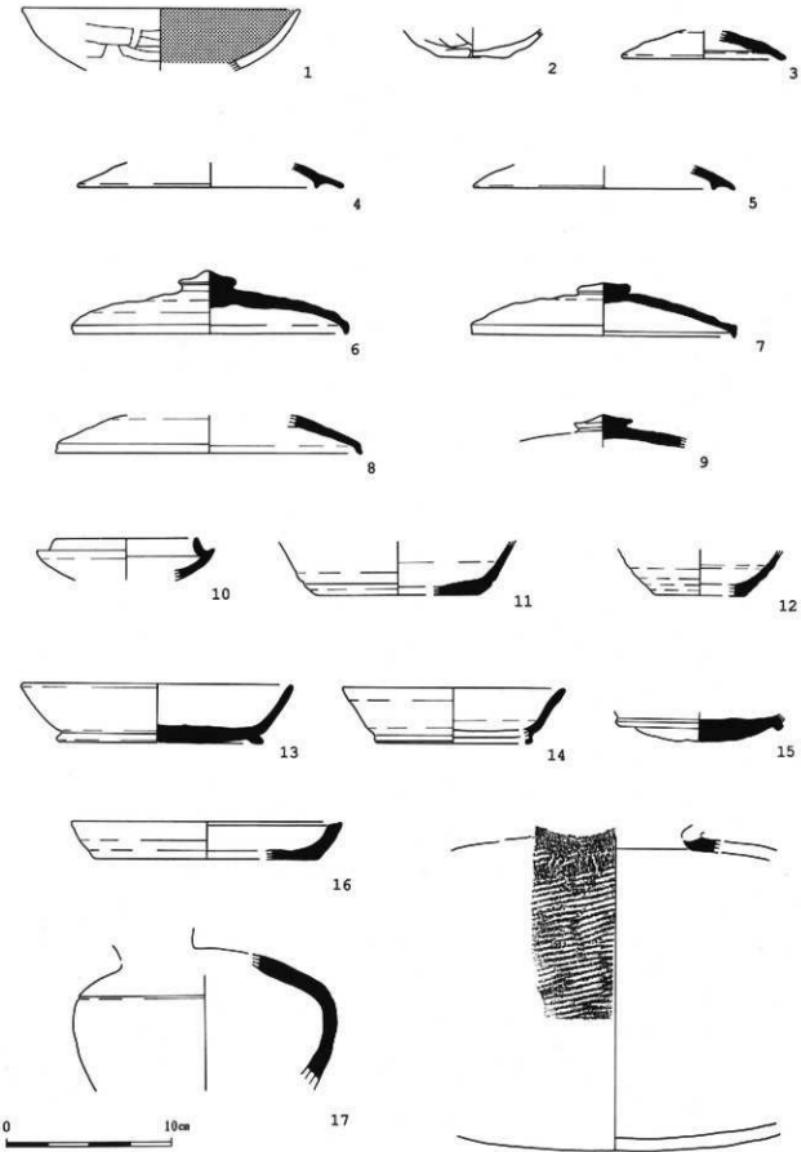
第13表 ピット觀察表(5)

No	標高	長軸	短軸	深さ	種 土 (色相はすべて7.5YR)	遺 物 等
234	27-2	0.93	0.86	0.30	4/4 暗褐色土 (粘土、炭化物少量含)	須恵器 (52889) 土師カメ等
235	27-2	1.28	?	0.36	1 3/2 黒褐色土 (粘土含) 2 4/4 暗褐色土 (黒褐色土混) 硬くしまり、やや粘性	土師カメ等
236	27-2	0.38	0.34	0.32	3/3 暗褐色土 (褐色土、焼土少量混)	土師カメ等
237	27-2	1.25	1.03	0.42	1 3/3 暗褐色土 (黒褐色土ブロック混) 2 4/6 暗褐色土ブロック しまりあり、粘性	
238	27-2	?	0.85	0.46		箱清水カメ
239	27-2	0.30	0.20	0.25	3/3 暗褐色土 (褐色土混) しまりあり、やや粘性	
240	27-2	0.48	0.40	0.18	3/3 暗褐色土 (褐色土混) しまりあり、やや粘性	
241	27-2	0.47	0.31	0.17	3/4 暗褐色土 しまりあり、粘質	
242	27-2	0.44	0.34	0.20	3/3 暗褐色土 (褐色土混) やや粘質	
243	27-2	0.54	0.50	0.25	3/2 黒褐色土 (褐色土、疊混) ややしまり、粘質	縄文中期等
244	27-2	0.50	0.37	0.31	3/3 暗褐色土 (褐色土、疊、鉄分混) ややしまり、やや砂質	土師カメ 縄文中期 箱清水カメ
245	27-2	0.66	0.62	0.34	3/4 暗褐色土 (褐色土、褐灰、にぼい褐色粘土混) しまりあり、粘質	
246	27-2	0.77	0.60	0.30	1 5/1 灰褐色、明褐色粘土 (砂利、炭化物少量含) 2 3/4 暗褐色土 (炭化物少量混) しまりあり、やや粘質	土師カメ等
247	27-2	0.70	0.48	0.46	3/2 黒褐色土 (褐色土粒、炭化物少量混)	土師カメ 箱清水カメ 縄文中期等
248	27-2	0.98	0.80	0.22	1 4/4 褐色土 (黒褐色土粒少量含) しまりあり、やや粘質 2 3/1 黑褐色土 (褐色土粒、炭化物少量混)	箱清水ツボ 内墨環 土師カメ・环 (52810) 等
249	27-2	?	0.44	0.10	3/3 暗褐色土 しまりあり、やや粘質	
250	27-2	0.52	0.46	0.12	3/3 暗褐色土 (褐色土粒少量混) しまりあり、やや粘質	
251	27-2	0.26	0.23	0.08	3/4 暗褐色土 しまりあり、やや粘質	
252	27-2	0.46	0.32	0.22	3/4 暗褐色土 (黒褐色土粒含) やや粘質	縄文 土師
253	27-2	0.48	0.32	0.14	3/4 暗褐色土 (明褐色土ブロック混) ややしまり、粘質	箱清水ツボ等
254	27-2	0.80	0.62	0.22	3/3 暗褐色土 (黒褐色土少量混) しまりあり	
255	27-2	0.46	0.44	0.20	3/4 暗褐色土 (明褐色土ブロック混) しまりあり、やや粘質	土師カメ 箱清水ツボ 縄文中期等
256	27-2	1.40	1.05	0.83	3/2 黑褐色土 (褐色土ブロック多量混) 硬くしまり、砂質	土師カメ 箱清水ツボ 内墨環等
257	27-2	0.40	0.36	0.16	3/2 黑褐色土 (灰褐色土少量混)	
258	27-2	1.70	1.45	0.48	3/3 暗褐色土 (黒褐色土混、黒色土帯状に所々混)	
259	27-2	0.25	0.22	0.12	2/1 黒色、3/4 暗褐色土の混合 しまりなく、やや粘質	
261	27-2	0.48	0.44	0.14	3/4 暗褐色土 しまりあり、やや粘質	
262	27-3	?	0.46	0.15	3/3 暗褐色土	縄文中期等
263	27-3	0.47	0.35	0.06	3/3 暗褐色土	縄文中期等
264	27-3	1.03	0.82	0.56	2/2 黑褐色土 (暗褐色土粒多量、木根混) しまりあり	縄文中期 土師カメ等
265	27-3	?	0.68	0.15	3/1 黑褐色土 (にぼい褐色土ブロック少量混)	縄文中期 土師
266	27-3	0.59	0.42	0.20	3/3 暗褐色土	
267	27-3	0.38	0.28	0.08	3/3 暗褐色土	土師等
268	27-3	0.36	0.34	0.12	3/3 暗褐色土	
269	27-3	0.43	0.36	0.38	3/2 黑褐色土 (褐色土ブロック粒、焼土粒混)	縄文中期 土師カメ 須恵器
270	27-3	0.50	0.48	0.24	1 3/2 黑褐色土 (粘土粒混) 2 5/6 明褐色土	縄文中期 箱清水ツボ等
271	27-3	0.49	0.32	0.28	3/2 黑褐色土	縄文中期 箱清水ツボ等
272	27-3	0.44	0.41	0.27	1 3/3 暗褐色土 (炭化物少量混) 2 5/6 明褐色土 3/3 暗褐色土の混合	縄文中期 箱清水ツボ・カメ等
273	27-3	L 15	0.80	0.54	3/3 暗褐色土 (褐色土ブロック混) ややしまり、粘質	縄文中期 箱清水ツボ等

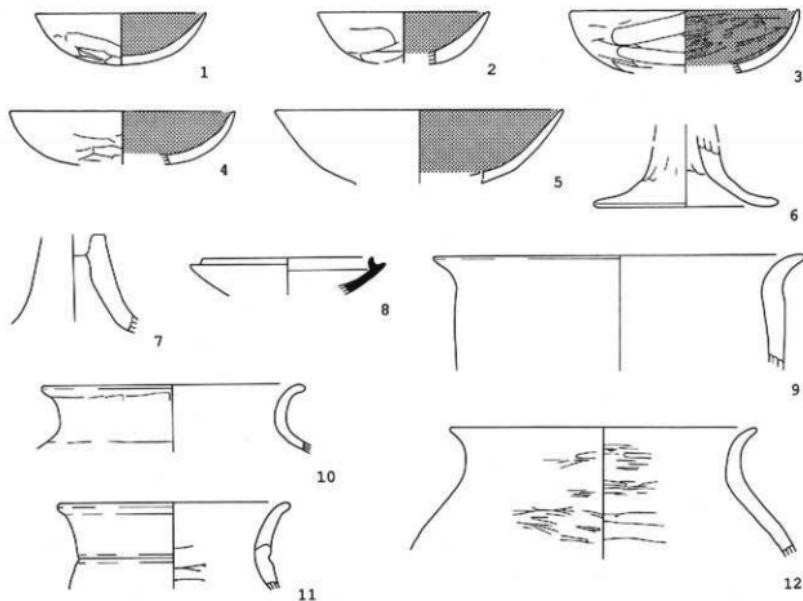
第14表 ピット観察表 (6)

No	層No	長軸	短軸	深さ	覆 土 (色相はすべて7.5YR)	遺 物 等
274	27-3	0.47	0.47	0.09	4/3 黒褐色土 しまりあり	
275	27-3	0.28	0.27	0.14	3/2 黒褐色土	
276	27-3	0.22	0.21	0.08	3/2 黒褐色土	箱清水高环
277	27-3	0.22	0.20	0.06	3/2 黒褐色土	
278	27-3	0.15	0.14	0.06	3/2 黒褐色土	
279	27-3	0.16	0.13	0.06	3/2 黒褐色土	
280	27-3	0.48	0.45	0.23	3/3 喰褐色土 (炭化物少量含) 硬くしまり、やや粘質	縄文中期等
281	27-3	0.69	?	0.15	3/1 黒褐色土 (褐色土ブロック少量混)	縄文晩(52図11-13) 細織錦 箱清水
282	27-3	?	0.36	0.22		
283	27-3	1.22	0.56	0.06	3/4 喰褐色、2/1 黒、5/3 にぶい褐色土の混合土、硬くしまる	縄文中期 箱清水ツボ等
284	27-3	0.84	0.82	0.17	3/2 黒褐色土 (暗褐色土、漆泥) 硬くしまる	縄文中期 箱清水ツボ・高环・ツボ等
285	27-3	0.36	0.32	0.23	3/1 黒褐、3/3 喰褐色土の混合土 (焼土粒少量含) 硬くしまる	箱清水カメ・ツボ等
286	27-3	0.26	0.22	0.08	3/2 黒褐色土 (暗褐色土泥)	
287	27-3	?	0.33	0.12	3/2 黒褐色土 (暗褐色土泥)	縄文中期 箱清水カメ・ツボ等
288	27-3	0.38	0.36	0.10	3/2 黒褐色土 (暗褐色土泥)	縄文中期 箱清水ツボ等
289	27-3	0.61	0.50	0.12	3/2 黒褐色土 (漆泥) 硬くしまる	縄文中・後期 箱清水ツボ等
290	27-3	0.44	0.28	0.10	3/2 黒褐色土 硬くしまる	縄文中期 土師 箱清水高环等
291	27-3	0.23	0.22	0.09	3/1 黒褐色土 硬くしまる	
292	27-2	0.37	0.29	0.50	2/2 黒褐色土 (褐色土粒混) しまりあり、粘質	箱清水ツボ等
293	27-2	0.60	0.58	0.33	3/2 黒褐色土 (砂利、砂粒多量含) 硬くしまり、粘質	縄文中期等
294	27-3	0.94	0.80	0.19	3/2 黒褐色土 (褐色土粒混) 硬くしまり、やや粘質	
295	27-3	?	0.52	0.08	3/3 喰褐色土	縄文中期等
296	27-3	0.68	0.58	0.06	3/3 喰褐色土 (砂利含) 硬くしまり、やや粘質	
297	27-2	1.18	?	0.32	3/2 黒褐色土 (暗褐色土泥) 硬くしまり、粘質	土師カメ
298	27-3	0.53	?	0.12		縄文中期
299	27-3	1.20	?	0.14	3/2 黒褐色土 (暗褐色土泥) 硬くしまり、やや粘質	須恵器 双輪 離乳ハサギ 土師カメ
300	27-3	0.53	0.43	0.32	3/2 黒褐色土 硬くしまり、粘質	縄文中期 (52図14) 箱清水ガラ等
301	27-3	?	0.41	0.15	3/2 黒褐色土 (焼土粒、砂利少量含) ややしまり、やや粘質	縄文中期 (52図15, 16) 等
302	27-2	0.73	0.62	0.45	3/2 黒褐色土 (褐色土泥) しまりなく、やや粘質	
303	27-3	0.78	0.71	0.08	3/2 黒褐色土 (漆少量含) 硬くしまる	縄文中期 土師カメ等
304	27-3	2.14	?	0.14	3/2 黒褐色土 (焼土粒、漆少量含) 硬くしまる	縄文中期 (52図17~19)
305	27-3	0.29	0.27	0.32		
306	27-2	0.52	0.48	0.14	3/3 喰褐色土 (黒褐色土少量混) ややしまり、やや砂質	縄文中期 土師カメ等
307	27-2	0.45	0.39	0.09	3/2 黒褐と3/3 喰褐色の混合土 (焼土粒少量含) しまりぬ	
308	27-3	0.22	0.21	0.10		縄文中期 箱清水高环等
310	27-3	0.15	0.15	0.06		
311	27-3	0.22	0.18	0.06		
312	27-2	0.63	0.51	0.40	1/3/3 喰褐色土 しまりあり、粘質 2/4/3 喰褐色土 (黒褐色土ブロック、鉄分含) しまりぬ、粘質	縄文 土師カメ
313	27-2	0.58	0.56	0.38	3/2 黒褐色土 (褐色土ブロック、砂利混)	縄文 土師カメ
314	27-3	0.34	0.25	0.12	2/1 黒と3/3 喰褐色の混合土 (炭化物、焼土多量含) 硬くしまり、粘質	
315	27-3	0.36	0.35	0.08	3/1 黒褐色土 しまりのない、やや粘質	

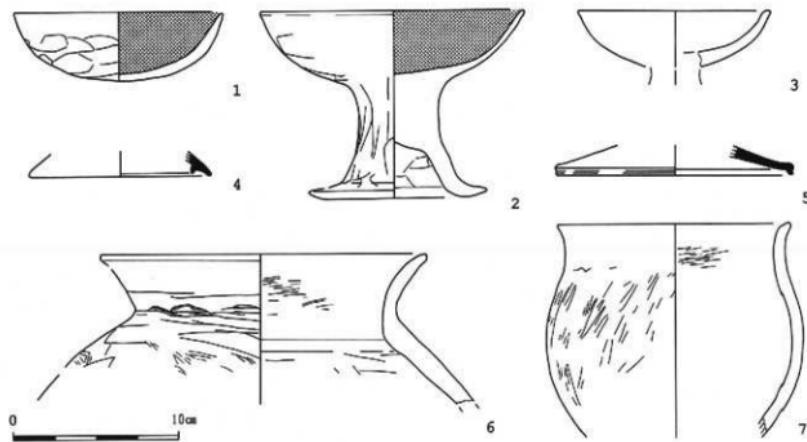
第15表 ピット観察表 (7)



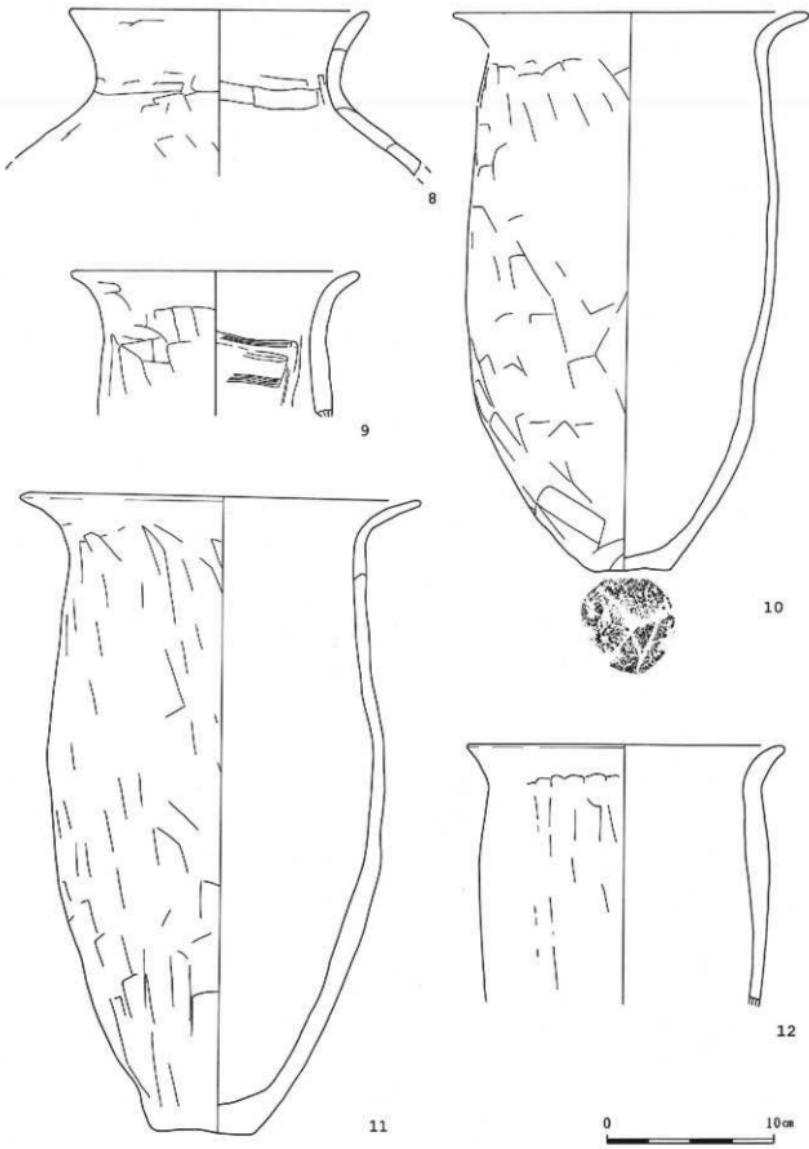
第28図 第1号竪穴住居跡出土土器実測図



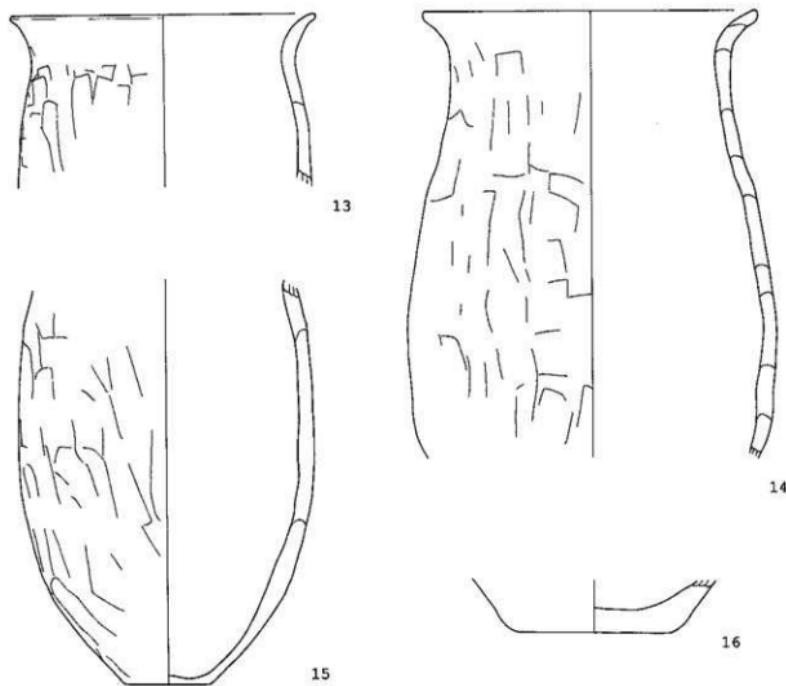
第29図 第2号竪穴住居跡出土土器実測図



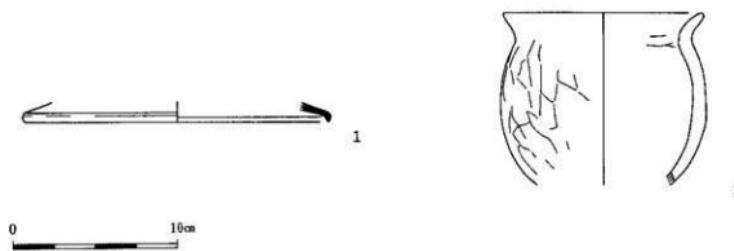
第30図 第3号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



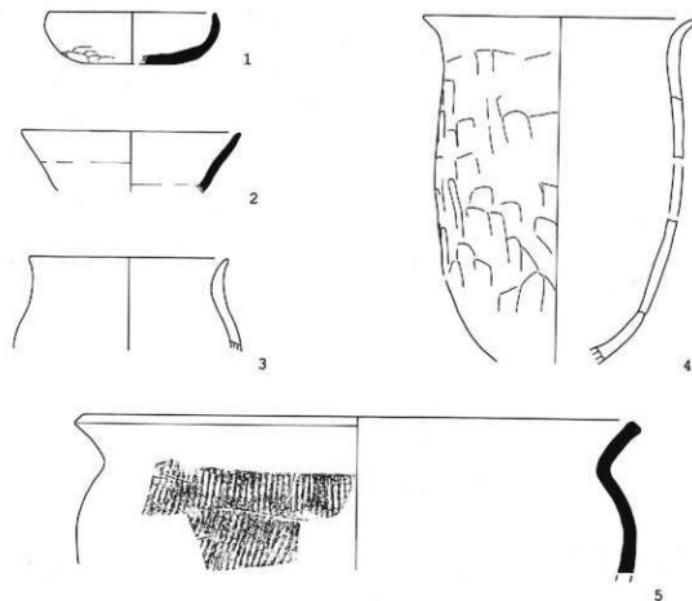
第30図 第3号竖穴住居出土土器実測図 (2)



第30図 第3号竪穴住居跡出土土器実測図（3）



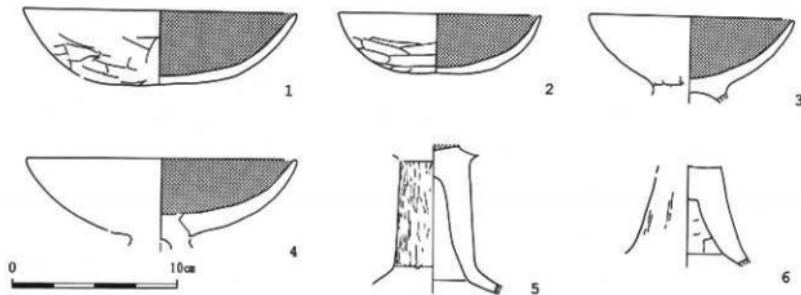
第31図 第4号竪穴住居跡出土土器実測図



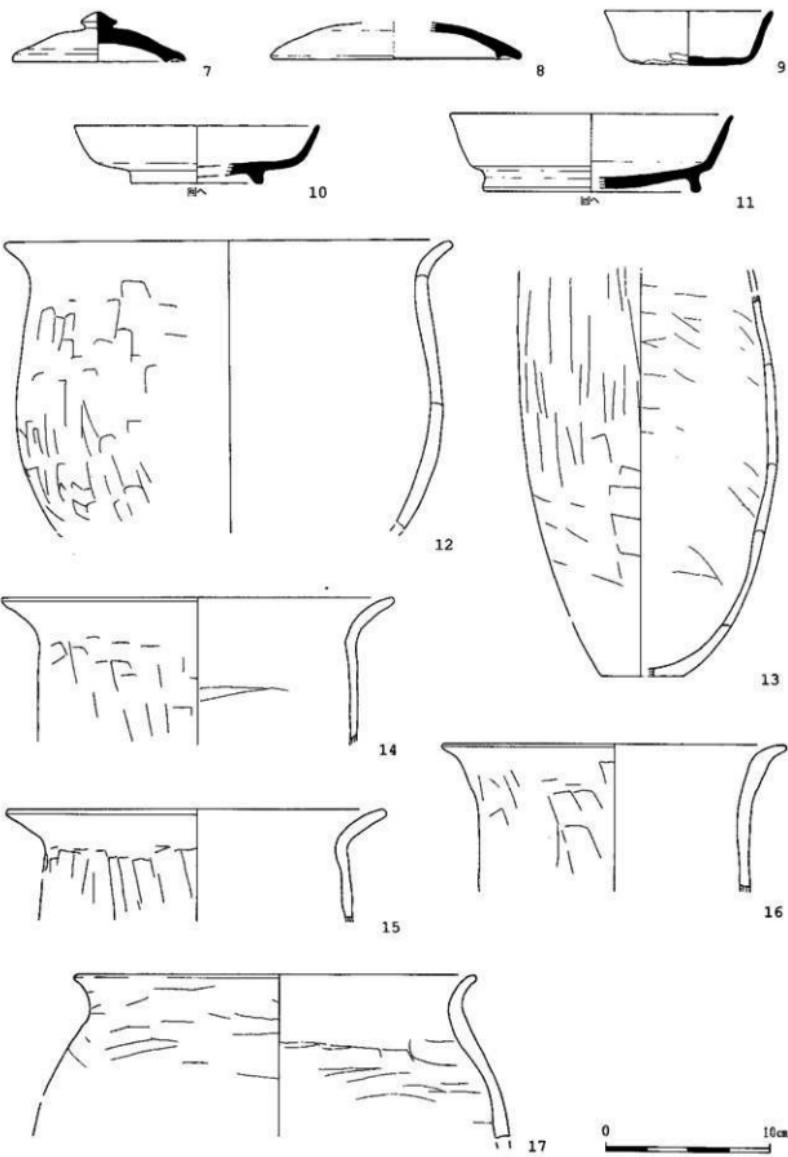
第3-2図 第5号竪穴住居跡出土土器実測図



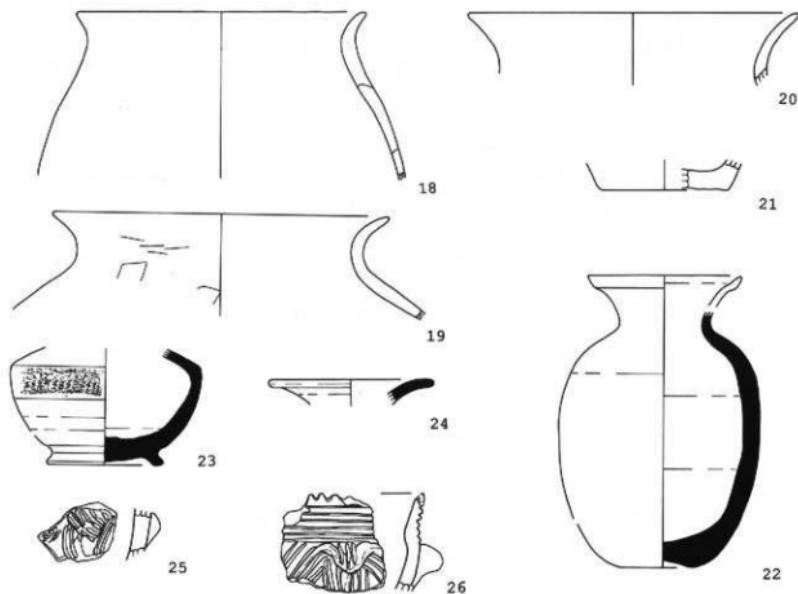
第3-3図 第6号竪穴住居跡出土土器実測図



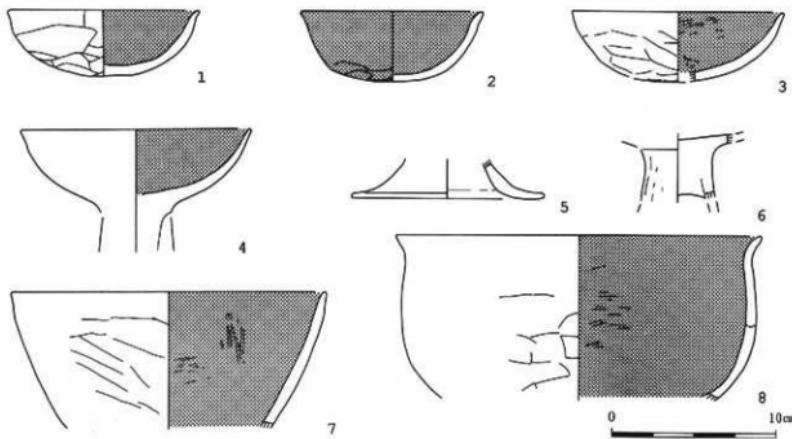
第3-4図 第7号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



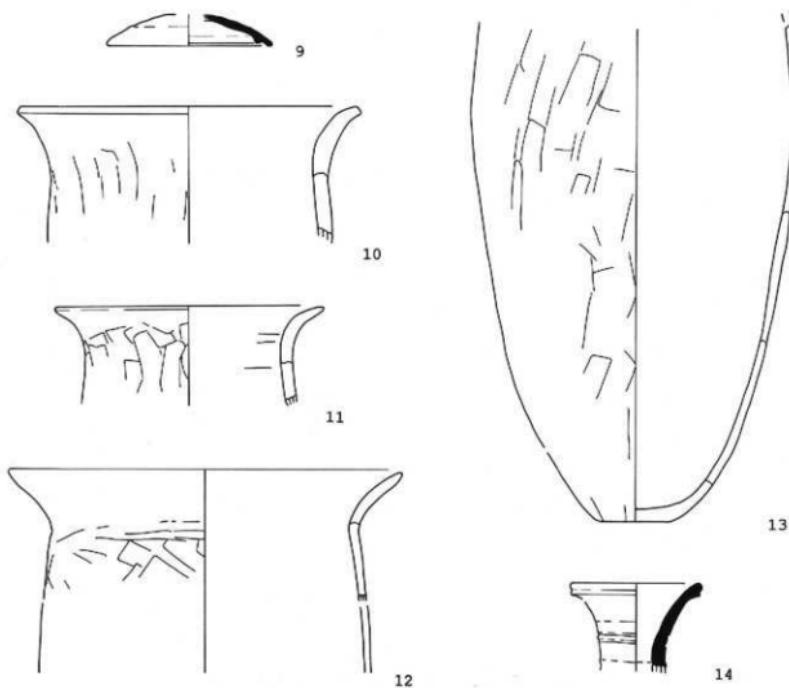
第34図 第7号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



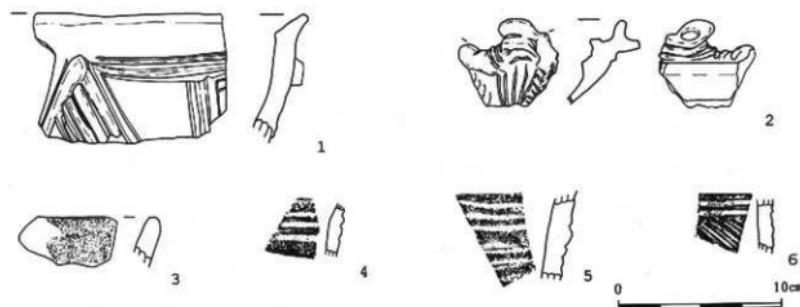
第34図 第7号竪穴住居跡出土土器実測図（3）



第35図 第9号竪穴住居跡出土土器実測図（1）



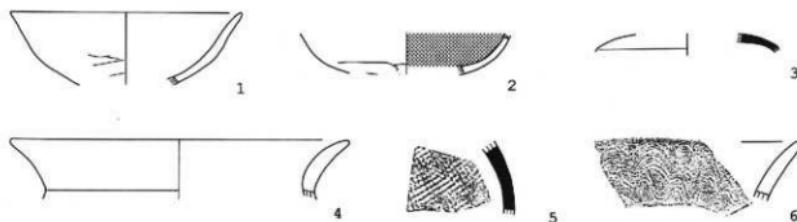
第35図 第9号竪穴住居跡出土土器実測図（2）



第36図 第10号竪穴住居跡出土土器実測図



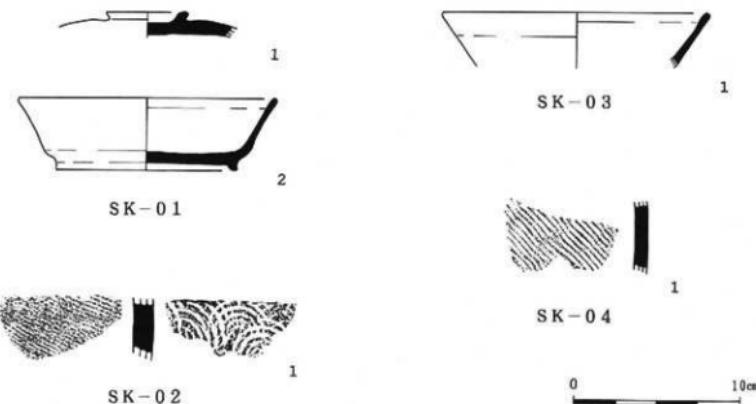
第37図 第1号掘立柱建物跡出土土器実測図



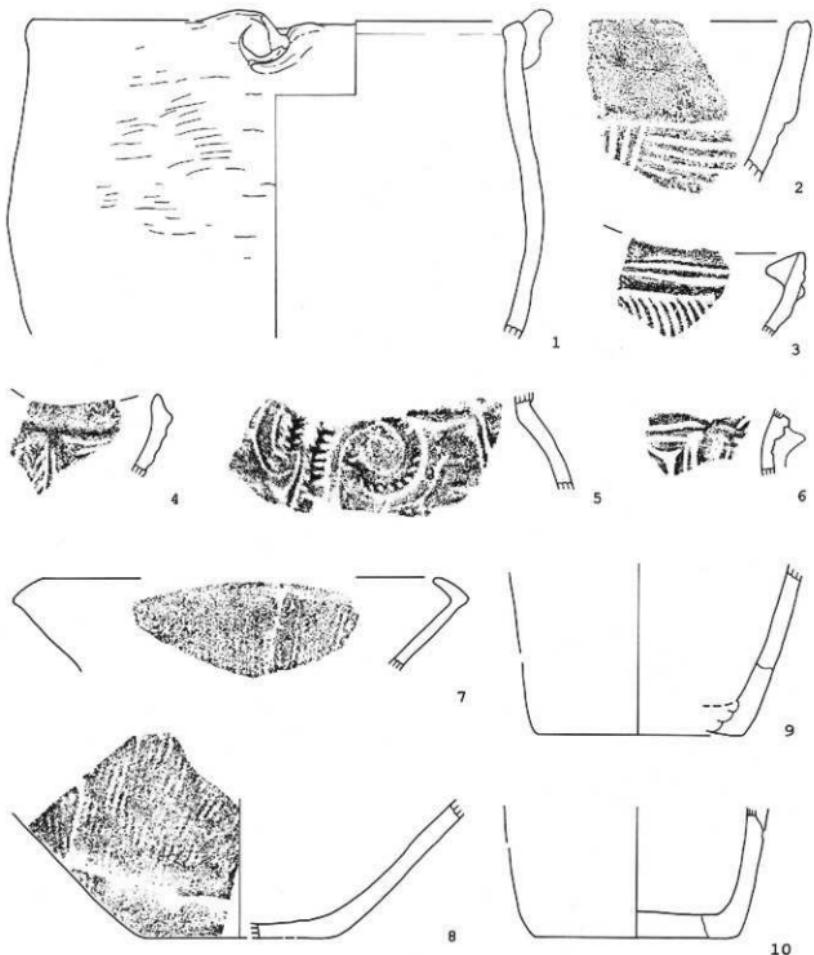
第38図 第2号掘立柱建物跡出土土器実測図



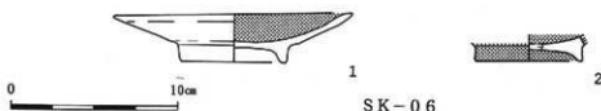
第39図 第4号掘立柱建物跡出土土器実測図



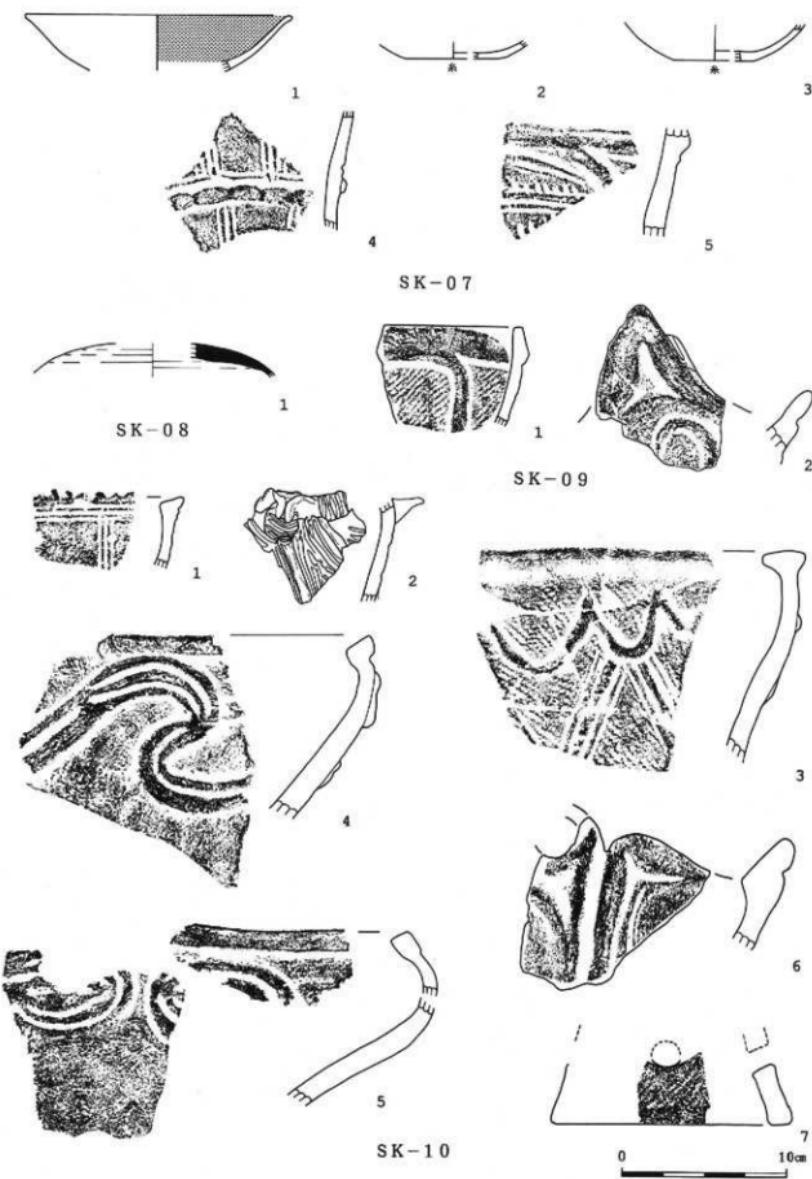
第40図 土壌出土土器実測図(1)



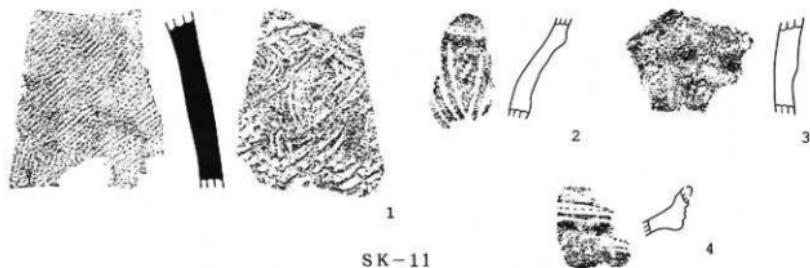
SK-05



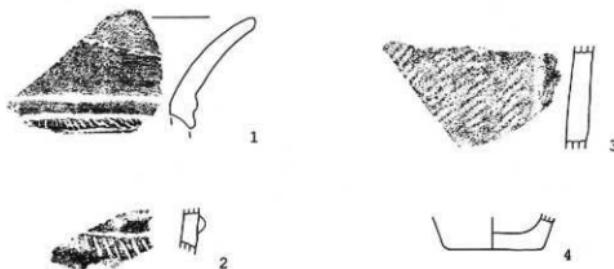
第40図 土壌出土土器実測図（2）



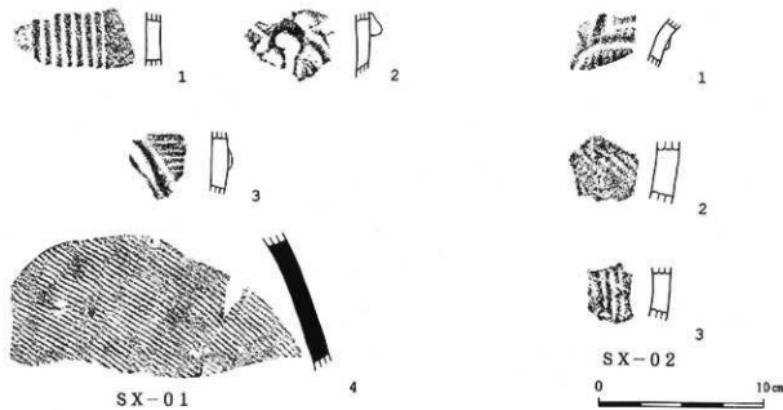
第40図 土壤出土土器実測図（3）



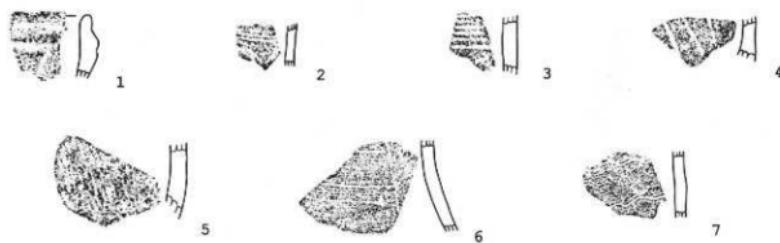
第40図 土壌出土土器実測図(4)



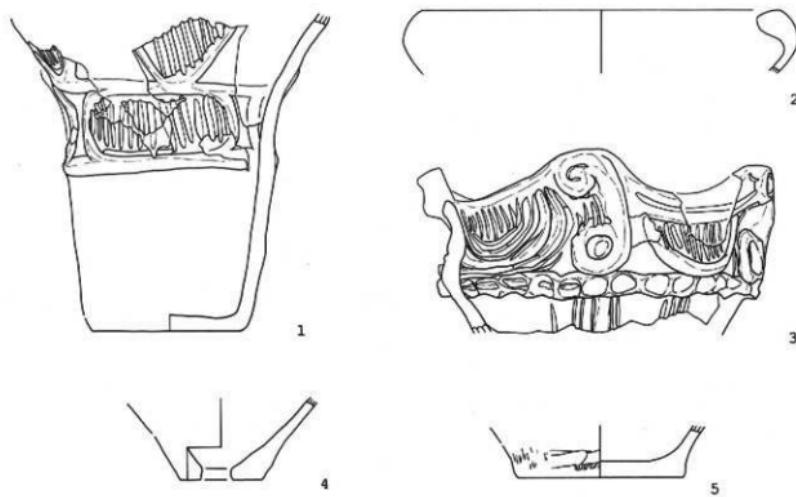
第41図 第1号配石遺構出土土器実測図



第42図 集石遺構出土土器実測図



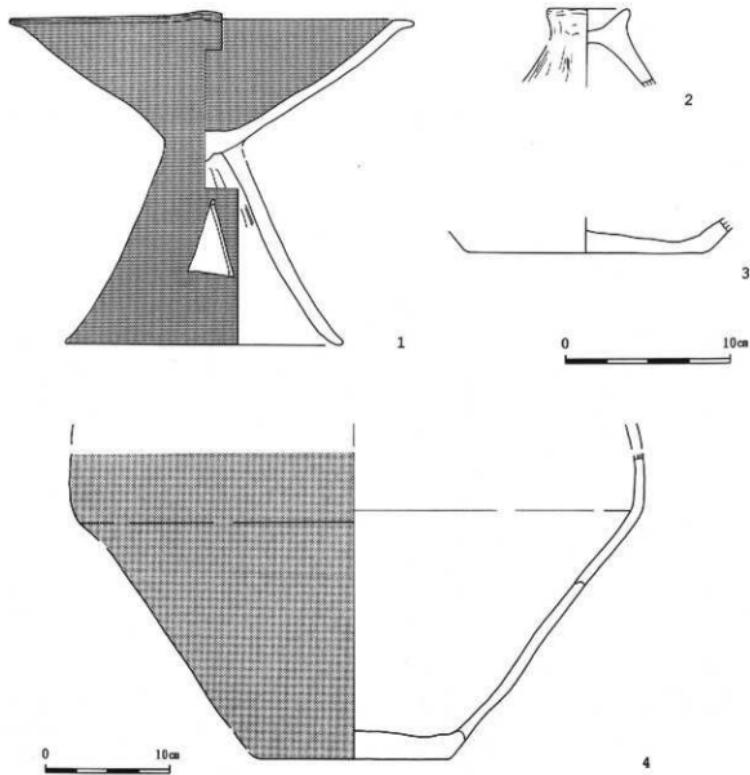
第43図 第1号溝跡出土土器実測図



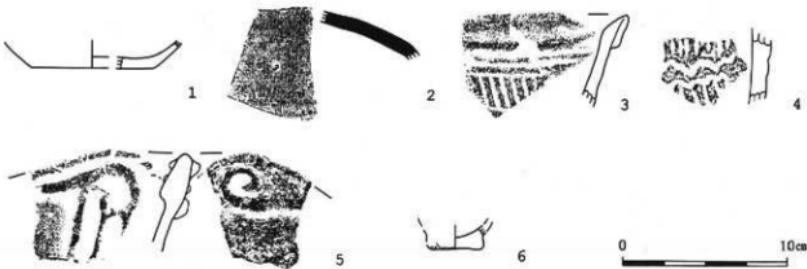
第44図 第2号溝跡出土土器実測図



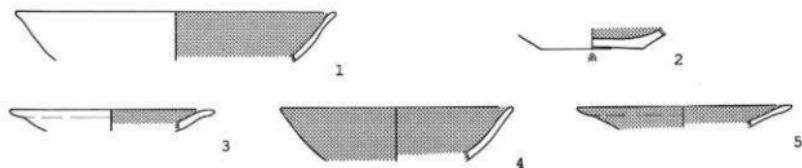
第45図 第3号溝跡出土土器実測図



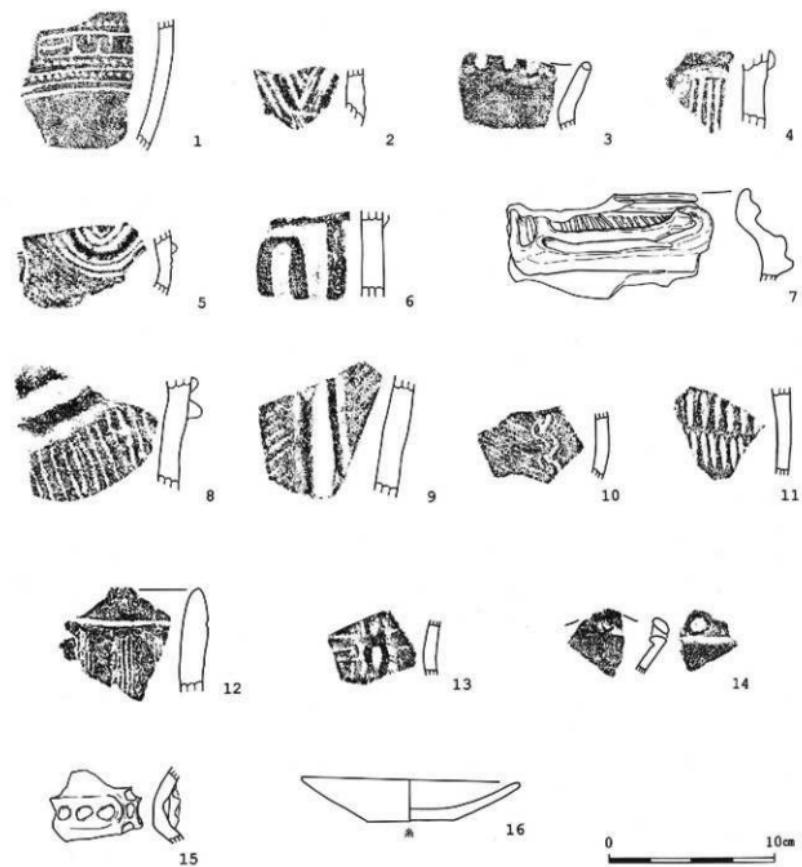
第46図 第4号溝跡出土土器実測図



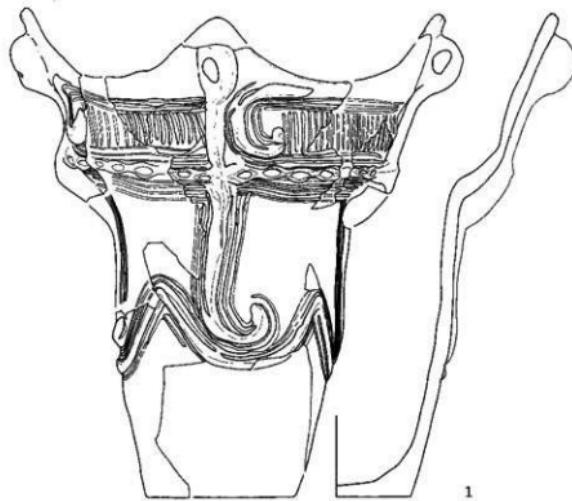
第47図 第5号溝跡出土土器実測図



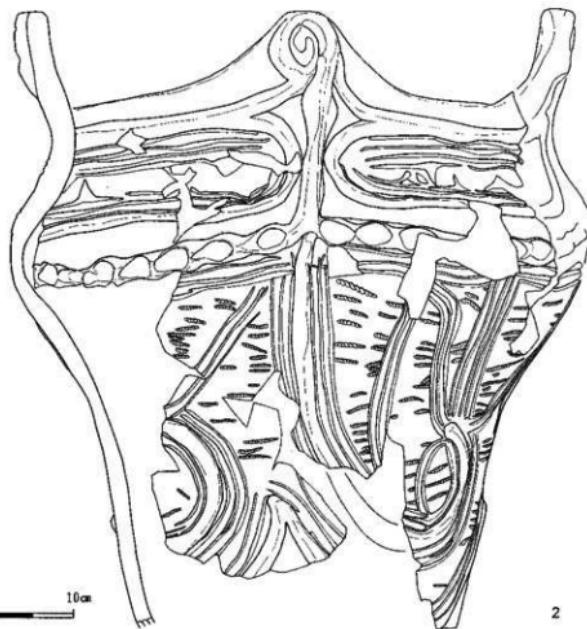
第48図 第6号溝跡出土土器実測図



第49図 第7号溝跡出土土器実測図

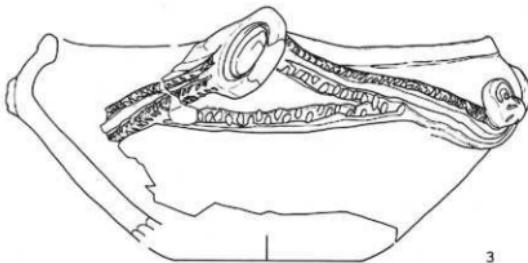


1

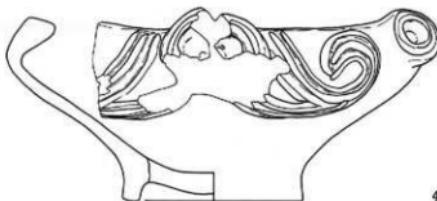


2

第50圖 第8号溝跡出土土器実測図（1）



3



4



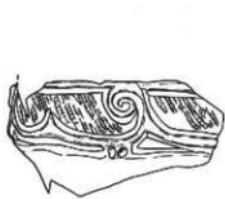
5



6



7



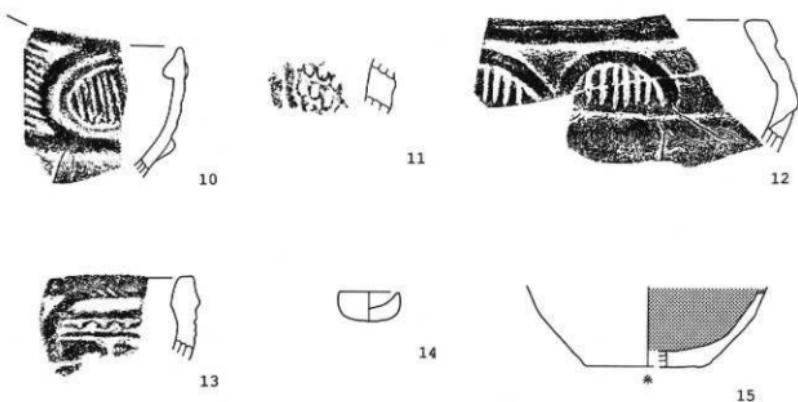
8



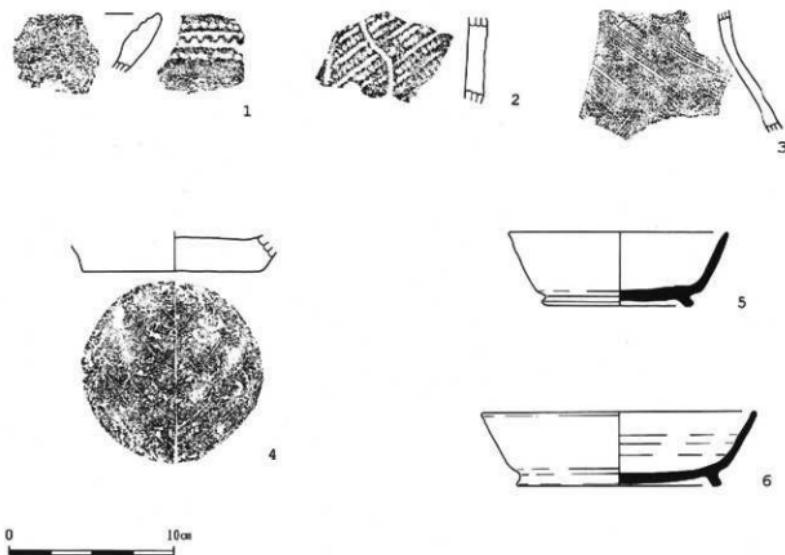
9



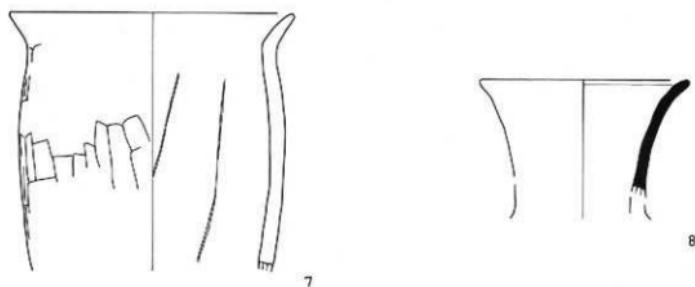
第50圖 第8號溝跡出土土器實測圖（2）



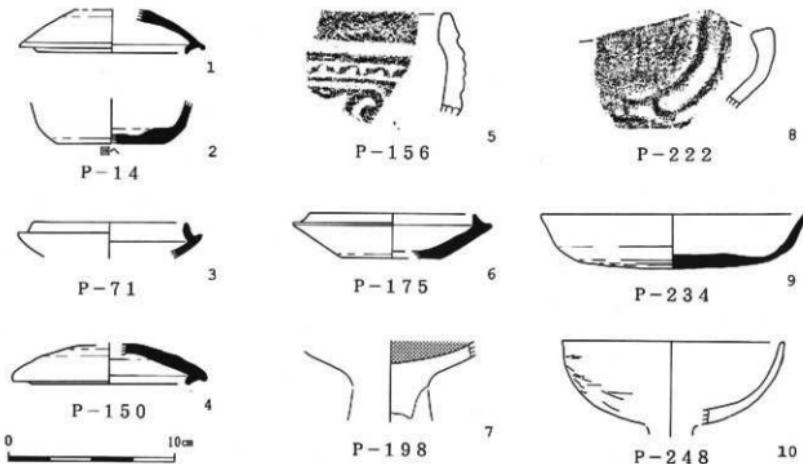
第50図 第8号溝跡出土土器実測図（3）



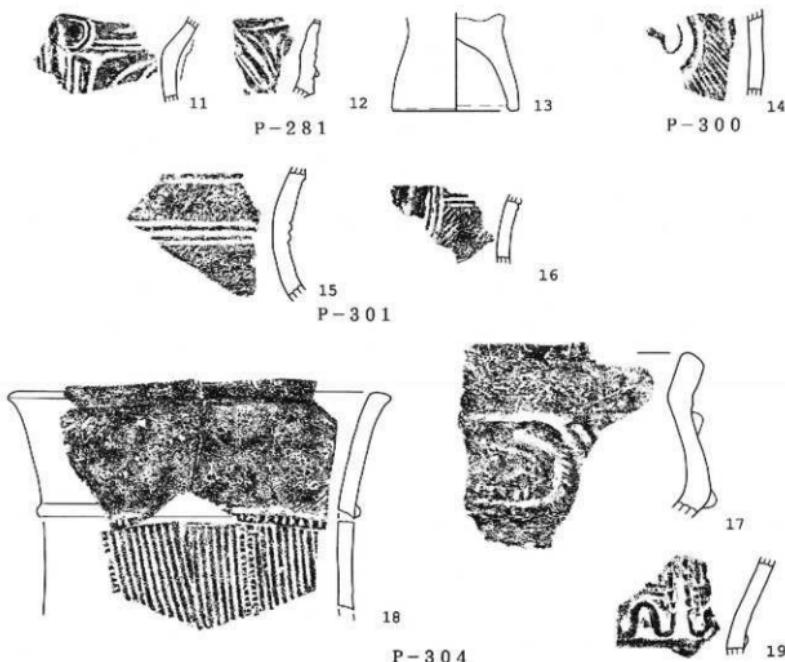
第51図 第9号溝跡出土土器実測図（1）



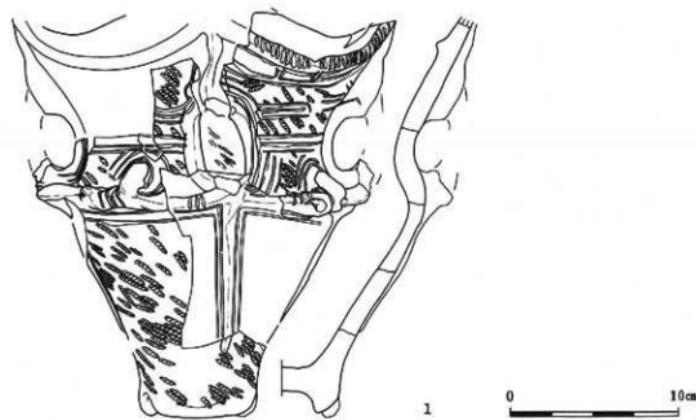
第51図 第9号溝跡出土土器実測図（2）



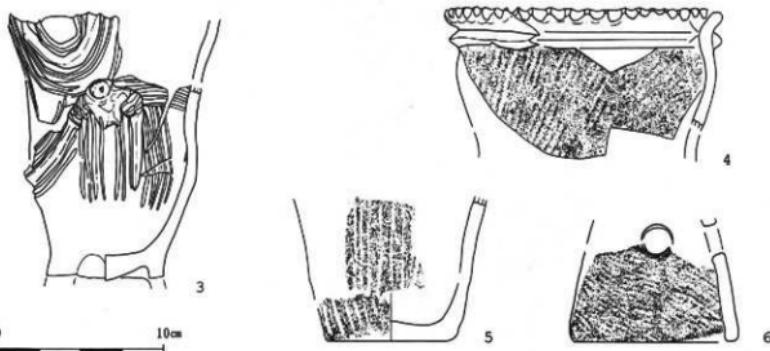
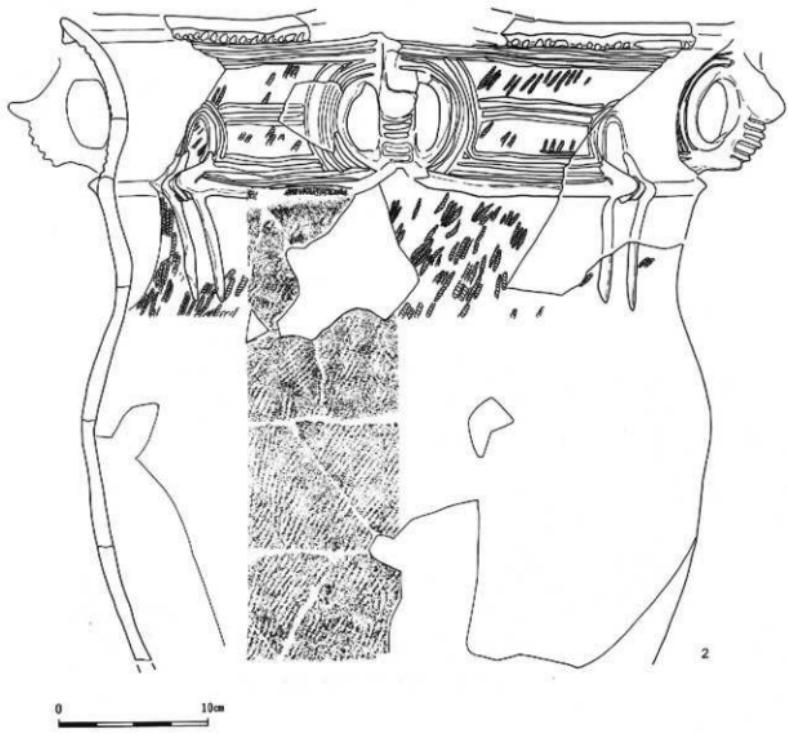
第52図 ピット出土土器実測図（1）



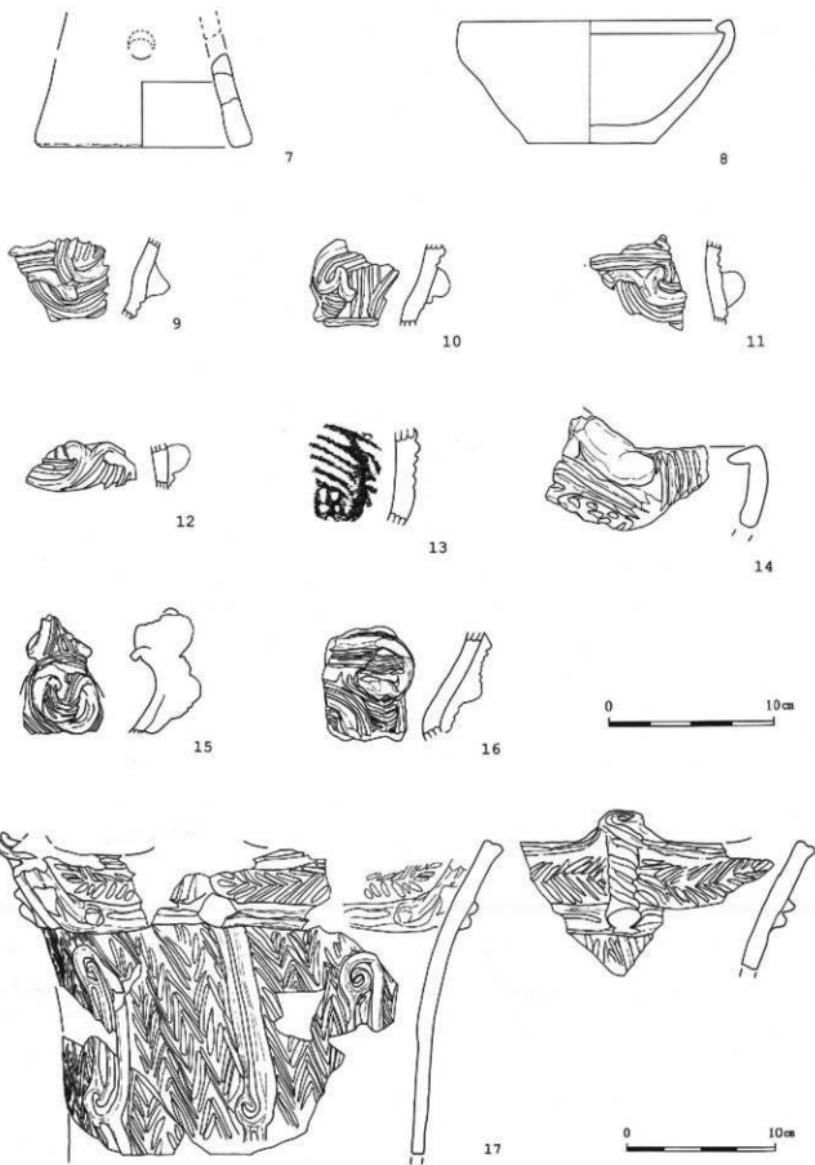
第52図 ピット出土土器実測図（2）



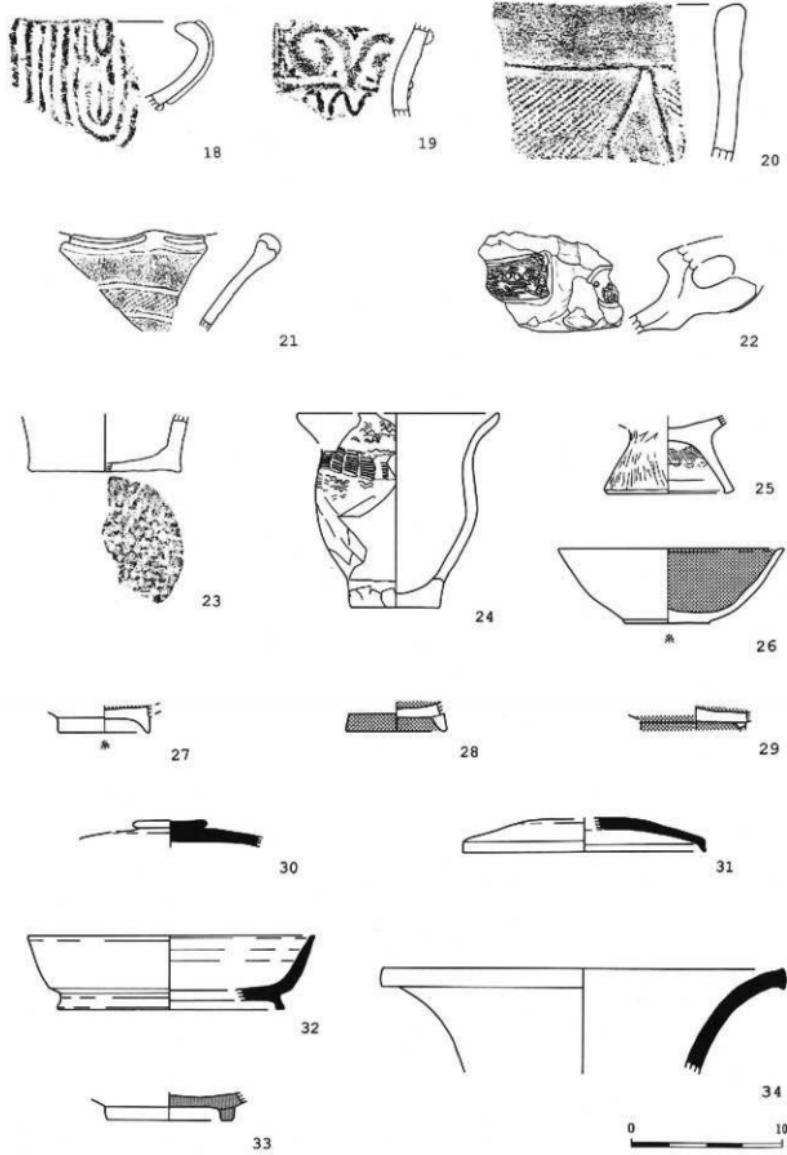
第53図 遺構外出土土器実測図（1）



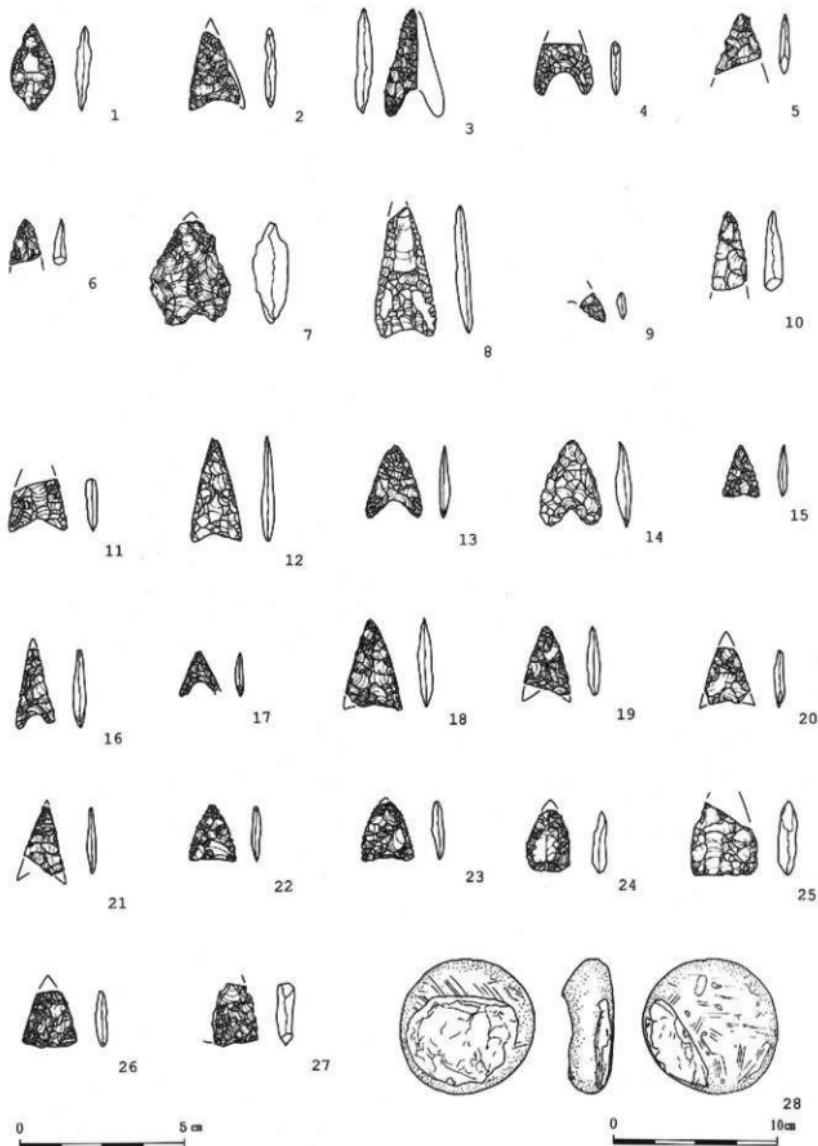
第53図 遺構外出土土器実測図（2）



第53図 遺構外出土土器実測図（3）



第53図 遺構外出土土器実測図(4)



第54図 石器実測図(1)



29



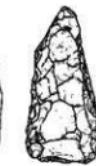
30



31



32



33



34



35



36



37

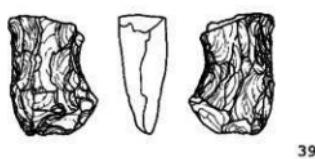


38

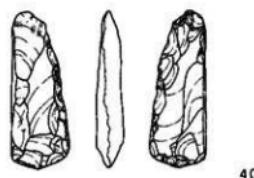
0

10cm

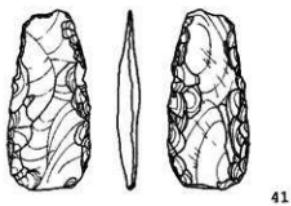
第54図 石器実測図(2)



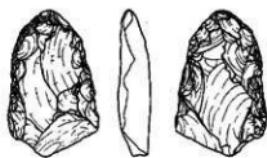
39



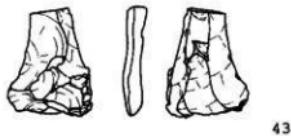
40



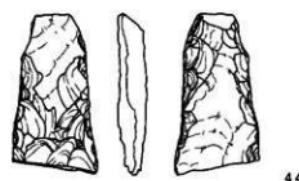
41



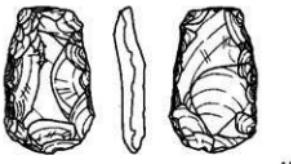
42



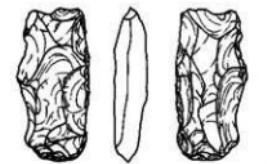
43



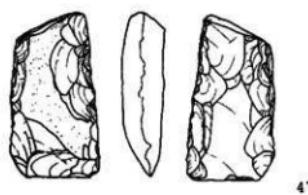
44



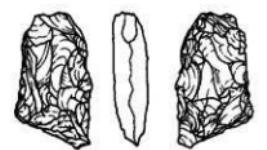
45



46



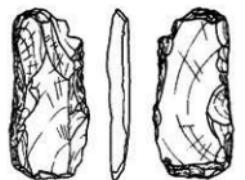
47



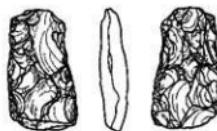
48



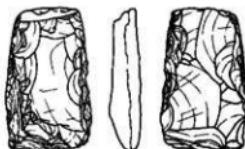
第54圖 石器実測図（3）



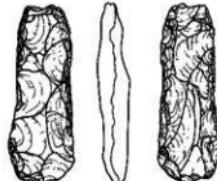
49



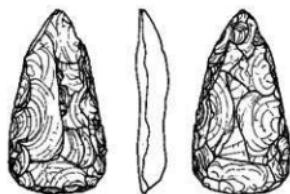
50



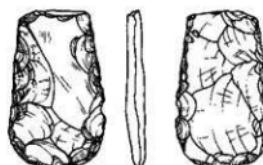
51



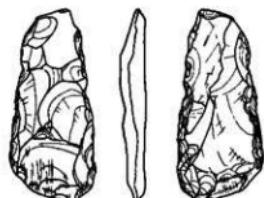
52



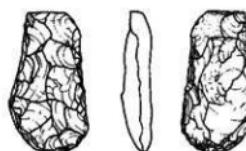
53



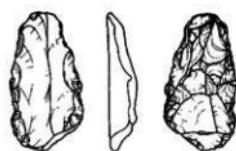
54



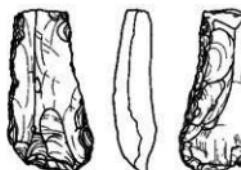
55



56



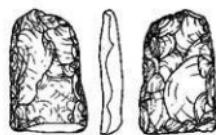
57



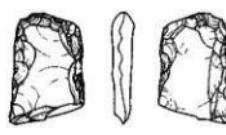
58

0 10cm

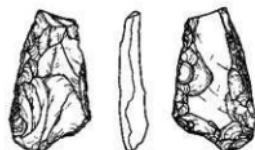
第54図 石器実測図(4)



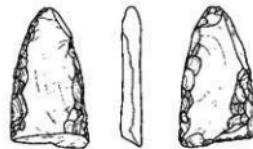
59



60



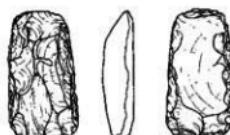
61



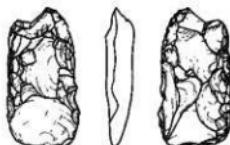
62



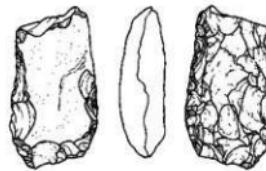
63



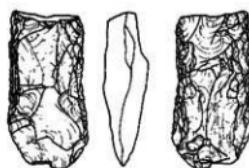
64



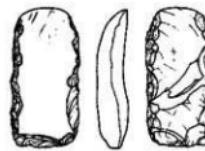
65



66



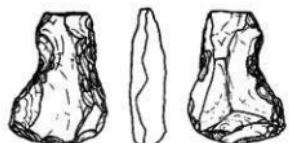
67



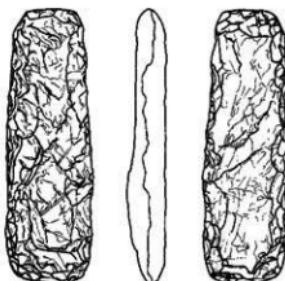
68

A scale bar indicating 10 cm.

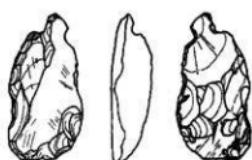
第54図 石器実測図(5)



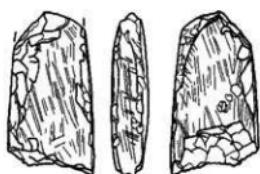
69



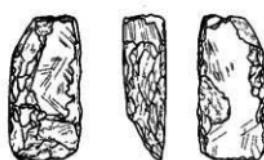
70



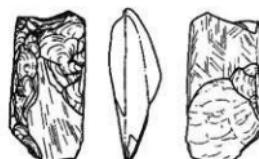
71



72



73



74

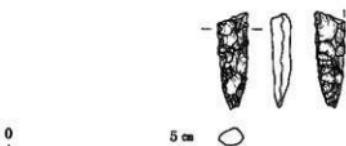


75



76

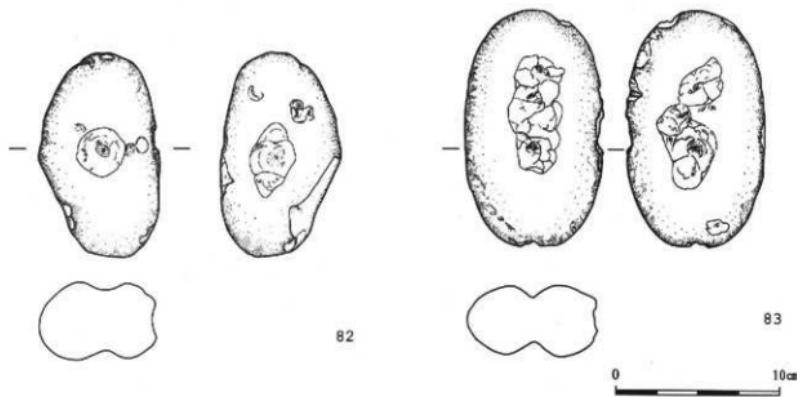
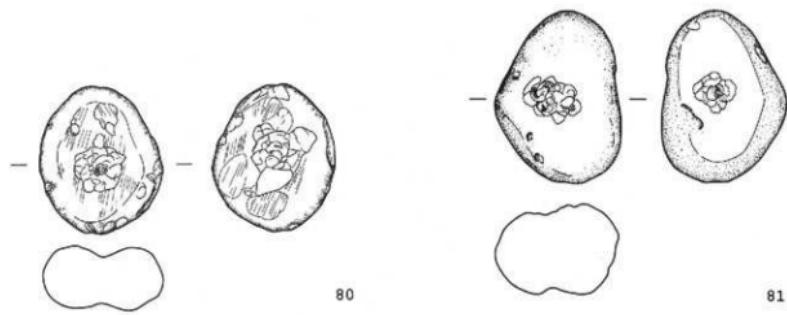
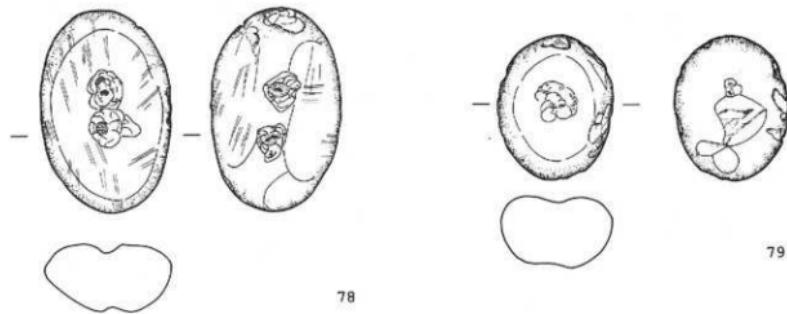
0 10cm



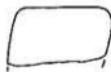
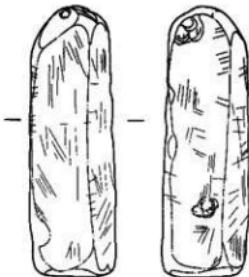
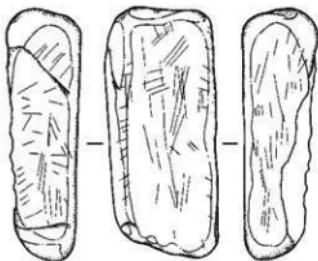
77

0 5cm

第54図 石器実測図(6)



第54図 石器実測図(7)



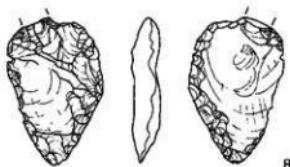
84



85



86



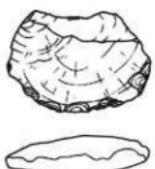
87



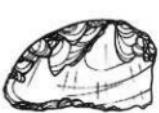
88



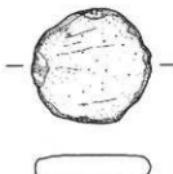
第54図 石器実測図(8)



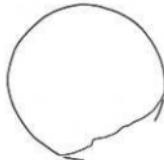
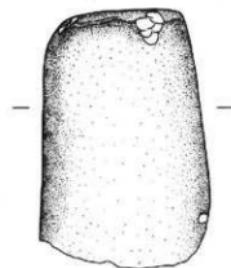
89



90



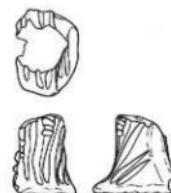
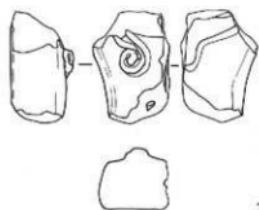
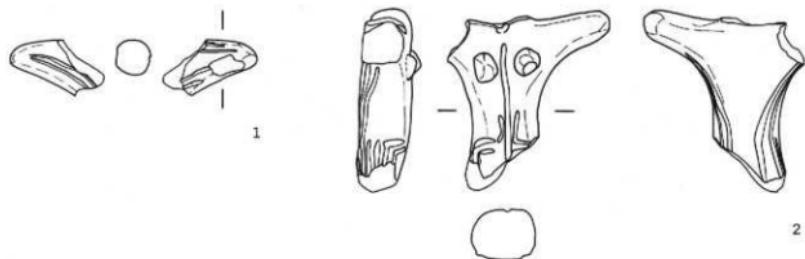
91



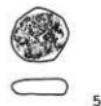
92



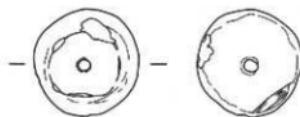
第54図 石器実測図(9)



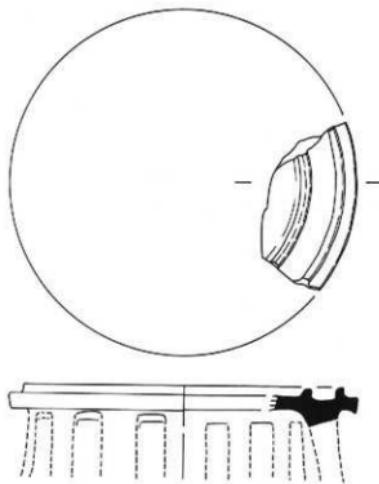
土偶



土製円盤

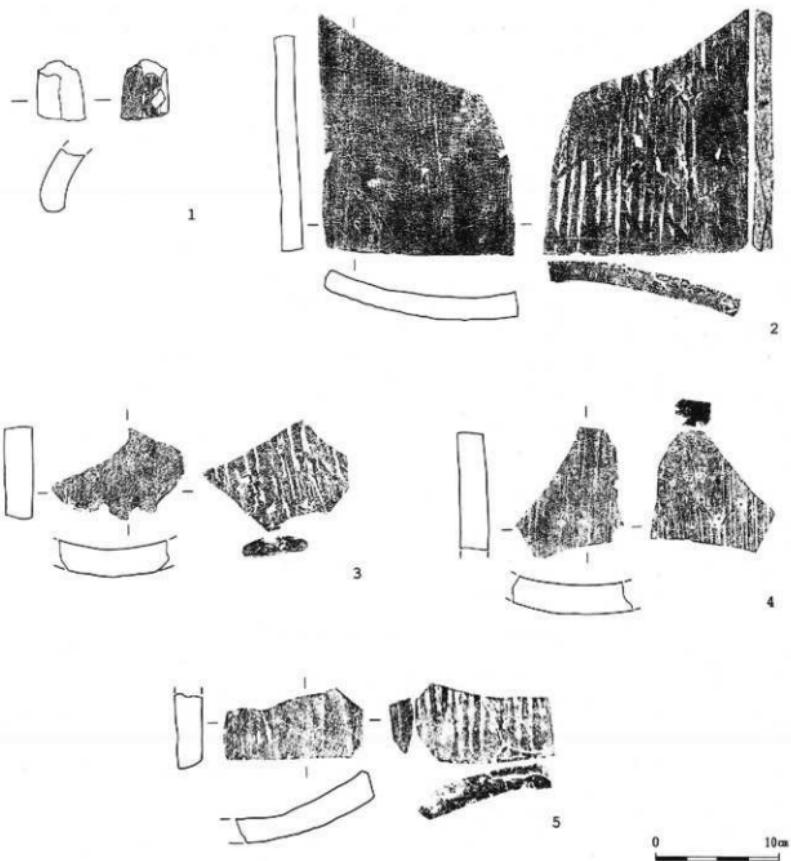


紡錘車



円面鏡

第 55 図 土偶・土製円盤・紡錘車・円面鏡実測図



第56図 瓦実測図



第57図 寛永通寶拓影図

出土場所 図版No	器種 種類	法 度	量 存	器 質	成形・形態はか	整形はか
SB-01	环	口徑(17.0) 底高 底径	胎: 石英、粗砂粒含む 色: (A)灰 (B)5Y7/6 橙 (C)10Y2/1 黒	内面しながら口縁に至る	(A) ヘラケズリ ヨコナデ	
28B-1	土師	口縁一部				(A) ヨコナデ 黒色処理
SB-01	环	口徑 底高 底径	胎: 石英、雲母、細砂粒含む 色: (A)5Y7/4 に赤い橙 (B)10Y2/5 赤	平底	(A) 底部ヘラナデ ヘラケズリ ナデ	(A) ヨコナデ ミガキ
28B-2	土師	底部1/2				
SB-01	环盤	胎径 底高 底径	胎: 細砂粒わずかに含む 色: (A)灰 (B)5Y7/2 白 (C)5灰	内面に返りを有する ロクロつくり	(A) 回転ヘラケズリ ナデ	
28B-3	須恵	一 一 一				(A) ナデ
SB-01	环盤	胎径 底高 底径	胎: 細砂粒をわずかに含む 色: (A)灰 (B)5Y7/1 灰白 (C)5灰	内面に返りを有する ロクロつくり	(A) ナデ	
28B-4	須恵	一 一 一				(A) ナデ
SB-01	环盤	胎径 底高 底径	胎: 細砂粒をわずかに含む 色: (A)灰 (B)5Y6/1 灰 (C)5Y5/1 灰	内面に返りを有する ロクロつくり	(A) ロクロナデ	
28B-5	須恵	一 一 一				(A) ロクロナデ
SB-01	环盤	胎径 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)灰 (B)5Y5/1 灰 (C)5Y5/1 灰	内面に返りを有する ロクロつくり	(A) ロクロナデ	
28B-6	須恵	一 一 一				
SB-01	环盤	胎径 底高 底径	胎: 磷、粗砂粒含む 色: (A)灰 (B)5Y6/1 灰 (C)5Y7/1 灰白	抓み部は扁平な擬宝珠状を呈する ロクロ端部を折り曲げる ロクロつくり	(A) 回転ヘラケズリ (A) ナデ	
28B-7	須恵	一 一 一				
SB-01	环盤	胎径 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)灰 (B)5Y6/1 灰 (C)SP86/1 青灰	抓み部はボタン状を呈する ロクロ端部を折り曲げる ロクロつくり	(A) 回転ヘラケズリ (A) ナデ	
28B-8	須恵	一 一 一				
SB-01	环盤	胎径 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)5Y4/1 海灰 (B)5灰	口縁端部は綾を有して短く 屈曲する ロクロつくり	(A) 回転ヘラケズリ ナデ	
28B-9	須恵	一 一 一				(A) ナデ
SB-01	环盤	胎径 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)5Y5/1 海灰 (B)5Y5/1 海灰	抓み部は扁平な擬宝珠状を呈する ロクロつくり	(A) 回転ヘラケズリ (A) ロクロナデ	
28B-10	須恵	一 一 一				
SB-01	环	口徑 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)5Y5/1 海灰 (B)5灰	丸底で裏受け部分を持ち、受け 皿がから口縁部にかけて立ち 上がりを持つ ロクロつくり	(A) ナデ	
28B-11	須恵	一 一 一				(A) ナデ
SB-01	环	口徑 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)10Y2/2 黒褐 (B)10Y5/1 海灰	平底より外傾して立ち上がる ロクロつくり	(A) 底部ヘラ切りの後ヘラケズ リ	
28B-12	須恵	一 一 一				(A) ロクロナデ
SB-01	环	口徑 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)5Y5/1 オリーブ灰 (B)5Y5/1 海灰	平底より外傾して立ち上がる ロクロつくり	(A) 底部ヘラ切りの後ヘラケズ リ	
28B-13	須恵	一 一 一				(A) ロクロナデ
SB-01	环	口徑 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)5Y5/1 オリーブ灰 (B)5Y5/1 海灰	高台付の底盤から体部は外傾 して立ち上がり口縁部に至る 高台底面にくぼみがある ロクロつくり	(A) 底部回転ヘラケズリ	
28B-14	須恵	一 一 一				(A) ナデ
SB-01	环	口徑 底高 底径	胎: 石英、粗砂粒含む 色: (A)5Y5/1 灰 (B)5Y5/2 海灰	高台付の底盤から体部は外傾 して立ち上がり口縁部に至る ロクロつくり	(A) ロクロナデ	
28B-15	須恵	一 一 一				(A) ロクロナデ
SB-01	环	口徑 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)10Y7/3 に赤い黄橙 (B)10Y5/1 海灰	高台を付す 底盤が高台底面よりとび出す ロクロつくり	(A) 回転ヘラケズリ	
28B-16	須恵	一 一 一				(A) ナデ
SB-01	环	口徑 底高 底径	胎: 細砂粒含む 色: (A)5Y5/1 灰 (B)10Y5/1 海灰	平底より外傾して立ち上がり ロクロ端部取りが施される ロクロつくり	(A) 体部下位より底部回転ヘラ ケズリ	
28B-17	須恵	一 一 一				(A) ロクロナデ

第16表 土器観察表(1)

出土場所 回数NO	器種類別	法規	量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-01 28回 -17	平瓶	口径 底径 須底	- 8.2 1/4	胎: 粗砂粒含む 表: 直耳 色: (A)灰/灰 (B)灰白	胴部は背部で屈曲する ロクロつくり	(A) 刷毛ナデ (A) ナデ
SB-01 28回 -18	橢瓶	口径 底径 須底	- 9.0 1/4	胎: 粗砂粒含む 表: 直耳 色: (A)灰/灰 (B)58A/暗青灰	胴部は内寄する	(A) タタキ目 (A) ナデ
SB-02 29回-1	坏	口径 底径 土師	(10.4) 3.1 一部	胎: 粗砂粒含む 表: 直耳 色: (A)10VR7/3に近い黄橙 (B)灰/暗灰	体部に丸みを持つ	(A) ヘラケズリ (A) ミガキ 黒色處理
SB-02 29回-2	坏	口径 底径 土師	(10.6) 3.1 1/4	胎: 粗砂粒含む 表: 直耳 色: (A)10VR7/4に近い黄橙 (B)灰/暗灰	体部に丸みを持つ	(A) ヘラケズリ (A) ミガキ 黒色處理
SB-02 29回-3	坏	口径 底径 土師	(13.8) 3.8 1/4	胎: 石目、粗砂粒含む 表: 直耳 色: (A)10VR7/3に近い黄橙 (B)灰/黑	内寄しながら開き、口縁部に至る	(A) ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (A) ヘラケズリの後ヘラミガキ 黒色處理
SB-02 29回-4	坏	口径 底径 土師	(13.6) 3.2 1/4	胎: 粗砂粒わずかに含む 表: 直耳 色: (A)10VR7/4に近い黄橙 (B)灰/暗灰	体部に丸みを持つ	(A) ヘラケズリ (A) ミガキ 黒色處理
SB-02 29回-5	高环	口径 底径 土師	(17.4) 4.5 1/4	胎: 粗砂粒含む 表: 直耳 色: (A)7.5VR7/6 横 (B)灰/暗灰	大きく聞く環部	(A) ミガキ
SB-02 29回-6	高环	口径 底径 土師	(11.2) 5.0 1/4	胎: 石目、粗砂粒含む 表: 直耳 色: (A)7.5VR7/6 横 (B)7.5VR7/4に近い横	縁部に向かってゆるやかに聞く	(A) タテのヘラケズリの後ヨコミガキ (A) ヘラナデ ヘラケズリ
SB-02 29回-7	高环	口径 底径 土師	- 6.0 1/2	胎: 石目、粗砂粒含む 表: 直耳 色: (A)7.5VR7/4に近い横 (B)7.5VR7/4灰/暗灰	縁部に向かって聞く縁部	(A) ケズリ ミガキ (A) ケズリ
SB-02 29回-8	坏	口径 底径 須底	(10.2) 2.3 一部	胎: 粗砂粒わずかに含む 表: 直耳 色: (A)7.5VR7/4灰 (B)7.5VR7/4灰	蓋受け部分を有し、受け部から縁部にかけて立ち上がりを持つ	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB-02 29回-9	壺	口径 底径 土師	(22.6) 7.0 1/4	胎: 石母、粗砂粒多く含む 表: 直耳 色: (A)10VR5/4に近い黄褐 (B)7.5VR6/6横	張りのない縁部より外反して 口縁部に至る	(A) 縁部ヘラケズリ (A) ナデ
SB-02 29回-10	壺	口径 底径 土師	(16.0) 4.3 1/4	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 表: 直耳 色: (A)7.5VR7/6 横 (B)7.5VR8/4 淡黄褐	口縁部は外反する	(A) ヘラナデ (A) ヨコナデ
SB-02 29回-11	壺	口径 底径 土師	(14.0) 5.4 1/4	胎: 石英、雲母、纏合む 表: 直耳 色: (A)2.5VR5/6 明赤褐 (B)7.5VR8/4 淡黄褐	粘土帯繩ら上げ 口縁部は外傾する	(A) ヨコナデ (A) ヘラケズリ
SB-02 29回-12	壺	口径 底径 土師	(18.6) 7.5 1/2	胎: 粘わざかに含む 表: 直耳 色: (A)5VR6/6 横 (B)5VR6/6	張りのある縁部より外反して 口縁部に至る	(A) ヘラミガキ (A) 口縁部ヘラミガキ 縁部木口状工具によるナデ
SB-03 30回-1	坏	口径 底径 土師	(12.8) 4.2 1/2	胎: 石母、粗砂粒わずかに含む 表: 直耳 色: (A)7.5VR7/4に近い横 (B)10VR1.1灰	丸底から体部は内寄して立ち上り口縁部に至る	(A) 口縁部ヨコナデ ヘラケズリ ナデ (A) ヘラミガキ ナデ 黒色處理
SB-03 30回-2	高环	口径 底径 土師	(16.0) 11.5 (10.8) 7/10	胎: 石目、粗砂粒わずかに含む 表: 直耳 色: (A)7.5VR7/4に近い横 (B)2.5VR1/2黑	縁部は結合部から丸みを持つ 立上り口縁部に至る 縁部は結合部から繩やから外反して聞く縁部に至る	(A) 口縁部ナデ 縁部ヘラケズリ ナデ (A) 縁部ヘラケズリ 縁部ミガキ 黒色處理

第17表 土器観察表(2)

出土位置 回数NO	器種 種類	法 機	現 存	質	成形・形態はか	整形ほか
SB-03	高杯	口径(11.4) 残高 3.4 底径一部	胎: 磁、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/6 明褐 (B) 7.5YR1/4灰褐	淺く丸みのある杯部 脚部を杯部にはめこみ接合	(I) ヘラケズリ (II) ヘラミガキ	
30回-3	土師	胎: 一 残高 1.5 底径一部	胎: 粗砂粒わずかに含む 燒: 良好 色: (A) 2.5Y6/1 黄灰 (B) 2.5Y6/1 黄灰	内面に返りを持つ	(I) ロクロナデ (II) ロクロナデ	
SB-03	杯蓋	胎: 一 残高 1.8 底径(14.2) 一部	胎: 粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5Y4/1灰 2.5Y5/4 黄褐 (B) 5Y4/1灰 2.5Y5/4 黄褐	口縁端部で折れる	(I) ロクロナデ (II) ロクロナデ	
30回-5	須恵	胎: 一 残高 9.0 底径 一 口縁部-脚部	胎: 粗砂粒わずかに含む 燒: 良好 色: (A) 10Y7/3 によい黄褐 (B) 10Y7/3 によい黄褐	張りのある脚部より外反して 口縁部に至る	(I) ヘラケズリの後ヘラミガキ (II) 口縁部へラミガキ 脚部へ ラケズリ	
SB-03	壺	口径 20.0 残高 8.0 底径 一 口縁部-脚部	胎: 磁、粗砂粒多く含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR6/3 によい黄褐 (B) 7.5YR6/3 によい黄褐	小型の壺 丸みのある脚部より外反して 口縁部に至る	(I) ヘラケズリの後ヘラミガキ (II) 口縁部へラミガキ 脚部へ ラケズリ	
30回-7	上師	胎: 一 残高 10.0 底径 一 口縁部-脚部	胎: 磁、粗砂粒多く含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR6/4 によい橙 (B) 7.5YR6/4 によい橙	張りのある脚部より外反して 口縁部に至る	(I) ヘラケズリの後ナデ (II) ナデ ヘラケズリ	
SB-03	壺	口径(17.4) 残高 8.8 底径 一 口縁部-脚部	胎: 磁、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR7/4 によい橙 (B) 7.5YR7/4 黄褐	口縁部は外反する 粘土帶積み上げ	(I) ケテのヘラケズリ 頂部ヨ コナデ 口縁部ヨナデ (II) ヨコのヘラケズリ	
30回-9	土師	口径 21.5 残高 14.6 底径 4/5	胎: 磁、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR4/8 赤褐 (B) 7.5YR4/6 赤褐	平底より立ち上がり、丸みの ある脚部より外反する口縁部 に至る 粘土帶積み上げ	(I) 底部へラミガキ 脚部へ ケズリ 頂部、口縁部ヨコナ (II) ヘラケズリ ナデ ヘラミ ガキ	
SB-03	壺	口径 24.2 残高 39.2 底径 6.8 30回-11 上師	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR7/8 黄褐 (B) 7.5YR6/6 橙	平底より立ち上がり、張りの ない脚部より外反する口縁部 に至る 粘土帶積み上げ	(I) 頂部、脚部ナメのケズリ 脚部へラケズリ (II) ヘラケズリ	
30回-12	上師	口径(19.0) 残高 16.0 底径 一 口縁部-脚部	胎: 磁、粗砂粒多く含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR6/4 によい橙 (B) 7.5YR6/6 明褐	張りのない脚部より外反して 口縁部に至る	(I) 脚部へラケズリ 口縁部ヨ コナデ (II) 脚部へラケズリの後ナデ	
SB-03	壺	口径(18.6) 残高 10.5 底径 一 口縁部-脚部	胎: 磁、粗砂粒多く含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/6 明褐 (B) 7.5YR5/6 明褐	張りのない脚部より外反して 口縁部に至る	(I) 脚部へラケズリ (II) 脚部へラケズリ	
30回-14	土師	口径(22.3) 残高 27.3 底径 一 口縁部-脚部	胎: 石英、雲母、繊維が効 燒: 良好 色: (A) 7.5YR7/8 黄褐 (B) 7.5YR2/1 黑褐	脚部は丸みを持ち、ゆるく外 反する口縁部に至る 粘土帶積み上げ	(I) ヘラケズリ ヘラナデ (II) ヘラナデ	
SB-03	壺	口径 24.6 (5.0) 底径 一 脚部-底部	胎: 磁、粗砂粒多く含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR6/6 橙 (B) 7.5YR6/4 によい橙	張りのない脚部	(I) ヘラケズリ (II) ヘラケズリの後ナデ	
30回-16	土師	口径 3.2 (9.4) 底径 1/4	胎: 磁、雲母、磁、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/4 によい橙 (B) 10YR3/3暗褐	平底 粘土帶積み上げ	(I) ヘラケズリ (II)	
SB-04	杯蓋	胎: 一 残高 1.2 底径(18.6) 一部	胎: 粗砂粒わずかに含む 燒: 良好 色: (A) 10Y4/1灰 (B) 10Y4/1灰	口縁部端部が折れる	(I) ロクロナデ (II) ロクロナデ	
31回-1	須恵	胎: 一 残高 10.5 底径 1/4	胎: 磁、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5YR6/2 灰褐 6/6 によい橙 (B) 10YR7/4 によい黄褐	小型の壺	(I) ヘラケズリ 口縁ヨコナ デ (II) ケズリ ナデ 口縁ヨコナ デ	
SB-04	壺	口径(12.3) 残高 10.5 底径 一 1/4	胎: 磁、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5YR6/2 灰褐 6/6 によい橙 (B) 10YR7/4 によい黄褐			

第18表 土器観察表 (3)

出土場所 図版No	器種 種類	法 量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-05 32図-1 須恵	環	口径(10.2) 器高 3.1 底径(5.3) 一部	胎: 粗砂粒わずかに含む 良好 色: (A)5Y6/1灰 (B)5Y6/1灰	体部は丸みを持ち、口縁部は内寄する	(A) 底部外面はヘラによる調整が施される (B)
SB-05 32図-2 須恵	環	口径(13.2) 器高 3.7 底径 一 部	胎: 粗砂粒わずかに含む 良好 色: (A)5Y7/1灰白 (B)5Y7/1灰白	直線的に聞く体部を持つ	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
SB-05 32図-3 土師	壺	口径(12.0) 器高 5.6 底径 一 部	胎: 粗砂粒多量に含む 良好 色: (A)7.5Y6/3によい褐 (B)7.5Y4/4によい褐	口縁部はゆるく外反する 小型の壺	(A) ナデ (B) ヘラケズリ
SB-05 32図-4 土師	壺	口径(16.8) 器高 21.1 底径 1/2	胎: 褐 粗砂粒多量に含む 良好 色: (A)7.5Y5/化粧褐 4/1褐灰 (B)7.5Y6/2灰褐	張りのない肩部より外反する 口縁部に至る 長脚鋸 輪模み成形	(A) ヘラケズリ (B) ケズリ ナデ
SB-05 32図-5 須恵	壺	口径(33.4) 器高 9.3 底径 一 口縁部-肩部	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A)2.5Y7/1灰白 (B)2.5Y7/1灰白	頸部でゆるく結まって口縁部 で外反する 広口	(A) 肩部にタキ調整を持つ (B)
SB-06 33図-1 土師	環	口径(11.6) 器高 4.8 底径(1.8) 1/4	胎: 褐 粗砂粒含む 良好 色: (A)5Y8/2灰白 (B)5Y7/6 棕	平底 済い体部 口縁はゆるい屈曲を経て立ち 上がる	(A) 摩耗して不明 (B) 摩耗して不明
SB-07 34図-1 土師	環	口径(17.2) 器高 4.8 底径 1/3	胎: 褐 粗砂粒含む 良好 色: (A)7.5Y7/3によい棕 (B)N3/暗灰	丸底で体部に丸みを持つ	(A) 体部~底部手持ちヘラケズ リ (B) ヘラミガキ 黒色処理 非ロクロ調整
SB-07 34図-2 土師	環	口径(12.3) 器高 4.8 底径 一 はざむ	胎: 石英、粗砂粒わずかに含む 良好 色: (A)7.5Y5/化粧褐 N3/暗灰 (B)N3/暗灰	丸底で体部に丸みを持つ	(A) 体部~底部手持ちヘラケズ リ (B) ヘラミガキ 黒色処理 非ロクロ調整
SB-07 34図-3 土師	高环	口径(12.6) 器高 5.3 底径 一 肩部1/3	胎: 雪母、疊含む 良好 色: (A)7.5Y5/化粧褐 N3/暗灰 (B)N3/暗灰	浅く丸みのある环部	(A) ナデ ケズリ (B) ミガキ 黒色処理
SB-07 34図-4 土師	高环	口径(16.4) 器高 4.7 底径 一 环部1/2	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A)7.5Y7/6 棕 (B)N3/暗灰	浅く丸みのある环部	(A) ケズリ ナデ (B) ミガキ 黒色処理
SB-07 34図-5 土師	高环	口径 一 器高 8.5 底径 一 肩部(根付)	胎: 石英、粗砂粒含む 良好 色: (A)10Y7/4によい黄橙 (B)10Y7/5によい黄橙 (C)10Y7/6 帽	底部より屈曲して聞く部に 至る	(A) 肩部へミガキ (B) 环部へミガキ 肩部へラ ケズリ 环部黑色處理
SB-07 34図-6 土師	高环	口径 一 器高 6.1 底径 一 脚部1/2	胎: 褐 粗砂粒多く含む 良好 色: (A)10Y7/4によい黄橙 (B)10Y7/4によい黄橙	脚部は裾に向かって聞く	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ
SB-07 34図-7 須恵	环蓋	胎径 2.1 器高 3.0 底径 10.6 元存	胎: 黒色粒子含む 良好 色: (A)7.5Y6/1灰 (B)7.5Y6/1灰	内側に返りがある	(A) (B)
SB-07 34図-8 須恵	环蓋	胎径 2.3 器高 2.3 底径 15.5 2/3	胎: 褐 粗砂粒わずかに含む 良好 色: (A)7.5Y6/1灰 (B)7.5Y6/1灰	内側に返りがある	(A) 天井部ヘラケズリ (B) ナデ
SB-07 34図-9 須恵	环	口径(10.2) 器高 3.2 底径 5.4 底部-脚部	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A)7.5Y7/1灰白 (B)7.5Y7/1灰白	体部は垂直に近く立ち上がる	(A) 底部ヘラによる調整 (B)
SB-07 34図-10 須恵	环	口径(14.8) 器高 3.5 底径 (8.0) 1/3	胎: 粗砂粒わずかに含む 良好 色: (A)5Y6/1灰 (B)6/1灰	箱形の体部に高台を付す。高 台の位置は中央寄りに入り、 体部の立ち上がりはきちんと した線を持たない	(A) 底部回転ヘラケズリ (B)

第19表 土器観察表(4)

出土位置 図版No	器種 種類	法線 量	量 存	器 質	成形・形態	ほか	整形 ほか
SB-07 34回 -11	坏 須恵	口径(17.4) 底高(4.8) 底径(12.3) 1/4	胎:微砂粒わずかに含む 焼:良好 色:(A)7.5Y6/1灰 (B)7.5Y6/1灰	箱形の体部に高台を付す。高台断面は平行四辺形を呈す。	(A) 底部回転ヘラケズリ (B)		
SB-07 34回 -12	壺 土師	口径(27.2) 底高(17.7) 底径(24.5) 口縁部-胴部	胎:粗砂粒多く含む 焼:良好 色:(A)10YR7/3によい黄橙 (B)10YR6/3によい黄橙	張りのない胴部より外反して口縁部に至る 粘土帶積み上げ	(A) 口縁部ヨコナデ 脇部ヘラケズリ (B) 脇部ヘラナデ		
SB-07 34回 -13	壺 土師	口径(24.0) 底高(9.0) 底径(21.0) 口縁部-胴部	胎:標、粗砂粒多量に含む 焼:良好 色:(A)7.5Y6/4 によい褐 (B)7.5Y6/4 によい褐	張りのない胴部 器壁は薄い	(A) 脇部ヘラケズリ (B) ヘラケズリの後木口状工具によるナデ		
SB-07 34回 -14	壺 土師	口径(24.0) 底高(9.0) 底径(21.0) 口縁部-胴部	胎:標、粗砂粒多量に含む 焼:良好 色:(A)7.5Y6/8 明褐 (B)7.5Y6/8 明褐	張りのない胴部より外反して口縁部に至る	(A) 口縁部ヨコナデ 脇部ヘラケズリ (B) ナデ		
SB-07 34回 -15	壺 土師	口径(23.2) 底高(7.2) 底径(20.8) 口縁部1/3	胎:雲母、標、粗砂粒多量に含む 焼:良好 色:(A)7.5Y6/4 によい褐 (B)7.5Y6/4 によい褐	張りのない胴部より屈曲外反して口縁部に至る	(A) 口縁部ヨコナデ 脇部ヘラケズリ (B) ナデ		
SB-07 34回 -16	壺 土師	口径(21.0) 底高(9.0) 底径(19.0) 口縁部一部	胎:標、粗砂粒多量に含む 焼:良好 色:(A)7.5Y6/4 によい褐 (B)7.5Y6/4 によい褐	張りのない胴部より外反して口縁部に至る	(A) 脇部ヘラケズリ (B) 脇部ヘラケズリ		
SB-07 34回 -17	壺 土師	口径(24.4) 底高(9.4) 底径(9.8) 口縁部-胴部	胎:標、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A)10YR7/4によい黄橙 (B)7.5Y6/8 淡黄橙	脇部は丸みを持ち、外反する 口縁部に至る 粘土帶積み上げ	(A) ケズリ ナデ (B) ケズリ ナデ		
SB-07 34回 -18	壺 土師	口径(17.4) 底高(10.3) 底径(—) 口縁部-胴部	胎:雲母、細砂粒含む 焼:良好 色:(A)7.5Y6/6 橙 (B)7.5Y6/6 橙	口縁部は外反する	(A) 脇部ヘラケズリの後ナデ (B) ヘラケズリ ナデ		
SB-07 34回 -19	壺 土師	口径(20.4) 底高(6.0) 底径(—) 口縁部-胴部	胎:標、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A)7.5Y6/6 橙 (B)7.5Y6/4 によい褐	口縁部は外反する	(A) 脇部ヘラケズリ (B) ヘラナデ		
SB-07 34回 -20	壺 土師	口径(20.2) 底高(3.8) 底径(—) 口縁部一部	胎:粗砂粒多く含む 焼:良好 色:(A)7.5Y6/6 橙 (B)7.5Y6/6 橙	口縁部は外反する	(A) ナデ (B) ナデ		
SB-07 34回 -21	壺 土師	口径(—) 底高(1.9) 底径(7.8) 底径1/2	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A)10YR5/3によい黄褐 (B)7.5Y6/6 橙	平底	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ		
SB-07 34回 -22	壺 須恵	口径(9.4) 底高(17.9) 底径(4.6) 1/4	胎:標、粗砂粒わずかに含む 焼:良好 色:(A)7.5Y5/4 灰 (B)7.5Y5/4 灰	脚形の体部 口縁部で折り返し口縁帯を持つ	(A) ロクロナデ 体部下位にタキ目 底部ヘラ調整 (B) ロクロナデ		
SB-07 34回 -23	壺 須恵	口径(—) 底高(5.5) 底径(7.1) 底径-体部	胎:微砂粒わずかに含む 焼:良好 色:(A)10YR2/2墨褐 7/1灰白 (B)10YR5/1褐火	体部は肩の部分で屈曲する 高台を付す	(A) 体部下半ヘラケズリ (B)		
SB-07 34回 -24	長頸 壺 須恵	口径(10.2) 底高(1.5) 底径(—) 口縁部1/4	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A)7.5Y4/2灰オリーブ (B)7.5Y4/2灰オリーブ	口縁部がラッパ状に開く	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ		
SB-07 34回 -25	深鉢 縹文	口径(—) 底高(3.7) 底径(—) 胴部一部	胎:石英、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A)5Y6/4 によい赤褐 (B)7.5Y6/4 によい褐	沈縋文 縹文	(A)		
SB-07 34回 -26	鉢 縹文	口径(—) 底高(6.6) 底径(—) 口縁部一部	胎:石英、雲母含む 焼:良好 色:(A)7.5Y3/3 暗褐 (B)10YR4/6褐	口縁部に斜みをもち屈曲状を呈する 沈縋文	(A)		

第20表 土器観察表(5)

出土場所 図版NO	器種類	法 残	量 存	器 質	成形・形態・文様等	整形 ほか	
SB-09 35図-1	坏	口径 底径 土師	11.7 4.1 4/5	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 良好 色: (A)7.5YR5/4 にぶい梅 (B)10YR2/1黒	丸みを帯びた底部よりやや内寄りで開き、わずかに外反する口縁部に至る 非クロロツクリ	(A) 体部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (B) 口縁部ヨコナデ 底部ミガキ 黒色処理	
SB-09 35図-2	坏	口径 底径 土師	11.8 4.3 — 完全	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 良好 色: (A)7.5YR2/1黒 (B)10YR1.7/1黒	丸底より内寄して開き、わずかに外反する口縁部に至る	(A) 底部ヘラケズリ 口縁部ミガキ 黑色処理 (B) ヨコミガキ 黑色處理 付着物あり	
SB-09 35図-3	坏	口径 底径 土師	12.8 4.3 2/3	胎: 磁、粗砂粒多量に含む 良好 色: (A)10YR6/3 にぶい梅 (B)10YR5/3 暗灰	丸みを持った体部	(A) ヘラケズリ (B) ヘラミガキ 黑色處理	
SB-09 35図-4	高坏	口径 底径 土師	14.0 7.4 环部1/2	胎: 石英、磁、粗砂粒が含む 良好 色: (A)7.5YR6/6 橙 (B)10YR1.7/1黒	环部は接合部より内寄して立ち上がり口縁部に至る	(A) 环部ヘラケズリの後ナデ 脚部ヘラケズリ、ナデ 口縁部ヨコナデ (B) ヨコナデ ミガキ 黑色処理	
SB-09 35図-5	高坏	口径 底径 土師	2.3 2.3 环部1/3	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A)7.5YR7/4 にぶい橙 (B)7.5YR7/4 にぶい橙	脚部は裾部に向かって大きく開く	(A) ヘラミガキ (B) ヘラケズリ	
SB-09 35図-6	高坏	口径 底径 土師	— 4.8 接合部-脚部	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A)7.5YR6/6 橙 (B)7.5YR6/6 橙	环底部を突出させ脚部と接合している	(A) 脚部ヘラケズリ (B) 坏部ヘラミガキ	
SB-09 35図-7	鉢	口径 底径 土師	19.2 8.3 口縫部-脚部	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A)10YR7/4 にぶい橙 (B)7.5YR7/4 暗灰	直線的に開く体部 わずかに折れて立つ口縁部	(A) ヘラケズリ (B) ヘラミガキ 黑色処理	
SB-09 35図-8	鉢	口径 底径 土師	22.4 10.0 口縫部-脚部	胎: 磁、粗砂粒多量に含む 良好 色: (A)7.5YR7/4 にぶい橙 (B)7.5YR7/4 暗灰	丸みのある体部より小さく外反して口縁部に至る	(A) 体部ヘラケズリ (B) 体部ヘラミガキ 黑色処理	
SB-09 35図-9	坏蓋	口径 底径 須恵	— 1.9 10.0 1/3	胎: 粗砂粒わずかに含む 良好 色: (A)2.5YR6/1 黄灰 (B)2.5YR6/1 黄灰	内面に返りがある 非クロロツクリ	(A) ヘラケズリ (B) ナデ	
SB-09 35図-10	壺	口径 底径 土師	20.8 8.3 口縫部-脚部	胎: 磁、雲母、磁、粗砂粒含む 良好 色: (A)7.5YR5/4 にぶい橙 (B)7.5YR5/3 にぶい梅	口縫部は外反する 粘土垂れ上昇 口縁部に面取りを施す	(A) 口縫部ヨコナデ、脚部タテ のヘラケズリ (B) 口縫部ヨコナデ ナナメ のナデ	
SB-09 35図-11	壺	口径 底径 土師	16.2 6.0 口縫部-脚部	胎: 磁、粗砂粒多量に含む 良好 色: (A)10YR7/3 にぶい黄橙 (B)10YR7/3 にぶい黄橙	張りのない脚部より外反して 口縫部に至る	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ	
SB-09 35図-12	壺	口径 底径 土師	24.0 12.5 — 口縫部-脚部	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A)10YR6/4 にぶい黄橙 (B)10YR6/4 にぶい黄橙	張りのない脚部より細曲して 「く」の字状に外反して口縫部に至る	(A) 口縫部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ (B) ナデ	
SB-09 35図-13	壺	口径 底径 土師	— 30.5 4.4 脚部-底部	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A)10YR6/4 にぶい黄橙 (B)10YR6/4 にぶい黄橙	張りのない脚部	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ	
SB-09 35図-14	壺	口径 底径 須恵	8.0 5.5 — 口縫部-脚部	胎: 粗砂粒わずかに含む 良好 色: (A)10YR6/4 にぶい黄橙 (B)10YR6/4 にぶい黄橙	脚部は口縫部へ向かって外反する 非クロロツクリ	(A) 脚部外反に二条の沈線を引く (B) ナデ	
SB-10 36図-1	深鉢	口径 底径 土師部-一部	— 7.9 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量含む 良好 色: (A)SYR4/6 赤褐 (B)7.5YR5/4 にぶい梅	口縫部の内側は砂線を持って 肥厚する 半蔵竹筋による沈線文と腰帶による文様構成	(A)	(B) ヨコのヘラケズリ
SB-10 36図-2	深鉢	口径 底径 須恵	— 5.3 — 突起部	胎: 石英多量に含む 良好 色: (A)SYR4/3 にぶい赤褐 (B)10YR6/4 にぶい黄橙	腰帶、沈線	(A)	(B)

第21表 土器観察表(6)

出土箇所 図版NO	器種 種類	法 量 存	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 様 か	
SB-10 36図-3	深鉢	口径 底径 口縁部一部	3.0 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量含む 燃: 良好 色: (A) 10YR7/4 に近い黄橙 (B) 7.5YR6/4 に近い橙	無文	(A) (A)
SB-10 36図-4	深鉢	口径 底径 口縁部一部	3.1 — —	胎: 石英含む 燃: 良好 色: (A) 5YR4/4 に近い赤褐 (B) 7.5YR4/4 に近い褐灰	沈線文	(A) (A)
SB-10 36図-5	深鉢	口径 底径 口縁部一部	4.9 — —	胎: 石英、雲母多量に含む 燃: 良好 色: (A) 7.5YR4/6 褐 (B) 5YR4/4 に近い赤褐	沈線文	(A) (A)
SB-10 36図-6	深鉢	口径 底径 口縁部一部	3.3 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 燃: 良好 色: (A) 7.5YR5/4 に近い褐 (B) 7.5YR6/4 に近い橙	沈線文	(A) (A)
ST-01 P-172 37図-1	高环 土師	口径 底径 环径 口縁部一部	6.5 — — 3/3	胎: 粗砂粒含む 燃: 良好 色: (A) 7.5YR7/3 に近い橙 N2/黒 (B) N2/黒 7.5YR6/3 に近い褐	接合部より開いてゆるく屈曲して口縁部に至る	(A) ヘラケズリ (A) ヘラミガキ
ST-01 P-184 37図-2	高环 土師	口径 底径 环径 口縁部一部	5.0 — — 10.2	胎: 粗砂粒わずかに含む 燃: 良好 色: (A) 7.5YR6/6 橙 (B) N2/黒	端部に向かって大きく聞く	(A) ミガキ ナデ (A) ケズリ ミガキ
ST-02 P-149 38図-1	环 土師 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	14.2 4.4 — —	胎: 雪、粗砂粒わずかに含む 燃: 良好 色: (A) 5TR6/6 橙 (B) 5TR6/6 橙	丸みのある体部	(A) 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ (A) ヘラミガキ
ST-02 P-116 38図-2	环 土師 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	2.6 — — —	胎: 粗砂粒含む 燃: 良好 色: (A) 10YR7/3 に近い黄橙 (B) N2/黒	丸みのある体部	(A) ヘラケズリ (A) ヘラミガキ 黒色処理
ST-02 P-116 38図-3	环蓋 須恵 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	L.3 — — —	胎: 粗砂粒含む 燃: 良好 色: (A) 7.5Y5/1 黄 (B) 7.5Y5/1 黄	口縁部先端で折れる	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
ST-02 P-116 38図-4	壺 土師 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	20.6 3.6 — —	胎: 雪、微砂粒多量に含む 燃: 良好 色: (A) 10YR5/2 褐褐 (B) 10YR5/2 褐褐 (C) 10YR5/2 褐褐	口縁部は外反する	(A) (A) ヘラケズリの後ヘラミガキ
ST-02 P-149 38図-5	壺 須恵 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	4.5 — — —	胎: 粗砂粒含む 燃: 良好 色: (A) 7.5Y5/1 黄 (B) 7.5Y5/1 黄	丸みのある副部	(A) タタキ目 (A) ナデ
ST-02 P-83 38図-6	壺 須恵 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	3.9 — — —	胎: 雪、粗砂粒多量に含む 燃: 良好 色: (A) 7.5YR5/4 に近い褐 (B) 7.5YR5/4 に近い褐	口縁部は外反する	(A) 漆描波状文 (A) ミガキ
ST-04 P-154 39図-1	环 土師 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	11.8 2.8 — —	胎: 粗砂粒多量に含む 燃: 良好 色: (A) 7.5YR5/6 明褐 (B) 7.5YR5/6 明褐	体部は浅く丸みを持ち、口縁部が先端で折れて立ち上がる	(A) 口縁部ナデ 体部ヘラケズリ (A)
SK-01 40図-1	鏡蓋 須恵 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	5.0 — 1.5 —	胎: 粗砂粒含む 燃: 良好 色: (A) 7.5Y5/1 黄 (B) 5Y5/2 黄オーリーブ	環状抓込み付す	(A) 回転ヘラケズリ (A) ロクロナデの後ナデ
SK-01 40図-2	环 須恵 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	15.4 4.4 — —	胎: 雪含む 燃: 良好 色: (A) 10Y4/1 黄 (B) 10Y5/1 黄	菱形の体部に高台を付す。高台は底盤の端につき、外側で接続する	(A) 底部回転ヘラケズリ (A)
SK-02 40図-1	壺 須恵 口縁部一部	口径 底径 环径 口縁部一部	— — 3.8 —	胎: 粗砂粒わずかに含む 燃: 良好 色: (A) N4/灰 (B) N4/灰		(A) タタキ目 (A) あて具痕

第22表 土器観察表(7)

台上身高 四面	器種類別	法規	量存	器 質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SK-03 40回-1	环	口径(16.2) 残高 3.3 底径 一 口縁部一部	胎: 細砂粒含む 焼: 良好 色: (A)5V3/1オリーブ黒 (B)5V3/1灰	体部は直線的に開く	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ	
SK-04 40回-1	甕	口径 一 残高 4.4 底径 一 肩部一部	胎: 微砂粒わずかに含む 焼: 良好 色: (A)5V6/1灰 (B)5V6/1灰		(A) タタキ目 (B) ナデ	
SK-05 40回-1	深鉢	口径(29.2) 残高 19.3 底径 一 口縁部・胴部	胎: 石英、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)7.5VR4/2 底板 (B)7.5VR5/2 底板		(A) 指ナデ (B) ヘラケズリ ヘラミガキ	
SK-05 40回-2	深鉢	口径 一 残高 9.7 底径 一 口縁部一部	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)7.5VR4/3 灰 (B)7.5VR4/3 灰	口縁部に無文帯を持つ 沈線文による文様	(A) ヘラケズリ (B)	
SK-05 40回-3	深鉢	口径 一 残高 5.0 底径 一 口縁部一部	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)7.5VR6/6 橙 (B)7.5VR6/6 橙 5/明褐	隆帯及び沈線による文様	(A) (B)	
SK-05 40回-4	深鉢	口径 一 残高 5.0 底径 一 口縁部一部	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)5VRS/6 明赤褐 (B)5VRS/6 灰	波状口縁 沈線文	(A) (B)	
SK-05 40回-5	深鉢	口径 一 残高 6.0 底径 一 口縁部一部	胎: 雲母、粗砂粒多く含む 焼: 良好 色: (A)5VRS/4 によい赤褐 (B)5VRS/4 極灰	胸部屈折する 沈線の文様構成	(A) (B)	
SK-05 40回-6	深鉢	口径 一 残高 4.0 底径 一 口縁部一部	胎: 雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)7.5VR5/6 明褐 (B)7.5VR7/4 によい橙	沈線と隆帯による文様構成	(A) (B)	
SK-05 40回-7	深鉢	口径(20.0) 残高 5.7 底径 一 口縁部一部	胎: 石英、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)7.5VR4/4 灰 (B)7.5VR4/2 底板	口縁部は内側に屈曲する 沈線文	(A) (B)	
SK-05 40回-8	深鉢	口径 一 残高 7.6 底径(11.8) 底高1/4	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)7.5VR5/6 明褐 6/6橙 (B)7.5VR6/4 によい橙	平底より大きく開いて脚部に 移行する 凹沈線を回転施文	(A) ケズリ ナデ (B)	
SK-05 40回-9	深鉢	口径 一 残高 10.5 底径 12.4 底部	胎: 石英、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)5VR4/4 によい赤褐 (B)5VRS/4 によい赤褐	平底	(A) (B)	
SK-05 40回-10	深鉢	口径 一 残高 8.0 底径 12.4 底部	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)7.5VR5/4 によい褐 (B)7.5VR5/4 によい褐	平底	(A) (B)	
SK-06 40回-1	皿	口径 14.4 残高 2.9 底径 5.4 土師	胎: 石英、雲母、細砂粒多軟 焼: 良好 色: (A)7.5VR6/6 橙 (B)N2/黑	体部は浅く直線的に伸び、高 台を付す	(A) 底部切りはなし後調整を 施す (B) ミガキ 黒色処理	
SK-06 40回-2	碗	口径 一 残高 1.5 (6.4) 底径 1/4 土師	胎: 石英、微砂粒わずかに含む 焼: 良好 色: (A)10VR3/1黒褐 (B)10VR3/1黒褐	高台を付す	(A) ヘラミガキ 黒色処理 (B) 黒色処理	
SK-07 40回-1	环	口径(16.2) 残高 3.4 底径 一 口縁部一部 土師	胎: 磨、粗砂粒多く含む 焼: 良好 色: (A)10VR4/2灰赤褐 (B)N2/灰	大きく開く体部	(A) ロクロナデ (B) ミガキ 黒色処理	
SK-07 40回-2	环	口径 一 残高 1.0 (6.0) 底径 一 土師	胎: 雲母、微砂粒わずかに含む 焼: 良好 色: (A)10VR6/4によい黄褐 (B)10VR6/4によい黄褐	平底	(A) 底部回転糸切り (B) ミガキ	

第23表 土器観察表(8)

古墳名及 図版番号	器種 種類	法線 度	量 程	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
SK-07 40回-3	环	口径 底径 高さ 厚さ	— 2.2 (4.8) —	胎：微砂粒わずかに含む 燒：良好 色：(A)10VR7/4によい黄褐 (B)10YR7/4によい黄褐	平底	(A) 底部回転糸切り (B) ミガキ
SK-07 40回-4	深鉢	口径 底径 高さ 厚さ	— 7.2 (4.8) —	胎：石英、雲母、粗砂粒多數含む 燒：良好 色：(A)7.5YR4/4 極灰 (B)7.5YR4/1 灰灰	沈線文	(A) (B)
SK-07 40回-5	深鉢	口径 底径 高さ 厚さ	— 4.5 (4.8) —	胎：石英、雲母、粗砂粒多數含む 燒：良好 色：(A)7.5YR5/4 によい褐 (B)7.5YR5/4 によい褐	腰帶と沈線による文様	(A) (B)
SK-08 40回-1	环蓋	外径 内径 高さ	— — 2.0 1/3	胎：鐵多量に含む 燒：良好 色：(A)5Y5/1灰 (B)5Y5/1灰	口縁部で折れ曲がる類のものと思われる	(A) 回転ヘラケズリ (B) ロクロナデ
SK-09 40回-1	口盤 7限鉢 40回-1	口径 底径 高さ 厚さ	(8.4) 6.0 — —	胎：粗砂粒多量に含む 燒：良好 色：(A)5YR5/6 明赤褐 (B)5YR5/3 によい赤褐	腰帶及び圓文施文	(A) (B)
SK-09 40回-2	深鉢	口径 底径 高さ 突起部	— — 10.0 —	胎：石英、雲母多量に含む 燒：良好 色：(A)5YR5/6 明赤褐 (B)5YR5/6 明赤褐	沈線文及び半肉彫	(A) (B)
SK-10 40回-1	深鉢	口径 底径 高さ 厚さ 口縁部一部	— — 4.2 — —	胎：雲母、鐵多量に含む 燒：良好 色：(A)10VR7/4によい黄褐 (B)10YR7/2によい黄褐	口縁部斷面状、内側に肥厚する 脚部沈線文	(A) (B)
SK-10 40回-2	深鉢	口径 底径 高さ 厚さ 口縁部一部	— — 7.0 — —	胎：粗砂粒含む 燒：良好 色：(A)10VR3/2黒褐 (B)10YR5/4によい黄褐	沈線文	(A) (B)
SK-10 40回-3	深鉢	口径 底径 高さ 厚さ 口縁部一部	— — 13.0 — —	胎：石英、粗砂粒多量に含む 燒：良好 色：(A)7.5YR6/6 極 (B)7.5YR6/1 灰灰	腰帶、圓文、沈線文による文様構成	(A) (B)
SK-10 40回-4	浅鉢	口径 底径 高さ 厚さ 口縁部一部	— — 11.2 — —	胎：雲母、粗砂粒多量に含む 燒：良好 色：(A)7.5YR6/4 によい褐 (B)7.5YR6/4 によい褐	口縁部が屈折する 腰帶文による文様	(A) (B) ミガキ 朱塗り
SK-10 40回-5	浅鉢	口径 底径 高さ 厚さ 口縁部一部	— — 10.5 — —	胎：雲母多量に含む 燒：良好 色：(A)7.5YR5/6 明褐 (B)7.5YR5/4 によい褐	口縁部は強く内窓する 口唇部は面取りが施される 口縁部に底帯による連続文	(A) 朱塗り (B) ミガキ 朱塗り
SK-10 40回-6	深鉢	口径 底径 高さ 厚さ 口縁部一部	— — 7.0 — —	胎：雲母、礫、多量に含む 燒：良好 色：(A)7.5YR4/3 極 (B)7.5YR5/4 によい褐	波状口縁 口縁部内側に肥厚する 沈線文及び半肉彫	(A) (B)
SK-10 40回-7	台付 鉢	口径 底径 高さ 厚さ 脚部一部	— — 3.9 — —	胎：雲母、粗砂粒多量に含む 燒：良好 色：(A)7.5YR6/6 極 (B)7.5YR5/6 明褐	外面に圓文 円形の透かしを入れる	(A) (B)
SK-11 40回-1	壺	口径 底径 高さ 厚さ 脚部一部	— — 10.8 — —	胎：礫わずかに含む 燒：良好 色：(A)5Y6/1灰 (B)5Y6/1灰		(A) タタキ目 (B) あて具痕
SK-11 40回-2	深鉢	口径 底径 高さ 厚さ 脚部一部	— — 6.0 — —	胎：石英、雲母、粗砂粒多數含む 燒：良好 色：(A)7.SYR3/2 黒褐 (B)7.SYR5/4 によい褐	沈線文	(A) (B)
SK-11 40回-3	深鉢	口径 底径 高さ 厚さ 口縁部付近	— — 6.0 — —	胎：雲母、礫多量に含む 燒：良好 色：(A)7.5Y7/3によい褐 (B)7.5Y7/3によい褐	横凹区画文	(A) (B)

第24表 土器観察表 (9)

出土場所 20番地	器種類別	法 規	量 存	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
SK-11 40番-4	深鉢 縄文	口径 底径 口縁部	3.0	胎: 石英、輝石、粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR6/3 ないし褐 (B) 7.5YR7/3 ないし橙	口縁部に平行沈線	(A) (B)
SX-03 41番-1	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	6.7	胎: 石英、粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR6/8 暗 (B) 7.5YR5/1 黒灰	腰帶	(A) (B)
SX-03 41番-2	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	2.8	胎: 石英、粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR5/4 ないし褐 (B) 7.5YR5/4 ないし褐	腰帶及び沈線文	(A) (B)
SX-03 41番-3	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	6.4	胎: 雪母、粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR6/4 ないし暗 (B) 7.5YR6/4 ないし暗	LR縄文及び腰帶	(A) (B)
SX-03 41番-4	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	2.2 5.8	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量含む 色: 良好 (A) 7.5YR5/4 ないし褐 (B) 7.5YR3/1 黒褐	平底	(A) ケズリ (B) ケズリ ナデ
SX-01 42番-1	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	3.3	胎: 石英、雲母多量に含む 色: 良好 (A) 10YR5/4 ないし暗褐 (B) 10YR6/4 ないし黄褐	沈線文	(A) (B)
SX-01 42番-2	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	4.1	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量含む 色: 良好 (A) 7.5YR6/6 褐 (B) 7.5YR5/4 ないし褐	腰帶文	(A) (B)
SX-01 42番-3	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	3.8	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量含む 色: 良好 (A) 7.5YR3/3 暗褐 (B) 7.5YR3/3 暗褐	腰帶及び沈線文	(A) (B)
SX-01 42番-4	壺 須恵	口径 底径 底径 口縁部	8.4	胎: 粗砂粒わずかに含む 色: やや甘い (A) 5Y7/1灰白 (B) 5Y7/1灰白		(A) タタキ目 (B) ナデ
SX-02 42番-1	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	3.0	胎: 石英、雲母多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR5/4 ないし褐 (B) 7.5YR5/4 ないし褐	腰帶及び縄文回転施文	(A) (B)
SX-02 42番-2	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	3.5	胎: 石英、粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR4/2 暗褐 (B) 7.5YR4/2 暗褐	LR縄文回転施文	(A) (B)
SX-02 42番-3	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	3.2	胎: 石英、粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR5/4 ないし褐 (B) 7.5YR5/4 ないし褐	縄文回転施文	(A) (B)
SD-01 43番-1	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	3.9	胎: 雪母、粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR5/6 明褐 (B) 7.5YR3/1 黒褐	腰帶及び沈線文	(A) (B)
SD-01 43番-2	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	2.7	胎: 粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR6/4 ないし暗 (B) 7.5YR6/4 ないし暗	沈線文	(A) (B)
SD-01 43番-3	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	3.5	胎: 粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR4/6 褐 (B) 7.5YR3/1 黒褐	沈線文	(A) (B)
SD-01 43番-4	深鉢 縄文	口径 底径 底径 口縁部	2.7	胎: 雪母、輝石、粗砂粒多量に含む 色: 良好 (A) 7.5YR4/6 褐 (B) 7.5YR4/2 暗褐	沈線文及びLR縄文	(A) (B)

第25表 土器観察表(10)

器上場	器種	法	量	存	器	質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SD-01	深鉢	口徑 底径	4.5	胎:	雲母、粗砂粒多量に含む	LH縦文回転施文	(A)	
43図-5	縄文	底部		色:	(A)7.5YR6/6 橙 (B)7.5YR4/2 灰褐		(A)	
SD-01	壺	口徑 底径	5.6	胎:	粗砂粒多量に含む			
43図-6	弥生	底部		色:	(A)7.5YR5/6 明褐 (B)7.5YR5/3 にぶい褐		(A) T字文 (A) ヘラケズリ	
SD-01	壺	口徑 底径	4.0	胎:	粗砂粒多量に含む			
43図-7	弥生	底部		色:	(A)7.5YR4/2 灰褐 (B)7.5YR5/4 にぶい褐		(A) 蔵描波状文 (A) ミガキ	
SD-02	深鉢	口徑 底径	19.2	胎:	石英、粗砂粒含む	平底より直線的に立ち上がる 腰帶による横円形区画文に縦 位の沈線文が施文される	(A)	
44図-1	縄文	底部	9.0	色:	(A)7.5YR5/6 明赤褐 (B)7.5YR4/3 にぶい赤褐		(A)	
SD-02	深鉢	口徑 底径	3.9	胎:	雲母、粗砂粒多量に含む	口縁部は内凹する	(A) ケズリ ナデ	
44図-2	縄文	底部		色:	(A)7.5YR5/6 明褐 (B)7.5YR5/6 明褐	口縁部は無文	(A) ケズリ ナデ	
SD-02	深鉢	口徑 底径	18.5	胎:	石英、雲母、粗砂粒多量	口縁部は被状を呈する	(A)	
44図-3	縄文	底部	11.2	色:	(A)7.5YR4/4 褐 (B)7.5YR4/4 褐	腰帶及び沈線文	(A) ケズリ	
SD-02	甌	口徑 底径	5.0	胎:	雲母、粗砂粒含む	底部に一孔を有する	(A) ヘラケズリ	
44図-4	弥生	底部	5.0	色:	(A)7.5YR3/4 暗赤褐 (B)7.5YR4/6 赤褐		(A) ヘラケズリ ナデ	
SD-02	壺	口徑 底径	3.2	胎:	粗砂粒含む			
44図-5	弥生	底部	10.0	色:	(A)7.5YR3/4 暗赤褐 (B)7.5YR4/6 赤褐			
SD-03	深鉢	口徑 底径	6.9	胎:	石英、雲母、粗砂粒多量	口縁部は被状を呈する 沈線と腰帶による文様構成	(A)	
45図-1	縄文	底部		色:	(A)7.5YR4/3 にぶい赤褐 (B)7.5YR5/6 明赤褐		(A)	
SD-03	深鉢	口徑 底径	5.0	胎:	石英、雲母、粗砂粒多量	口縁部は被状を呈する 沈線と腰帶による文様構成	(A)	
45図-2	縄文	底部		色:	(A)7.5YR5/6 明赤褐 (B)7.5YR3/3 暗赤褐		(A)	
SD-04	高环	口径 底径	24.3 20.3	胎:	雲母、粗砂粒含む	口縁部に山形突起を有し、脚 部に三角形の透しを持つ	(A) 环部ヨコミガキ 脚部タテ ミガキ 赤色彫形 (A) 环部ヨコミガキ 脚部ケズ リ 赤色彫形	
46図-1	弥生	底径 脚部	15.5 1/2	色:	(A)10R4/4 赤褐 (B)10R4/4 藍 5YR5/4 橙			
SD-04	壺蓋	胎径 底径	4.8 4.7	胎:	雲母、粗砂粒含む		(A) タテのミガキ	
46図-2	弥生	底部		色:	(A)5YR5/4 にぶい赤褐 (B)5YR5/4 にぶい赤褐		(A) ナデ	
SD-04	壺	口徑 底径	2.2	胎:	雲母、粗砂粒含む	平底	(A) ミガキ	
46図-3	弥生	底部	14.2	色:	(A)5YR6/6 橙 (B)5YR6/6 橙		(A) 剥落が著しい	
SD-04	壺	口徑 底径	24.6 15.6	胎:	粗砂粒含む	平底より立ち上がり、脚部は 下位に外縁を有する 粘土帯積み上げ	(A) 脚部上位ヨコミガキ 下位 タテミガキ 赤色彫形 (A) 不明	
46図-4	弥生	底径 脚部	15.6 1/2	色:	(A)7.5R4/1 暗 (B)7.5YR7/3 暗			
SD-05	壺	口徑 底径	1.7 (7.4)	胎:	粗砂粒含む	平底	(A) 底部回転糸切り	
47図-1	土師	底部		色:	(A)5Y4/1 暗 (B)5Y4/1 暗		(A) ナデ	
SD-05	壺	口徑 底径	3.0	胎:	粗砂粒含む		(A) ナデ	
47図-2	須恵	脚部		色:	(A)7.5YR5/1 梅灰 (B)7.5YR5/2 広梅		(A) ナデ	

第26表 土器観察表(11)

上巻	器種類	法 残 量 存	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
47図-3	深鉢	口径 底高 口縁部一部	5.7 — —	胎: 雲母、粗砂粒多量に含む 焼: 良好 色: (A) 5YR4/3 に近い赤褐 (B) 5YR4/6 赤褐	沈線文 (A) (B)
47図-4	深鉢	口径 底高 口縁部一部	— 4.6 —	胎: 雲母、粗砂粒多量に含む 焼: 良好 色: (A) 10YR5/3 に近い黄褐 (B) 10YR5/3 に近い黄褐	沈線文 (A) (B)
47図-5	深鉢	口径 底高 口縁部一部	— 6.0 —	胎: 雲母、粗砂粒多量に含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR4/6 暗褐 (B) 5YR5/6 明褐	口縁部は波状を呈する (A) (B)
47図-6	ミニ アーチ 鉢	口径 底高 底径 底部	— 1.5 3.2 —	胎: 細砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR3/2 黒褐 (B) 7.5YR3/1 黒褐	手捏ね (A) (B)
48図-1	環	口径(19.2) 底高 底径 口縁部一部	— 3.6 — —	胎: 細砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10YR6/3 に近い黄褐 (B) R2/ 黑	ゆるやかにのびる体部 (A) (B) ミガキ 黒色處理
48図-2	環	口径 底高 底径 底部3/4	— 1.2 6.2 —	胎: 多量に含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/6 橙 (B) 5Y4/1灰	平底 (A) 回転条切り (B) 黒色處理
48図-3	皿	口径(10.4) 底高 底径 口縁部一部	— 1.3 — —	胎: 細砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10YR7/3 に近い黄褐 (B) R2/ 黑	浅い体部 (A) ナデ (B) ミガキ 黒色處理
48図-4	碗	口径(14.0) 底高 底径 口縁部一部	— 3.3 — —	胎: 細砂粒含む 焼: 良好 色: (A) R2/ 黑 (B) R2/ 黑	ゆるやかに開く体部 (A) ミガキ 黒色處理 (B) ミガキ 黒色處理
48図-5	皿	口径(12.8) 底高 底径 口縁部一部	— 1.3 — —	胎: 細砂粒含む 焼: 良好 色: (A) R2/ 黑 (B) N2/ 黑	浅い体部 (A) ナデ 黒色處理 (B) ミガキ 黒色處理
49図-1	深鉢	口径 底高 底径 口縁部一部	— 7.9 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量 焼: 良好 色: (A) 7.5YR5/4 に近い褐 (B) 7.5YR7/4 に近い暗褐	沈線文 刺突文 交互刺突文 (A) (B)
49図-2	深鉢	口径 底高 底径 口縁部一部	— 3.5 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量 焼: 良好 色: (A) 7.5YR5/6 喷褐色 (B) 7.5YR5/6 喷褐色	半載竹管文 (A) (B)
49図-3	深鉢	口径 底高 底径 口縁部一部	— 4.2 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量 焼: 良好 色: (A) 7.5YR4/4 褐 (B) 7.5YR5/4 に近い褐	口縁部に連続した刺み目を入れる (A) (B)
49図-4	深鉢	口径 底高 底径 口縁部一部	— 4.7 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量 焼: 良好 色: (A) 7.5YR5/4 に近い褐 (B) 7.5YR6/4 に近い褐	椭円形区画文 沈線文 (A) (B)
49図-5	深鉢	口径 底高 底径 口縁部一部	— 4.6 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量 焼: 良好 色: (A) 7.5YR5/6 明褐 (B) 7.5YR4/2 灰褐	腰帯の曲線的な文様 (A) (B)
49図-6	深鉢	口径 底高 底径 口縁部一部	— 5.3 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒多量 焼: 良好 色: (A) 10YR5/4 に近い黄褐 (B) 10YR5/6 黄褐	粘土紐貼 腰帶 (A) (B)
49図-7	深鉢	口径 底高 底径 口縁部一部	— 5.6 — —	胎: 石英、粗砂粒多量に含む 焼: 良好 色: (A) 10YR7/3 に近い黄褐 (B) 10YR7/3 に近い黄褐	腰綫文 沈線文 (A) (B)

第27表 土器観察表 (12)

台土量 回数N	器種 種類	法 残 存	量 存	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 は か
SD-07 49回-8	深鉢	口径 底径 胸部一部	- 6.8	胎: 石英、雲母、粗砂粒多數 燒: 良好 色: (A) 10YR5/3 に近い黄褐色 (B) 7.5YR5/4 に近い褐	腰帶 沈線文	(A) (A)
SD-07 49回-9	深鉢	口径 底径 胸部一部	- 7.0	胎: 石英、雲母、粗砂粒多數 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/4 に近い褐 (B) 7.5YR5/3 に近い褐	腰帶 沈線文	(A) (A)
SD-07 49回-10	深鉢	口径 底径 口縫部一部	- 4.2	胎: 石英、雲母、粗砂粒多數 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/4 に近い褐 (B) 7.5YR5/3 に近い褐	蛇行沈線文 沈文	(A) (A)
SD-07 49回-11	深鉢	口径 底径 胸部一部	- 5.2	胎: 雲母、細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10YR6/6 明黄褐色 (B) 10YR6/6 明黄褐色	雨垂れ状沈線文	(A) (A)
SD-07 49回-12	深鉢	口径 底径 口縫部一部	- 6.3	胎: 細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR7/4 に近い棕褐色 (B) 7.5YR7/4 棕褐色 4/1褐灰	条線文 沈線文	(A) (A)
SD-07 49回-13	浅鉢	口径 底径 胸部一部	- 3.5	胎: 細砂粒多量に含む 燒: 良好 色: (A) 10YR6/3 に近い黄褐色 (B) 10YR6/3 に近い黄褐色	「8」字状貼付文	(A) (A)
SD-07 49回-14	浅鉢	口径 底径 口縫部一部	- 3.7	胎: 細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10YR6/6 明黄褐色 (B) 10YR7/4 に近い黄褐色	薄手	(A) (A)
SD-07 49回-15	浅鉢	口径 底径 口縫部一部	- 5.3	胎: 細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10YR6/6 明黄褐色 (B) 10YR6/2 暗赤褐色	「8」字状貼付文 刺突文 沈線文 沈文	(A) (A)
SD-07 49回-16	皿	口径 底径 上土 3/4	13.2 2.8 5.2	胎: 褐わずかに含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR6/4 に近い棕褐色 (B) 5YR6/6 棕	直線的に伸びる扁平な体部で 無台 ロクロつくり	(A) ナデ 底部回転糸切りの後 部分的にケズリ (B) ナデ
SD-08 50回-1	深鉢	口径(25.0) 底径(29.8) 胸部(8.0) 口縫部(1/3)	-	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5YR4/4 に近い赤褐色 (B) 5YR3/3 暗赤褐色	口縫部は波状を呈する 腰帶 沈線文 胸部は沈線文	(A) タテナデ ヘラケズリ (B) ミガキ
SD-08 50回-2	深鉢	口径 底径 胸部 口縫部	33.9 38.0 - -	胎: 石英、雲母、粗砂粒多數 燒: 良好 色: (A) 5YR4/4 に近い赤褐色 (B) 7.5YR4/3 褐	口縫部は波状を呈する 沈線文 腰帶 胸部は沈線文	(A) (A)
SD-08 50回-3	浅鉢	口径 底径 胸部 1/2	15.4 (11.2)	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5YR4/6 赤褐色 (B) 5YR4/6 赤褐色	平底より大きく開いて立ち上がり屈曲して内傾する口縫に 至る 腰帶 刀彫文 交互刺突文	(A) ヨコのケズリ (B) ヨコのケズリ ナデ
SD-08 50回-4	浅鉢	口径(22.4) 底径(11.8) 胸部 1/4	-	胎: 白色砂粒、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 2.5YR3/6 明赤褐色 (B) 10YR5/4 に近い黄褐色	台付鉢 沈線文と腰帶による渦巻状の 曲線	(A) (A)
SD-08 50回-5	深鉢	口径 底径 胸部 一部	6.6	胎: 石英多量に含む 燒: 良好 色: (A) 2.5YR4/6 赤褐色 (B) 5YR4/6 赤褐色	曲線的な沈線文	(A) (A)
SD-08 50回-6	深鉢	口径 底径 胸部 一部	10.0	胎: 白色砂粒、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10YR5/4 に近い黄褐色 (B) 10YR5/2 暗赤褐色	腰帶及び沈線文	(A) ケズリ (A)
SD-08 50回-7	深鉢	口径(14.5) 底径 胸部 1/4	7.4	胎: 石英、雲母含む 燒: 良好 色: (A) 2.5YR4/4 に近い赤褐色 (B) 10YR4/1 暗赤褐色	沈線と腰帶による文様構成 (A) (A) 茶色の付着物あり	(A) (A)

第28表 土器観察表 (13)

地土・遺占 図面NO	器種類 型	法 理	量 存	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
SD-08 50図-8	深鉢	口徑 底径 口辺部1/3	一 6.8	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 表:良好 色:(A)7.5YR3/3 明赤 (B)7.5YR2/2 黒褐	沈線と底帯による文様構成 沈線	(A) (B) 茶色の付着物あり
SD-08 50図-9	深鉢	口徑 底径 口辺部一部	一 16.6 16.6	胎:石英多量に含む 表:良好 色:(A)5YR6/6 橙 (B)5YR5/6 明赤褐	口縁部は波状を呈する 沈線文	(A) (B)
SD-08 50図-10	深鉢	口徑 底径 口辺部一部	一 7.8	胎:石英多量に含む 表:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (B)5YR3/2 明赤褐	横円形区画文	(A) (B)
SD-08 50図-11	深鉢	口徑 底径 口辺部一部	一 3.7	胎:雲母多量に含む 表:良好 色:(A)10YR4/3 に近い黄褐 (B)10YR4/3 に近い黄褐	沈線文及び列点文	(A) (B)
SD-08 50図-12	深鉢	口徑 底径 口辺部一部	一 8.0	胎:白色砂粒、雲母含む 表:良好 色:(A)7.5YR5/6 明赤 (B)7.5YR3/1 黒褐	脚部から口縁部にかけて屈曲 内凹する 底帯による区画及び縦線沈線文	(A)ケズリ (B)ヘラケズリ
SD-08 50図-13	深鉢	口徑 底径 口辺部一部	一 5.1	胎:石英、雲母含む 表:良好 色:(A)7.5YR5/4 に近い褐 (B)7.5YR4/6 海	交互刺突文 沈線文 LR調文	(A) (B)
SD-08 50図-14	ミニ チャ ア 調文	口徑 底径 口辺部1/4	(3.7) 1.8 —	胎:雲母多量に含む 表:良好 色:(A)7.5YR4/4 楊 (B)7.5YR5/6 明褐	手捏ね	(A) (B)
SD-08 50図-15	壺	口徑 底径 底辺部1/2	4.9 (9.2) —	胎:雲母、細砂粒含む 表:良好 色:(A)5YR6/6 橙 (B)R2 黒	平底より内凹して開く ロクロつくり	(A)底部回転糸切り ロクロナ (B)ミガキ 黒色處理
SD-09 51図-1	浅鉢	口徑 底径 口辺部一部	3.5 — —	胎:石英、雲母多量に含む 表:良好 色:(A)7.5YR4/2 楊 (B)7.5YR4/6 褐	内面に交互刺突文を施す	(A) (B)
SD-09 51図-2	深鉢	口徑 底径 口辺部一部	5.2 — —	胎:石英、雲母多量に含む 表:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (B)5YR5/4 に近い赤褐	LR調文 沈線文	(A) (B)
SD-09 51図-3	壺	口徑 底径 底辺部一部	7.4 — —	胎:粗砂粒多量に含む 表:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (B)5YR5/6 明赤褐	丸みのある肩部よりゆるやか に外反して頸部に移行する 肩部調整の後ナデ	(A)標識斜状文 (B)肩部調整の後ナデ
SD-09 51図-4	壺	口徑 底径 底辺部	1.7 10.4 —	胎:粗砂粒多量に含む 表:良好 色:(A)5YR3/3 明赤褐 4/6赤褐 (B)5YR4/6 赤褐	平底	(A)木葉模 削痕ハラケズリ (B)指ナデ
SD-09 51図-5	壺	口徑(13.3) 底高 底径 底辺部元	4.6 10.0 —	胎:粗砂粒わずかに含む 表:良好 色:(A)5BS/1 青灰 (B)N6 灰	高台付の底部より直線的に立 ち上がり口縁部に至る 高台 は内面で接觸する ロクロつくり	(A)底部高台の周辺に回転ヘラ ケズリ 中央ナデ (B)高台内側に粘土付着
SD-09 51図-6	壺	口徑(16.6) 底高 底径 底辺部3/4	4.5 10.0 —	胎:粗砂粒わずかに含む 表:良好 色:(A)7.5Y5/1 灰 (B)N6 灰	高台付の底部より外傾しながら 立ち上がり口縁部に至る 高台は平面で接觸する ロクロつくり	(A)底部回転ヘラケズリ (B)ナデ
SD-09 51図-7	壺	口徑(17.2) 底高 底径 口縁部・脚部	15.8 — —	胎:石英、雲母、礫含む 表:良好 色:(A)5YR6/6 橙 (B)7.5YR5/2 明赤褐	脚部は張りがなく、口縁部は ゆるやかな「く」の字状に外 反する 粘土帶積み上げ	(A)脚部タテのヘラケズリ 脚部、口縁部ヨコナデ (B)ヨコナデ
SD-09 51図-8	長頸 壺	口徑 底高 底径 口縁部・頸部	12.6 8.5 —	胎:粗砂粒わずかに含む 表:良好 色:(A)5Y5/2/灰オリーブ (B)7.5Y5/2/灰オリーブ	口縁部は外反する ロクロつくり	(A)自然釉 (B)口縁部ケズリ 自然釉

第29表 土器観察表 (14)

出土場所 回収NO	器種 種類	法 式	量 存	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
SD-09 51回-9	壺	口径 底径 須底	- 8.5 一部	胎:石英、礫、細砂粒極げに含む 焼:良好 色:①NS/灰 ②NG/灰	頸部は「く」の字状に屈曲して外反する ロクロつくり	(A) ロクロナデ 波状文 (A) 青海波文
P-14 52回-1	壺蓋	胎径 底径 須底	- 2.7 11.2 4/4	胎:粗砂粒わずかに含む 焼:良好 色:①10VS/1 灰 ②10VS/1 灰	内面に返りがつく ロクロつくり	(A) 回転ヘラケズリ ナデ (A) ナデ
P-14 52回-2	壺	口径 底径 須底	- 2.6 6.2 1/6	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:①10VS/1 灰 ②10VS/1 灰	平底 ロクロつくり	(A) 武部ヘラカリ (A) ロクロナデ
P-71 52回-3	壺	口径 底径 須底	(9.2) 2.2 一部	胎:粗砂粒わずかに含む 焼:良好 色:①7.5VS/1 灰 ②7.5VS/1 灰	蓋受けを持ち、受け部から口 縁部にかけて立ち上がりを持つ	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
P-150 52回-4	壺蓋	胎径 底径 須底	- 2.4 11.8 1/2	胎:礫わずかに含む 焼:良好 色:①5VS/1 灰 ②5VS/1 灰	内面に返りを持つ	(A) 回転ヘラケズリ ナデ (A) ロクロナデ
P-156 52回-5	深鉢	口径 底径 須底 口縫部一部	- 6.2 1/2	胎:石英、雲母多量に含む 焼:良好 色:①7.5TR4/1 灰褐 ②7.5TR5/4 にぶい褐	内側に縦を持って肥厚する 沈線文 交叉網文	(A) (A)
P-175 52回-6	壺	口径 底径 須底	(16.0) 2.7 一部	胎:白色砂粒、纏合む 焼:良好 色:①5T/1 灰白 ②5T/1 灰白	蓋受けを持ち、受け部から口 縁部にかけて立ち上がりを持つ	(A) 回転ヘラケズリ (A) ナデ
P-198 52回-7	高杯	口径 底径 接合部1/2	- 4.8	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:①7.5VR6/6 横 ②2/2 黒	杯部を脚部にはめこむ	(A) 杯部ミガキ (A) 杯部ミガキ 黒色處理
P-222 52回-8	深鉢	口径 底径 須底 口縫部一部	- 4.9	胎:石英、雲母多量に含む 焼:良好 色:①7.5VR4/2 灰褐 ②7.5TR4/2 灰褐	内寄する口縫部 座帯及び沈線文	(A) (A)
P-234 52回-9	皿	口径 底径 須底 2/3	(16.0) 3.3 11.0 2/3	胎:礫わずかに含む 焼:良好 色:①10VR6/1 灰 ②10VR6/1 灰	浅い体部	(A) 底部回転ヘラケズリ (A) ナデ 内面に付着物
P-248 52回-10	高杯	口径 底径 須底 1/4	(13.4) 5.1	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:①7.5VR6/6 横 ②7.5VR6/6 横	丸みのある輪形の杯部	(A) ヘラミガキ ヘラケズリ (A) ヘラミガキ
P-281 52回-11	深鉢	口径 底径 須底 脚部一部	- 5.3	胎:石英多量に含む 焼:良好 色:①7.5VR5/2 灰褐 ②7.5VR5/2 灰褐	ゆるやかに折曲する 座帯 半起座縫 沈線文	(A) (A)
P-281 52回-12	深鉢	口径 底径 須底 脚部一部	- 4.8	胎:雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色:①7.5VR6/3 にぶい褐 ②7.5VR6/3 にぶい褐	沈線文 座帯	(A) (A)
P-281 52回-13	台付 鉢	口径 底径 須底 脚部	- 5.9 7.6	胎:石英、雲母、粗砂粒多量 焼:良好 色:①7.5VR6/6 横 ②7.5VR5/6 明褐		(A) ヘラケズリ ナデ (A) ヘラケズリ ナデ
P-300 52回-14	深鉢	口径 底径 須底 脚部一部	- 5.3	胎:雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色:①7.5VR6/4 にぶい横 ②7.5VR6/4 にぶい横	座帯 沈線文	(A) (A)
P-301 52回-15	深鉢	口径 底径 須底 脚部一部	- 8.0	胎:粗砂粒多く含む 焼:良好 色:①7.5VR4/2 灰褐 ②7.5VR4/2 灰褐	沈線文	(A) (A)

第30表 土器観察表(15)

土器名 目録No	器種類 別	法 線	量 存	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 は か
P-301 52回 -16	深鉢 圓文	口径 底径 部	一 4.2	胎:粗砂粒含む 燒:良好 色:①7.SYR5/3 によい褐色 ②7.SYR4/1 黒褐	腰帯 沈線文 亂綱文	(A) (A)
P-304 52回 -17	深鉢 圓文	口径 底径 部	一 10.1	胎:粗砂粒多量に含む 燒:良好 色:①SYR5/6 明赤褐 ②SYR5/6 明赤褐 4/1褐色	腰帯 沈線文	(A) (A)
P-304 52回 -18	深鉢 圓文	口径 底径 部	(23.2) 13.3	胎:石英、雲母多量に含む 燒:良好 色:①7.SYR4/3 褐 ②7.SYR4/3 褐	口縁部は直線的に開き、脚部 は斜状を呈する 口縁部は無文帶 脚部は縦位 沈線文、角押文	(A) (A)
P-304 52回 -19	深鉢 圓文	口径 底径 部	一 5.9	胎:雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:①7.SYR4/2 壮褐色 ②7.SYR4/2 壮褐色	腰帯貼付、沈線文	(A) (A)
S27E42 53回 -1	深鉢 圓文	口径 底径 部	24.4 6.0	胎:石英、織多く含む 燒:良好 色:①SYR5/6 明赤褐 ②SYR4/3 によい褐色	四単位の把手が付くと思われる 底部上部に底台にかかる所 の切り込みが入る 腰帯 沈線文 亂綱文	(A) (A)
S30E42 53回 -2	深鉢 圓文	口径 底径 部	43.6 6.0	胎:石英、雲母、織、粗砂粒含む 燒:良好 色:①7.SYR5/4 によい褐色 ②7.SYR5/4 によい褐色	四単位の把手が付くと思われる 腰帯 沈線文 亂綱文	(A) (A)
S33E42 53回 -3	深鉢 圓文	口径 底径 部	16.2 (7.0)	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:①7.SYR5/6 橙 ②7.SYR3/2 黒褐	底部は台を有する 沈線文及び腰帯	(A) (A)
S33E45 53回 -4	深鉢 圓文	口径 底径 部	(16.0) 7.3	胎:石英、雲母、織、粗砂粒含む 燒:良好 色:①7.SYR5/6 明赤褐 ②7.SYR4/3 褐	口縁部は斜面状を呈する 脚部に乱綱文	(A) (A)
S33W39 53回 -5	深鉢 圓文	口径 底径 部	8.8 8.0	胎:石英、雲母、織、粗砂粒含む 燒:良好 色:①SYR4/6 赤褐 ②SYR4/6 赤褐	沈線文	(A) (A)
S33E45 53回 -6	台付 上器	口径 底径 部	6.0 10.0	胎:石英、雲母、織、粗砂粒含む 燒:良好 色:①10YR5/3 によい黄褐 ②10YR5/4 によい黄褐	透かしを持つ 圓文	(A) (A)
S36E42 53回 -7	台付 鉢	口径 底径 部	5.6 13.2	胎:石英、雲母含む 燒:良好 色:①7.SYR7/4 によい橙 ②SYR5/6 明赤褐	四単位の透かしを有すると推定される	(A) ナデ (A) ナデ
S30E42 53回 -8	深鉢 圓文	口径 底径 部	16.1 7.7	胎:雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:①SYR4/6 赤褐 ②2.5 SYR5/8 明赤褐	平底より立ち上がり内窓して 口縁部に至る 口縁部は内側 に折れで厚厚する 粘土帶積み上げ	(A) ナデ (A) ナデ ミガキ
S33E42 53回 -9	深鉢 圓文	口径 底径 部	4.5 1.0	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:①SYR5/4 によい赤褐色 ②7.SYR6/3 によい褐色	沈線文	(A) (A) ナデ
S33E42 53回 -10	深鉢 圓文	口径 底径 部	5.1 1.0	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:①SYR5/6 明赤褐 ②10YR6/4 によい黄褐	沈線文	(A) (A) ナデ
S33E42 53回 -11	深鉢 圓文	口径 底径 部	5.9 1.0	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:①SYR4/6 赤褐 ②7.SYR7/3 によい橙	沈線文	(A) (A) ナデ
S33E42 53回 -12	深鉢 圓文	口径 底径 部	2.0 1.0	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:①SYR6/4 によい橙 ②SYR5/6 明赤褐	沈線文	(A) (A) ナデ

第31表 土器観察表(16)

出土場所 目次	器種類別	法規 量存	器 質	成形・形態・文様ほか	整形ほか	
S24E36 53回 -13	深鉢	口径 底径 縁部一部	6.0 5.0 5.0	胎: 石英、雲母含む 色: (A) 7.5YR5/4 にぶい褐 (B) 7.5YR6/4 にぶい橙	沈線文 刺突文 口縁部は内側に折れる 口縁部に突起を有する 沈線文 刺突文	(A) (B) ナデ (B) ナデ
S33E42 53回 -14	深鉢	口径 底径 縁部一部	- 7.5 7.5	胎: 石英、雲母含む 色: (A) 10YR6/4 にぶい黄 (B) 7.5YR7/4 にぶい黄	口縁部は内側に折れる 口縁部に突起を有する 沈線文 刺突文	(A) ナデ (B) ナデ
S33E42 53回 -15	深鉢	口径 底径 突起部	- 7.5 -	胎: 石英、雲母含む 色: (A) 10YR6/3 にぶい黄 (B) 10YR5/3 にぶい黄	沈線文	(A) (B) ナデ
S30E36 53回 -16	深鉢	口径 底径 縁部一部	- 7.0 -	胎: 雲母、粗砂粒含む 色: (A) 10YR5/3 にぶい黄 (B) 10YR6/3 にぶい黄	沈線文	(A) (B) ケズリ ナデ
S33E45 53回 -17	深鉢	口径 底径 口縁部・脚部	21.0 -	胎: 石英、雲母、鐵、粗砂粒含む 色: (A) 5YR5/4 にぶい赤褐 (B) 5YR5/4 にぶい赤褐	脚部より口縁部に向かって緩やかに外反する 口縁部に突起を有する 彫刻文 唐草文	(A) (B)
S27E36 53回 -18	深鉢	口径 底径 口縁部一部	- 5.3 -	胎: 雲母、粗砂粒多く含む 色: (A) 5YR5/6 明赤褐 (B) 5YR4/1 梅紅	キャリバー形 底帯による曲線文	(A) (B) ヘラケズリ ナデ
S27E36 53回 -19	深鉢	口径 底径 口縁部一部	- 5.6 -	胎: 雲母、石英含む 色: (A) 5YR6/2 黄褐 (B) 5YR6/2 黄褐	キャリバー形を呈すると退われる 底帯による貼付文	(A) (B) ヘラケズリ
S27E36 53回 -20	深鉢	口径 底径 口縁部一部	- 9.5 -	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR6/6 橙 (B) 7.5YR5/3 にぶい褐	脚部から口縁部にかけてくびれない 底帯 上闇文	(A) (B) ケズリ ナデ
Z 53回 -21	深鉢	口径 底径 口縁部一部	- 6.0 -	胎: 粗砂粒わずかに含む 色: 良好 (A) 10YR2/1 黒褐 (B) 10YR4/2 淡黄褐	口縁部は波状を呈する 口縁部は内側に肥厚する 断面輪廓成 沈線文区画の後 上闇文を充填する	(A) ていねいなミガキ (B) ていねいなミガキ
Z 53回 -22	浅鉢	口径 底径 口縁部一部	- 6.0 -	胎: 粗砂粒わずかに含む 色: 良好 (A) 10YR4/1 黑褐 (B) 10YR4/2 黑褐	握手がつくものと呂われる 断面輪廓成 沈線文区画内 を上闇文によって充填する	(A) ていねいなミガキ (B) ていねいなミガキ
Z 53回 -23	深鉢	口径 底径 底部(1/3) 底部	- 3.5 -	胎: 粗砂粒わずかに含む 色: 良好 (A) 5YR6/6 橙 (B) 5YR6/6 橙	平底	(A) 底部あじろ痕 (B) ケズリ ナデ
S24E30 53回 -24	壺	口径(12.5) 基高 底径 口縁部・脚部	11.9 5.4 5.4	胎: 雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5YR7/2 黄褐 (B) 5YR4/2 黄褐	平底より立ち上がり脚部より 外反する口縁部に至る	(A) 脚部に模様文を施す 脚部 に波状文を施す ヘラケズリ (B) ヘラケズリ ヘラミガキ
Z 53回 -25	合付 壺	口径 基高 底径 脚部	- 4.3 7.0	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5YR5/4 にぶい褐 (B) 5YR5/4 にぶい褐	脚部は「ハ」の字状に開く	(A) 脚部タテの刺突文調整 (B) 脚部輪郭ケズリの後ナデ 底部底部に黒色付着物
N21W6 53回 -26	壺	口径(13.5) 基高 底径 底部・脚部	4.6 5.2 5.2	胎: 石英、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5YR7/6 橙 (B) M2/黑	平底で緩やかに口縁部に至る	(A) 底部回転糸切り (B) 黒色処理 ナデ
Z 53回 -27	壺	口径 基高 底径 底部	- 1.6 5.5	胎: 雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5YR7/4 にぶい褐 (B) M2/黑	高台を付す	(A) 底部回転糸切り裏 (B) ミガキ 黒色処理
Z 53回 -28	壺	口径 基高 底径 底部	- 1.8 (6.0)	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) M2/黑 (B) M2/黑	高台を付す	(A) ミガキ 黒色処理 (B) ミガキ 黒色処理

第32表 土器観察表 (17)

出土場所 図版No	器種類別	法線 量存	器	質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
Z 53回 -29	皿 上部	口径 底高 底径 一部	口径 1.3	胎: 露母、粗砂粒含む 表: 直射 色: (A)R2/黒 (B)R2/黒	高台を付す	(A) 底部へラナデ 黒色處理 (B) ミガキ 黒色處理
Z 53回 -30	環蓋 須恵	抓壙 底高 底径 大升部	抓壙 4.5	胎: 露母、粗砂粒含む 表: 直射 色: (A)10V5/1 黒 (B)10V5/1 黒	扁平な抓みを有する ロクロつくり	(A) 回転ヘラケズリ ナデ (B) ナデ
Z 53回 -31	環蓋 須恵	抓壙 底高 底径 一部	抓壙 2.1	胎: 粗砂粒含む 表: 直射 色: (A)M4/灰 (B)M4/灰	口縁部端部が小さく折れる	(A) 回転ヘラケズリ ナデ (B) ナデ
S36E45 53回 -32	坏 須恵	口径 底高 底径 口縁部 一部	口径 4.5	胎: 粗砂粒含む 表: 直射 色: (A)M5/灰 (B)M5/灰	高台を付す ロクロつくり	(A) ロクロナデ 底部回転ヘラ ケズリ (B) ロクロナデ
Z 53回 -33	鉢 陶器	口径 底高 底径 底部1/2	口径 1.7	胎: 粗砂粒含む 表: 直射 色: (A)STW2/4 斜暗赤褐 (B)STW2/4 斜暗赤褐	高台を付す ロクロつくり	(A) 壁部及び底部に施釉 (B) 壁部に施釉
Z 53回 -34	甕 須恵	口径 底高 底径 口縁部 一部	口径 6.4	胎: 粗砂粒含む 表: 直射 色: (A)M4/灰 (B)M4/灰	口縁部は外反する 口縁帯を 有する	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ

第33表 土器観察表(18)

図版No	出土場所	種類	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質	備考
第54回-1	SB-07	石織	2.7	1.8	0.4	1.10	黒曜石	凹基 有茎
2	SB-07	石織	(2.4)	(1.6)	0.3	0.82	黒曜石	凹基 無茎
3	SB-07	石織	3.3	(1.1)	0.4	1.12	黒曜石	凹基 無茎
4	SB-07	石織	(1.6)	1.8	0.3	0.87	玉髓	凹基 無茎
5	SB-07	石織	(1.7)	(1.4)	0.3	0.45	黒曜石	基部欠損
6	SB-07	石織	(1.3)	(0.9)	0.3	0.33	黒曜石	基部欠損
7	SK-05	石織	(3.2)	2.4	0.9	6.31	黒曜石	凹基 無茎
8	SK-09	石織	(3.9)	1.9	0.4	2.97	黒曜石	凹基 無茎
9	SD-02	石織	(0.8)	(0.7)	0.3	0.09	黒曜石	凹基 無茎 欠損
10	SD-04	石織	2.4	1.1	0.5	1.11	流紋岩	基部欠損
11	SD-04	石織	(1.5)	1.8	0.3	0.76	黒曜石	凹基 無茎 欠損
12	SD-07	石織	3.2	1.6	0.4	1.42	硬砂岩	凹基 無茎
13	P-272	石織	2.2	1.7	0.3	0.76	黒曜石	凹基 無茎
14	S27E39	石織	2.6	1.9	0.5	1.99	玄武岩	凹基 無茎
15	S33E42	石織	1.8	1.1	0.3	0.34	玉髓	凹基 無茎
16	S36E42	石織	(2.4)	1.2	0.4	0.60	玉髓	凹基 無茎 欠損
17	S30E39	石織	(1.4)	(1.2)	0.2	0.19	黒曜石	凹基 無茎 欠損
18	Tr-04	石織	(2.7)	(1.7)	0.4	1.48	黒曜石	凹基 無茎
19	Z	石織	(2.1)	(1.4)	0.4	0.83	黒曜石	凹基 無茎
20	Z	石織	(1.6)	(1.4)	0.4	0.70	黒曜石	凹基 無茎 欠損
21	N6E21	石織	(2.0)	(1.2)	0.2	0.45	黒曜石	凹基 無茎 欠損

第34表 石器観察表(1)

図版 No.	出土場所	種類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	材質	備考
第54-22	S30E36	石鎌	1.7	1.4	0.3	0.55	黒曜石	平基 無茎
23	Tr-02	石鎌	(1.7)	1.6	0.4	0.89	黒曜石	平基 無茎 欠損
24	S33E39	石鎌	(1.8)	1.4	0.4	0.90	黒曜石	平基 無茎 欠損
25	S21E33	石鎌	(2.2)	2.0	0.5	2.45	チャート	平基 無茎 欠損
26	Z	石鎌	(1.7)	1.7	0.4	0.85	黒曜石	平基 無茎 欠損
27	S27E39	石鎌	(1.8)	1.4	0.5	1.20	黒曜石	平基 無茎 未製品 欠損
28	S33E45	磨石	8.2	8.2	(3.0)	204.0	安山岩	擦痕及び敲痕あり
29	SB-07	打製石斧	8.5	4.2	1.6	66.5	玄武岩	彫形 円刃 完形
30	SB-07	打製石斧	(10.7)	8.1	2.1	166.0	安山岩	彫形 円刃 基部欠損
31	SB-07	打製石斧	11.5	4.9	2.2	144.0	玄武岩	彫形 扇刃 完形
32	SB-07	打製石斧	9.5	5.3	1.8	99.5	玄武岩	彫形 扇刃 完形
33	SB-07	打製石斧	(9.5)	4.8	2.4	115.5	安山岩	彫形 直刃 基部欠損
34	SB-07	打製石斧	(8.0)	5.2	1.9	101.0	安山岩	彫形 刃部欠損
35	SB-07	打製石斧	9.3	4.6	2.3	106.0	チャート	短彫形 円刃 完形
36	SB-07	打製石斧	(8.3)	5.0	1.7	101.0	玄武岩	短彫形 円刃 基部、刃部欠損
37	SB-07	打製石斧	(6.3)	4.2	1.2	39.0	玄武岩	短彫形 直刃 基部欠損
38	SB-10	打製石斧	(8.7)	6.2	2.8	186.0	玄武岩	彫形 刃部欠損
39	SB-10	打製石斧	(7.3)	5.0	2.7	107.5	玄武岩	分彫形 円刃 基部欠損
40	SK-05	打製石斧	8.4	3.5	1.7	62.0	安山岩	彫形 円刃 完形
41	SK-05	打製石斧	(10.9)	5.0	1.3	64.5	玄武岩	彫形 円刃 刃部欠損
42	SK-10	打製石斧	(8.8)	5.4	2.0	96.0	流紋岩	彫形 刃部欠損
43	SK-03	打製石斧	(6.5)	5.0	1.2	38.5	玄武岩	分彫形 直刃 基部欠損
44	SD-04	打製石斧	(9.8)	5.1	1.7	96.0	ひん岩	彫形 刃部欠損
45	SD-06	打製石斧	8.8	5.3	1.5	99.0	ひん岩	彫形 円刃 完形
46	SD-07	打製石斧	(9.2)	4.3	2.0	76.0	玄武岩	短彫形 刃部欠損
47	SD-09	打製石斧	(10.0)	5.3	2.6	165.0	流紋岩	彫形 直刃 基部欠損
48	P-218	打製石斧	(8.3)	4.4	2.0	88.5	頁岩	彫形 刃部欠損
49	P-271	打製石斧	(10.3)	4.8	1.3	99.5	頁岩	短彫形 円刃 基部欠損
50	P-278	打製石斧	(7.3)	4.0	1.7	53.0	玄武岩	彫形 刃部欠損
51	P-289	打製石斧	(8.7)	5.1	1.9	118.5	流紋岩	彫形 直刃 基部欠損
52	Z	打製石斧	10.8	3.8	1.9	82.0	安山岩	彫形 円刃 完形
53	S33E39	打製石斧	11.0	5.8	2.0	122.0	安山岩	彫形 円刃 完形
54	S27E39	打製石斧	(9.6)	5.7	1.2	89.0	流紋岩	彫形 円刃 基部欠損
55	S30E42	打製石斧	11.5	5.2	1.6	99.0	玄武岩	彫形 扇刃 完形
56	S33E45	打製石斧	8.6	4.7	1.8	62.0	玄武岩	彫形 扇刃 完形
57	Tr-06	打製石斧	8.1	4.3	1.7	59.0	玄武岩	彫形 扇刃 完形
58	S33E39	打製石斧	(10.0)	5.1	2.4	120.5	玄武岩	彫形 扇刃 基部欠損
59	S30E39	打製石斧	(7.4)	4.8	1.3	62.5	安山岩	彫形 刃部欠損
60	Z	打製石斧	(6.8)	4.4	1.3	49.0	安山岩	彫形 刃部欠損
61	S33E36	打製石斧	(8.7)	4.8	1.7	76.0	安山岩	彫形 刃部欠損

第35表 石器観察表(2)

図版 No	着土着点	種類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	材質	備考
第54-62	S33E45	打製石斧	(8.5)	4.7	1.3	66.0	安山岩	縦形 刃部欠損
63	Z	打製石斧	(7.1)	5.0	1.9	75.0	安山岩	縦形 刃部欠損
64	Tr-05	打製石斧	8.2	4.2	1.8	74.5	安山岩	短縦形 円刃 完形
65	S33E42	打製石斧	(8.5)	4.4	1.7	69.5	安山岩	短縦形 円刃 基部欠損
66	S33E44	打製石斧	(10.2)	5.3	2.6	166.0	玄武岩	短縦形 円刃 基部欠損
67	S33E39	打製石斧	(10.3)	4.8	2.6	121.0	玄武岩	短縦形 円刃 基部欠損
68	S30E38	打製石斧	(8.4)	4.1	1.8	88.5	安山岩	短縦形 刃部欠損
69	S30E42	打製石斧	8.0	5.8	2.1	101.0	流紋岩	分側形 円刃 完形
70	S30E36	打製石斧	16.6	5.2	2.3	261.5	緑泥片岩	円刃 完形 長い
71	S27E39	打製石斧	8.8	4.5	2.4	82.5	安山岩	抓状の小突起を有する
72	SD-02	磨製石斧	(10.0)	5.2	2.3	195.0		定角式 基端及び刃部欠損
73	S24E33	磨製石斧	8.9	4.4	2.5	161.5	石英岩	定角式 基端及び刃部欠損
74	Z	磨製石斧	9.1	4.4	3.0	158.0	玄武岩	定角式 基端及び刃部欠損
75	SB-07	磨製石斧	(2.5)	1.6	1.2	6.41	チャート	定角式 ミニチュア 欠損
76	Z	磨製石斧	4.1	2.9	1.5	32.5	チャート	定角式 ミニチュア
77	S30E42	石錐	(2.8)	0.9	0.6	1.36	黒耀石	抓部欠損
78	SB-07	凹石	12.4	7.9	4.1	532.0	安山岩	
79	SB-07	凹石	8.7	7.0	4.1	289.5	安山岩	
80	SB-07	凹石	9.0	7.6	3.8	242.0	安山岩	
81	SK-05	凹石	10.4	7.7	5.4	442.0	安山岩	
82	S30E39	凹石	12.4	7.4	4.5	569.0	安山岩	
83	Z	凹石	14.3	8.4	4.2	669.5	安山岩	
84	SB-07	砥石	15.3	6.8	4.6	739.0	安山岩	
85	SB-07	砥石	16.5	5.3	3.7	630.0	安山岩	
86	SK-05	砥石	8.5	6.9	5.0	186.0		
87	SB-07	石匙	(4.4)	2.8	0.8	9.68	チャート	縦形 先端が尖る 抓部欠損
88	Z	石匙	(2.6)	0.9	0.7	1.24	黒耀石	縦形 抓部欠損
89	S33E45	刃器	6.2	8.7	2.3	142.0	安山岩	一部欠損
90	S33E45	刃器	5.5	9.1	1.5	79.5	玄武岩	一部欠損
91	SD-02	石製円盤	7.0	7.2	1.4	112.0	石英安山岩	
92	S33E45	石棒	15.8	10.3	9.0	2110.0	安山岩	

第36表 石器観察表(3)

古土壤 回収No	器種 種類	法 残	量 存	材 質	成形・形態・文様ほか	整 形 ・ 調 整 は か
SK-10	土偶	高さ	(5.7)	胎: 露母、石英を多量に含む 燒: 良好 色: (A) 5YR5/6 明赤褐 (B) 5YR5/6 明赤褐	沈線文	
55回-1	繩文	一部				
S30E36	土偶	高さ	(10.9) (8.7)	胎: 露母、粗砂粒を多く含む 燒: 良好 色: (A) 5YR3/4 暗赤褐 (B) 5YR3/4 暗赤褐	沈線文	頭部、右胸部以下半を欠損する 頭部及び胸下半の欠損部に芯棒の跡 が認められる
55回-2	繩文	幅 厚さ	(3.3)			
S30E12	土偶	高さ	(6.9) (4.7)	胎: 粗砂粒を多く含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR4/4 暗 (B) 7.5YR4/4 暗	表面と裏面に沈線によつて施文される	欠損部に芯棒の跡が認められる
55回-3	繩文	厚さ 胸深	(3.1) 一部			
Z	土偶	高さ	(4.9) (3.9)	胎: 露母、石英を含む 燒: 良好 色: (A) 2.5YR5/6 明赤褐 (B) 2.5YR5/6 明赤褐	沈線文	
55回-4	繩文	厚さ 足深	(5.3)			
P-61	土製 円盤	長さ	3.3	胎: 石英、粗砂粒を含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/4 にぼい褐 (B) 7.5YR5/4 にぼい褐		
55回-5	繩文	幅 厚さ 重さ	3.4 1.9 11.4			
SB-07	紡錘 車	上外径 下外径	4.2 6.4	胎: 粗砂粒を含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/6 暗褐 (B) 7.5YR5/6 明褐		(A) ナデ (B)
55回-6	土製 品 元件	厚さ 重量	4.4 195.0			
SB-07	鏡	径	(21.2)	胎: 粗砂粒をわずかに含む 燒: 良好 色: (A) 7.5Y5/1灰 (B) 7.5Y5/1灰	円面鏡	ロクロナデ ヘラケズリ
55回-7	須恵	高さ 一部	2.6			

第37表 その他土製品観察表

古土壤 回収No	器種 種類	法 残	量 存	瓦 質	調 整 ほ か
S12E33	丸瓦	長さ	(4.7) (3.7)	胎: 露をわずかに含む 燒: 過元 色: (A) N6/灰 (B) N6/灰	凸面: 無文 ケズリ 凹面: 布目 側面: ケズリ
56回-1		幅 厚さ 体部	2.0		
SB-09	平瓦	長さ	(6.0) (11.3)	胎: 露をわずかに含む 燒: 過化 色: (A) 10YR8/4 淡黄褐 (B) 10YR8/4 淡黄褐	凹面: 布目 凸面: 押型紋 側面: 凹面側を面取り
56回-2		幅 厚さ 端部	2.2		
SK-02	平瓦	長さ	(7.5) (8.7)	胎: 白色砂粒を含む 燒: 過元 色: (A) 10Y5/1 灰 (B) 10Y5/1 灰	凹面: 布目 凸面: 押型紋
56回-3		幅 厚さ 端部	2.4		
SD-05	平瓦	長さ	(6.0) (10.2)	胎: 褐色砂粒を含む 燒: 過元 色: (A) 7.5Y6/1 灰 (B) 7.5Y6/1 灰	凹面: 布目 ケズリ 凸面: 押型紋
56回-4		幅 厚さ 体部	2.3		
SD-09	平瓦	長さ	(17.4) (16.6)	胎: 露を含む 燒: 過元 色: (A) 10Y5/1 灰 (B) 7.5Y6/1 緑灰	凹面: 布目 凸面: 押型紋
56回-5		幅 厚さ 端部	1.7		

第38表 瓦観察表

写  
真  
図  
版



調査地区周辺



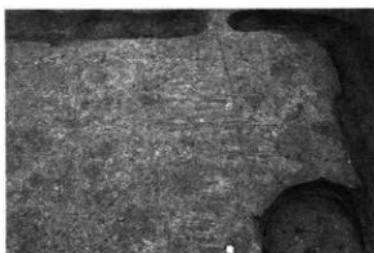
調査地区全景



SB-01



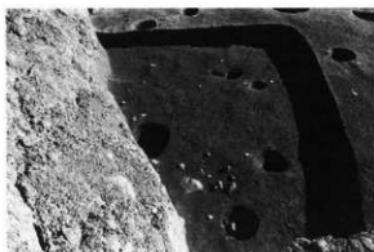
SB-03



SB-01 床面



SB-03 カマド



SB-02



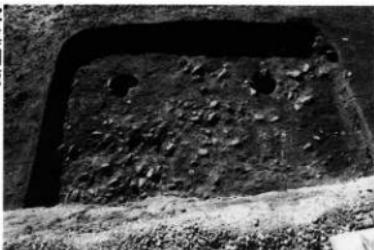
SB-03 土器出土状況



SB-02



SB-04



SB-04



SB-07



SB-05



SB-07 カマド



SB-05 カマド



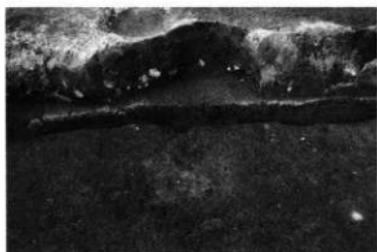
SB-08



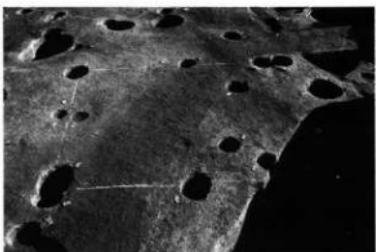
SB-06



SB-09



SB-09 カマド



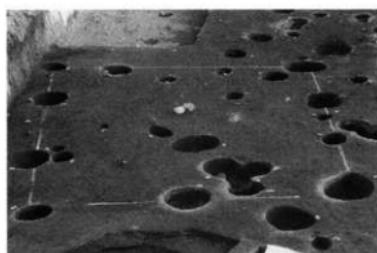
ST-03



SB-10



ST-04



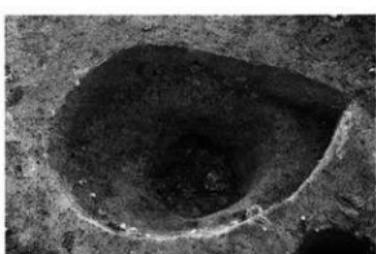
ST-01



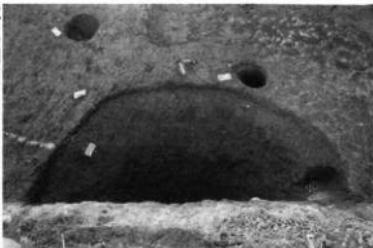
SK-01



ST-02



SK-02



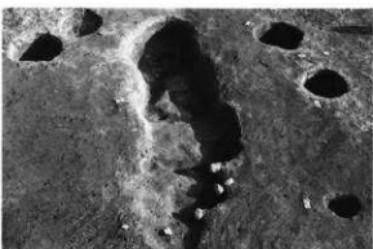
SK-03



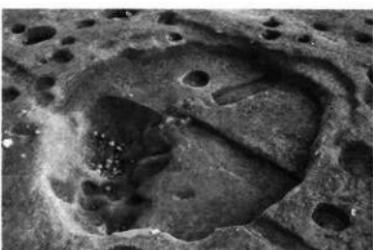
SK-07



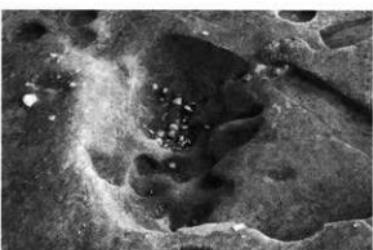
SK-04



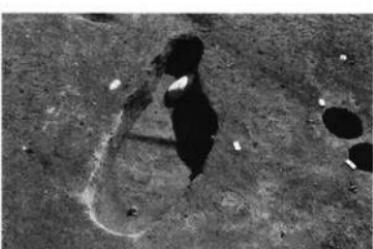
SK-08



SK-05



SK-09



SK-06



SK-11



SX-03



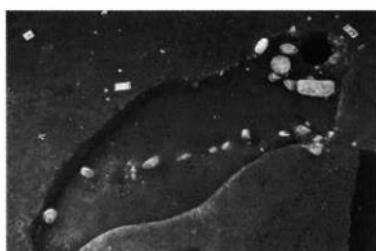
SD-03



SX-02



SD-03



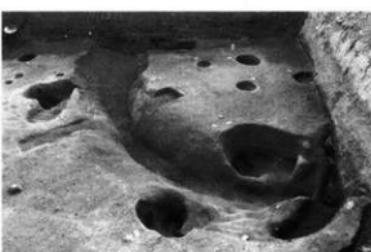
SD-01



SD-03



SD-02



SD-04



SD-05



SD-08 遺物出土状況



SD-06



SD-09



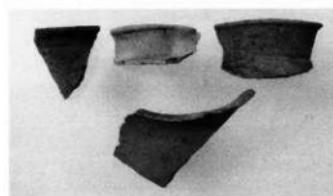
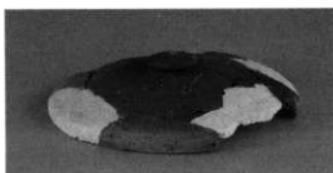
SD-07



土偶出土状況



SD-08



土器  
SB-01  
6

SB-03  
1

SB-01  
7

SB-03  
2

SB-01  
13

SB-02  
1~8

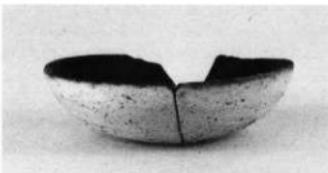
SB-02  
9~12

SB-03  
7





SB-04  
2.1



SB-07  
2



SB-05  
1



SB-05  
4

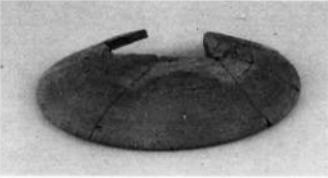
SB-07  
5



SB-07  
7



SB-05  
2.3  
5

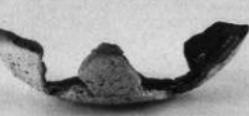


SB-07  
8



SB-06  
1

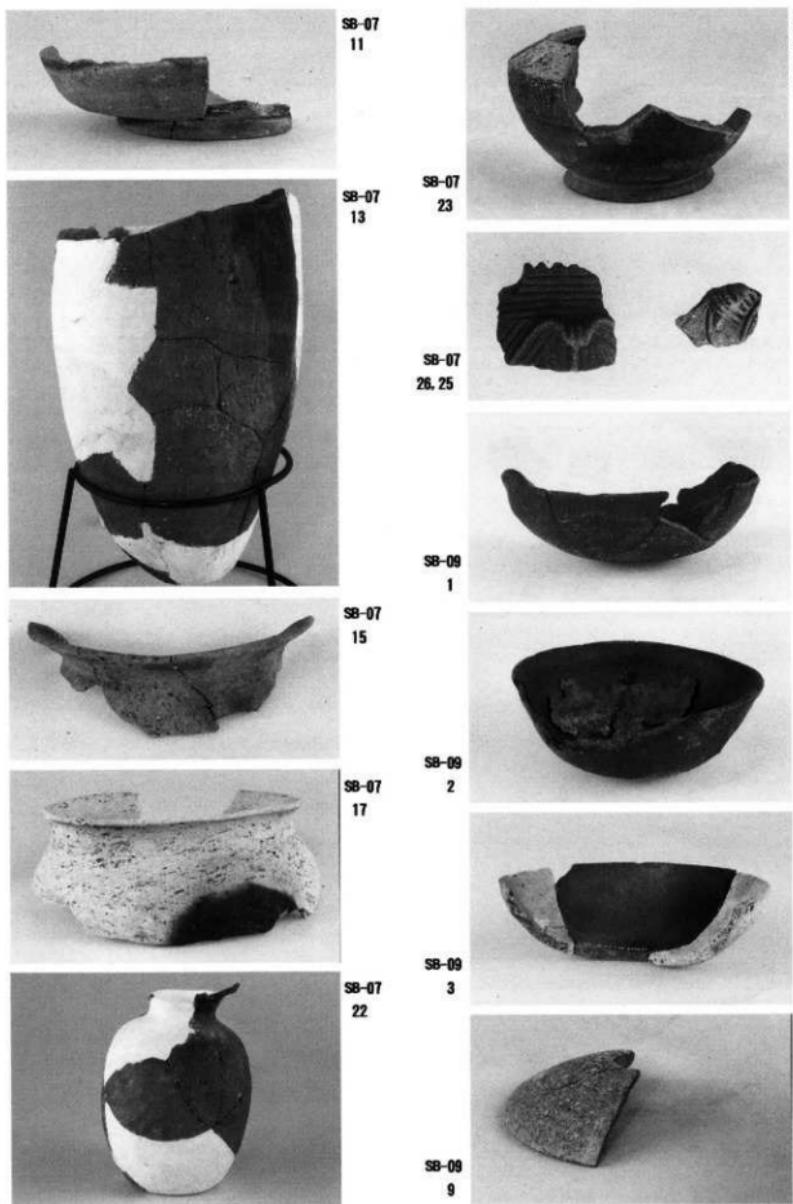
SB-07  
9

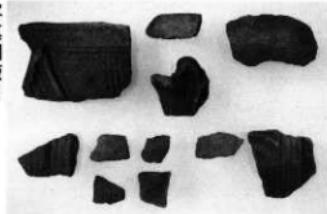


SB-07  
1

SB-07  
10







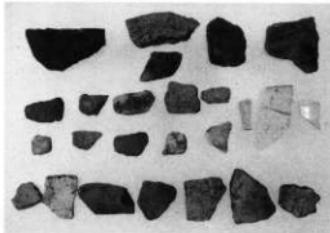
SB-10



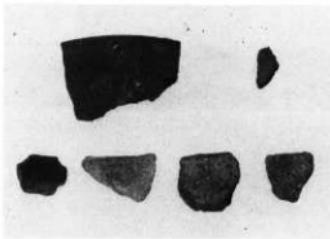
ST-01  
1



ST-02



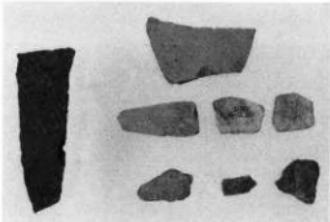
SK-01  
2



SK-02



ST-03  
1



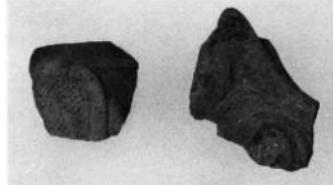
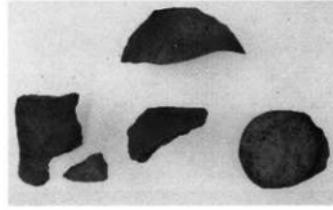
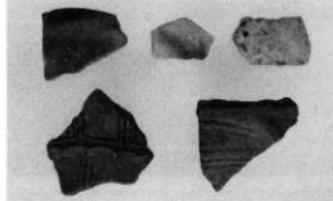
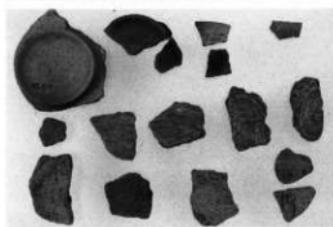
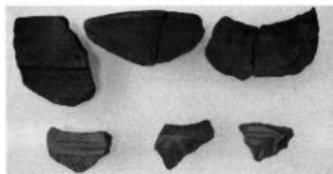
SK-03



SK-01  
1



SK-05  
1



SK-05  
2, 7, 5  
3, 4, 6

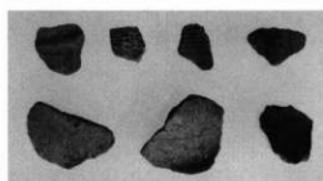
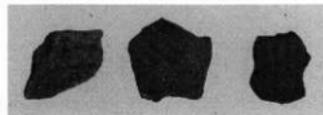
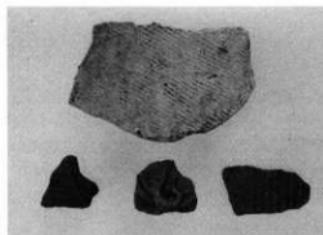
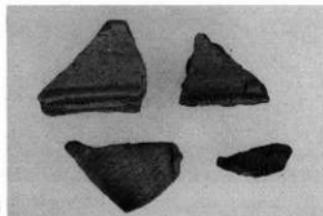
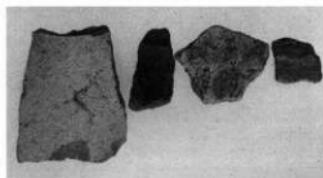
SK-06  
1

SK-06

SK-07

SK-08

SK-09  
1, 2



SK-10

SK-11

SX-03

SX-01

SX-02

SD-01



SD-02  
1



SD-04  
1



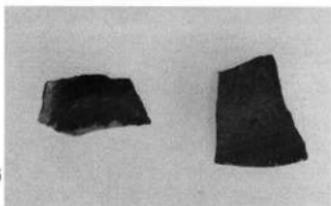
SD-02  
3



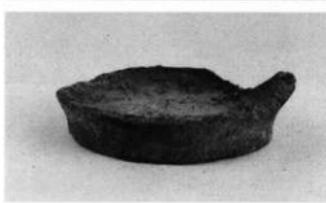
SD-04  
4



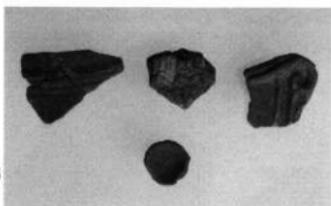
SD-02  
4



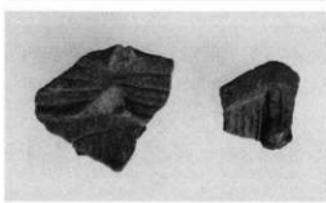
SD-05  
1.2



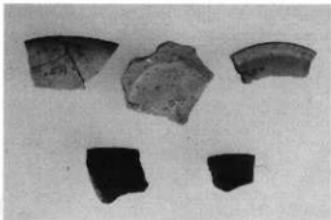
SD-02  
5



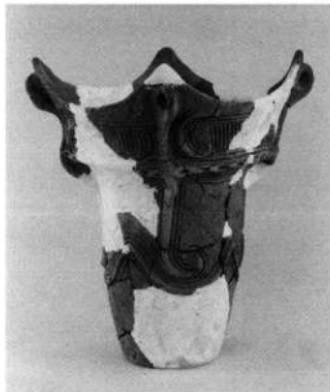
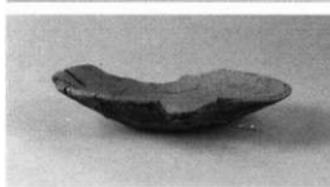
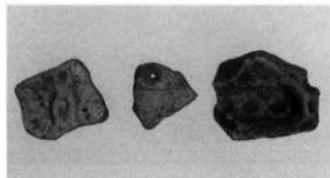
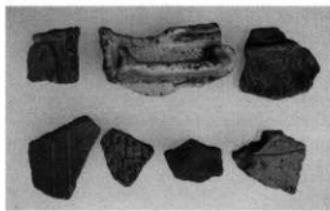
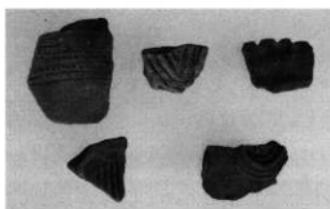
SD-05  
3-6



SD-03



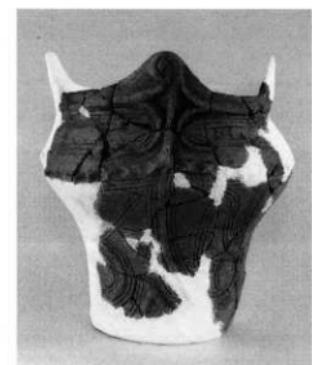
SD-06



SD-07  
1-5

SD-07  
6-12

SD-08  
2



SD-08  
3



SD-08  
3



SD-08  
4



SD-08  
5